

## 7. 自己点検・評価報告書

### (1) 2023年度第1クォーター 掲載目次

#### 専任教員

##### 【所属】

人文学部	キリスト教学科	1
人文学部	人類文化学科	8
人文学部	心理人間学科	14
人文学部	日本文化学科	18
外国語学部	英米学科	21
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	25
外国語学部	フランス学科	26
外国語学部	ドイツ学科	29
外国語学部	アジア学科	31
経済学部	経済学科	33
経営学部	経営学科	41
法学部	法律学科	48
総合政策学部	総合政策学科	55
理工学部	ソフトウェア工学科	62
理工学部	データサイエンス学科	64
理工学部	電子情報工学科	67
理工学部	機械システム工学科	68
国際教養学部	国際教養学科	69
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	78
教職センター		79
外国語教育センター		80
体育教育センター		91

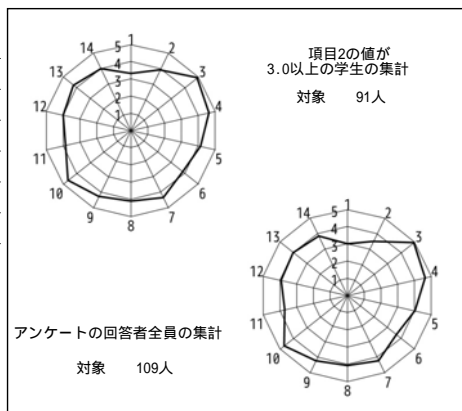
#### 非常勤教員

##### 【所属】

人文学部	人類文化学科	92
人文学部	心理人間学科	93
人文学部	日本文化学科	94
外国語学部	英米学科	96
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	97
外国語学部	フランス学科	99
外国語学部	ドイツ学科	101
外国語学部	アジア学科	101
経済学部	経済学科	102
経営学部	経営学科	104
法学部	法律学科	106
総合政策学部	総合政策学科	106
国際教養学部	国際教養学科	108
共通教育	仏語	110
共通教育	独語	111
共通教育	西語	112
共通教育	中国語	113
共通教育	共通	116
共通教育	韓国朝鮮語	124
教職センター		125
外国語教育センター		127

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[FS・FA]
授業コード	10A01-006
教員名	清水 美佐
教員コード	152757
登録人数	123
回答数	109
回答率	88.6%
休講回数	0 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

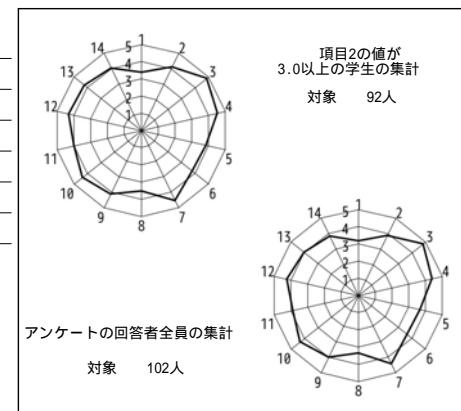
設定目標は「世界や日本の諸宗教について基本的な知識を得ている・様々な宗教の芸術文化について理解を深めている・異なる宗教文化や信仰を持つ人々への理解と共存の姿勢を身につけている」であった。アンケート数値からは学生自身に到達できた意識があるようだが、試験とレポートの結果を見る限り学生によって差があった。

必修科目であることを考えるとそれなりの数値だった。授業評価が何のために行われるのか詳しく説明したところ、実質的な出席者のほとんどが回答し、自由記述も比較的回答数があり色々な意見を見られた。改善希望の回答に「双方向授業/クイズを取り入れる/板書の穴埋め」という記述もあったが、同程度の履修人数・講義形式の他科目において、そういった内容で評価の高いものがあれば、授業方法について知りたい。その他、重要事項や授業をよく聴いていない学生があり、自由記述に言いがかりが数点あった。「スライドを読んでいるだけ/試験問題が事前に一部の生徒に漏れていた」など。資料を読むだけの授業ではないし(良かった点の自由記述にも書かれてある)、重要事項については、毎授業のはじめと終わりに数分時間を取って繰り返しリマインドしており、試験内容説明の日についても初回から告知しており、休まないようにも忠告したので、これ以上改善しようがない。

今年度Q4にも宗教論の講義をするので、(シラバスから逸脱しない範囲で)改善希望にあったいくつかの内容を取り入れてみたいと思う。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[E・J]1
授業コード	10A51-008
教員名	SOUSA, Domingos
教員コード	100753
登録人数	148
回答数	102
回答率	68.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



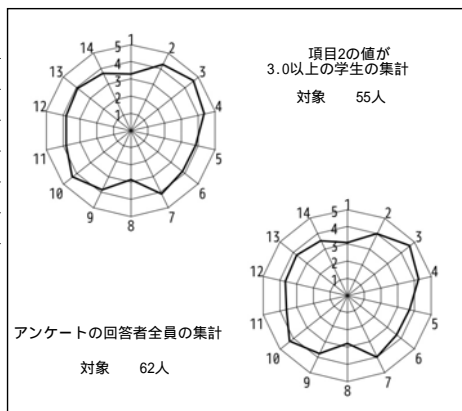
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、キリスト教の原点であるイエス・キリストの人格と思想を学ぶとともに、その背後にある社会、文化、宗教などを解明することを目指している。パワーポイント利用で講義したが、学習の補助のため各項目の内容をまとめるプリント教材を配布し、ビデオ教材も活用した。

講義に対する学生の評価結果は、全体として良好な評価であると思われるが、設問1、6、8については、評価がやや低かった。自由記述には肯定的な評価として「質問に回答する時間が設けられた」、「ビデオを見ることによって授業でやった内容をより詳しく知ることができた」、「映像資料などが用いられて、とても理解しやすかったし、興味を持つことができた」、「先生のおかげで分かりやすい日本語解説と映像も相まって一層理解が深まった」などがあげられる。否定的な評価としては「マイクの音量がたまに小さい時があったので、そこを次回は改善して欲しいです。またスライドいっぱい文字が詰まっていたので、見にくいのでもう少し単語を絞って載せて欲しいと思いました」、「板書を講義前に講義資料にアップロードして欲しかった」というコメントがあった。来年度には、講義の各項目についてより詳しい講義のレジメを提供するとともに、関連文献を紹介することにより、主体的学習と学習意欲を向上させる工夫を試みたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[E・J]2  
授業コード 10A51-009  
教員名 KUCICKI, Janusz  
教員コード 101877  
登録人数 150  
回答数 62  
回答率 41.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

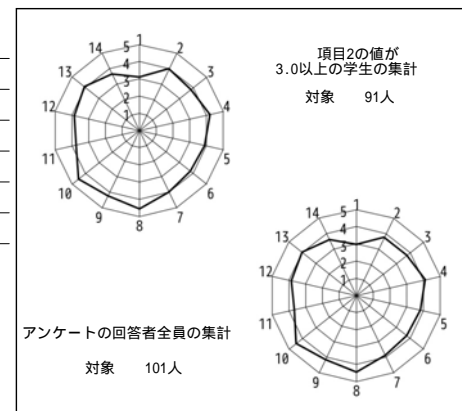


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The subject, Introduction to Christianity was executed according to the Syllabus. The whole text of the Gospel of Mark was reading, then explained to students. Each time, students were writing feedback paper and watched a fragment of the movie “Jesus of Nazareth” .  
I found students to be involved in study the message of the Mark’s Gospel.  
The big classroom B31 is the stairway classroom with big windows, which influenced sound and visual aspect of the lecture. I think that for 150 students, the small classroom would be more suitable.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[E・J]3  
授業コード 10A51-010  
教員名 SUSAI, Raj  
教員コード 101347  
登録人数 128  
回答数 101  
回答率 78.9%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

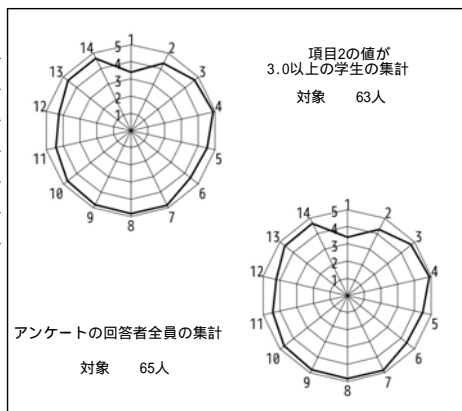


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第一Qのキリスト教概論の授業は予定通り、またシラバスに掲載されている通りに実行されたとおもわれます。さらに学生は授業の到達目標達したいともいえます。学生評価にもあった通り時々学生が分かっていることを前提にして質問したりするとき、教員わかっていても学生は知らないことを配慮すべきであることを再確認しました。今後この点に関して改善するべきであります。当たり前と思われることが学生にとって初めての知識であったりすることを絶えず心に置くべきと確認しました。学生評価にもあったように教員の体調が急に悪くなったりして休講になってしまったときに事前に学生にお伝えすることができなかったのことはやむを得ないと思われます。教員一人でお話しするよりも学生をも何らかの形で参加させることが大切なことではありますが、人数が140名以上になるとディスカッションやグループワークなどが不可能だと思われます。授業の時は学生の積極的な参加は乏しかったことは残念であります。学生の参加を促しても答えてもらえることはありませんでした。またBYODによって学生が授業の資料を見ているのかあるいはその他のことをしているのかを管理することはできませんでした。今後学生の積極的な授業参加、わかりやすい説明またできるだけ休講に関する事柄今後改善していきたいと思っています。全体的にシラバスの内容が学生に伝えられたと思われますし、学生もキリスト教について多くの事柄を学んだと思われます。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[B]1  
授業コード 10A51-012  
教員名 井上 淳  
教員コード 100301  
登録人数 149  
回答数 65  
回答率 43.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

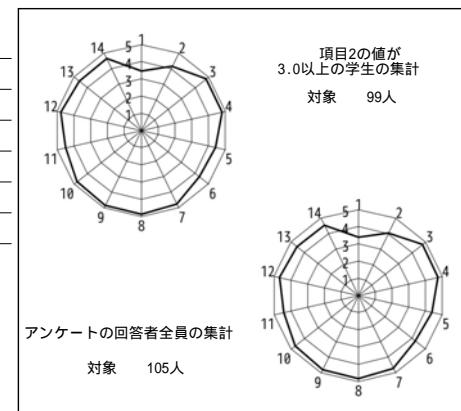


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初に設定していた目標には到達できたと思う。学生からの評価は概ね良好であった。項目3から14の平均は4.64である。特に評価が高かった項目は項目4の4.89、項目7の4.84、項目8の4.83である。全体としての満足度を問う項目14は4.65であった。授業を行うにあたって留意し工夫していることをいくつか挙げると、ダラダラと間延びした話にならぬよう、できるだけまとまった話をする。そのために前半と後半に話を分けている。「あー」とか「えー」とか言わない。緊張感を保つため、明瞭な声と発音で、少し早口気味に話しをする。1.5倍速でビデオを見ている最近の若者への配慮。毎回500～600字の小レポートを書いて提出してもらっている。そのため、そのレポートに加えてノートを取らなくてもすむように、講義内容を4頁の説明文書にまとめてダウンロードサーバーからダウンロードできるようにしている。その説明文書は3色の色分けした文章で書き、さらに読みやすいようにイラストを載せている。説明文書の他に「資料」もダウンロードサーバーに上げており、それを白黒プリントしたものを教室で配布している。登録が決定する第3回目の授業以降は指定席とし、出欠を厳格にチェックしている。小レポートの提出はWebClassからであるが、特別な事情がある場合にはメールでの提出も認めている。最終レポートは700～800字で、これもWebClassから提出してもらっている。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[B]2  
授業コード 10A51-013  
教員名 袴田 渉  
教員コード 104814  
登録人数 150  
回答数 105  
回答率 70.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初は、授業の双方向性を確保し、学生の学習意欲を引き出す授業づくりを目標としていたが、当該の項目11から14について全て4.4以上の評価を得ることができ、一応の目標に到達できたといえる。

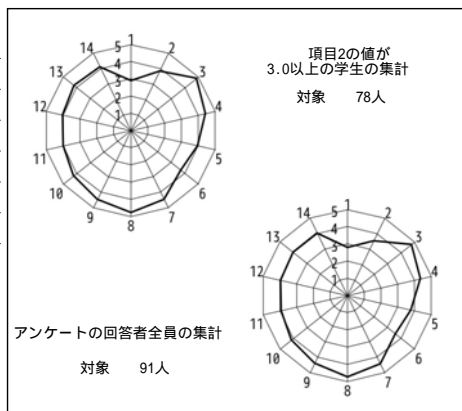
数値データに関しては、項目1から14の平均値が4.49と全体として高い評価を得られ、特に項目8（教員の声の聞き取り易さ）および9（板書や授業資料、視聴覚資料の効果的活用）について高評を得たことが分かった。項目9についての自己評価としては、毎回PowerPointのスライド資料を教室のスクリーンに映して終わりにするのではなく、必要に応じて板書を併用したり、配布資料に授業内容の要点をまとめる取り組みが功を奏したと考えられる。また、自由記述に関しても、授業への好意的な意見を多く見ることができ、特に、毎回授業終りに簡単なアクションペーパーを配って学生たちからコメントや質問を集め、次回の授業の始めに前回の質問に丁寧に答えるようにした取り組みの評価されたことが分かった。逆に、相対的に評価の低かった項目1（履修前の授業への興味）および2（授業への主体的参加）については、シラバスの記載内容が不十分であった点や、授業への予・復習を特に求めなかったことが要因として考えられる。

次クォーター以降に向けて、改善の必要な上記の項目1については、履修前の学生たちが当該授業に対してより興味を持てるよう、シラバス記載内容の更なる充実を図り、また、項目2に関しては、簡単な課題や小テスト等を活用して、学生たちがより主体的に授業に参加できるよう配慮していきたい。



2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[T]1  
授業コード 10A51-017  
教員名 三好 千春  
教員コード 101173  
登録人数 109  
回答数 91  
回答率 83.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

キリスト教に関心を抱いていない、理工系の学生たちに対してどのようにキリスト教を伝えるか、という問いと取り組み始めて数年が経過しているが、まだ手探り状態というのが正直なところである。

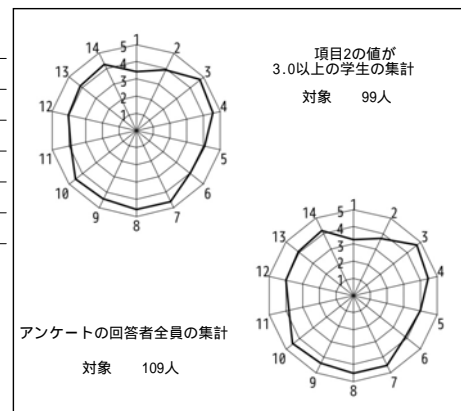
開講当初に設定していた目標は、1 キリスト教の持つ世界観・人間観を理解している。/ 2 キリスト教的価値観に基づき現代世界の諸問題を考察する基礎知識を身に着けている。の二つであるが、自由記述欄を見ると、どちらの項目もある程度の達成は出来ているという手応えはある。

毎回、キリスト教の音楽を1曲使い、そこに含まれているキリスト教的な内容と講義内容を関連させるなどの工夫をしたが、この点は学生からもそれなりに評価されているように思われる。今後も、この点は工夫を重ねてよりよいものにしていきたい。また、動画や映画などを見せての説明も理解の助けとなっていることが分かるので、この点も継続していきたいと思う。

今後は、学生により関心を持ってもらえるよう、もう少しキリスト教の基本的な教えと社会の関連に関して内容を充実させていくことを考えている。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[T]2  
授業コード 10A51-018  
教員名 VARGHESE, Rejimon  
教員コード 100555  
登録人数 150  
回答数 109  
回答率 72.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2023年度Q1授業評価対象担当授業はキリスト教概論[T]2で、履修対象学科は理工学部、情報理工学部の学生150名でした。

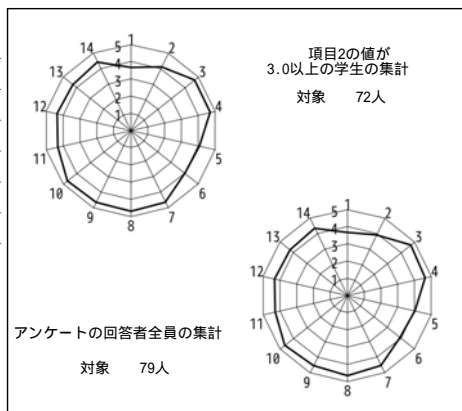
この授業のシラバスに掲載された四つの到達点に達したと読み取れる学生の評価もあれば、自分もそう思っています。この到達目標はまとめると、キリスト教成立に至った様々な状況やイエス・キリストは一体どのような人物だったか、イエスの語ったたとえ話の本来の歴史的背景、意味内容、教訓、キリストの教えは良い社会作りと良い生き方の意欲につながることを学ぶことによって、キリスト教の基礎知識を取得することでした。

学生の自由記述や数値によると、総合的にこの授業は良かったと評価されています。例えば、内容が細かく分かりやすかった、キリスト教の歴史を詳しく知ることができた、聖書の教訓に関して理解できる、講義資料やスライドがあって良かったなどです。同時に、この授業の到達目標を問う学生も中にはいます。授業のはじめにその目的到達点を説明し、シラバスに沿って授業を行ったわけですけど。。。この授業は共通必修科目になっているので、キリスト教に関心があったから履修したのか、あるいは成績取得のために履修したのかと問われると思います。授業中に学生は全然質問しないので、私から講義ばかりでなく、学生の予習や復習のためにも時間を与えていました。

次回に、学生のこの評価を参考に授業を行ないたいと思います。特に、さらにキリスト教の歴史や内容に学生の興味を惹くようにしたいのです。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学・倫理学における人間の尊厳3  
授業コード 10D02-003  
教員名 松根 伸治  
教員コード 101833  
登録人数 188  
回答数 79  
回答率 42.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



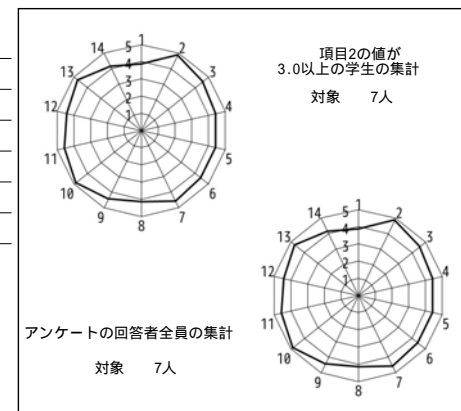
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の到達目標について、項目5（この授業の到達目標を理解することができましたか）が4.04、項目6（この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）が3.92と比較的低い数字だった。シラバスには二つの到達目標（1）理性や言語のもつ「対話的性質」に関わる論点を理解している、（2）人間の尊厳について考える自分なりの視点をもつ、を示してあった。今後は、授業中にもっと到達目標に言及し、その回の内容が全体の目標とどう関係するかを詳しく解説するよう努めたい。あるいは、より具体的でわかりやすい表現で到達目標を設定すべきかもしれない。授業の内容と進め方について（項目3、4、および7から12）は高めの評価で、項目14の全体的満足度も4.33だった。これらとあわせて、学期中のミニレポートと最終の期末レポートの結果から、総じて及第点と判断してよいと思われる。

自由記述にはレジュメの作り方と説明のわかりやすさを評価する意見が複数あり、これらの点は工夫を続けたい。私語に対する注意が不十分とのコメントがあり、これは教室での久しぶりの大人数授業で私自身も気になっていた点で、今後も留意していきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語V<全>  
授業コード 11J13-001  
教員名 岡崎 隆哲  
教員コード 103614  
登録人数 9  
回答数 7  
回答率 77.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
受講者は毎回のReadingテキストの講読に際し全員きっちりとした予習をしておき、また毎回行う文法の変化表の暗唱、数回おきに行うVocabularyのチェックを中心とした小テストに対してもほとんどが丁寧に取り組んでいたため、一定の実力を確実に身に付けてもらっていると考える。

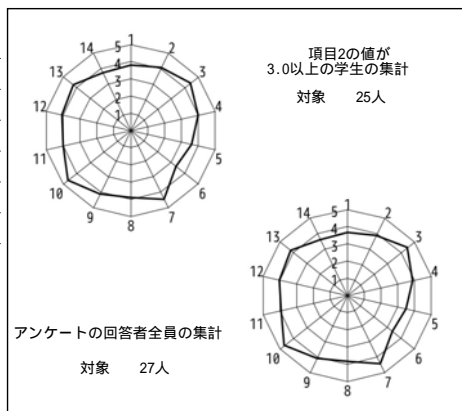
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

実力が身に着いているとの意見がある一方で、課題が多すぎて負担になっているとの見解が示されたことについて考えさせられる。年間をとおして目標としていることのためにはこれ以上進捗や内容を見直すのは避けたいところであり、その点の按配について検討して行きたい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
同じ課題に対しても、十分に丁寧に取り組んでいる生徒の場合と、インターネットの情報に頼ってこなしている生徒の場合とで取り組み方に差があるようにも察せられる。各人の実力に即したやり方も致し方ないところではなるが、なるべく辞書を自分で引いて取り組むやり方を推奨したい。課題がこなせていない場合に授業そのものを欠席する傾向があるのではないかと感じられる。予習が不十分でも授業には出してもらえよう配慮したやり方を考えたいと思う。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	聖書入門A(旧約聖書入門)
授業コード	21A01-001
教員名	加藤 久美子
教員コード	103475
登録人数	30
回答数	27
回答率	90.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

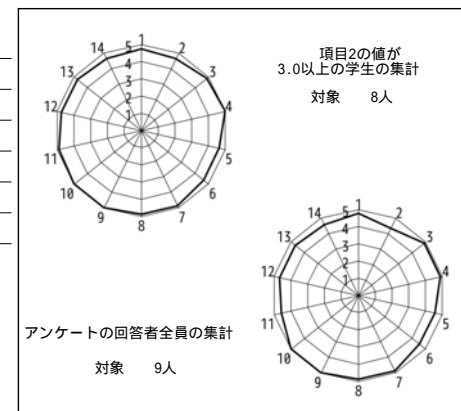
開講当初に設定した到達目標は、(1)旧約の文書の形成の歴史的背景に関する基礎知識を持つこと、(2)聖書の歴史的故事にみられる特徴的な思想を知ることだった。少人数の学科の1年次必修科目であるため、その年の新生生の知識や傾向に合わせて授業内容を調整しているが、今年度は(1)については比較的よく達成されたが、(1)の内容を増やしたため、(2)については、実際に取り上げた聖書の物語の量が少なくなり、これが受講生から見て到達目標の達成度が不十分に感じられる結果につながったと思われる。その点は設問5と6の回答に現れている。次年度はシラバスに記載する到達目標を欲張らず、もっと限定し、また授業内でも到達目標を示すようにしたい。

今年度はシラバスをかなり大きく変更し、授業資料を大幅に作り直したが、自由記述において肯定的な評価を得ることができた。今後も資料の工夫は継続したい。

数値データと自由記述で、声が小さい、聞き取りにくいと指摘があった。授業期間には指摘がなく、またこれまでこのような指摘を受けたことがなく、気づかなかった。今後は、こちらから確かめるよう注意したい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教思想B
授業コード	21C33-001
教員名	南 翔一朗
教員コード	104627
登録人数	21
回答数	9
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標(最低限度の目標)については、講義を通じて多くの履修生が到達できたと考えている。ただし、より高次のレベルに到達できた履修生は極めて少なく、多くの履修生が学問的に興味関心を抱いたり、必要最低限度の知識や思考の段階にとどまっていたりしている。より積極的な姿勢を持った履修生をより高次のレベルに導くように、目標設定や授業内容を再考する必要がある。

授業評価アンケートにおける数値や自由記述に関して、特に大きな問題はないと思われる。引き続き、学術的知見から教授内容を精査するとともに、それを履修生の状況に合わせて提示する方法を洗練させていきたい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などは、以下の通りである。

まず、講義における教授内容がやや多く、100分14回の講義時間内ですべてを十分に説明することができていないため、内容の厳選が必要であると思われる。また、それに伴って、初回授業時に行っているレポートの採点基準の説明およびレポートの準備・執筆方法の説明をどのように扱うか(実施するか否か)を考える必要がある。

また、講義という授業形態の性質上、履修生が受け身になりがちで、自分で問題について考え、解決しようという姿勢が乏しいように思われる。講義なので仕方がない部分もあると思われるが、少しでも積極的な姿勢を引き出せるよう模索したい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(終末論)

授業コード 21C41-001

教員名 寒野 康太

教員コード 104315

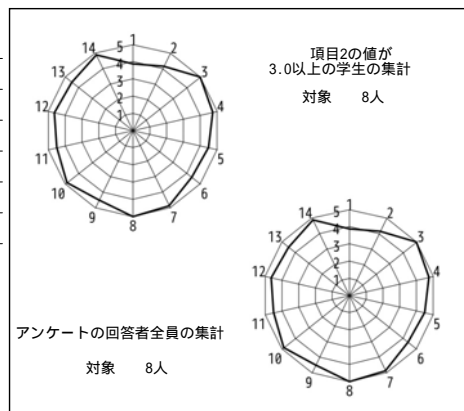
登録人数 11

回答数 8

回答率 72.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

四つの終わりというキリスト教の終末に関する見方とともに、歴史に関わるキリスト教の見方をさぐる、これが本科目の主な目標であったが、基本的に、出席していた学生皆に伝わったように思う。到達目標として以下のことを掲げた、その1・終末に関するキリスト教の基本的な知識を整理したうえで説明できる。次に、その2・歴史についてキリスト教思想家達の考えを理解し紹介できる。

この2点について学生それぞれの理解到達度に違いはあっても、意識して取り組み、良い成果をあげることができたように思う。このように、開講時の目標は概ね学生たちによって自覚し、到達するように授業内で努力し、ほぼ到達したのではないかとおもう。

自由記述において、もう少し、学生の自覚的参加が足りなかったのではないかとということが感じられたので、次回からは、そのことに留意し、自覚的に参加してもらうように、より一層対話を重視し、授業内でそれぞれの参加度をチェックしていくようにしたい。

今後の方針としては、以上に述べたことをできるだけ確に実行できるよう努めていくことと、できるだけテンポよく授業展開に努めていきたいという、この二点である。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教倫理学(各論A)

授業コード 21C52-001

教員名 RAJCANI, Jakub

教員コード 103281

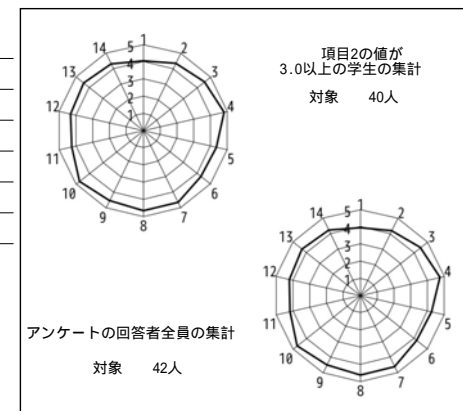
登録人数 51

回答数 42

回答率 82.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

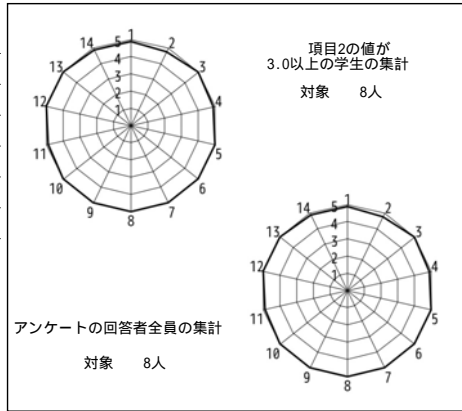
設定しておいた目標は概ね到達できたと思います。いつもより登録者が多く、賑やかで楽しい授業でした。学生のコメントも良く、たいてい満足していたと考えられます。登録者数がやや高かった理由はおそらく今回は試験ではなくレポートにしたからでしょう。

進むスピードやカバーする内容は様々な要件によって毎回若干変わります。決まった情報を教科書から読み上げるわけではないからです。もっと効率よくやれば、1回で1つのテーマを終わらせたい、というのが理想です。しかし、その点で反省していても、仕方ない部分もあります。一番悩んでいたのは、欠席の多い履修生もいて、就活やインターンシップからコロナ感染まで、いつも色々な理由で休む人がいたりしたことです。これで全体の理解や前後の繋がりはどのように確保すれば良いか全く分かりません。

今後はもっと焦点を絞って、直接関係のない話を省いていこうと考えています。また、全部丁寧に説明するのではなく、間に合わなかった部分を各自で読んでおいてもらうことも考えたりします。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教学
授業コード	21C55-001
教員名	KISALA, Robert
教員コード	018275
登録人数	9
回答数	8
回答率	88.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



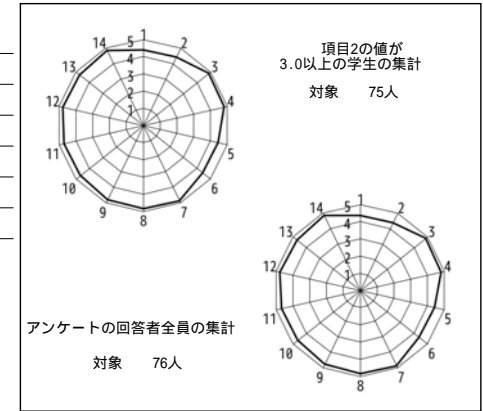
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「学問としての宗教学を理解する」と「現代宗教について考察する」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号5：平均値5.00；設問番号6：平均値5.00）から、学生らは到達目標を十分理解して授業に取り組んでいたことがうかがえる。講義の内容の丁寧な説明と毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認することが有効だったと思います。また、自由記述式設問の回答結果からは特に毎回紹介した参考文献と学生の質問に対する対応は評価されました。毎回のディスカッションを通して講義の内容に関する自分の考えをより明確にして他の学生の理解・考えを確かめることができた、という点も積極的に評価されている。

本講義の改善点として、常に講義内容を見直し、学問の最近の発展・展開を紹介したいと思います。また、学生が到達目標を授業の内容と繋がられるように毎回到講義の到達目標を確認することを続けたいと思います。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学・倫理学における人間の尊厳7
授業コード	10D02-007
教員名	奥田 太郎
教員コード	100642
登録人数	188
回答数	76
回答率	40.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

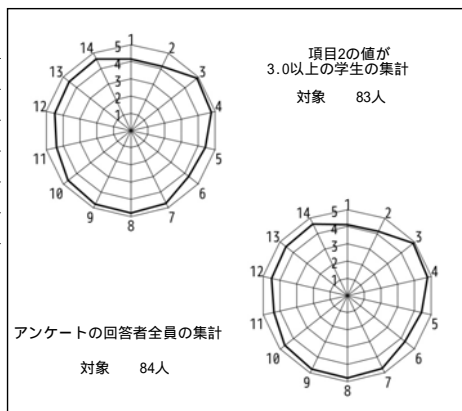


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた到達目標は、シラバスに示した4点だが、提出された論述課題の内容などを見る限り、多くの受講生が到達目標を概ね達成したことが窺われる。授業アンケートの結果も総じて良好であった。数値データは、同じ科目の平均値をいずれの項目でも上回っており、また、自由記述についても、授業形態、講義の仕方に対する肯定的な意見が顕著であった。他方、少数ではあったが、授業後の振り返りに役立つ資料を求める声も寄せられていたので、復習用の参考文献の紹介などを行なっていく必要があると思われる。また、ペアワークのリクエストもあったが、個人で掘り下げて考えてもらい、他の人の見解をじっくり聴く経験をする、という本授業の狙いにはあまり適していないため、全面的には導入しないが、今後、ペアワークをする回を特別に設けてもよいかもしいない。また、WebClassを通じた課題の提出を導入しているが、数名の受講生が、期日を過ぎて提出できなかった様子がアクセスログから窺われるため、締切への注意喚起を手厚くするなど、何らかの対応を考えたい。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳1  
授業コード 10D08-001  
教員名 宮脇 千絵  
教員コード 152580  
登録人数 188  
回答数 84  
回答率 44.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

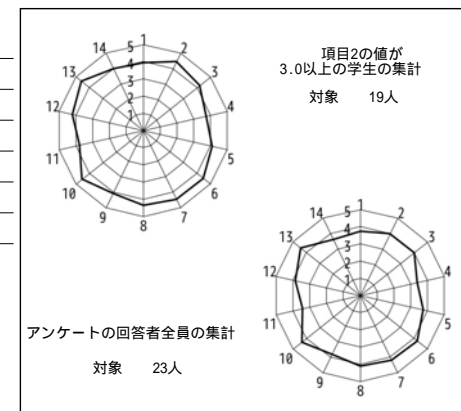
本授業は、世界各地の装いをテーマに文化人類学的な視点から「当たり前」を問う姿勢や世界で起こっている様々な事象について理解し、自分の言葉で述べられることを目標としており、毎回のリアクションペーパーや最終レポートの結果からもおおむね達成できていると考える。

質問1や2の数値が毎回低い傾向があるが、「人間の尊厳」科目で全学部からまんべんなく受講生があり、各々の関心のバラつきがあるためだと考えられる。自由記述回答では、資料が分かりやすい、リアクションペーパーへのリプライ、私自身のフィールドワークに基づいた内容が興味深かった等、おおむね好意的な意見が寄せられた。今回、改善点に関するコメントはなかった。一方で、大教室での講義であるため、質問11や12のように学生個人への指導ややり取りをおこなうことには限界があるが、授業後に感想を伝えに来てくれる学生も数名おり、励みとなった。

オンライン時に活用した資料DLサーバーやWebClassの利点を引き続き取り入れ、学生との資料やリアクションペーパーのやり取りはおこないやすくなった。今後も基本的なスタンスは維持し、内容をブラッシュアップしていきたい。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ギリシャ語I <全>  
授業コード 11K05-001  
教員名 坂下 浩司  
教員コード 100471  
登録人数 35  
回答数 23  
回答率 65.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

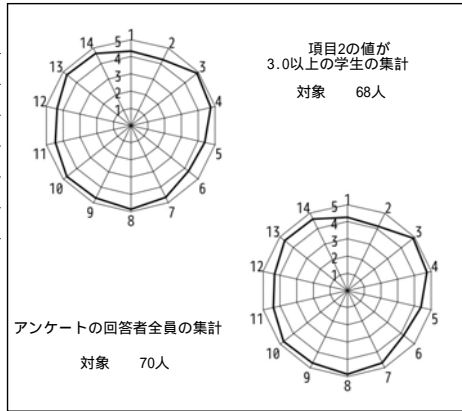


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 開講当初の目標は、「(A) アルファベット」「(B) 文字と単語の発音」「(C) 文章をつまらずに音読」「(D) 教科書第14章までの文法を理解」「(E) 変化表の使い方」で、A~Cはほぼ達成された。Dは、序論を繰り返したため第11課までであった。Eは、まだ習熟が必要であるが今後慣れてくるだろう。(2) 数値データは3.4-4.5の間で前年より下がっているが教科書を難しいものに変えた1年目なので仕方ないところもある。自由記述は、肯定的評価では、「生徒が板書する機会が多く主体的に学習できた」「丁寧に宿題の説明があり、力がついてきているように感じる。先生によっては宿題をしっぱなしの人もいるので有難く思う」「教科書で出てきた単語についてのエピソードや次回以降の学習範囲でも役に立つ文法事項は先取りで教えていただいたりと学習が面白いと感じる工夫があつてとても良かった」があるが、その反面、「板書を消すのが早くて困った」「宿題の解説が長すぎる」「新しい文法事項の説明が短かった」という指摘もあった。(3) 改善点：板書については同時に使用するホワイトボードの面を2面から6面に増やし消す頻度をへらす。また、この教科書の特徴は演習問題が多いこと(Q1で100問以上の希和訳問題を解く)で宿題が中心にならざるをえないが、文法はスモールステップで進行しているので1つの課の文法説明は少ないからその長所を活かしたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 考古学A  
 授業コード 12B01-001  
 教員名 上峯 篤史  
 教員コード 104108  
 登録人数 175  
 回答数 70  
 回答率 40.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

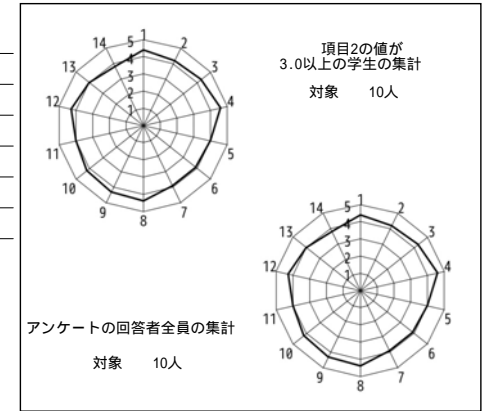


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に予定していた目標は、人類進化・拡散に関する知識の習得、授業テーマでもある「日本人」「日本文化」の由来を と関連づけて説明できるようになる、研究のおもしろさを知って大学での能動的学習につなげる、であった。期末試験の択一式問題では、の知識を問うたが、正答率が高く、知識の伝達はうまく果たされていることが伺えた。期末試験の記述問題では、に関する個々の考えを問うたが、深く洞察されている答案も散見され、授業の効果が伺えた。授業評価の数値データでは、全ての項目で開講主体における平均値を上回っている。授業目標や予復習および質問機会に関する項目はやや数値が低いため、今後、授業目標についての説明を深めることや、予復習の機会を設けることがいっそうの改善策として考えられる。自由記述欄では、実物の回覧や石器製作の実演、私語に対する注意等、授業担当者としての苦勞がある部分に対する高い評価が伺えた。これらを諦めず、今後も継続していきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本史A1  
 授業コード 12B03-001  
 教員名 青山 幹哉  
 教員コード 019323  
 登録人数 31  
 回答数 10  
 回答率 32.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

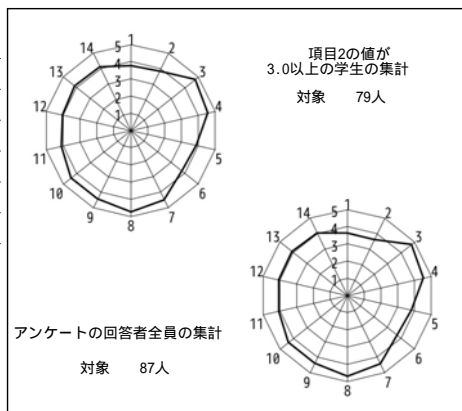
目標は、(1)日本古代中世史についての基本的知識を習得することができる (2)一つの歴史的事実に対して複数の見方があることを理解し、多面的な思考力を養うことができる、の2点であった。設問6の平均値は3.90、設問13の平均値は4.00であり、到達の度合いとしてはあまりよい数字はなかった。ただ、学生の成績から見ると、期末試験受験者のうち、「A」+が27.8%、「A」+「B」が55.6%、という、この科目ではかつて無い好成绩であった。

この科目は、2022年度Q3学期における学生評価の対象であった。設問1～14の回答平均値を比較したところ、すべての設問で下がったか、ほぼ同じであった。理由は1名が設問1・2・4以外の設問を「1」とし、かつアンケート回答者が10名と少数であったため、1名の低評価が全体を押し下げたためであった。この回答を「はぐれ値」として除外すれば、今回は前回並（かそれ以上）の平均値となる。今期もWebClassに「質問コーナー」の掲示板を立ち上げたが、自由記述欄に「いつでも質問できるよう、ウェブクラスに質問コーナーが設けてあった点が良かったです」「聞かれていることに対して、適切にこたえるなど、社会に出てから大切なコミュニケーションについても伝えて下さり」云々とあったように、好学の学生には役だったようだ。

今期、痛感したことは、欠席・遅刻者の多さであった。1時限ということもあるのだろうが、定刻には登録者数の半分程度しか出席していない状況が続いた。授業を聴講せず、教員からの質問を考える時間ももたないまま、学期を過ごしていけば、当然ながら授業中での小課題（3回実施）に対しても、不十分な解答が不提出となる。そのため、途中で受講を諦めた学生も多かった。前回（2022年度）もその傾向があったが、今年はさらにひどくなった。自由記述欄に「授業内容もだが、余談も面白かった」とあるように、今回は授業の本筋に関連する限り、余談も増やしてみたが、残念ながら出席率の上昇にはつながらなかった。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化人類学A  
授業コード 12B13-001  
教員名 石原 美奈子  
教員コード 100080  
登録人数 169  
回答数 87  
回答率 51.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

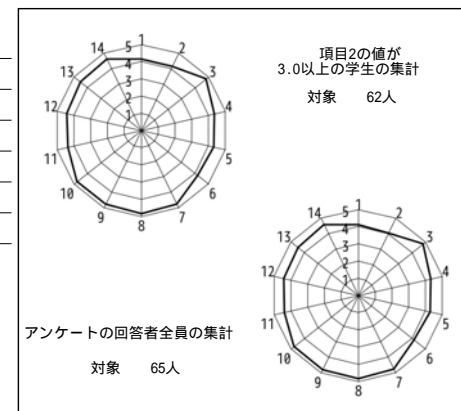
本講義は、文化人類学の成り立ちと考え方・視角を、具体的な事例をまじえて概説することで、文化人類学という学問についての基本的知識を広め、理解を深めることに目標を置いており、14回の講義をすべて行った点において目標を達成できたといえる。

講義は、すべてパワーポイントにまとめ、こまめに（webclassを用いた）小テストを行ったことで、（反復学習による）知識の定着をはかることにつとめた。最後の筆記試験にも、小テストの内容が多く出題されたので、まじめに授業と小テストに取り組んだ者は難なく良い点がとれる結果になった。ただ、パワーポイントの内容については「内容が細かすぎる」という指摘もあった。

「内容が細かすぎる」「ポイントがわかりにくい」という指摘があったので、それを受けて、再度パウポの内容を見直し、もっとわかりやすいように再編したいと考える。具体的には、スライド1枚あたりの情報量を減らし、抑揚（強弱）をつけ、映像・写真をもっと多用することで、わかりやすさをアップさせたい。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触3  
授業コード 13A02-003  
教員名 藤川 美代子  
教員コード 103115  
登録人数 199  
回答数 65  
回答率 32.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



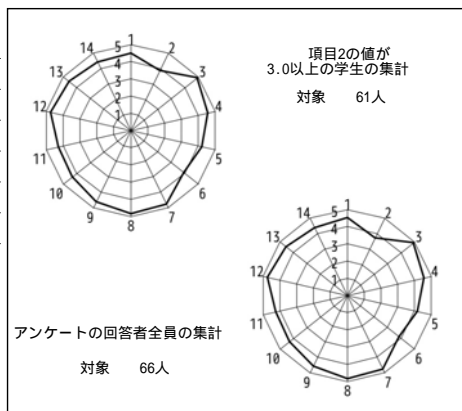
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初、自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作ること、マイノリティの人々の生活世界を捉えるために必要な視座を獲得すること、現代中国に存在する社会的・文化的問題について自分なりの意見を持てるようになること、異文化の理解を通して自らの文化を相対化する姿勢を身につけることという4つの目標を立て、シラバスどおりに授業を実施することを心がけた。進捗状況が予定より遅れたものの、シラバスに掲載した内容のすべてが伝わるように、授業時間中に触れられない部分は配布資料で丁寧に解説することなどに注力した。結果的には、目標はおおむね達成できたものと考えている。授業内容は理解しやすいと捉えられているようだ。映像やパワーポイントを使用した進め方が評価されていると感じるので、今後もこのような方法を用いるつもりである。最新の研究動向や情勢を授業内容にどこまで取り込めるのかが今後の大きな課題だと感じているため、この点に注力するつもりである。



2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 博物館概論  
授業コード 15M07-001  
教員名 黒澤 浩  
教員コード 100758  
登録人数 72  
回答数 66  
回答率 91.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

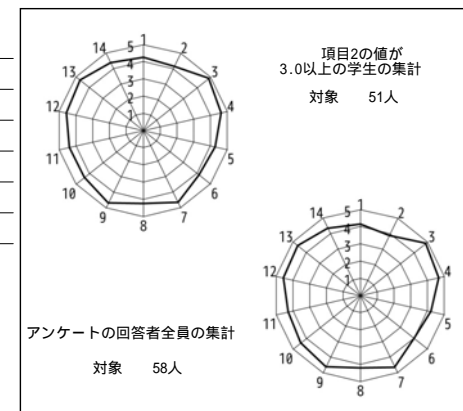


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生の評価として概ね良好だと感じた。  
自由記述でも指摘があったが、レジュメとパワーポイントで齟齬が生じることがあり、その点は改善していきたい。  
なお、学生の好評価は必ずしも試験等の結果に結びついているわけではないことは申し述べておきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 図書館情報学概論  
授業コード 15P01-001  
教員名 浅石 卓真  
教員コード 103263  
登録人数 67  
回答数 58  
回答率 86.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
「1. 普遍的な図書館の理念と、時代・地域ごとの図書館の特徴を理解する」  
「2. 図書館サービス、図書館情報資源、関連する制度・経営、情報技術等について理解する」「3. 図書館職員の養成と研修、図書館の類縁機関や関連団体について理解する」の3点を挙げた。レポートの採点結果を見ると「F」または「X」評価の学生は例年通り1割程度の見込みであり、上記の目標は概ね達成できたと考えている。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
項目1から14の平均は4.39、項目3から14の平均は4.46であり、いずれも全体平均および科目登録者数別（61～120名）の平均を上回っているため、大きな問題はない。例年通り、冊子形式で配布している授業資料と、関連動画の視聴が高評価を得ている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
自由記述では「ホワイトボードの字が見えにくい」という意見が複数見られた。これは例年はない意見であったが、おそらく教室の影響も大きいと考えられるため、次クォーター以降では定期的に教室の後ろに行き見えにくくないかを確認したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学基礎論A

授業コード 22A05-001

教員名 吉田 竹也

教員コード 019158

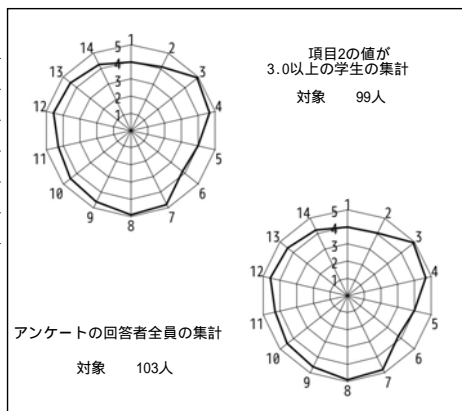
登録人数 117

回答数 103

回答率 88.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、他学科にも開放しているが、学科1年次の必修科目であり、複数のディシプリンの学びを基盤とし各ディシプリンの専門的内容で卒論を書いて卒業する学科生への入り口的授業と位置づけている。具体例をできるだけおおく挙げながら、人間とその文化を理解しようとする上でとくに重要な、相対的で批判的な思考態度を身につけることを目的としている。

数値データは低くも高くもない評価と感じる。質問項目2の評価が低めなのは、この授業が予習（教科書の該当する章を毎回読む）を課しているからであろう（予習を怠った学生が、低い評価をしたと考えられる）。自由記述については、今年度はいままででない数の回答数があった。例年とおなじように、できるだけ書いてほしいとお願いしたのであるが。コメントは肯定的なものも否定的なものもあり、中には授業で説明したことを聞いていないが故のものもあった。学生の回答への切り返しがきついという趣旨のコメントも1件あった。そこは気をつけるようにしたい。

今年度の授業評価を受けて、あらためて感じたのは、予習を課しているが半数近くが予習をせず受講する状況（例年履修者に問うと、この程度になる）の中で、どれだけ教科書から離れた内容や発展した内容を組み込むか、である。基礎的で重要な点を確認しないまま、発展的内容には進めない。討議は重要だが、ゼミでやるべき内容と私は考えているので、講義形式の授業では限定的に扱っている。今後、試行錯誤を続けていきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化史A

授業コード 22C41-001

教員名 渡部 森哉

教員コード 101237

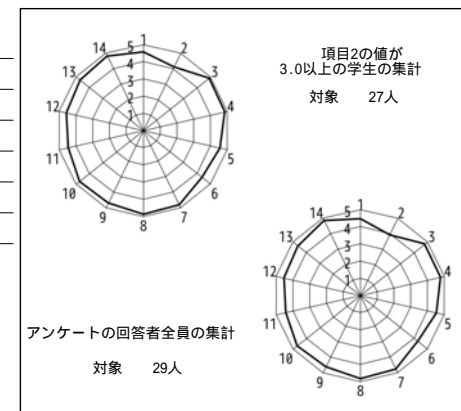
登録人数 60

回答数 29

回答率 48.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス通りに授業を行った。

授業評価アンケートの結果を見ると、授業の目標は概ね達成できたと思われる。

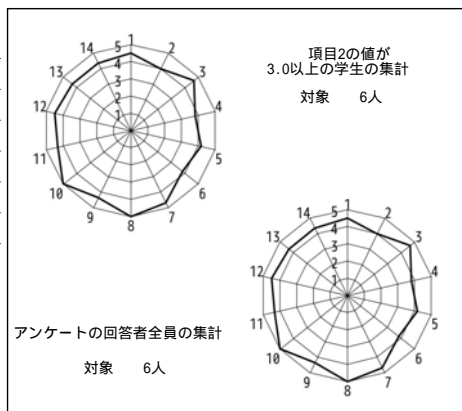
登録者60名に対してアンケート回答者が29名であり、回答率が低かったことが問題である。アンケートに回答した学生の多くは授業に真面目に出席していた学生であると思われる。学生が授業へ積極的に出席したくなるような仕組みを考えていきたい。

予習復習についての項目2の数値がやや低い。小レポートと期末レポート以外に、毎回の授業のコメントを提出してもらったが、それを予習復習の一部とは考えていない学生が多いのだと思われる。コメント、質問に対しては、授業中できるだけ丁寧に回答をした。

自由記述欄では9名の学生が好意的なコメントを記入している。スライド、図版やプリントが見やすいこと、身近な話題を取り上げていたことなどを評価するコメントがあった。一方でレジュメが少し読みにくいというコメントもあった。資料を改善できるかどうかを検討したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(構造と意味)  
授業コード 22C63-001  
教員名 青柳 宏  
教員コード 017004  
登録人数 9  
回答数 6  
回答率 66.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

<到達目標とその達成度> 今学期は次の2つの目標を掲げた。

1. 言語データの取扱と分析の方法が理解できる。
2. 理論言語学における仮説の提案とその検証の方法が理解できる。

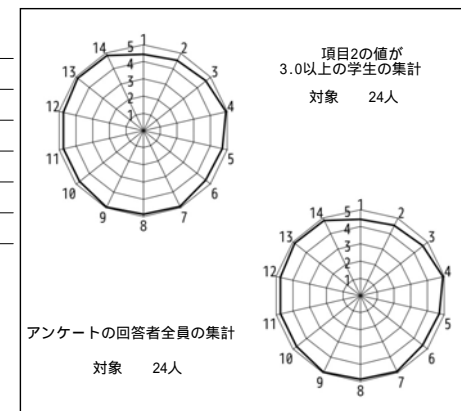
講義期間中に課した5つの課題を評価した結果、上記2目標の到達度は平均してそれぞれ約8割程度である。学生によって取り組みの真剣度に差があるのもいつものことである。ところで、ある学生が講義中に説明した現象について独自に調査をし、その結果を授業中に発表してくれたことは、大学教育のあるべき姿であり、とても嬉しいできごとだった。

<総合的自己点検・評価> 項目1~14の平均値4.39、項目3~14の平均値4.42であり、学科科目のそれぞれの平均値4.45、4.51と比べても大きな違いはない。自由記述欄に書かれた内容のうちプラスの評価だったもの(項目15)が、「生徒との会話を通して進行度を柔軟に変えていたところ」「理解できるまで、丁寧に質問に答えてくれた点」「親身になって質問に答えてくれた点」「どんな質問にも丁寧に答えてもらえた点」である反面、マイナスの評価だったもの(項目16)が、「上記の事項(つまり、質問に丁寧に答えたこと)により、授業の進行速度が遅れ元々の範囲の最後まで行かなかった点」であり、毎度のことではあるが、学生によって受け止め方が違うことが分かる。

<改善点・今後の方針> 項目16のマイナス評価の原因は、それぞれの項目を丁寧に説明したために、シラバスに掲げた内容の1/4ほどを切り捨てざるを得なかったことが原因である。来年度以降シラバスに立てる項目を整理し直す必要を感じている。さらに、ある程度の基礎知識を前提とした3、4年次配当科目であっても「他科目との関連」を無視して履修しようとする学生がいるので、シラバスに前提条件をより詳しく記述するか、第1回目の授業のオリエンテーションでこの点を明確にするなどの工夫が必要だと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育の方法・技術論1  
授業コード 15A09-001  
教員名 中村 和彦  
教員コード 055731  
登録人数 27  
回答数 24  
回答率 88.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

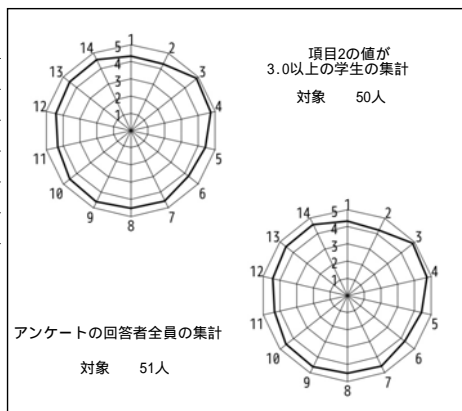
この科目は今年度が初めての担当であった。目標は(1)学校教育実践に必要な教授法、評価法等についての知識と技術が身につけている、(2)身につけた知識をもとに、効果的な授業内容、方法を計画し、授業案を作成することができる、(3)授業を進めるにあたってのコミュニケーション(話すことや質問すること)の重要性を理解できている、の3点を設定した。アクティブラーニング形式で進めたことにより、(1)アクティブラーニングを用いた教授法、(2)アクティブラーニングの要素を入れた授業計画と授業案の作成方法、(3)コミュニケーションの重要性の理解は達成できたと考えられる。

総合的な自己点検・評価として、まず授業への満足度(項目14)が平均4.83と高く、新しい知識や技術が得られた程度(項目13)も平均4.88と高いことから、受講生の学びにつながる授業ができたと考えられる。自由記述では、アクティブラーニングで進めたことが良かったと評価する声が多かった。

今後、この科目を担当する予定はない。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 子ども・学校論  
授業コード 20A13-001  
教員名 高橋 亜希子  
教員コード 103582  
登録人数 106  
回答数 51  
回答率 48.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

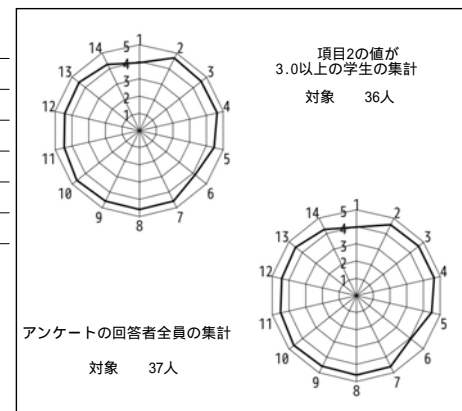
開講当初に設定していた目標と到達の程度：本学期は、全面対面授業に戻った状況を活用し、より学生同士のコミュニケーションを行う形での授業を行いたいと考えていた。そこで授業内でのグループワークをより活用したり、教室全体でワークを行ったり、ゲストスピーカーに来ていただいたりした。「毎回授業内容についてグループで話す時間を設けてくれるため、他の人の体験したことや考えたことを得ることでそのあとの授業内容をより視野を広くして聴くことができたところ。」「実際に現役で教師をしている先生のお話を聞いたことが、教育実習にいく自分にとって、貴重な経験となった。」「教室全体で学級のレクリレーションを体験できたのはよかった。」など学生からの肯定的な評価を多く得ることができたため、今後も続けていきたい

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」（4.57点）「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」（4.75点）「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」（4.61点）のため、授業の内容・構成は妥当だったと考えられる。

時代によって変化する部分を改定しながら、このような形を継続していきたい。また授業のスライドと配付資料のずれについての指摘があったため、その点を改善していきたい

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IA  
授業コード 23A04-001  
教員名 林 雅代  
教員コード 018796  
登録人数 41  
回答数 37  
回答率 90.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

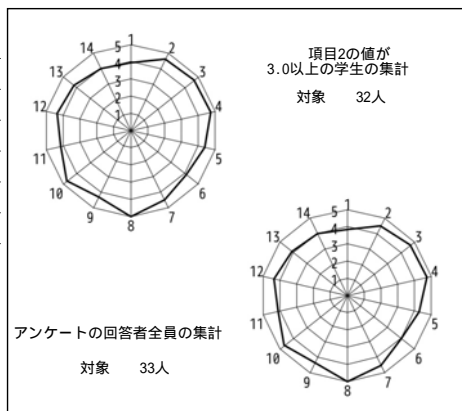


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1年生の最初の基礎演習科目であり、大学教育を通じて必要な文献の読み方を中心に学ぶ授業である。心理人間学科に入学してきた1年生にとっては、心理学が授業内容ではなく、心理学を学ぶためのスキルが授業内容となっているということで、質問項目1のように履修前の授業への関心は相対的に低くなっている。しかし、授業に取り組み始めると、受講生は大学で学ぶための必要なスキルであることを理解して、一生懸命取り組むようになる。質問項目6以外は4.5前後と高い評価となっており、1年次入学直後の授業として、意義あるものとなっているように思われる。自由記述についても、「授業の良かった点」として、レポートの書き方や要約作成の方法などがしっかりと学べたことを評価する声が多かった。残念なのは、質問項目6の「到達目標に向けて力がついていないか」の評価が低かった点である。これは、「到達目標が何かがわからなかった」という理由で評価が低かったのかもしれないが、授業で目指すスキルの習得について必ずしも達成感が強くないという理由なのかもしれない。40人というクラスサイズを考えると、担当教員の負担もあり、一人一人に対するケアを十分行うことの困難はあるが、受講生が着実にステップアップしてスキルを身につけたと実感できるような工夫が、さらに必要なのかもしれない。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習ⅠA  
授業コード 23A04-003  
教員名 池田 満  
教員コード 103141  
登録人数 40  
回答数 33  
回答率 82.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

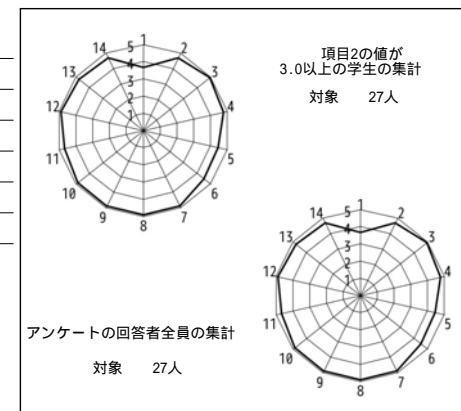
1. 文献の要点を論理的にまとめることができる。
  2. 発表レジュメやレポートを作成するための基本的なスキルを習得している。
- 上記2点を目標としたが、十分に達成できた学生もいる一方で、例年と比べて達成度が低い学生が目立った。授業の内容や方法を大幅に変えていないことから、その原因は学生にあると思われる。具体的には例年に比べ欠席者が多い、授業中の居眠りやスマホ使用等が目立った（というより、例年はほとんど見られない）。

「心理人間学基礎演習」という授業の意義、位置づけについて、繰り返し説明をしているにもかかわらず、理解していない（聞いていない）学生が、今年度は特に多いように感じる。全7コマ中1コマを費やして伝えても伝わらないのであれば、学生のレベルに合わせて授業内容のレベルも下げなければいけないのかもしれない。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など、にも述べたように、今年度は学修のレディネスのない学生、学修態度が出来上がっていない学生が多く、授業担当者としても強く困惑をした。次回以降へ向けて、学生の側の改善を望む。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習ⅠA  
授業コード 23A08-001  
教員名 土屋 耕治  
教員コード 102287  
登録人数 32  
回答数 27  
回答率 84.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、心理人間学学科の必修科目として開講されている。4クラスが同じ教材を用い行われ、論述文が書けるようになることが目標とされていた。

(1) 目標と到達の程度

新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じるかを問う項目13の平均値が4.78であった。これは高い得点と言え、論述文を書くという目標をある程度達成できたと言ってよいだろう。

(2) 総合的な自己点検・評価

本授業では、演習形式の授業で、学生が作成した原稿を相互に批評する機会を多く設けていた。「少人数グループでそれぞれの課題をどのように取り組んだかを確認しあうことで、自分になかった視点を知ることができた」という良かった点に関する自由記述コメントにあるように、一定の評価を受けていたと言える。

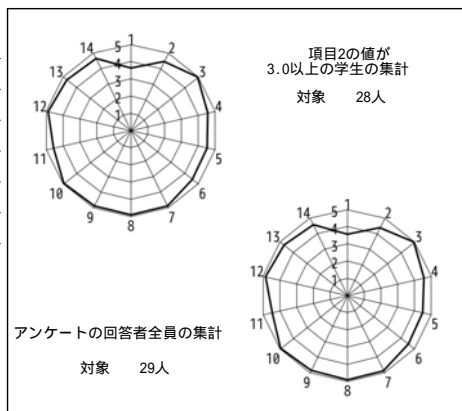
また、「先生がグループで話している内容について後から触れてくれて、班内で質問していたことを全体で共有してくれた点」といった、グループの話し合いについて全体でも取り上げていたことがポジティブに評価されていた。

(3) 改善点、今後の抱負

改善点として、課題提示をより丁寧に行ってほしかったという指摘があった。課題内容も多く煩雑になるところから、提示に関する部分は、丁寧に行っていきたいと考えている。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIA  
授業コード 23A08-002  
教員名 楠本 和彦  
教員コード 055780  
登録人数 31  
回答数 29  
回答率 93.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目は、4クラス同じプログラムで実施しているacademic writingに関する心理人間学科の必修科目である。到達目標は以下のものである。

- ・論述的文章とはどのようなものかを知っている。
- ・論述的文章を自分の文章として書くことができる。
- ・文献を引用のルールにしたがい、自分のレポートに活用することができる。
- ・テキストのテーマに即して、自分の視点から自分の言葉で文章を作成することができる。
- ・明快な文章の構成とはどのようなものであるかを理解し、自分と他者の文章を推敲することができる。

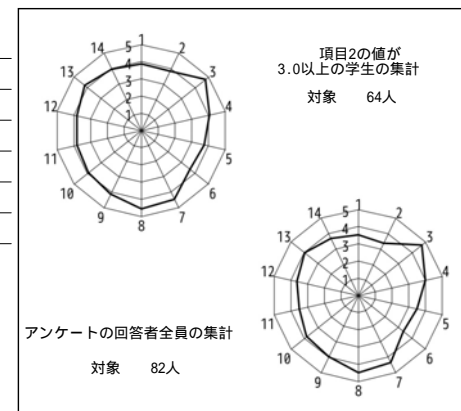
当クラスの平均が、全学平均を下回った設問は、1であり、学生が履修前には授業内容にあまり興味をもっていなかったことがわかる。

当クラスの平均が、全学平均を0.2ポイント以上高かった設問は、2、3、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14であった。

この授業では、一定程度の宿題を課したため、設問2が高くなったと考えられる。授業の開始・終了時刻、構成や進行速度の点においても問題がなかったことが設問3、4に示されている。各回のおける到達目標が明示され、到達目標に向けて授業が順をおって展開される点、教師の授業に取り組む態度に関しても、学生から評価されていることが設問5、6、7の評価からわかる。授業運営（設問8～12）に関しても全般的に学生から高い評価を得ている。設問13や14に関して、学生が授業課題を行い、提出課題に教員がコメントをつけることなどを通して、academic writingに関する知識や能力を向上させることができ、授業に関する満足度が高くなったと考えられる。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学概説  
授業コード 23C01-001  
教員名 加藤 隆雄  
教員コード 019349  
登録人数 126  
回答数 82  
回答率 65.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

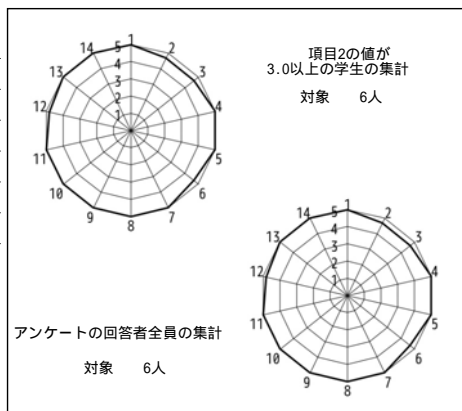


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業での授業評価は初めてであるが、今年度は初めてQ1に開講したのでデータを取ることができたのは有益だった。受講生は1年生から4年生までおり、知識レベルをどこに定めればいいか難しいと思っていたが、やはり当初設定していたよりも低い評価となった項目が多かった。レジュメの充実をよかった点として挙げる声も多かったが、情報が多すぎるという意見も多く、受講生の両極化がデータに反映しているように思えた。資料はレジュメを廃し、すべてダウンロードによるペーパーレスの授業とし、等倍のPDFと1ページ6枚の資料をアップロードしたが、モノクロやグレースケールでの印刷について授業内で指示したにもかかわらず、カラーで印刷するとスライドの色が黒くなる、文字が小さくて読めないなどの苦情があった。受講生によって印刷についての知識に差があるので、1ページに6枚のスライドの資料をモノクロで4枚にするようにしたい。半数以上の方が良かった点を挙げていた。「授業内容的にどうしても難しい言い回しや言葉が使われるが、随時こちらでも理解しやすい例を挙げてくれたり、言い直してくれたりしたため、その点において何が言いたいのかを理解することができた」「本当に深い話まで掘り下げて話されていたため、知らない話ばかりで面白かった」「スライドに情報がわかりやすくまとめられていて、授業後に見返しても十分に授業内容を思い出せたこと」などが代表的な意見であり、数値だけではわからない評価を得られたと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理臨床実践概論(公認心理師の職責)
授業コード	23C79-001
教員名	青木 剛
教員コード	103923
登録人数	7
回答数	6
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
 本科目は、公認心理師に求められる職責を果たすために必要な倫理的問題の把握などについて理解することを目的としている。職責を果たすためには、専門知識の獲得と活用、その際の留意点を理解する必要があるが、学部生では十分とは言えず、資格取得後も学び続ける必要がある。そのため、現時点で既に知識として獲得している点、獲得したが知識の活用までには至れていない点、獲得できていない知識を把握し、十分でないところを補おうとする姿勢の涵養が必要となる。そのために、授業内で既に他の授業で学修した概念の説明を求め、ディスカッションを実施して、他の受講生と知識や知識活用のための発想を補完し合いながら、知識活用に向けた発想力を育む授業運営を行った。受講生はそれらを通して現時点での自身の理解度を確認し、知識の現場での活用、その際の留意点について理解を深めているように見受けられ、本科目の到達目標は概ね達成できていたと思われる。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

数値データは、全て平均4以上であり学生からの評価は高かった。自由記述からも、教員 学生間や学生同士でやりとりをしながら進められた点が評価されており、到達目標の達成のために計画された授業運営が授業効果や受講生の満足度を高めていることが分かった。力が付いたかという項目6で平均得点が4.67と最も低かったが、自身の知識不足に気づいたという自由記述からも、上述の到達目標でもある、自身の現時点での理解度と、これから理解していく必要がある点の把握がなされた結果と考えられた。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 今後も、上述のような学生による授業評価や授業の満足度を維持・増進できるように工夫したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人文地理学1
授業コード	12B09-001
教員名	福本 拓
教員コード	104126
登録人数	8
回答数	2
回答率	25.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

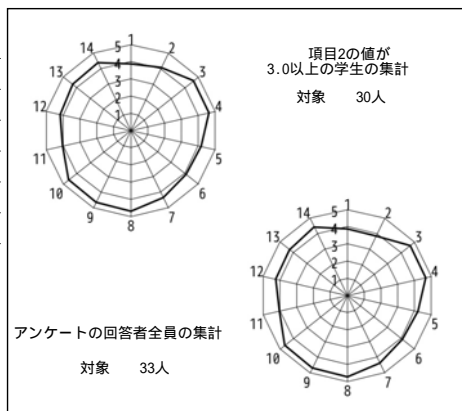
この授業の到達目標は、「空間編成・地域形成のダイナミズムを、産業や人口の観点から説明できるようになる」「グローバルな政治経済変動との連関する身近な事例を挙げられるようになる」「地域間格差について、各自の考えを人文地理学の観点に基づいて表明できるようになる」「現代社会の諸問題に、人文地理学の観点からアプローチすることの意義を説明できるようになる」の4点である。経済活動や都市・グローバル化などをキーワードに、図像資料を多用し、身近な問題群から人文地理学のエッセンスを理解できることを目指した。毎回の授業の感想と試験の結果を見る限り、いずれの目標についても一定の理解が示されたものと考えられる。

この授業は、今年度までの開講であり、4年次以降の学生しか登録できないという特殊な状況下、履修者数も少なかった。常時出席した者は4名以下で、数値データ等に基づく自己評価はなしえない。

従って、次クォーター以降での具体的な改善点の提示はできない。図像資料を多く用いた授業により、受講生の関心を高められたと考えられるので、その点は他の授業でも取り入れていきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学をめぐって1  
授業コード 13A05-001  
教員名 森田 貴之  
教員コード 102286  
登録人数 39  
回答数 33  
回答率 84.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

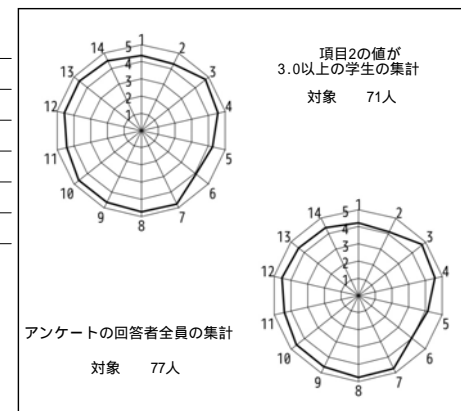


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が3.88であるのに対して、設問14の満足度も4.42であり、当初の講義目標はおおむね達成されたものと考えているが、当初からより関心を持って講義を選択してもらえるようシラバス等を工夫するようにしたい。調査対象科目は、共通教育科目のうちの一つであるが、日本文学のうち古典文学作品を扱い、多少専門性の高い知識も求められる内容であった。履修者に他学科生が多数含まれたため、日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり普遍的な作品理解の方法につながるように、また、具体的な関心を高められるように努め、本文の解釈においても負担をかけないようにつとめたつもりである。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思い、その意図はある程度は伝わっていたと感じる。次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。ただ、授業時間は遵守したものの、その反面、毎時の授業最後のまとめがおろそかになった面があったことが、自由記述欄にわかった。この点については、次年度のみならず、他の担当科目においてもただちにまとめの時間を確保することとしたい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。なお、授業内で回答を呼びかけ、最終回にきちんと回答時間をとったことで、回答数は良好であったと思う。継続したい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史概説  
授業コード 24C02-001  
教員名 坂井 博美  
教員コード 102981  
登録人数 129  
回答数 77  
回答率 59.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



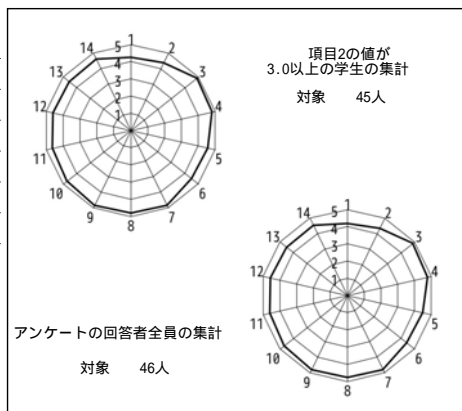
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、概ね達成できたと思う。アンケート回答の平均値からみて、授業の進行の構成や速度等、大きな問題なかったと思われる。自由記述では、受講生間の疑問や質問の共有がおこなれたことの満足度が高く、また、動画や視覚資料の提示も肯定的に受け止められていることがわかる。多角的な視点で学べた、内容に一貫性があったことがよかったといった評価もみられた。一方、到達目標に向けて力がつきたかどうかとの質問の平均値が、質問項目全体のなかで最も低かった。自由記述のなかにも、講義で考えるべきテーマを提示してほしいとの記述があった。毎回の授業で行うテーマや視点については最初に簡単に提示していたが、その時間を通して考察すべき点をより明確かつ具体的に提示したほうが、受講生の学びに効果的だったかとも思われ、次年度はこの点を改善すべき課題としたい。また、機器の使用に手間取ることがあり、この点も次回はなくしていきたい。



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史B  
授業コード 24C12-001  
教員名 松田 京子  
教員コード 100789  
登録人数 153  
回答数 46  
回答率 30.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

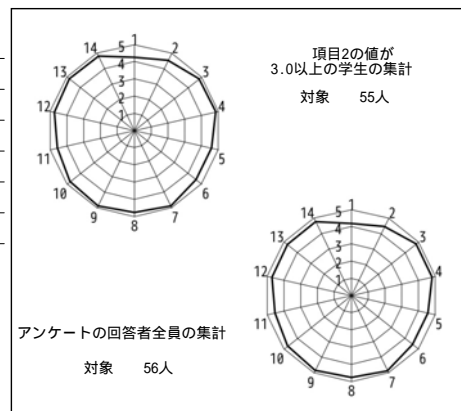
この授業では、教員作成の配布プリントとそれへの解説を中心に、適宜、関連する映像資料の視聴を織り込みながら、歴史学的手法で授業テーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後をリアクションペーパー記述の時間にあて、授業内容に関する質問・感想や視聴した映像資料に関する感想等を受講生全員に書いてもらい、次回の授業の冒頭で感想の一部を紹介しながら復習を行うとともに、適宜、寄せられた質問に答えることで双方向の授業展開を試みた。また2回実施した小レポートについても、提出締切直後の授業で回答例を紹介しながら解説を行った。このような方法で授業を進め、シラバスで示した授業計画はほぼ予定通りに進行することができた。

上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問4の平均値4.80、設問7の4.80、設問9の4.80というかなり高い数値から、好評であったと思われる。この点については、「学生による授業評価」の「自由記述欄」で、映像資料の視聴を通じて解説の理解が深まったなど好意的な意見を、複数の学生が寄せてくれたことからもうかがえる。ただし、受講生数153名に対してアンケート回答数は46名と、回答率は低めであった。

以上から、今後も受講生の理解が深まるよう教材の工夫やリアクションペーパーの活用などをさらに進めたい。また授業評価アンケートを実施する際、回答率が高まるよう、アンケートへの協力をさらに繰り返し呼びかけたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 漢文学概論  
授業コード 24C43-001  
教員名 西岡 淳  
教員コード 019315  
登録人数 71  
回答数 56  
回答率 78.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

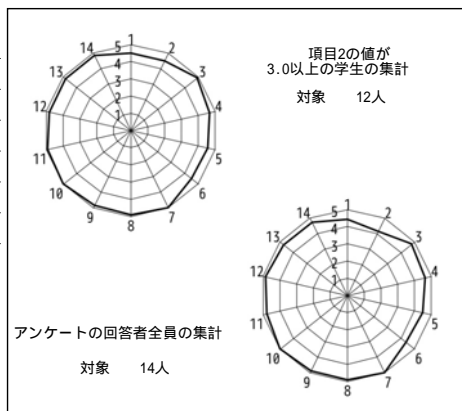


授業評価結果を踏まえた点検・評価

漢和辞典を引きながら、返り点を施した漢文を読めるようになることがこの授業の目標である。受講者は辞書を持参し、まず配布される教材の日本語訳（余裕があれば書き下しも）を作成する。授業の後半に担当者が解説し、各自が添削した答案を毎回提出、これを担当者が閲覧・添削した上で次回に返却する形式である。これに同じ方式の定期試験を加えて最終的な評価とした。受講者は主に日本文化学科とアジア学科の学生で、適応力や学習達成度は高かった。提出物の出来具合と定期試験の結果からみても、授業目標はほぼ達成されたと考える。評価項目の平均値は4.68（除1・2：4.73）で、特に設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」が、平均値4.77と高評価を得られたことには安堵した。自由記述において評価された点としては、「漢文を自分で解いて後から詳しく説明してくれるので分かりやすかった」「毎回提出したプリントにフィードバックがあった」「登場する語彙についての背景説明まで十分に行われていた」等の記述があった。その一方で、解説が少し早いとの意見が複数あったので、今後はゆっくり分かりやすく話すよう注意したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 第二言語習得研究  
授業コード 24C59-001  
教員名 岩崎 典子  
教員コード 103983  
登録人数 16  
回答数 14  
回答率 87.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

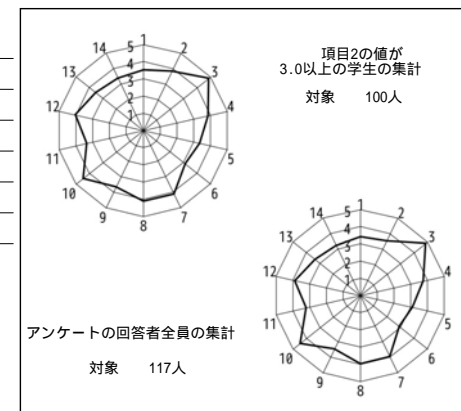


授業評価結果を踏まえた点検・評価

定員30名のところ、履修生が16名、うち12名が最終課題であるレポートを提出しており、2名が「設定していた目標」の到達していたかどうかは、レポートを評価後により明確になると思われるが、4名が提出していなかったことは、目標が困難であったと捉えた可能性も否めない。4名のうち3名は出席率も高かったため、12名のレポート評価も踏まえ、次回の目標設定に反映させる意向である。また、今後シラバスの改正が必要と感じた他の項目としては、授業形式の明確化がある。当初、相当の数の学生が抽選で落選して30名の登録であったが、初日に教室が小さめの教室であり「演習」も含む授業であると知って15名ほど（全て経営学部）の学生が授業前に立ち去った。抽選で落ちた学生の中には「日本語教員養成プログラム」の履修生もいたようなので、講義中心の授業であると誤解する学生の登録がないよう、「この授業は講義および演習形式で行われる。」という記載の他にも注釈を加えるなどして明確にしたい。他の今後の改善点としては、1名が自由記述で述べていた2冊の教科書を購入することの負担を軽減することがある。今回、どちらの教科書も全ての章を用いる訳ではないことについては、申し訳なくは思っていたが、どちらも5割または6割ほどを必読部分としていたため、コピーによる提供は、著作権などの懸念から2冊の購入を求めていた。来年度は2冊目からは2章のみの使用として、コピーを提供することを考えたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学A3  
授業コード 12C08-003  
教員名 金 慧昇  
教員コード 104504  
登録人数 131  
回答数 117  
回答率 89.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

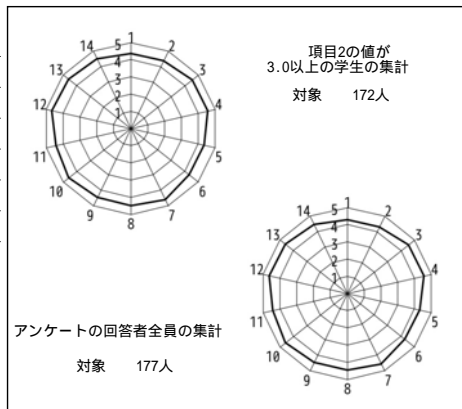


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、経済史とは何かを理解し、経済史の基礎知識に基づき、現在を理解する思考力を高めることでした。そのために、毎回の最後に授業の内容と今日の社会をつなげて考えることができるリアクションペーパーを書きいただき、次回の冒頭にコメントをすることで理解度を高めることを試みました。リアクションペーパーを通じて参加度を評価したことや、授業内容の連続性を図ったこと、大人数の授業のため私語を禁じたことは学生たちの学習に良い影響を与えたかと思われます。ただし、用語や概念が抽象的な場合があり、一回目の授業に多少多くの内容が込められていたため、理解に難しさを感じた学生たちもいたように思われます。また、大人数の講義形式の授業のため、個別具体的な指導や学生同士の活動を行うには限界があったことも分かりました。今後は、授業内容の分量調整や説明の仕方、学生の参加度を向上させる方法を工夫して到達目標をより適切に達成できるように努める必要があるかと思われます。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人権をめぐる2  
授業コード 13C05-002  
教員名 川島 正樹  
教員コード 048116  
登録人数 264  
回答数 177  
回答率 67.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

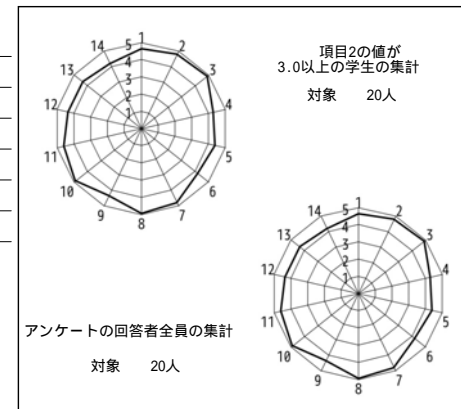
について： アンケート項目5の受講生が感じた到達目標理解度に関する「4.34」は決して高くはないが、今回の全学共通教育の「学際科目」全体平均値「4.19」および本科目の評価を受けた前回調査時（2019年）の「4.14」と比較して、高い評価を得た。同項目の細目を見れば、最高点の「5」を付けた者が50.85%であり、「4」を付けた者と合わせれば86.44%に達する。受講生総数264名の条件下、シラバスに明記された到達目標はほぼ達成できたと判断される。

について： 項目13の新知識獲得・理解深化度は「4.60」、項目14の全体的満足度は「4.45」で、「学際科目」平均値の「4.47」および「4.39」、前回調査時の「4.42」および「4.32」と比較して、好評化を得たと思う。また項目15に有効な回答をした者は101名で、「人権について深く学ぶ機会を得られた」旨の記述が多数見られ、とりわけ担当教員の職務への熱意を刺激する回答が相当数寄せられた。その原因は、映像資料を多用したことに加え、対面授業においてWebClassのシステムを活用して毎回チャットで質問を募集して回答し、小テストを課したこと、中でも合計5回の記述式回答に対してはかなり丁寧なコメントを付し、20前後の回答サンプルを掲示したこと等、かなりの時間とエネルギーをかけてフレッシュな1年生が大半の受講生と個別にも交流を心掛けた点にあると確信する。

について： 停年退職の年に当たり、例年以上にエネルギーを傾注して臨んできた担当者としてはほぼ満足であり、残りの授業にも同様の気持ちで当たりたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A I1  
授業コード 31A01-001  
教員名 WILSON, John  
教員コード 102696  
登録人数 23  
回答数 20  
回答率 87.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

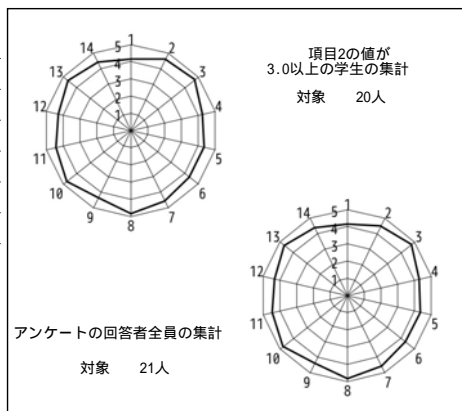


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals and objectives were achieved successfully in this course. The student responses are a reflection of the progress of the course, their ability to understand and accomplish the objectives. Some students had concerns about my speaking speed, however, this group was the highest in level, and still some students expressed concern that they did not understand some things. This is not unusual in Foreign Language classes. I do not anticipate any changes in my teaching however I think several students will benefit from visiting the LL office in the L building on the 2nd floor. Many indicated that this helped them in the writing and preparation for some classes.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A I2
授業コード	31A01-002
教員名	COCHRANE, Robert
教員コード	104483
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

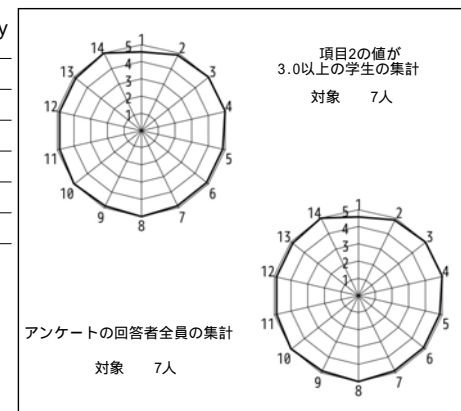


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The students responded well despite the challenging nature of the course and materials. They were as diligent as can be expected from freshmen students. By the end of the quarter they were becoming accustomed to the content and delivery of the course. The survey results clearly illustrate that the students saw positive gains from the format that was different from their high school classes.
- 2) Student comments suggest that they are benefitting from the content and style of the AEA course. This is a big adjustment for freshman student but they do rise to the challenge and gain confidence in their own abilities.
- 3) From the positive results I do not intend to change much. The class is going well and students report having a positive experience. I will continue to challenge student assumptions of learning, English and academic studies.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society B <国際科目群>1 (英米学科生用)
授業コード	31C02-901
教員名	DORMAN, Benjamin
教員コード	100695
登録人数	23
回答数	7
回答率	30.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course was to familiarize students with media literacy (critical reflection on media themselves) by using examples mainly from film, television, and social media. It covered issues such as fame, morality, public life, the impact of advertising, and the phenomenon of celebrity. It introduced some theoretical perspectives of media literacy, including parasocial relationships between celebrities and fans, cognitive dissonance, and Buckingham's four key concepts (Production, Language, Representation, and Audience).

These ideas were incorporated into the lecture component. The other component of the classes was discussion and group work, in which students were asked to present their opinions and discuss the topics as a group. I commented on each students' opinions and tried to draw in the information presented in the lecture into the discussion. Considering the comments from the students, this appeared to be an effective way of presenting the content and giving students the chance to absorb the content. This was the last class I taught online, but what I gained from this was the importance of focussing on each student's opinion as much as possible.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society C <国際科目群>
授業コード	31C03-901
教員名	上村 直樹
教員コード	102463
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

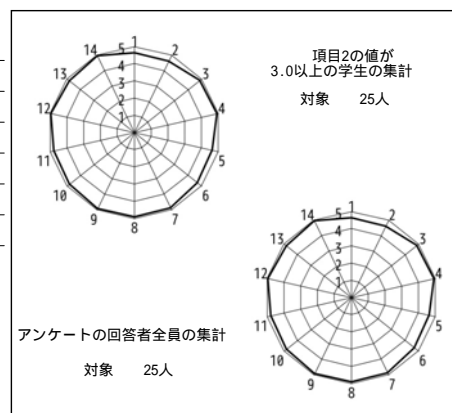
本講義は受講者が5名、評価を行ったのは3名のみで数値データはない。そこで以下、学生の受講状況、受講態度等を中心に本授業に係る自己点検・評価を示す。

本講義では、冷戦期の国際関係とアメリカ外交に関する理解を深める、冷戦の意味と結果についてしっかり理解する、国際問題や歴史問題に関して英語で考え、議論できるようになる、という三つの到達目標を掲げたが、受講者の発表やディスカッションでの発言および英文の最終レポートから判断すれば、この目標に関して、多くの受講生が授業終了までに冷戦期の国際関係およびアメリカ外交に関する基本的知識と一定の理解を身につけ、興味を深めたと判断できる。

また本授業の最も重要な目標である英語を用いて専門的内容について発表やディスカッションを行い、その技能の向上を図るというの目標に関しては、若干ばらつきはあったものの、学期を通じて確実な進歩が見られたと評価できる。受講生たちの多くは、これまで国際関係等の専門内容について英語で本格的に議論する経験が少なかったと思われ、当初発言への躊躇も見られるたが、授業の終盤では、殆どの履修性がより積極的に質問や発言をする姿が見られるようになった。特に今回の授業では、すべての履修者の授業への理解度に従来以上に注意を払い、テキスト等の難しい専門内容が理解できていないと判断した場合には、当初のスケジュールを遅らせても履修者全員が内容をしっかり理解しながら議論ができるように留意した。アンケート結果からもこの点を評価する声が多かった。今後も人数が増えた場合にも今回の成果を活かしていくようにしたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies C <国際科目群> 1 (英米学科生用)
授業コード	31C18-901
教員名	森山 貴仁
教員コード	104589
登録人数	31
回答数	25
回答率	80.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

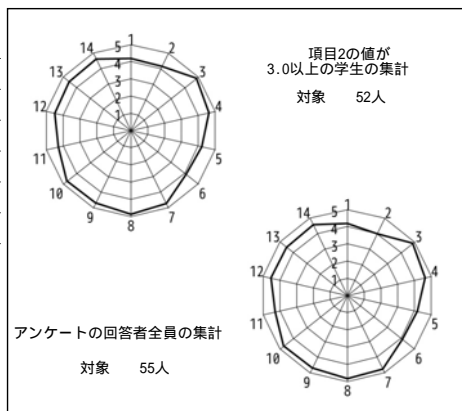
このSpecial Topics in English: Interdisciplinary Studies C1では、アメリカ社会を知る上で重要なテーマを設定して、それらを扱う映像作品を鑑賞したのち、学生と教員の間で議論をするという方法をとった。これによってオーラルコミュニケーションの向上を目指したが、約30人の受講生のうち、3分の2以上が毎週必ず自主的に発言しており、クォーター全体にわたって活発な参加が見られた。英語を母語としない場合、言語能力が十分であっても人前での発言には躊躇してしまう日本人学生は少なくないが、この授業をとおして英語のオーラルコミュニケーションに積極的な姿勢を持てるようになった点については、かなり満足のいく結果だったといえる。

ただ、ディスカッションの時間において、教員の用意した質問に答える学生が多かった一方で、学生同士のあいだでのやりとりが少なかったと感じた。つまり、自分の前の発言者と自分自身の意見がどのように関連しているか示すことなく、学生がそれぞれの考えを伝えることを繰り返すという形となり、学生の相互作用が明確に見られたわけではない。(コメントを読むかぎり、学生たちは他の意見をたしかに聞いていて、多くの視点を知ることが本科目の利点と感じたようだ。)

現時点では、学生から自発的な発言を引き出す目標は高いレベルで達成できた。今後は学生同士の活発な意見交換を促す方法を試みて、より良いディスカッションの方法を受講生に伝えたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治とコミュニケーション
授業コード	31E09-001
教員名	花木 亨
教員コード	101269
登録人数	149
回答数	55
回答率	36.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バラク・オバマの演説の特徴を理解すること、アメリカ社会についての理解を深めること、大統領の演説やその他の政治的メッセージを分析できるようになることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

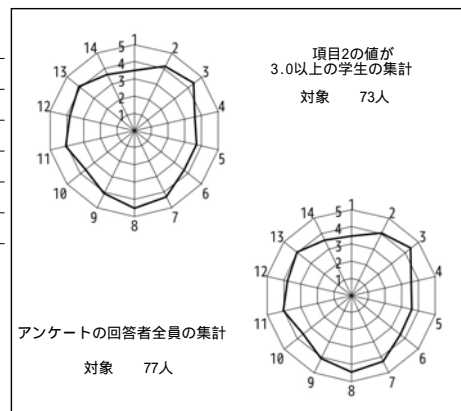
項目3から14の平均値は4.55だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.32を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。

自由記述欄を読むと、スライドがわかりやすかったこと、視聴覚資料を多く使ったこと、リアクションペーパーをとおして学生たちの意見に耳を傾けたこと、学生たちの意見を匿名で紹介することで一定の対話性を確保したこと、学生たちの質問に丁寧に答えたことなどが好意的に評価されたようだ。その一方で、学生たちの意見を紹介する時間が長すぎるといった意見もあった。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が比較的多い授業だったが、リアクションペーパーに書かれた意見を紹介するなどして、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生たちの主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳3
授業コード	10D08-003
教員名	額田 有美
教員コード	104774
登録人数	186
回答数	77
回答率	41.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

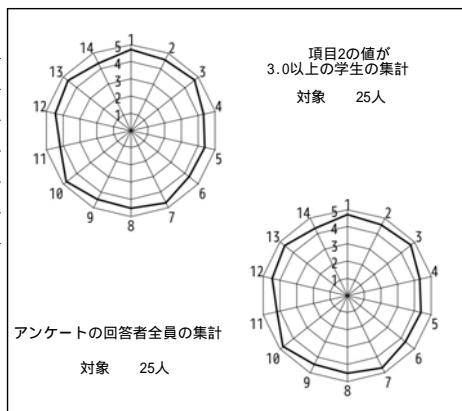
本科目は、本学着任後、最初に担当した授業かつ複数数学部の学年も異なる受講生から成る大人数の講義形式のものであったため、全体として振り返ると教員としては反省する部分が多かった。他方、今回の評価結果（平均）や、授業をとおして一部の学生が極めて積極的に本科目の学習に取り組み、授業前後に必ず追加の質問をしに来る者もいたこと等を踏まえると、学生にとっては一定程度の達成感を感じる授業となっていたとわかり嬉しく思う。

具体的にみると、開講当初に設定していた目標と到達の程度に関する設問項目5と6への評価（平均値）が3.5以上であったことから、多くの学生が本授業の到達目標を理解し、かつ目標が到達できたと感じているということが分かった。初回の授業でシラバス記載の到達目標を学生にきちんと再確認してもらう時間を設ける等の工夫をしたことが影響したのかもしれない。

数値面で著しく低いものはなかったとはいえ、授業中の私語等に関する設問項目10が3.57であり、自由記述においても複数の学生から他の学生の私語等を指摘する声があった。授業内で一度は注意したものの、それだけでは十分ではなかったことが今回の評価結果から改めてわかった。この点については、次クォーター以降に向けての第一の改善点とし、教員側から複数回の注意喚起を行うことに加え、授業内容をよりインタラクティブなものとし、私語ではなく話し合いを行う時間やアイスブレイクの時間を設ける等の工夫に一層努める。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語I[FS]1  
 授業コード 11D02-005  
 教員名 牛田 千鶴  
 教員コード 100657  
 登録人数 26  
 回答数 25  
 回答率 96.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



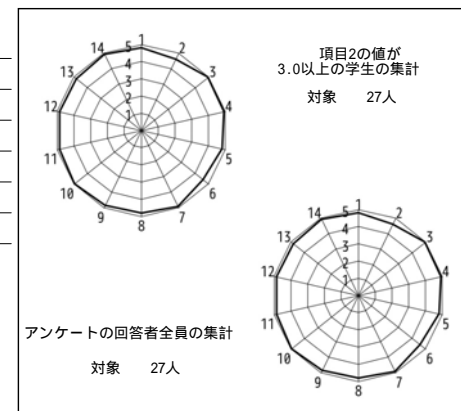
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1年生生用の基礎固めの文法科目ということもあり、学生たちは真面目に取り組んでいる様子であった。定期試験や小テストの結果を見る限りでは、当初に設定した目標は概ね達成できたと考えている。それは、設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」の平均値が、4.64と比較的高かったことから窺われる。

以下、自由記載欄にあった学生たちの生の声を、いくつか紹介しておきたい。説明が丁寧でわかりやすい / 間違えても一緒に直してくれる / エピソードトークが毎回面白く、記憶に残るきっかけになった / スペイン語文法に対し理解を深めるための適切な授業 / 授業の度に理解が深まっている / 予備知識等を含めて教えてもらったので記憶に残りやすく楽しく授業を受けられた / 様々な言い回しや興味深い話を聞いた / スペイン語の解説のみならず、現地での言葉の使い方や、一般常識などをたくさん教えてもらった / 留学話なども面白く、留学への前向きな気持ちの後おしとなっている・・・等々。他方、「一定速度でずっと続くので途中で集中が途切れてしまう」「授業内で理解することができず、宿題で苦戦した」といった声もあった。基礎の段階で学習に躓くと、それが尾を引いてしまうことにもなりかねない。今後はこれまで以上に学生たちの理解度に気を配りつつ、授業を進めていければと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語I[FF]1  
 授業コード 11B01-004  
 教員名 茂木 良治  
 教員コード 102698  
 登録人数 30  
 回答数 27  
 回答率 90.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

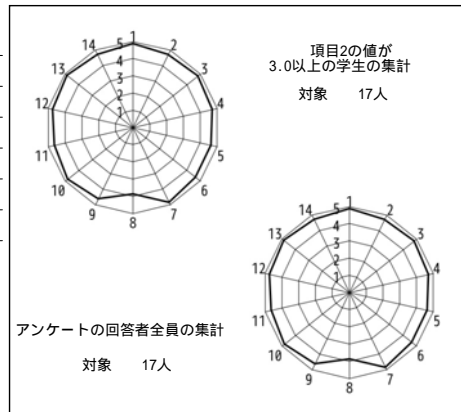


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Tendances A1という教科書を使用して、予定していたUnité0~Unité4 Leçon4を終わらせ、当初設定していた授業目標は達成できたと考えている。学生たちは欧州言語共通参照枠のA1レベルへの到達に向けて学習したことになる。フランス学科1年生向けのQ1科目であり、フランス語をはじめて学ぶ学生ばかりのため、基礎的な力の定着を特に図った。少々進度は早いですが、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」で4.59点と高い数値を得られていた、また、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」で4.73点だったことから適切な授業運営だったことがうかがえる。設問3-14の平均点が4.86点と高得点であることから、授業全体でも満足度が高いといえる。自由記述欄に、「自分で勉強するところが難しい部分やフランス人教授では理解しづらい箇所を補ってくれるため非常に充実した授業であります。」「説明が丁寧で分かりやすかった。毎回小テストをやってくれるのがありがたい。」とあるのように、解説の内容および手法について肯定的な記述が多数見られた。否定的な意見は見られなかったが、今回はグループワークの実施などあまり行わなかったため、今後は積極的に取り入れて、引き続き授業改善に努めたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語I[FF]2  
授業コード 11B01-005  
教員名 平田 周  
教員コード 103583  
登録人数 27  
回答数 17  
回答率 63.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

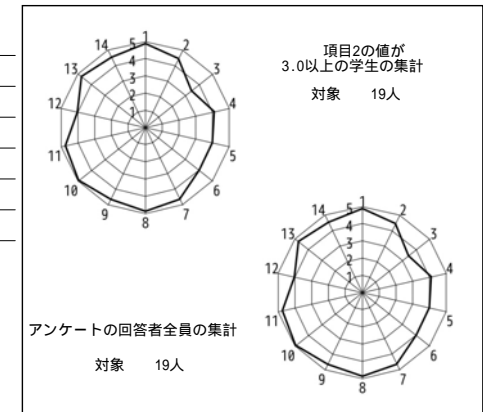
(1) フランス語IIIでは、当初予定されていた文法項目および練習問題に関する解説をほぼすべて無事に終わることができました。多くの学生が意欲的かつ持続的に取り組み、ほぼ毎回課す小テストや期末テストにおいて優れた理解を示してくれました。

(2) 設問項目のレーダーチャートでは、「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」の項目に関する平均値が他と比べ、低い結果になっています。教室にマイクが備わっていたにもかかわらず、肉声で十分かと思いません。次回以降では少し大きめになったとしてもマイクを使用したいと思います。

(3) 同じ教科書を発音等を主に担当するネイティブの先生と議論をしていて、学生が辞書を使わないという話になりました。多義的なフランス語の語彙を取得するにあたって、さまざまな用例を通して文脈のなかで語の意味を理解することは重要ですし、何よりも辞書を使って学生一人一人が自ら自分の関心に従ったフランス語のテキストを読んでいくにあたって辞書は必須です。自動翻訳などを辞書代わりに使う学生が見受けられますが、そうしたインターネット環境の変化においても辞書は大事であることを伝えていきたいと思えます。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語II[FF]1  
授業コード 11B02-004  
教員名 COURRON, David  
教員コード 019026  
登録人数 19  
回答数 19  
回答率 100.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students practice French through both oral and written exercises, with a particular attention given to pronunciation, spelling and acquisition of grammatical patterns in various contexts of communication.

2. Degree of achievement of initial course objectives

This quarter, even though the amount of homework may have seemed too heavy for a few of them, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above, so that most of them began to use French to communicate with one another inside the class. Some valued every class verb tests and dictations, the fair balance between explanations and practical activities which led to learn also what was not in the textbook and the frequent chances they were granted to study over and over through their homework.

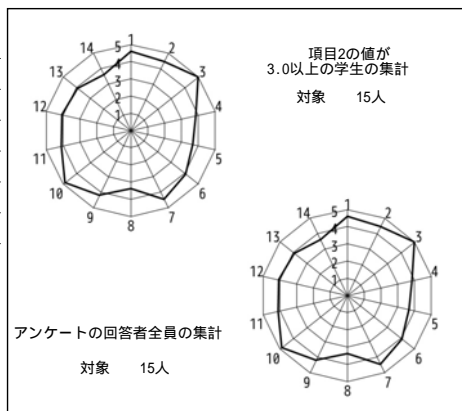
3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. Therefore I will do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated my checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials on my homepage.



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語コミュニケーションの基礎 I1
授業コード	33A01-001
教員名	REBOLLAR, Patrick
教員コード	100084
登録人数	19
回答数	15
回答率	78.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

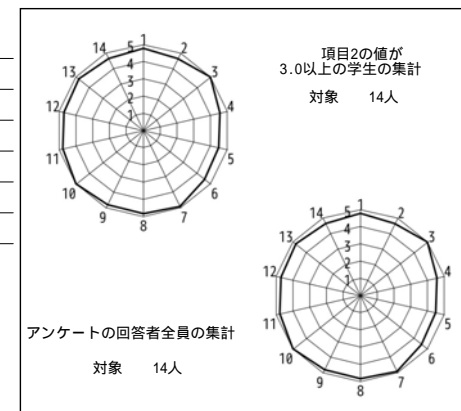


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course is to learn French pronunciation well, especially for phonemes that do not exist in Japanese. Students can focus on correct pronunciation before focusing on meaning. They learn the pronunciation of vowel and consonant combinations. Lexical morphology is discovered in the form of letter and sound games. Through numerous phonetic and visual exercises, students must also be made to understand that the letter "e" is the biggest problem in French: they must learn all the combinations with other letters and the pronunciations, the position in the word also has great importance (for example at the end of the word, the "e" is not pronounced). The conjugation of the most frequent verbs in French is studied and repeated in each lesson and simple sentences are given as examples. Each week, online exercises reinforce those done during class. These exercises of repetition and phonetic and morphological differentiation make it possible to avoid the use of katakanas in phonetic transcription. The meaning of words and sentences is also used to learn how to use the French-Japanese dictionary or French dictionaries online. Learning the phonetic alphabet includes many memorization exercises. Then the students have to learn numbers and calculations. The basics of French phonetics can also be used in other courses to be even better memorized.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語文法I1
授業コード	33A17-001
教員名	小林 純子
教員コード	102488
登録人数	33
回答数	14
回答率	42.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

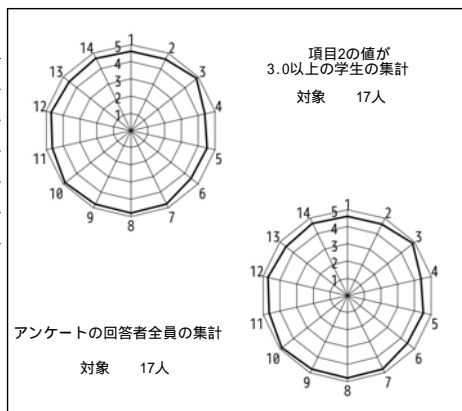
この授業では、1年次に学んだフランス語文法を復習しつつ更に文法への理解を深めることを目標に、(1)学習者が自らフランス語の用法を説明できるようになること、(2)文脈に応じたフランス語を適切に使用できるようになることの2つを到達の程度に設定している。

数値データから、授業運営上の観点からは概ねポジティブな評価を得られていることがわかる。一方で、到達目標のわかりにくさという点で課題を残していることがわかる。これはシラバスの書き方の工夫や、学科の専門科目としてのフランス語教育全体の中に占めるこの授業の役割や位置づけの明瞭化が求められているということであり、次クォーター・学期以降に向けて改善していきたい。

また自由記述から、アドバイスや説明が評価されている一方で、授業のスピードが早いと感じている受講生もいることが分かるため、1年次の習得の程度に応じて、出来る限りバランスのとれた進度や時間配分を考慮したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アカデミックフランス語I2  
 授業コード 33A27-002  
 教員名 吉澤 英樹  
 教員コード 103584  
 登録人数 29  
 回答数 17  
 回答率 58.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

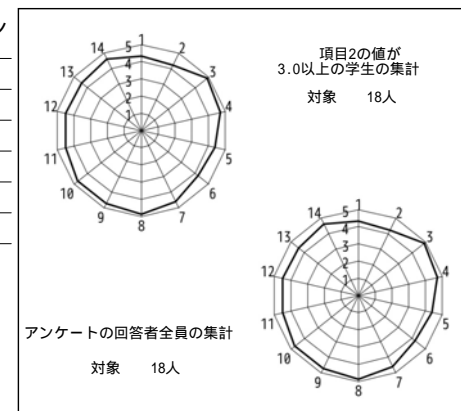


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目はシラバスに記載されているように、「研究論文などで使用されるアカデミックな文章の形式に慣れ、論理を正しく追うことができる」  
 「論文で使用される専門用語や固有名詞の調べ方を身に付け、筆者が何を言わんとしているか正しく理解出来る」ことを目標としている。4年間でフランス学科の学生が学ぶ最後の語学必修科目ということもあり、内容のレベル的にはCECRのB2からC1という高い設定を行なっている。今年度は特に3月の再開された海外フィールドワークに参加した学生が一定数いたため、モチベーションの継続を心がけるように少し難易度をあげた。それゆえ到達度に関しては有意な差が見られた。モチベーションの高い学生は必死で授業について良い成績を残した反面、将来の職業選択を見据えてフランス語学習のモチベーションが下がり始めている学生にとっては難しい内容だったようだ。上記のように上位半分程度の学生に合わせる授業内容となったため、下位3分の1は授業のゴールが見えずついてくるのが厳しかったようだが、グループワークを多用しフォローアップを心掛けたため、最終試験では概ね一定の習熟度に達することができ、欠席過多の学生以外脱落者はいなかった。それゆえ概ねうまくいった授業であると評価できる。フランス学習のモチベーションが低下した下位層を、内容面だけでなく上級フランス語科目としてより魅力的なものとしてフォローアップする態勢を模索したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語圏異文化コミュニケーション論  
 授業コード 34A14-001  
 教員名 BAYERLEIN, Oliver  
 教員コード 100842  
 登録人数 48  
 回答数 18  
 回答率 37.5%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Title: Cultural Communication in the German-Speaking World - Course Evaluation Feedback

(1) Students were encouraged to explore the nuances of intercultural interactions through engaging activities and assignments. The majority of the students found that these goals were effectively achieved, with 85% of the class indicating high satisfaction in meeting the course objectives.

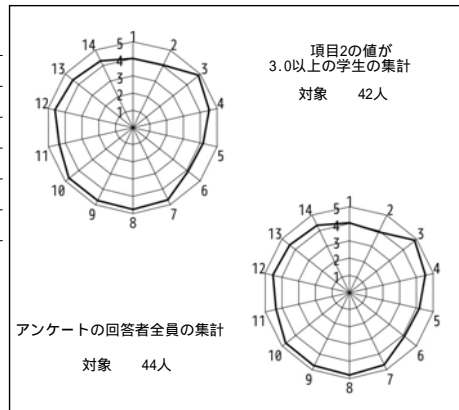
(2) As the instructor, I am pleased to see the students' positive feedback and overall self-assessment. The numerical data speaks volumes, with an impressive 4.61 rating out of 5. The students appreciated the course structure.

(3) Looking ahead, I am committed to continuously improving the learning experience. To address student suggestions, I plan to incorporate even more cultural immersion activities, to deepen their understanding.

In conclusion, I am grateful for the overwhelmingly positive response from the students in "Cultural Communication in the German-Speaking World." Their enthusiasm and constructive feedback inspire me to refine and enrich the course further, striving to create an even more impactful and rewarding learning journey in the future.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ史  
 授業コード 34A15-001  
 教員名 齋藤 敬之  
 教員コード 104487  
 登録人数 52  
 回答数 44  
 回答率 84.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



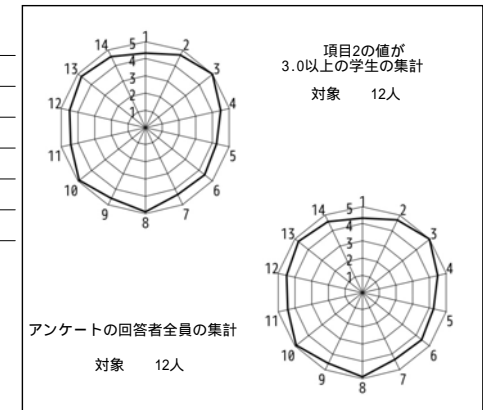
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では「ドイツ史の知識を整理し、深めること」や「現代の社会や生活と比較する視点を持つこと」を目標に掲げていた。この2点目がやや抽象的で、歴史の学習との結びつきを理解させるまでには必ずしも至らなかったことが設問5・設問6でのやや低い評価につながったと推測される。本科目ではドイツ史に関する知識が豊富でない履修者もいることを想定し、内容や資料をわかりやすくするように留意したこともあり、授業全体についてはおおむね好意的な評価が得られた。しかし同時に、ゆっくりとした授業進度に不満を感じた履修者も見受けられた（設問16）。授業各回の時間配分やそれに対応した資料の作り方などは今後の改善点である。また、参考文献や補足情報はこまめに提示していたものの、予習や復習を促すような指示を明確には出していなかったことが、設問2の評価が伸びなかった一因と考えられる。この点も今後の改善点である。

教員の姿勢や授業運営についてはおおむね好意的な評価を得られた（設問7～設問15）。とくに言及が見られた、授業各回にWebClass上で授業内容に関する課題は、その回答内容を次回の授業で共有する形で履修者の理解度の向上や履修者同士の意見の比較に役立たせることを意図して実施した。今回の評価に鑑みて、こちらの意図が実現できたと判断しており、また講義科目の中でも双方向性を確保することにもなるので、今後も継続したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級講読A  
 授業コード 34C01-001  
 教員名 中屋 宏隆  
 教員コード 102885  
 登録人数 13  
 回答数 12  
 回答率 92.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。目標としては、中級レベルに相当する少し長めのドイツ語テキストを用いて、音読・読解力を向上させることとした。また、南山ドイツ学科の一年生向け授業では、近年文法的な説明は最小限に抑えられているので、講読の授業を通じて文法の理解が進むように工夫した。到達の程度としては、「初見の文章であっても正確な発音で読むことができ、内容理解も辞書を用いれば可能」というレベルに設定した。

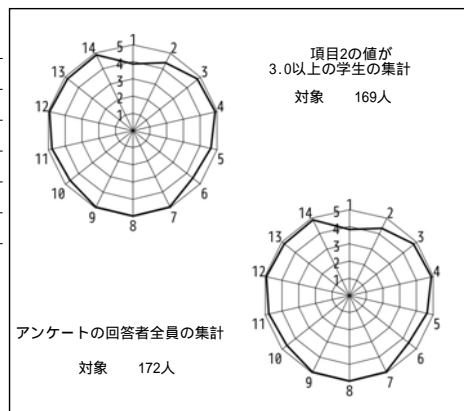
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

アンケート結果としては、項目1～14が4.58、項目3～14が4.60ということで、概ね学生のニーズに合致した授業を展開することができた。項目を個別に見ると、項目5は4.25で比較的低めとなっているため、今後の改善を考えたい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など今後に向けては、上記の項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」であるが、到達目標に関しては初回で提示するだけに留まらず、アンケート実施前にも再度提示するなどして、授業目標の理解の徹底に努めたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史の諸相1  
授業コード 13B06-001  
教員名 宮原 佳昭  
教員コード 102232  
登録人数 201  
回答数 172  
回答率 85.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

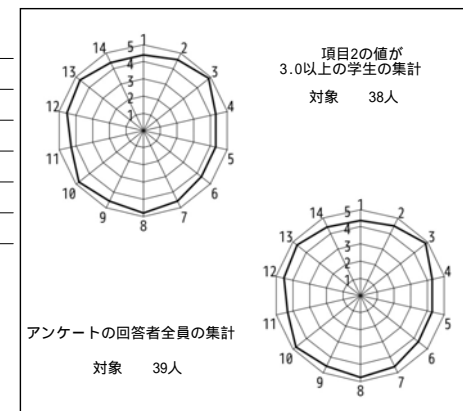
本授業の到達目標は次の3点である。 儒教の教義、およびその変遷を理解している。 東アジアにおける儒教の社会的位置づけ、およびその変遷を理解している。 儒教の世界観、儒教の歴史的意義および現代的意義について、各人がイメージを形成している。

上記の目標を達成するために授業中の指導で工夫したことは、次の3点である。 初回ガイダンスで、期末レポート課題と、毎回の授業で学ぶべきポイントをあらかじめ提示することで、普段から儒教について考えさせるようにした。 2限の後半に自習時間を設け、学生がその場で授業内容を復習できるようにした。 WebClassで質問用チャットを設け、疑問・質問をいつでも書き込めるようにし、毎回の授業中でそれらに回答した。これらは学生の自由記述欄を見る限りは好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

反省点は、登録者数が約200人で、毎回の出席者数が約180人であったことに由来する。一つは、M2教室が毎回ほぼ満席に近くなり、学生が窮屈な思いをしたことである。これについては、2週目の時点で教務課に教室変更を打診したが、空き教室がないとの回答であり、やむを得ないことであった。もう一つは、私語への対応が後手に回ったことである。教卓にいると私語は感じられなかったものの、質問用チャットに「後ろの座席の私語が邪魔であるため、注意してほしい」としばしば書きこまれ、そこから注意するという対応となってしまった。今後、大教室での私語に対する注意をこまめにおこないたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語1読解1  
授業コード 35A09-001  
教員名 江口 伸吾  
教員コード 104423  
登録人数 54  
回答数 39  
回答率 72.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

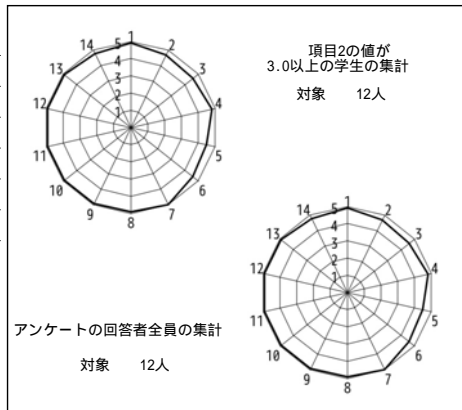
(1) 本授業は、中国語の読解のテキストに基づき、さまざまな形式の文章を精読して、正確な読解力の養成、中国に関する知識の修得を図りながら、中国語検定2級～3級程度に対応できる読解力を身につける、1500語程度の単語を使いこなすことができることを目標に掲げた。また、本授業は、とくに学習進度の早い学生を対象としている。本授業を通して、開講当初の目標は、おおむね達成できたのではないかと判断している。

(2) 数値データ、および自由記述をみる限り、本授業での受講生の理解度はおおむね良好であった。とくに授業では、テキストを用いて、音読、読解、文法の確認を行うとともに、中国社会のさまざまな変化や特徴に触れることにより、読解力と知識の修得に尽力した。また、学習進度の早い学生向けに比較的短い中国語の記事を補助教材として配布し、さらなる向上を促した。この結果、授業の良い点として「中国語の文章の読解力が以前よりも良くなった」「補足説明や補助教材(動画を含む)を入れたので飽きずに取り組めた」といった意見が寄せられた。

(3) 改善した方が良かった点として「もう少し基本的な文法や新しい単語の説明が欲しかった」「追加教材が難しく、他の授業に支障が出た」といった意見も寄せられた。今後、参加学生の学習の進度をみながら、より容易な追加資料の配布も考慮に入れることにより、進め方を工夫してまいりたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語I会話1
授業コード	35A11-001
教員名	張 玉玲
教員コード	101049
登録人数	18
回答数	12
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

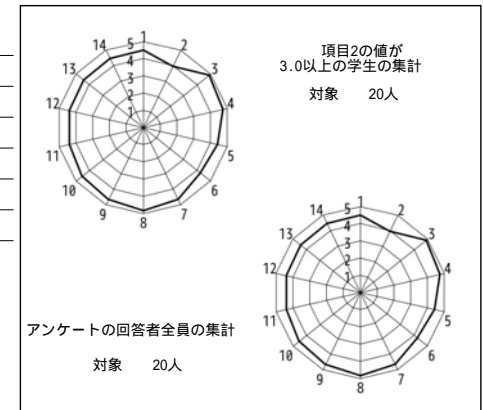


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初の目標と到達度は、中国語検定の3級から2級、HSKの中等レベルの語彙量を身につけることと、中国語検定の3級から2級、HSKの中等レベルのさまざまな言い換え表現ができるようになることである。これに従い、授業中は基本文型に基づき、様々な単語を入れ替えて文章作りやペアでの会話練習、みんなの前での発表など、繰り返して実践するような授業デザインを行ってきた。
2. 今回のアンケート結果を見る限り、学生の満足度が比較的に高いことが窺える。新しく身につけた語彙や文型を実践的に運用すること、自分で考えてきた会話文をみんなの前で発表することができるようになったと、学生が大きな達成感を得たことは、自由記述からもうかがうことができた。もともと当該クラスは、モチベーションが高い学生がほとんどで、新しい知識・情報の吸収が早く、自ら積極的に取り組む姿勢も重要な要素として考慮すべきであろうが、授業運営と受講生のレベルに合っていることが確認できたように思われる。
3. 今回のアンケート結果を踏まえ、今後より効率的な指導法を模索していきたいと考えている。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	インドネシアの現代事情
授業コード	35B06-001
教員名	間瀬 朋子
教員コード	103607
登録人数	31
回答数	20
回答率	64.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

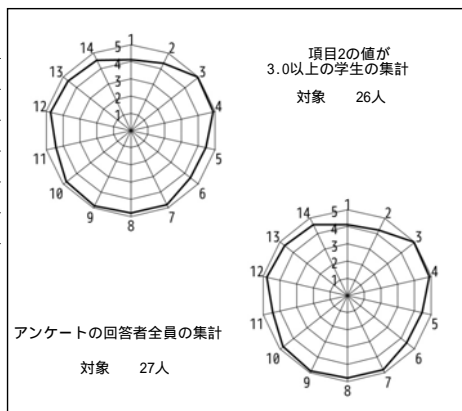


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- について：開講当初に設定していた目標は、a)多面的かつ実態的なインドネシアへの理解、b)現代インドネシアが経験中の変動への理解、c)インドネシアと他国・他地域とのつながりへの理解の3点であった。授業で扱った理論や事例のなかには難解なものも含まれていたはずだが、アンケート項目番号の4、5、9に表れるとおり、受講生の大半は難解さを乗り越えて目標を達成できた。（自由記述のコメントにみられるように）現地の生活感や経済成長期真っ只中にあるインドネシアの躍動感も実感してもらえたならば、期待通りであり、教員として喜ばしい。
- について：真剣に講義を聞き、教員からの問いかけにも積極的に応じる受講生が多く、毎回それほど中弛みなく100分×2コマの授業を進められた。映像の視聴やグループ討論は、受講生の関心を引いたり、理解を促したりするのに一定の効果があった、と考えられる。アンケート項目番号の12をみると、もう少し質問や相談の時間を設けてもよかった、という反省もある。
- について：次回に向けては、グループ討論の実施形式を見直す所存である。受講生により主体的に討論に参加してもらえるよう、テーマの設定や時間配分にいっそう配慮したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語学研究  
授業コード 35C12-001  
教員名 鈴木 史己  
教員コード 103651  
登録人数 72  
回答数 27  
回答率 37.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本科目の目標は、現代中国語の文字・音韻・語彙・文法・方言に関する基礎知識を身につけ、あわせて中国語の古代から現代に至る歴史的な変化や日本人・日本語との関わりについて初歩的な知識を身につけることである。毎回の授業中に練習問題を設けるとともに、講義で扱った中国語の分析方法を使用したグループワーク・発表会を行ったことで、ある程度実践的な知識を紹介できたと考えている。

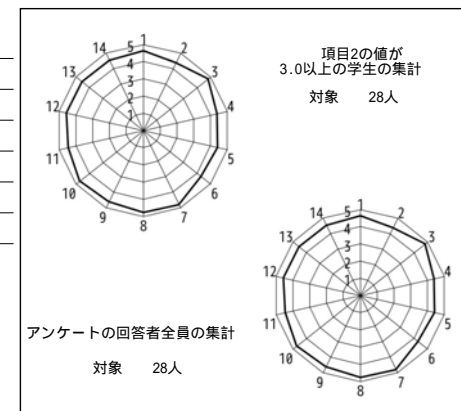
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

中国語を深く学ぶうえで必要な視点を提供しているつもりだが、設問1の評価から、少なくとも受講前は関心が高くない分野であることがうかがえる。数値データの全体的な評価は低くはないものの、受講生の興味を引き付けられるよう、一層の工夫が必要と考える。自由記述によると、普段の授業にあまり参加せずにグループワークに臨んだ受講生がいたことは遺憾ではあるが、受講生同士で教えあうことで知識を共有する効果は得られたものと考えられる。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。練習問題やグループワークは、授業の内容がより理解してもらえるように整理していきたい。また、上述のとおり、受講生の興味を引き付けられるよう、来年度に向けて授業内容と資料を見直していきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本史B2  
授業コード 12B04-002  
教員名 林 順子  
教員コード 101007  
登録人数 53  
回答数 28  
回答率 52.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

試験結果や講義中に寄せられたコメントをみると、少なくとも熱心に受講していた学生については、開講当初に設定していた目標は、ほぼ到達していると感じる。履修者の間で、高校までで習得している日本史の基礎的な知識量に差があるが、自分の周辺の問題に引きつけながら日本史を学ぶ体験をしてもらえたと思う。

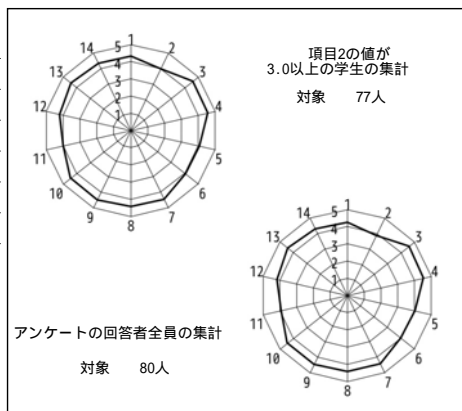
今回の数値を同じ開講主体の平均と比べると、概ね上回っていたが、設問4授業構成と進行速度については、平均を下回っていた。これについては、自由記述欄のコメントでも指摘があった。單元ごとに話すべき内容のボリュームが異なってくるので、毎回どうしてもこうした現象が発生するが、時間配分の工夫によってある程度改善は可能であるため、次回は気をつけたい。

このほか、PPTを表示するスクリーンが見えづらいことがあるとの指摘もあった。筆記ができる明るさを意識したが、天候の関係で室内の様子も変わるので、気をつけたい。

また、毎回、教員が学生の出欠とその日の講義の内容の理解度を把握する目的で、成績評価対象外の小テストを課しているが、今回の授業評価で初めて、これをある程度成績評価対象に加えて欲しいとの要望があった。これまでも熱心な学生たちからこうした空気を感じることはあったので、少し考えてみたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学B1  
授業コード 12C07-001  
教員名 阪本 俊生  
教員コード 017020  
登録人数 94  
回答数 80  
回答率 85.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

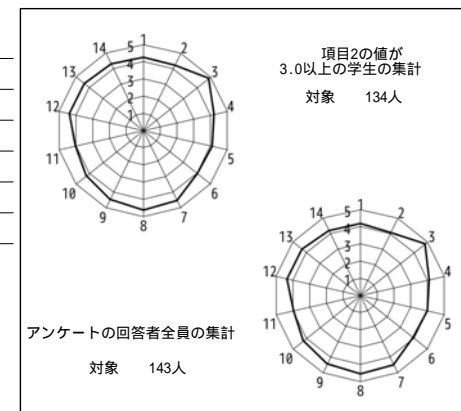
1-14の平均が4.28、3-14の平均が4.31と、まずまずの結果であった。4.5以上と評価が高かったのは、開始と終了時間、構成や進行速度についてであった。また4.4以上でわりと高かったのは、授業への取り組みへの誠実さ真剣さ、教員の声や音声機器、学生の理解度への配慮や教材の使い方、私語等への適切な対処、新しい知識や理解の深まりについてであった。

一方、4未満で低かったのは、予習や復習など主体的な授業参加促進、到達目標に向けて力がついたかどうか、学習意欲の引き出し等についてであった。これらは以前からの課題であり、今回は学生にミニレポートを課したり、関心を引きそうな具体例を挙げるなど、改善してきたつもりであったが、なかなか難しさを感じる。

ただ、自由回答では、「日常でも体験するようなことが授業で扱われており、面白かった」。「資料やデータがたくさん用いられていて、難しいと覚える内容もありましたが、とても理解に役立ちました」、「ミニレポートがあることで自分が本当に理解しているのかわかった」、「講義資料がとても分かりやすかった」、「普通の授業じゃ聞けないような内容が多かった」といった評価があり、改善が一定の成果を上げていることがわかりうれしかった。引き続き、さらなる改善に努めたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学A2  
授業コード 12C08-002  
教員名 賣多 康弘  
教員コード 100751  
登録人数 195  
回答数 143  
回答率 73.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

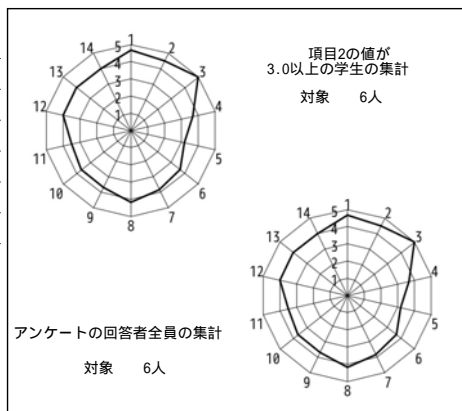


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度に引き続き担当した講義で、今回で7回目の担当となる。評判のよい『ミクロ経済学をつかむ』（有斐閣）を参照してもらい、講義を行った。対面での講義が定着したので、授業内容を一新した。パンデミックが落ち着いたことから、経済活動が平常化し、講義で扱える経済に関する時事問題を多く取り上げることができた。その結果、自由記述の欄に、興味がわいた、分かりやすいといった高い評価のコメントが多数あった。講義で紹介した時事問題などの資料は、講義資料にアップロードすることで、後からでもゆっくり確認できるようにした。また、オンライン講義で当たり前と思うようになったのか、公欠扱いにならない理由で講義を欠席した場合に、そのときの講義の板書を資料としてほしいという要望があった。対面講義はライブで、原則、板書は残らないという当り前のことを理解していない学生が多いようである。そこで、最終回に近い講義については、欠席するかもしれない学生の便宜を図るために、板書を電子ペンで行い、電子ファイルで講義資料としてアップロードするようにした。開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。理解度の確認のためのレポートを課して提出を求めた。提出後、授業中に解説を行った。全体的に非常に高い評価を得たので、今回の授業を引き続き次に生かしていきたい。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学A6<国際科目群>  
授業コード 12C08-901  
教員名 岸 智子  
教員コード 100346  
登録人数 6  
回答数 6  
回答率 100.0%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回

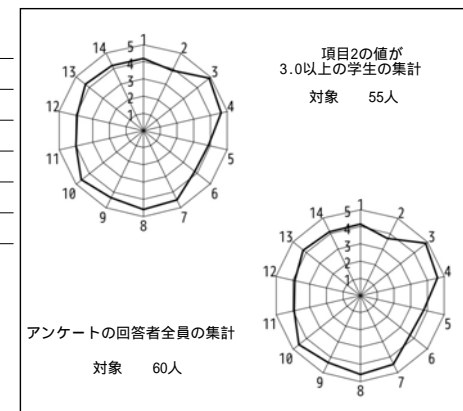


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目の受講者には、すでに経済学部の基礎を学んだ経済学部生と、経済学を初めて学ぶ他学部生がいるが、どちらかというと後者が多い。経済学は、ある程度の数学の心得を必要とする。他学部生のためにわかりやすい説明を心がけているが、なかなか難しい。授業の目標設定に関するスコアが低く、これは来年以降の課題であると考えている。～が理解できる、というような具体的な目標が必要かと思う。授業の進度に関するスコアも低く、少し進め方が速かったと反省している。自由記述欄には、グループディスカッションに関する肯定的な意見が見られたので、良かったと思っている。グループディスカッションは来年度以降も続けたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B2  
授業コード 12C09-002  
教員名 都築 栄司  
教員コード 103265  
登録人数 89  
回答数 60  
回答率 67.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
マクロ経済学の統計指標の読み方と、IS-LMモデルを用いた財政・金融政策の効果について解説した。  
経済学の初学者が含まれる入門科目なので、分かりやすさを重視し、図表を多用するなどしてスライドを作成・解説した。  
目標はマクロ経済学の基本的な考え方を理解してもらうことであったが、それは概ね達成されたように思われる。

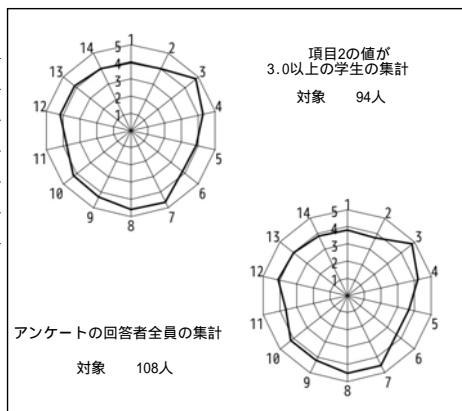
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
講義資料を毎回、事前にWebClassにアップロードし、各自が理解の程度や速さに合わせて学習できるよう配慮した。  
また、ほぼ毎回、理解度の確認のための練習問題に取り組んでもらった。  
講義資料の構成は好評ようである。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
練習問題を解いたり解説したりする時間をあまり設けることができなかった。  
また、各自で能動的に作業をする時間もなかった。  
後者は講義形式の授業なので仕方ないことだが、問題を解く時間などは作れるよう工夫したい。  
板書を丁寧にするのを心掛ける。



2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相11
授業コード	13C06-011
教員名	丸山 雅章
教員コード	104492
登録人数	145
回答数	108
回答率	74.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

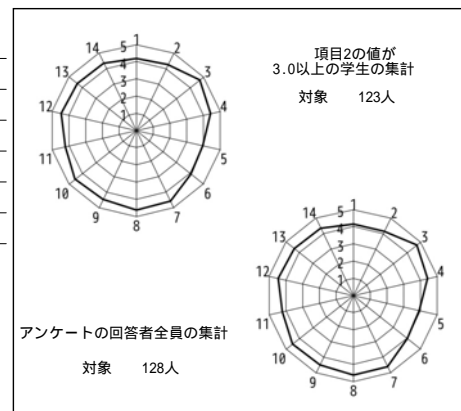
開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
 開講当初の目標（日本経済に関する主要なデータを理解できるようになる。日本経済の全体像を把握するために必要な基礎知識を習得している。）の正確な到達度はわからないが、項目 6、13の回答の平均値、定期試験の成績から見ると、少なくとも7割以上の受講生において達成されているのではないかと推測される。

数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
 昨年度の授業評価で「内容が少し難しく量も多めと感じた」等の回答があったので、1回の授業で説明する分量を減らす、一枚のスライドに記す文字を減らす、関連するニュースや新聞記事を時々紹介する等の工夫を行った。  
 今回の自由記述を見ると、「スライドが見やすくわかりやすい」、「説明が丁寧」等が評価されている一方で、「一方的に話しているだけ、学生に対する問いかけがあるとよい」、「重要な点がわかりにくい」、「廊下がうるさい、暑い」等の指摘があったので、さらに改善を行う余地はあると考えている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 今後の授業では、内容や分量、スピードをさらに見直すとともに、重要なポイントは強調するなどして、よりわかりやすくメリハリのきいた説明をするところをけたい。また、授業に関するニュースや新聞記事の紹介を増やす、受講生に対して問いかけを行うなどして、授業への関心・学習意欲を高める工夫を行うほか、周囲の騒音や室温等にも気を配るようにしていきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マクロ経済学1
授業コード	40B02-001
教員名	相浦 洋志
教員コード	103642
登録人数	153
回答数	128
回答率	83.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

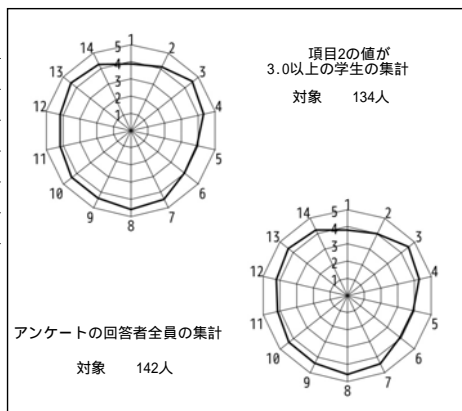


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の対象科目は学部1年生向けの必須科目で「マクロ経済学」の基礎的な知識を教授する授業である。期末試験の結果をみる限り、受講生の大半はその内容を十分に理解できており、この科目の目標に十分に到達できていると考えられる。本科目では、コロナ禍で作成したオンライン教材を生かし、事前課題としてオンライン教材を視聴させ、授業ではその補足説明と演習問題に取り組みませるという反転授業の形式で行った。このやり方に対する生徒の評価は概ね良好でアンケート項目11番以降における評価点はすべて学部平均・科目登録者数別集計よりも上回った。自由記載欄においても、「動画や資料での予習だけでなく、授業中の演習問題、解説がもうけられていて、授業の内容として、充実していると感じました。」という回答があった。その一方で、「課題が多く、授業時間外で自習時間をとることが難しいので内容を授業時間外の動画視聴で教えることをせず、授業時間内に教えて欲しい。」「予習動画を見忘れると、授業の内容とテストが全くわからなくなる点。」という声もあり、事前学習の分量に気を配る必要性も感じた。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マクロ経済学2
授業コード	40B02-002
教員名	前林 紀孝
教員コード	104801
登録人数	157
回答数	142
回答率	90.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

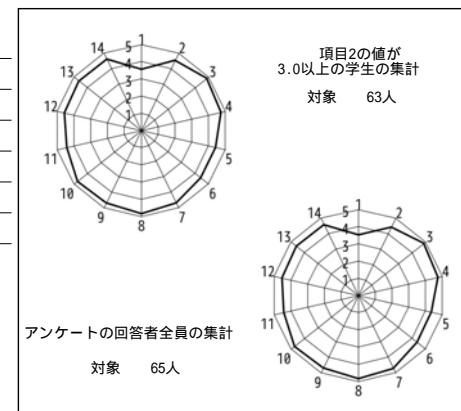
全体的な学生さんの習熟度は高かったものの、到達目標の提示やその達成についての自覚が十分ではなかったため、授業内で適宜アナウンスをするなどして目標に向かって努力できるような仕組みを考えるようにしたい。具体的には、シラバスをはじめの授業で提示するなどの取り組みを考えている。また、授業の途中でも適宜、到達目標のどのあたりまで進んでいて、どこまでの説明が終わったのかもアナウンスするようにしたい。

着任初めての授業でもあり、また、必修科目で教える内容が決まっているため、それを終わらせる気持ちが競ってしまい、前半の説明の速度が若干早く、後半に少し時間の余裕ができたので、次回からはペースの平準化に心がけたい。

講義資料にタイプミスがいくつかあり、授業中に修正のアナウンスと授業後に講義資料の差し替えを行ったが、学生さんには迷惑をかけてしまった。気づいたものはすべて修正したので今後はこのような不便はなくなると思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学のための数学1
授業コード	40B04-001
教員名	西森 晃
教員コード	100624
登録人数	79
回答数	65
回答率	82.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

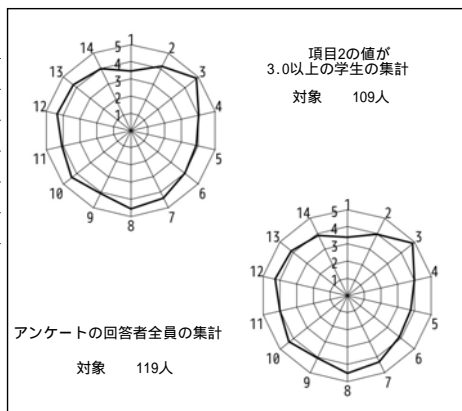
開講当初の目標は概ね達成できた。期末試験の平均点はこちらの想定よりも高く、受講生の皆さんがしっかりと受講し、練習問題などに取り組んでくれた様子がかがえる。必修科目なので、必ずしも積極的に受講している学生ばかりではなかったと思うが、それでも真剣に取り組んでくれた受講生には感謝したい。

アンケートの結果を見ると、全体の平均点が4.53、設問14（授業への満足度）の点数が4.58と、必修科目にしてはそれなりに高い評価をしてもらえたようである。自由記述欄でも好意的な意見が多く、特に「わかりやすかった」「私語厳禁がありがたい」というコメントが多かった。また授業の途中で息抜きのためにちょっとした雑学を紹介するコーナーを作ったのだが、これに対しても評価する意見が見られたので、今後も継続していこうと思っている。

今回の誤算として、学生がノートを取ったり練習問題を解いたりするスピードが今までより遅かったということがある。そのため、こちらの思うペースで講義が進められず、練習問題の解説に時間を取ることができなかった。時間配分については、第2クォーター以降の課題としたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学のための数学2  
授業コード 40B04-002  
教員名 井上 知子  
教員コード 019166  
登録人数 132  
回答数 119  
回答率 90.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

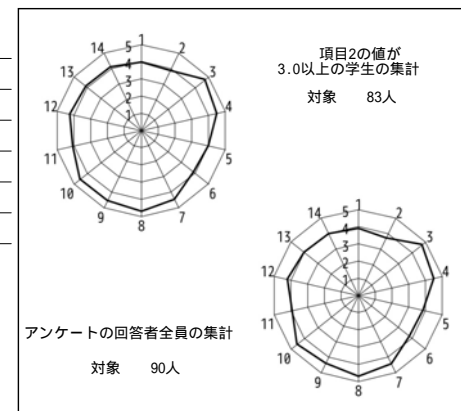


授業評価結果を踏まえた点検・評価

必修の「数学」が授業評価の対象科目になったのは7年ぶりであり、専門科目の授業が対象であった最近の授業評価と比較すると各設問の数字が総じて低いと感じた。項目1,2,5,6,14の5つが3点台であり、必修であるのである程度は仕方がないが、履修前にこの科目に興味があったかを尋ねる項目1に至っては3.39と低かった。他方、1年生が中心であるからなのか、自由記述欄を見ると、半数の学生が入力していた。難しい、授業の進め方が早いという改善すべき点のみの回答は3名だけで、その他は「わかりやすかったけれど、もう少しゆっくりがよい」など、ポジティブな内容も合わせて記入していた。必修の数学であるので、難しい、早いといった意見が大半であろうと予想していたが、評価できる点の方がはるかに多く書き込まれており、その意味では安心した。「モニターと板書をうまく使い分けて授業をしたこと」、「問題を解く際にデスクッションの時間を設けたこと」、「板書を消す前にカメラ撮影の時間を設けたこと」、「教員に質問がしやすかったこと」を評価する意見が複数あった。また、改善すべき点として「モニターが見づらい」という指摘が最も多く11件あった。確かにR49のモニターはあまり鮮明には資料が映らず、それに加えて、私の書いた文字が小さかったことと、画面下に書き込むと前の人の頭で文字が隠れてしまっていて見えないということが起きていたようである。べき乗や対数の底など下付きや上付き文字を書く際は文字サイズに特に気を付けようと思う。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋経済史入門  
授業コード 40D02-001  
教員名 梅垣 宏嗣  
教員コード 102397  
登録人数 157  
回答数 90  
回答率 57.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



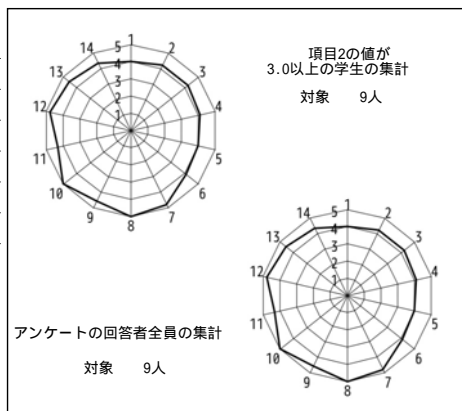
授業評価結果を踏まえた点検・評価

経済史の基本的な流れ（資本主義社会の形成と成熟化のプロセス）と重要なトピックについて、適切に説明・論述できるようになることを到達目標に設定した。だが、定期試験の結果からすると、必ずしも多くの学生がこの目標に到達しているとは言えない。そして、その原因のひとつは、授業の中で毎回行っていた確認テストにあるものと考えられる。確認テストは、授業内容の一部について理解度を問う簡単な問題を出し、授業内で解説するというものだが、確認テストさえ丸暗記しておけば試験対策になると考えた学生が多かったようで、定期試験では、あくまで確認テストの内容を中心に、授業内容の範囲内しか出題していないにも関わらず、成績は期待した水準を下回った。授業内で、再三、確認テストだけではなく、授業内容全体を理解するよう求めてはいたが、学生に十分に意図を伝えることができなかった。

アンケートの数値データ等については、本報告書内で特に問題として採り上げるべきことはない。しかし、上記の反省点を踏まえ、今後は、授業内容全体を理解することの重要性を明確に意識してもらえよう、授業の進め方を工夫したい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ゲーム理論B  
授業コード 40D08-001  
教員名 赤星 立  
教員コード 103866  
登録人数 17  
回答数 9  
回答率 52.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義で学生に課していた目標は次の4点である。(1) 交渉問題や破産問題とはどのようなものであるか、それぞれの問題における資源配分は何かについて説明できる(2) 数値例が与えられたとき、紹介される解やルールに基づいて具体的な配分を求めることができる(3) 紹介される解やルールの望ましさを表すための諸性質がそれぞれ何を言わんとしているのかが理解できる(4) 紹介される解やルールの特徴付け定理の証明ができる

授業は、上記の目標達成することを目的に遂行された。試験結果を見る限り、学生は一定水準の理解に達することができたと言える。したがって目標は十分に達成されたといえる。

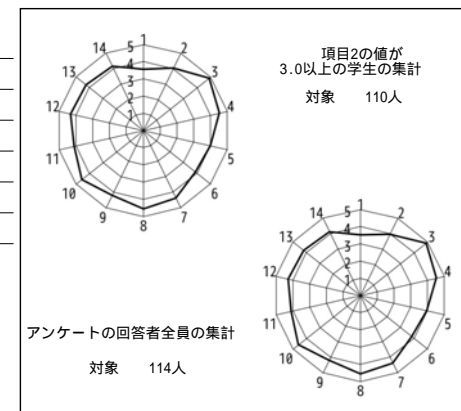
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

履修登録者数17名のうち9名の学生が回答してくれているが、毎回の講義出席者は10名以下であったこと及び期末試験受験者が9名であったことに鑑みると、実際を受講者全員が回答してくれたことになる。評価については満足している。どの項目についても高い評価がなされている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
今後も学生が経済学に興味を持ってくれるように改善していきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジア経済論A  
授業コード 40D54-001  
教員名 林 尚志  
教員コード 017897  
登録人数 240  
回答数 114  
回答率 47.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

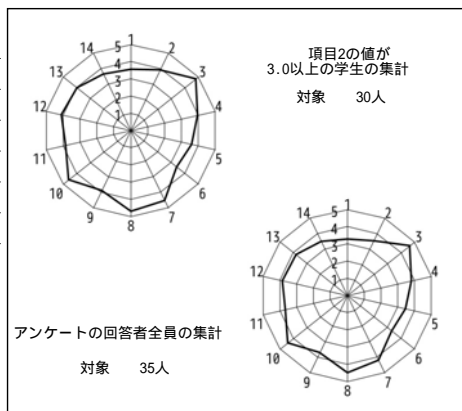
この授業では、「近年、東アジアにおいて(日本を先頭とする)“雁行型”の発展パターンが、なぜ&どのように変容しつつあるのか」という疑問に注目しながら、「今後のアジアとの分業関係のあり方」について理解や関心を深めることを目標とした。また、「さぐるべき一連の疑問」を列挙した“教材プリント”および“関連資料”を事前に配布した上で、授業では“板書レジメ”を作成しながら、これら疑問に対する解答を探った。

この目標の到達度については、「アジア経済の成り立ちを知ることができた」、「自分で資料に書き入れることで、より理解が深まった」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問(9)と関連し、「説明がていねいでわかりやすかった」、「聞きやすい速さで、板書も取りやすかった」等のコメントがある一方、「板書する時間をもう少しほしかった」、「板書の字がみえづらかった」等のコメントもみられたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、レジメ内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問(11)と関連し、「グラフや賞を確認することで、理解が深まった」というコメントがみられたが、「関連文献や資料等の紹介」でも工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学史A  
 授業コード 40D66-001  
 教員名 荒井 智行  
 教員コード 104493  
 登録人数 60  
 回答数 35  
 回答率 58.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

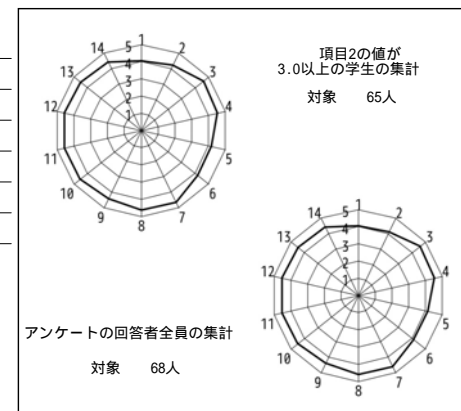


授業評価結果を踏まえた点検・評価

については概ね達成できたが、さらに易しくする必要性もあると考えた。昨年度よりも内容を難しくしたが、配布資料などについても見直したい。については、受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習用の配布資料を多用するなど、今後さらなる改善が必要である。については、この科目は、昨年度と同じ科目で授業アンケートを行ったものである。昨年度は、全体平均が4.15だったが、今年度はそれよりも下回ると思われる。すべての質問項目において昨年度よりも評価が高かったのは3つで、そのほかは昨年度よりも下回ってしまった。授業準備について昨年度よりも多大な時間を使ったが、内容が難しかったと分析している。については、アンケート項目にある質問や相談の機会を確保できるよう努めたい。受講生は、私語もひとつもなく、熱心に受講していた。予習、復習のための時間やアンケート項目の内容に見合うための授業の工夫を行うことも検討したい。DLサーバーに、著作権の範囲内で、教科書などの資料をどれくらい明示すべきかなど、今後の課題としたい。他の先生方にも、授業の仕方についてお尋ねしながら、いっそうの授業準備に努めたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法と経済学  
 授業コード 42E08-001  
 教員名 小林 佳世子  
 教員コード 100487  
 登録人数 135  
 回答数 68  
 回答率 50.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、経済、経営、法学部の三学部にもたががる専門科目という、少し珍しい性質の科目となっています。まずは、全般に高い評価となったことを素直に嬉しく思っています。

「法と経済学」では、経済学の分析道具を使って、「法律」という社会のルールを分析します。経済学の分析道具は数学やグラフを使うことが多く、なじみのない人にとってはその部分だけでも一苦労です。そこをどうくぐりぬけて、経済学を使うことで、いったいどういうことができるようになるのか、どんな議論をしているのかといった、学問の本質をどうやって分かるようになるのかという点は、かなり試行錯誤をして工夫をしたつもりです。

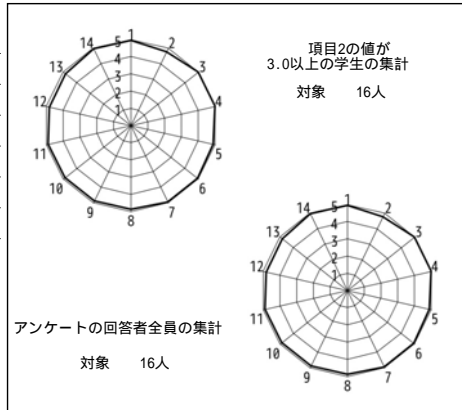
それが功を奏してか、自由記述では、「この授業は非常に面白く、興味深い内容ばかりだった」「内容もよいけれど、分かりやすく、授業の進め方も本当に良かった」「この授業を取って良かった」「学んだことを今後の法律の学習にも活かしていきたい」「この授業は必修科目にすべきと思えた」など、好意的なコメントを多数もらいました。

毎回の丁寧な板書と復習を、評価をする人も多くいました。一方で、レジュメが欲しいという声も複数もらいました。「自分の手で板書を写す」ことの効果を狙ってはいることもあり、この点はどうするのか、今後の課題です。

また、大教室での大人数講義でしたが、ほとんど毎回、学生さんの意見を求めました。すると、ほとんど毎回、手を挙げて意見を発表してくれました。そのおかげで、授業も活気が出たと思っています。学生さんには感謝しています。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語Iオーラル・コミュニケーション1  
 授業コード 42G01-001  
 教員名 WOOD, Joseph  
 教員コード 103072  
 登録人数 20  
 回答数 16  
 回答率 80.0%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

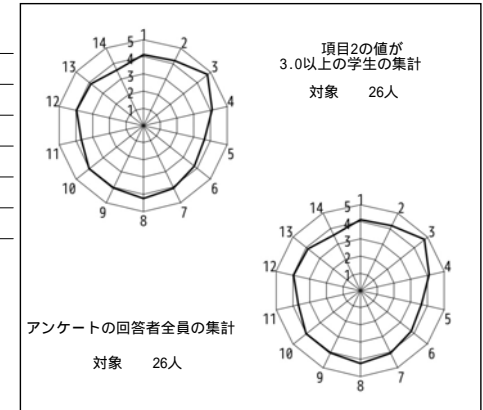


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am happy to learn that students liked the course and found it useful. I am also glad to know that students enjoyed participating in COIL and want to do more of it. Students also reported that they liked that they got many opportunities to use English in class. This is one of the main goals for class, to have students speak and use English as much as possible. I will continue to find ways to make more time for speaking and using the language in class. Also, students reported that they enjoyed the final presentations in class. I will continue to improve the presentation format and give students a chance to learn both presentation skills as well as research skills in English. We had no problems over quarter one and everything went well.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学A  
 授業コード 12E01-001  
 教員名 宮元 忠敏  
 教員コード 017293  
 登録人数 89  
 回答数 26  
 回答率 29.2%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

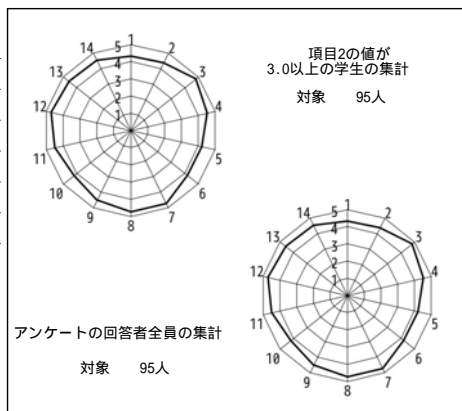


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 素数、既約ピタゴラス数、フェルマーの大定理の4次の場合、円周上の有理点、モデル曲線上の有理点の加法、ユークリッド、拡張ユークリッド、 $3N+1$ 問題、斜辺定理等について触れる。予定範囲はカバーされた。  
 (2) 評価の高い項目：授業の開始と終了時間を守る(4.77)。声がよく聞き取れた(4.27)。評価の低い項目：全体として満足できない(3.58)。目標を理解できない(3.65)。講義資料の配布の在り方をよしとするコメント(4件)。授業展開をよしとするコメント(6件)。授業の構成あるいは展開をよしとはしないとするコメント(6件)。その他、講義ノートの見出しのつけ方をよしとはしないコメント(1件)。  
 この授業では、講義ノートを事前に講義資料置き場にUPしている。毎回の授業は、前回の復習から開始している。数値例や計算機によるデータをふんだんに使用している。授業の構成は、数学のコースとしては、系統性に問題があるが、スポット的に話題を取り上げている。多くの場合、これらの話題の1つでも、本格的に学ぶことはないであろうが、よく知りたいという学生のニーズは、確実に存在することがよくわかる。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学A3  
授業コード 12E03-003  
教員名 中尾 陽子  
教員コード 064188  
登録人数 188  
回答数 95  
回答率 50.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、心理学を知識として理解するだけでなく、日々の中で活用できるようにすることを目標にしました。また、階段教室で行われる比較的大人数の授業ですが、一方的に教員の話をお聴きだけではなく、グループワークやわかちあいにより、受講生同士の関わりを通して学び合うことにも取り組みました。自由記述には、これらの取り組みが非常に有効であったとの感想が多く記述されていました。他者の多様な考えに触れたこと、自分の考えの幅が広がることに驚きや喜びを感じられた様で、今後も続けていきたいと考えています。

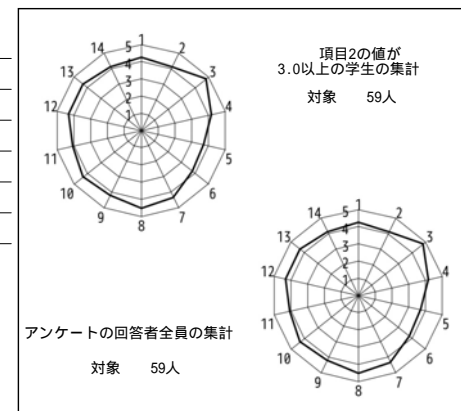
一方で、このような主体性が求められる活動を組みこむと、どうしても真剣に取り組んでいない方によるマイナスの影響が生じていたようです。学びや他者への関心が高い学生のみなさんがいてくださるからこのような授業を実現することができること、また、そのような取り組みが必ずそれぞれの成長につながることを繰り返し伝えながら、積極的な参加を促していきたいと考えます。

また今回も、評価の数値において、到達目標に関する項目の値が低くなっていました。シラバスだけでなく、授業ガイダンスで明示し、毎回の授業でも細かな到達目標を提示し、授業終了時には到達目標をふりかえりながら学習ジャーナルを記述していただいているのですが、それでも理解が難しい様子に、毎回非常に悩みます。学習ジャーナルの記述を読むだけでは捉えきれないということになりますので、まずは、随時個人的に声がけをしながら状況の把握に努めてみたいと思います。

今後も意味ある授業を実現していくために、受講生のみなさまのご協力をお願いいたします。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相5  
授業コード 13C06-005  
教員名 野口 晃弘  
教員コード 104773  
登録人数 86  
回答数 59  
回答率 68.6%  
休講回数 3 回  
補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

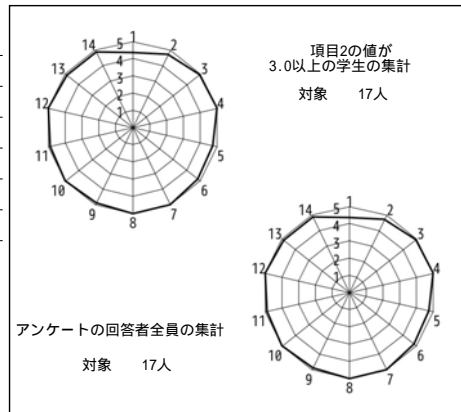
初歩的な簿記を理解するという目標については、Webclassでの小テストの結果と学生による自由記述回答の内容が整合しており、一定の成果が得られたことについて確認できたものの、期末定期試験における解答の内容を見ると、それ以外の目標の達成に関しては課題が残された。

極端に悪い評価ではなかったものの、土曜日の補講が多くなってしまった点、特に初歩的な簿記以外の講義内容が学生の理解の速度に十分に合わせることができなかった点など、課題として残された。また、Webclassの使用方法に教員が慣れていなかったことに伴う問題の指摘もあった。

期末定期試験の内容については、段階を踏みながら記述できるように、大きな問題を5段階ぐらいに区切って、ステップを踏みながら解答を誘導するような出題に改善する。講義で取り上げた内容が多すぎたと考えられるため、内容を厳選した上で、より丁寧に説明を加えることにより、学生の理解を促す。なお、Webclassの活用については、経験を積みながら改善を図るようにする。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相12  
授業コード 13C06-012  
教員名 上野 正樹  
教員コード 101365  
登録人数 38  
回答数 17  
回答率 44.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

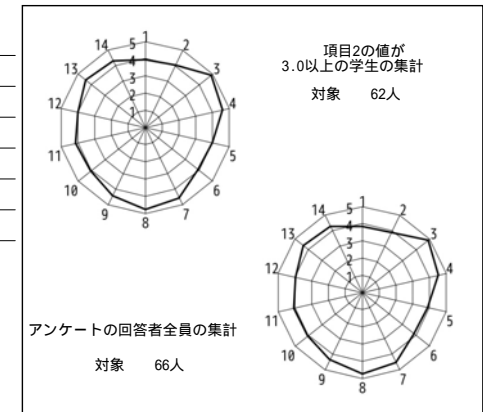
項目1～14の平均は4.87、項目3～14の平均は4.92であった。また項目13（知識の獲得と理解の深化）の平均は4.88であった。以上をもとにすると、回答の受講生の大部分が、開講当初に設定していた目標に到達したと考えることができる。

テキストの難易度は高かったものの、以下の自由記述によると、意欲的に授業に参加してもらっていたことがわかった。「プレゼンなどがあり楽しみながら学べた」「商品を新しく考える授業もとても楽しかった」「積極的に思ったことを発言できる雰囲気での授業で、どんなことを自由に言っても受け止めてくださる先生だったので凄く楽しかった」「生徒一人ひとりが主体的となって取り組める授業になっていた」「発言が多いに評価されるため、授業に意欲的に取り組み、参加することができました。他の授業は聞くだけが多いので、楽しく受講することができました」「先生がグループの発表後に経済に関する話を語り出すことがよくあり、この学問が本当に好きだということがよく伝わってきてよかった」。

受講生38人で授業評価の回答数は17であった。低い回答率の背景に、最終授業日にWebclassを通じてのレポート提出を課していたので、出席率が下がったことがある。次回はレポート提出の方法を変えて、回答率を高めるようにしたい。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会システムと環境1  
授業コード 13D06-001  
教員名 薫 祥哲  
教員コード 018168  
登録人数 82  
回答数 66  
回答率 80.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

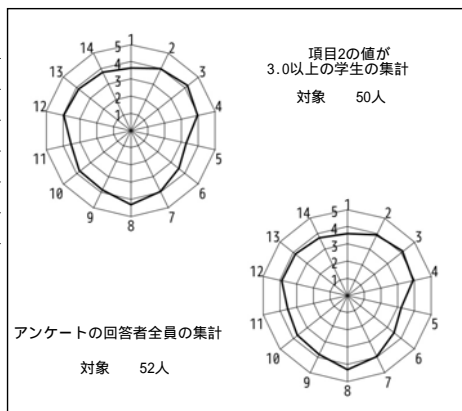
ゴミ問題やリサイクル法規制を中心に、社会システムが抱える問題点を環境経済学の視点から講義した。汚染問題やゼロエミッション、環境税、そしてグリーンGDPに至るまで、幅広いトピックスを扱った。また、関連する新聞記事等の資料を多数紹介し、身の回りで発生している社会現象として興味を持ってもらえるように努めた。講義レジュメ等資料をすべてサーバに上げておき、それらの内容に沿って授業を進め、廃棄物問題などが発生する裏には社会経済システムの的な原因があることの理解を目的としたが、この目的は概ね達成できた。

全体的な授業満足度を尋ねる設問14の平均値は4.27であり、満足できる結果であったと判断している。自由記述欄には、良かった点として「参考資料などがしっかり用意されており、理解しやすかった」、「レジュメが見やすく、教科書を噛み砕いて解説して下さった」、「声を通して聞き取りやすかった」といった記載があった。一方、改善点として「資料があちこちに散らばっているため、少しだけ扱いづらかった」との指摘があった。サーバに上げた資料には通し番号を付けていたが、多数の資料を用いたため扱いづらかったと思われる。今後、改善策を検討するが、サーバ上にファイル・フォルダを作って資料をまとめる事ができるようなシステム改善をお願いしたい。



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報を読む4
授業コード	13E07-004
教員名	松井 宗也
教員コード	102275
登録人数	170
回答数	52
回答率	30.6%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



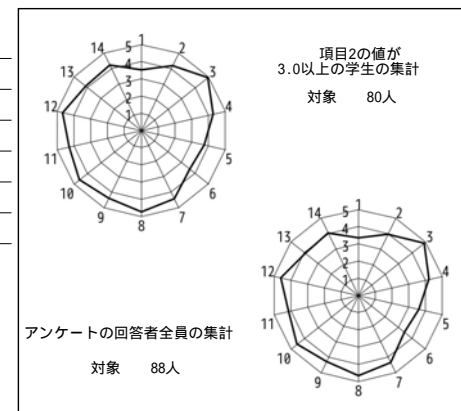
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度も共通教育科目「情報を読む4」で線形代数の授業を行った。線形代数を「ベクトル空間と線形写像の視点から捉える」という目的で講義を行った。これは一般的な線形代数の講義の仕方と異なり、高校で学んだベクトルから出発して、抵抗なく一般のベクトル空間と線形写像の概念に到達できるように配慮したものである。到達目標は「1. 線形代数(行列)の基本的な演算ができる. 2. ベクトル空間と線形写像の概念がよく分かる。」である。授業内容は大学1,2年次において標準的なもので、他の標準的な教科書と比較しても内容自体は変わらない。レポートの結果から判断すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難いが、授業目標の6割から7割程度は達成できたと感じている。未消化の内容は、それぞれの専門分野を学びつつその都度必要に応じて補ってあげれば良い。

以下では授業評価集計を踏まえ反省点を述べる。最初に履修人数が想定外に多くなったため、当初の予定と異なり、授業参加度を成績評価に加味できなかった点を反省したい。前年度のQ2で理科系の学生が参加することを想定し、その通りになったので(現にQ2の「情報を読む4」は15名程度理科系の学生が参加した)、本年度も同様の想定をした。しかし、実際に受講したのは文理を交えて160名ほどで、ほとんどの学生が授業の最終回まで参加していた。その結果、時間の都合上(授業は内容上時間的な制約を厳しめにしている)、出席を取ることができず、授業参加度は測れなかった。評価自体は、3点前半が1個で後は3点後半~4点台で概ね良好であった。受講した学生は積極的に提出されたレポートもしっかりしていて良かった。今後も機会があれば、理科系の学生を対象に「情報を読む」の授業を行いたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学I2
授業コード	42B01-002
教員名	竹澤 直哉
教員コード	101191
登録人数	148
回答数	88
回答率	59.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



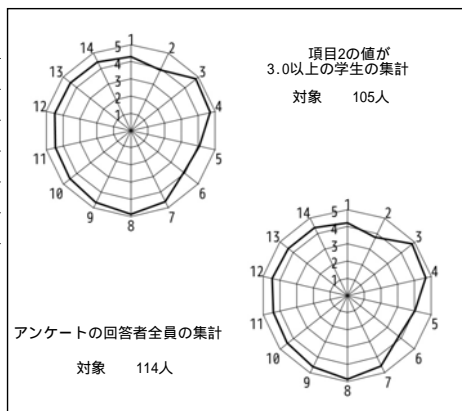
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の授業目標は、対面での学生との質疑応答時間を増やすことで、学修内容の定着を図ることとした。例年に比べ、数学II、数学Bの履修者比率が増加し、基礎知識の差が少なかったものの、問1の3.36という評価から問14の4.03に変化したことからわかるように、授業に対する興味は非常に低かったものの、その後改善したことがわかる。多くの時間を質疑応答に割くように努力した結果、設問7,9,10,12の中央値が5(11も46%が5評価)になったと評価する。これは自由記述欄の内容からも読み取ることができた。一方、理解は深まったものの、到達目標に十分達しなかったため5,6の評価が低かったことがわかる。しかし、今年は授業内容が簡単すぎるという自由記述欄がみられ、授業評価が「1」となっていたことを踏まえ、「わからない」学生への対応だけでは不十分なことがわかった。

以上の分析を踏まえると、今年の授業目標は概ね達成できたと評価する。今後は、この授業目標を再確認しながら授業中の演習や議論する機会を増やすなど、到達目標に向けて授業を理解したいという「自覚」や新たな「学び」を促す創意工夫を検討する。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学総論I1  
 授業コード 42C01-001  
 教員名 中島 裕喜  
 教員コード 103065  
 登録人数 146  
 回答数 114  
 回答率 78.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

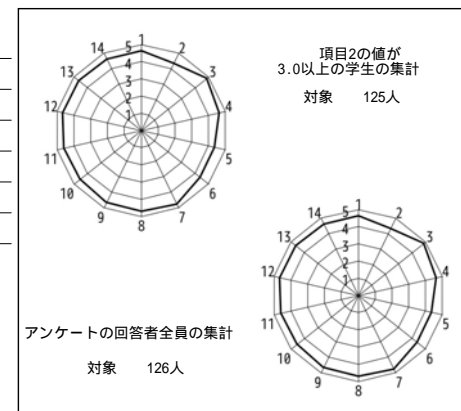


授業評価結果を踏まえた点検・評価

質問8「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」が4.89、質問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」が4.68、質問9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」4.62となっており、学生からは概ね高い評価を得ていると考えている。選択必修科目であるため150名を超える学生が履修しており、教室を巡回したり、後方に座っている学生が挙手をした場合には積極的にマイクを向けて発言させたことなどが功を奏したのではないかと考えている。相対的に低い評価となったのが、質問2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」3.75であるが、宿題などは基本的には出さなかったため、やや緊張感が緩んでしまっている点は否めない。期末テストの結果からも、やや理解できていない課題が散見された。この点は次クオーター以降に改善したいと考えている。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング論A1  
 授業コード 42C09-001  
 教員名 川北 真紀子  
 教員コード 102879  
 登録人数 246  
 回答数 126  
 回答率 51.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

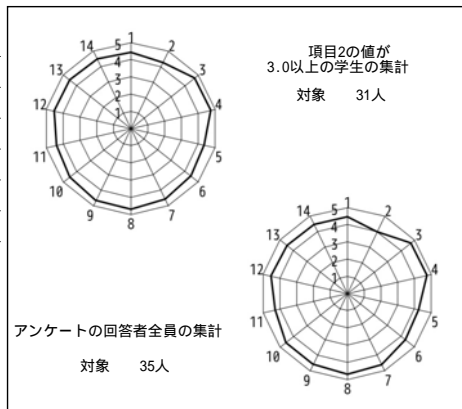


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標はマーケティングの基礎的な理論や考え方が理解できる。・事例とマーケティング理論の関連が理解できる、の2つであるが、自由記述を見ていると、事例との関連で理論を理解しているようである。全体評価が4.61と高く、一番低い点数のものは、目標との関連についての4.37である。全体を通して高い評価を得ていると考えている。自由記述では、「チャットを使って他の人の意見が聞けたことが今まで経験したことがなく、新鮮で理解が深まった」「パワーポイントが分かりやすくまとめてあった」「授業後に毎回小テストを行なっているため、自分の授業に対する理解が確認できた良かった」「質問タイムがあるため、授業に参加していると実感できる」などが見られ、特にチャットでの意見共有への評価が高いようである。「脱線しすぎる」という意見もあった。かなり改善の結果、定員250名いっぱいの授業であるにもかかわらず、参加型を実現できているということからも、良い授業となっていると思われる。これを続けたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング論A2  
 授業コード 42C09-002  
 教員名 湯本 祐司  
 教員コード 017533  
 登録人数 157  
 回答数 35  
 回答率 22.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

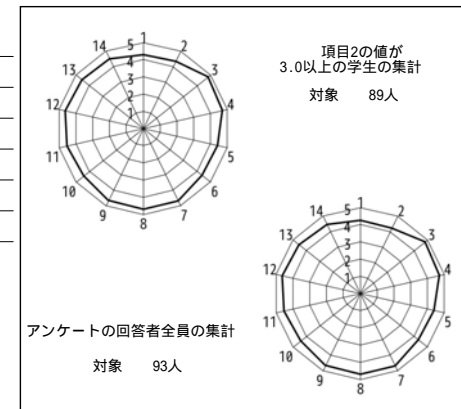


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はマーケティングの基礎的な理論や考え方および事例とマーケティング理論の関連が理解できることを到達目標としている。経営学部の選択必修科目（基本科目）であり、登録者157名の内訳は、経営学部93名、経済学部61名、法学部、総合政策学部、理工学部各1名である。学年別では2年生94名、3年生46名、4年生17名である。定期試験の解答を見る限り、およそ7割の学生は目標を達成しているといえる。学生の授業評価では履修登録者153名のうち35名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均はそれぞれ4.48と4.52である。4年ぶりの授業評価であり、2019年度と比較しておよそ0.3ポイント上昇している。学生の評価の高かった設問は、3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」(4.71)、4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」(4.77)である。一方、6「この授業の到達目標を理解することができましたか」(4.26)、7「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」(4.31)であるが、4年前と比較すると0.4ポイント近く改善されている。自由記述欄には、「資料が見やすく授業進度がちょうど良く親切であった」「事例をたくさん取り上げてわかりやすかった」など好意的なコメントがほとんどであったが、「資料の細かい画像が見にくい」という指摘もあった。これについては印刷機の問題であるが、なるべくきれいな資料になるように心がけることを次年度の課題としたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営組織論A  
 授業コード 42C13-001  
 教員名 安藤 史江  
 教員コード 019554  
 登録人数 292  
 回答数 93  
 回答率 31.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標として、経営組織論に関する基礎知識の習得と、基礎知識を実際の場面に応用する力、橋渡しする力の習得を目指した。その試みはおおむね達成できたと考えている。その理由としては、質問項目5「到達目標の理解」とともに、質問項目6「到達目標に向けて力がついてきていると感じる」および、質問項目13「授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まった」の3項目に関して、それぞれ学部の平均値を上回る値（順に、4.40（学部平均は4.17）、4.32（学部平均は4.10）、4.56（学部平均は4.44））を獲得しているためである。また、学部平均とほぼ同水準ではあるが、質問項目14「全体としての満足度」も4.45となっている。あわせて自由記述欄にも肯定的なコメントが多く、当初掲げた目標を一定程度達成できたと受け止めている。一方で、必ずしも低い値ではないものの、私語や遅刻などに対する適切な対処を尋ねた質問10に関しては、学部平均をわずかに下回っており（4.43（学部平均4.50））、今後、何らかの改善策は必要になるだろうと考えている。内容についても、その時々話題になっていること、新たに注目すべき出来事に関しては、積極的に取り入れ、受講生のより深い理解や強い関心につながるよう、理論と実務との一層のすり合わせに努めたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	投資論(証券投資)
授業コード	42C30-001
教員名	赤壁 弘康
教員コード	100788
登録人数	20
回答数	4
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

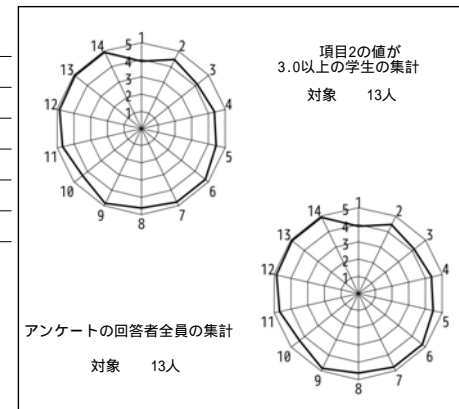
講義資料は事前にWebClassにアップし、予習可能なようにした。ファイナンスの基本概念の確認を含め、開講当初に設定していた目標はほぼ到達できた。練習問題についても授業中にかなり解説することができた。未解説の練習問題についてはWebClassに解答ファイルをアップした。

回答数が4であるため、数値データは参照できていない。自由記述項目15には「ファイナンスA,Bの知識が深まった。論理も明確で非常にわかりやすかった」と評価する回答が1件あった。項目16については「板書を消すのが早い。初心者に対してのフォローがもうちょっとあったほうがいい」という自由記述が1件あった。板書についてはホワイトボードが狭いためやむを得ず、本科目はファイナンス分野の応用科目であるため完全な初心者だけを対象することはむづかしい。しかし、次年度はできるだけ改善したい。

次年度に向けての改善点については、上記を含め、ファイナンスの基本概念の確認により多くの時間を割きたい。本年度は1名のオンライン受講許可者への対応のため、受講生を見回る教室巡回が十分できなかった。次年度は教室巡回がよりできるようになると思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス・シミュレーション
授業コード	42D11-001
教員名	姜 秉国
教員コード	019547
登録人数	21
回答数	13
回答率	61.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



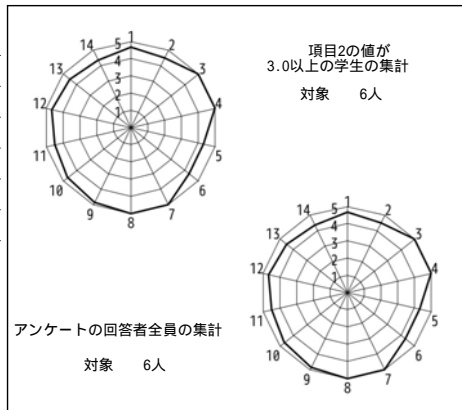
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講時に設定していた目標は「不確定な要素を含む問題のシミュレーションシートが作成できるようにし、小規模なビジネス問題のシミュレーションができるようにすること」であった。学生の出席、またレポートと発表内容から、授業の目標は十分達成されたものと判断している。評価項目の「自主的な参加」、の「授業到達目標に向けて力がついてきているか」、の「教員の授業に取り組む姿勢」、の「新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったか」に高い評価を得ている。ただし、表計算ソフトの使い方に関して、生徒の習熟度のばらつきが大きい。中にはほぼ初めて表計算ソフトに触れるような生徒もいる。そのため、できるだけ講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていくことに努めている。自由記述式設問の回答には、以下のようなコメントがあった。

- 解説が丁寧でわかりやすくてよかった。
- 知識として役立つ。
- あまりexcelに触れてこなかった生徒のためにゆっくりやってくれた所
- EXCELに関するスキルを身につけられた点。
- 授業のすった。ピードがゆっくりでついていきやすかった。
- 生徒に合わせた講義スピード
- Excelを使ってシミュレーションすることができるようになった。
- 実際に手を動かすことで自分で考える時間があつたのがよかった

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語Iオーラル・コミュニケーション2
授業コード	42G01-002
教員名	BIERI, Thomas
教員コード	102517
登録人数	21
回答数	6
回答率	28.6%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

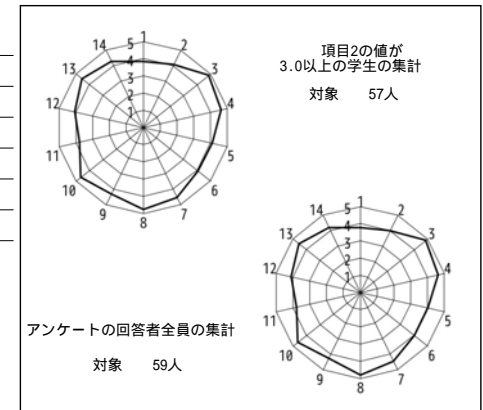
In general the evaluations were quite good, with an overall average of 4.67, with a few of the teaching-related items ranking perfect 5.0 scores, and the only items averaging below 4.5 were those related to students' own understanding and progress. There were no negative comments or suggestions for improvements.

As to my own impressions, the goals of the course were largely achieved although some elements we did not make as much progress as hoped for since some other student needs required time to address.

I will teach the same students for the coming three quarters and now that we have established some of the basic groundwork needed, I feel we can continue to make significant progress on achieving all of the goals for the year. For myself, I feel I may need to be clearer on the specific goals we are aiming for and pointing out the learners' achievements along the way.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済と人間の尊厳1
授業コード	10D04-001
教員名	西村 邦行
教員コード	104090
登録人数	95
回答数	59
回答率	62.1%
休講回数	0回
補講回数	0回

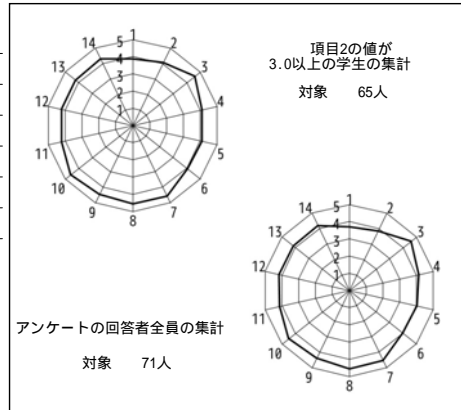


授業評価結果を踏まえた点検・評価

共通教育科目での授業評価アンケートは数年ぶりです。また前回は不慣れな着任直後だったこともあり内容や教え方もそれなりに違っていましたが、全体としてそれなりの評価だったように思われる。ただ、自由記述欄を見ても、説明が丁寧で分かりやすいという評価も多い一方、進度が速いという不満も同様であり、やはり共通教育では学生が前提として有してる知識や思考様式にばらつきが大きく、より一層の配慮が必要であることを改めて感じた。基本的には後者の不満を考慮して、ノートをとる時間をもう少し考えるか、スライド自体を配布することも検討したい(ただ、後者については別の専門科目で行ってみた結果、あまりよい感触を得ていない)。なお、1件だけではあったが、尊厳科目というカテゴリーの趣旨に合っていないとのコメントがあったのは残念だった。初回に到達目標と絡めて説明し、授業全篇で触れるとともに定期試験においてもその点を問うているつもりだったが、その趣旨自体が伝わっていないということだろう。この点も改めてより上手く伝えるよう工夫を考えたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法と人間の尊厳1  
授業コード 10D05-001  
教員名 服部 寛  
教員コード 103600  
登録人数 175  
回答数 71  
回答率 40.6%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

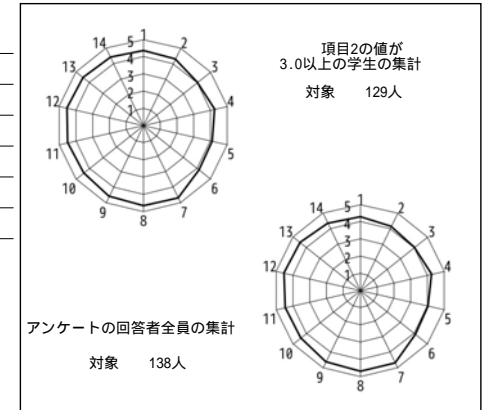


授業評価結果を踏まえた点検・評価

体調不良のために1回の授業を休講とせざるをえなかったが、補講を実施し、当初の授業計画に概ね沿う形で授業を行うことができた。シラバスに記載した到達目標についても、学生の評価に照らして見ると、概ね達成できたと解することが許されるであろう。これまでの年度とくらべて比較的多くの受講者数ではありながら、各設問の評価は、過去のデータよりも良い数値であったように思われる。授業の形式的な点については、これまでと同様に、開始と若干の休憩と終了をきちんと守るようにしたが、内容をよりソリッドにして、授業内容の扱いの遅延についても改善を行った。レジュメも形式を見直し、見やすさ(字が小さいことについての意見はあるが)の点でも工夫をはかり、全体の授業内容の連関も持たせられるよう工夫を重ねている。授業内容についても、例を多めに盛り込み、適宜視聴覚に関する資料も使用したことが、学生のほうでも受けが良かったように思われる。加えて、WebClassにおいて練習問題も公開し、多くの受講者に取り組んでもらえたことも、評価の改善に関連したのではないかと考えられる。本アンケートの回答数も比較的多いことも、本授業への真摯な回答を提出してくれる受講者数として、たいへんに嬉しいものであり、今後の授業のやる気を引き出してくれるものであることを付言しておきたい。引き続き授業内容・形式に工夫と改善を施しつつ、また、設問1の、この授業へのそもそもの興味につながるような点も、良策を見出したい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法総論B  
授業コード 44A11-001  
教員名 水留 正流  
教員コード 101566  
登録人数 194  
回答数 138  
回答率 71.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

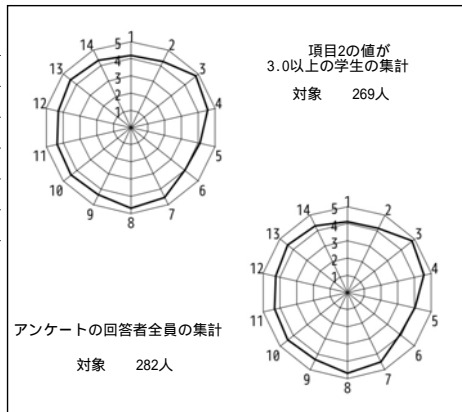


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 刑法総論はかつて4単位科目だったがクォーター制導入の際AとBの2単位科目2つに分割された。それでも、いずれも自動登録科目として法学部1年次生全員が履修する前提は維持されてきたが、2021年度カリキュラム改正で刑法総論Bのみ配当年次を引き上げ、2年次の個別登録科目となった。今回はその最初の試行にあたる。  
刑法総論AとBは内容として不可分であり、シラバス上も、同Aの学修を踏まえて、犯罪の基礎的概念を理解し、犯罪の成否の手順を大まかにせよ理解することを到達目標として掲げていた。このため、私の担当した昨年度の刑法総論Aでも、同Bの連続受講を強く促していた。したがって、そもそも本科目を配当年次の学生が履修するかという点が担当者の関心事だったところ、その履修率は63.4%に留まった。
2. アンケートでは全設問において4点を超え、全項目平均で4.36と良好な結果を得た。また、私が授業への関心度を示すものとしてより注目している回答率は71.1%と、この点でも極めて良好な成績を得た。もっとも、以上の結果は、1年次の授業でさらにこの科目に興味を持った学生だけのものであることに留意する必要がある。
3. 本科目を学生の大多数が履修するように促す努力に限度があることが今回改めて理解できた。今後は本科目の履修を前提にすることなく、刑法総論Aのみで基礎的内容を一巡できる授業構成をも考慮すべきであろう。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	裁判法
授業コード	44A12-001
教員名	小原 将照
教員コード	102897
登録人数	305
回答数	282
回答率	92.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

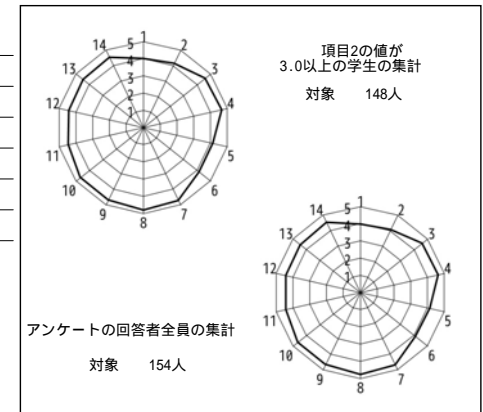
本年度は、これまでと異なり、リアクションペーパーの提出を廃止した。そのこともあって、受講者側の自己成長の部分で評価が低いことが見て取れた。教員側としては、その分を授業内での指導で振り替えたが、毎回のリアクションペーパーでの蓄積の方が、主観的には学習していると感じるようである。リアクションペーパーの提出廃止が1年目であることから、もうしばらくはこのまま様子を見ることとしたい。

授業の進行や内容の面に関しては大きな変更をしていない。それゆえ、例年と変わりの無い評価となっている。少しずつ内容面のマイナーチェンジを繰り返しているが、今後も大きな変更を加えることはしない方針である。ただし、現在指定しているテキストが古くなっており、改訂版も出ないことから、テキストの変更による内容面の変更可能性は残している。

その他の自由記述欄は、例年通りのことが書かれており、一部、学生の我が儘ととれる主張もあり、これも例年通りであると考え。全体的に満足度は高かったのではないかと評価できる。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人権各論A
授業コード	44A19-001
教員名	菅原 真
教員コード	102064
登録人数	248
回答数	154
回答率	62.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

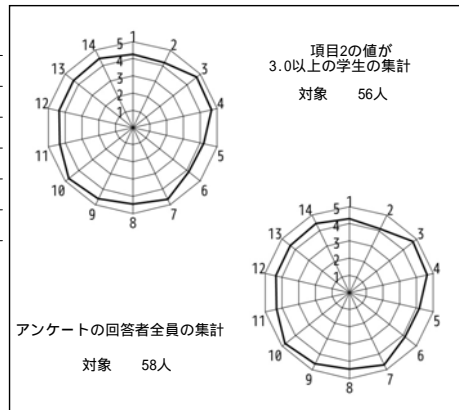
シラバスで設定していた授業の目標のうち、特に「憲法や人権の問題について、学説・判例を学びながら、それを分析し評価することができる」という点、その中でも特に判例の論理を理解し、自分なりに分析するという点については、日常的な授業での反応や定期試験の結果を見る限り、概ね到達できていたのではないかと考える。

アンケート結果によれば、「項目1から14の平均」は4.44、「項目3から14の平均」は4.51であった。自由記述欄では、毎回詳細なレジюме・資料があること、授業のスピードが適切であったこと、声が聞き取りやすく分かりやすかったこと、予習をどれだけしても講義内で必ず新しい内容の知識を得ることができ講義に自主的に参加することに非常に大きな意義が感じられること、マイクがたまに回ってきて当てられることがあったので程よい緊張感があったこと等の評価がある一方、授業の終了間近に説明のスピードが上がっている時があり、授業の最後の方もゆっくり解説して欲しいとの意見が寄せられた。この最後の授業に対する注文は、確かに2~3回程度そうした授業の回があったことは事実であり、正当な要望であるので、次クォーター以降、学生の意見を述べてもらおうとしても、授業の時間配分をきちんと管理していくようにしたい。

今後も多くのまじめな学生たちの期待に応えられるよう、比較的高度な内容を維持しつつ、論点を含めてわかりやすく講じていきたいと考える。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑事訴訟法A  
授業コード 44B09-001  
教員名 岡田 悦典  
教員コード 100621  
登録人数 114  
回答数 58  
回答率 50.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

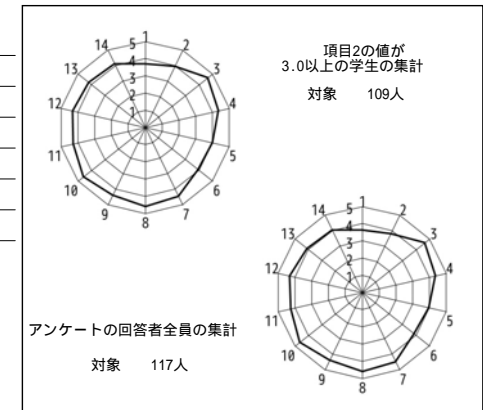


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標とその達成度については、以前よりも改善されているが、設問項目2の学生の自己評価が依然として、4.09であるため、まだ十分ではないものと考えられる。また、設問項目5も4.19と相対的に低く、同6も4.16であり、なお課題が多い。自由回答では、問題演習を課し、次の授業の最初のところで解説を試みており、自主学習を促していることについて評価されていたので、このことが、相対的に、授業の改善に繋がっていると思われる。しかし、刑事訴訟法Aの目標をより明確にすることを受講生に意識させることができなかったことが、課題であると思われる。したがって、概ね総合的にはよい評価を得ているし、授業構成も学生の自主的学修を引き出していることからよかったと思われる。しかし、到達目標を明確にして、何をどこまで学ぶのか、について意識を共有させることを今後の課題としたい。そのためには、初回の授業で、明確にその部分を解説する時間を多めに取り、かつ、何をどのように学ぶのか、レジュメなどで工夫したいと思う。また、コンテンツについても、捜査法全体の面白さを浮きだたせるような現代的トピックを今後織り込みたいと考える。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法総論A  
授業コード 44B13-001  
教員名 洪 恵子  
教員コード 103537  
登録人数 377  
回答数 117  
回答率 31.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



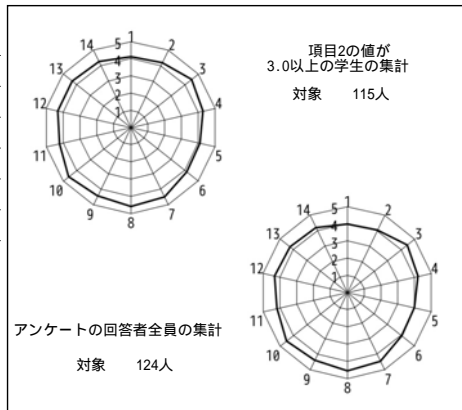
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の結果を見ると、質問項目1が3.62で項目13が4.12ということで、当初国際法に関心がなかった学生も、受講後、知識を増やしたと感じているようで、学習の成果があがったようである。したがって授業の到達目標に近づいたという結果になったと思われる。自由記述についても「国際法と現実に起こっている現象との接点を見出してほしい」という私の希望が伝わったようであるが、他方で、いいかげんであったり、教員を馬鹿にするような記述もあり、教員にとって精神的に負担である。次の授業においても、好評であった試みは続け、これまでどおり丁寧に授業を行っていくことを心掛けたい。なお、何度も書いていることだが、現在の方式の授業アンケートは再検討すべき時期に来ていると思われ、文科省の方針や他大学の先進的な試みを参考に、学修者中心のデータ収集として位置付けるべきではないだろうか。いずれにせよ「匿名の自由記述」の削除は早急に検討すべきと思われる。真面目に受け止めようとする教員が精神的に追い詰められるという状況は不合理である。



2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民事訴訟法A
授業コード	44B25-001
教員名	渡邊 泰子
教員コード	101553
登録人数	257
回答数	124
回答率	48.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

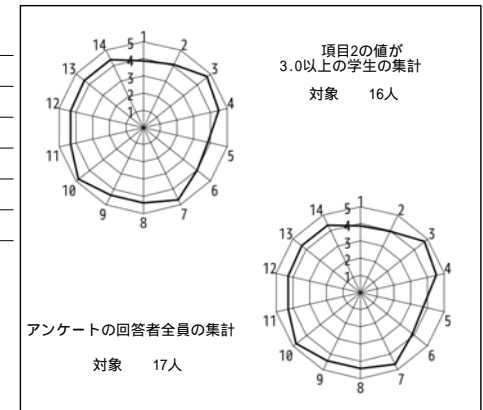
2023度「民事訴訟法A」は、授業評価の項目1～14の平均値が4.26、項目3～14の平均値は4.30であった。この授業では、「民事訴訟手続の基本構造を理解することができる」と、「民事訴訟法に関する体系的な知識を修得することができる」という到達目標を掲げていたが、授業評価アンケートの各設問の数値と自由記述の内容から、目標を概ね達成できたように思われる。

自由記述の内容として、講義資料のアップロードが遅くなった点についての指摘があった。本年度は、教科書に記載が少ない令和4年改正の内容をレジюмеで補完できるように多くの情報を差し込んだため、結果的にレジюмеの完成度は高くなったものの、学生の予習環境を整えるという点で配慮が不十分であったと反省している。他方、授業の丁寧さ・レジюмеのわかりやすさの点では高い評価を受けた。特に、各回のレジюме末尾の正誤問題が復習に役立ったという意見が多くみられ、次年度以降も取り入れたいと考えている。また、授業時間外の学生からの質問にはできるかぎり丁寧に対応するように心がけているが、学生の学修意欲を高める結果になったようなので、非常に嬉しく思う。

学生全員の要望に全て応えることは難しいが、今後も学生の意見を聴きながら、より良い内容の授業を提供したいと考えている。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	西洋法史A
授業コード	44B35-001
教員名	田中 実
教員コード	017038
登録人数	33
回答数	17
回答率	51.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

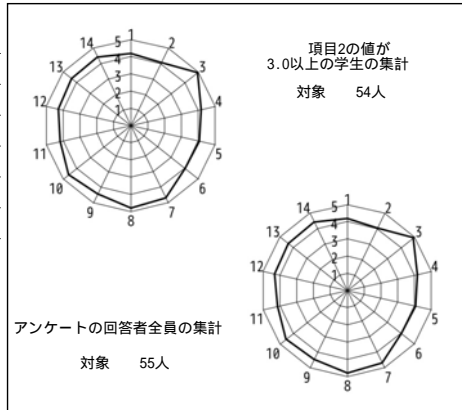


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問項目のうち、内容に関わるものに関して、比較的高い評価を受けたのは、設問4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14である。例年、西洋法史Aについて担当者が受けてきた評価に比べ、いずれも高い数値を示している。例年に比べ受講者が少なく、非常に落ち着いた雰囲気の中で講義を行うことができたことに加え、おそらく受講動機の高い学生が集まったことにも起因しているかと思われる。比較的低い評価を受けたのは、設問5, 6である。これは担当者の説明不足によるかと思われ、馴染みのないローマ法、ローマ私法の意義を最初により丁寧に説明することを心がけたいと思う。例年低い評価を受ける、設問2についても、比較的高い評価で、次回の講義に備え教科書の読んでおくべき箇所をより明白に示したことによるかと思われ、来年度もこうした指示は継続したい。自由記述は3点であったが、いずれも肯定的な評価を含んだ所見であった。事項によって、一般の教科書や通例の学説とは異なるはかなり難しい内容にまで踏み込んだ講義を行ったにもかかわらず、こうした評価を記載してくれた受講生がいたことに安堵している。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	租税法A
授業コード	44C05-001
教員名	本部 勝大
教員コード	104612
登録人数	128
回答数	55
回答率	43.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートにご協力頂いた受講生に心よりお礼申し上げます。

(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

「社会に出てから困らないよう、大学生のうち所得税について一定の知識を得ること」を授業の目標として設定した。多くの受講生が、実際の申告書に即した定期試験問題にも対応できており、概ね目標は達成できたと思われる。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

開講主体別平均値と比較した数値データ及び自由記述欄の「良かった点、評価できること」の記述内容からは、講義の分かりやすさに関しては受講生の一定の評価を得られたと考えている。今後も受講生にとって意義のある授業内容を意識していきたい。

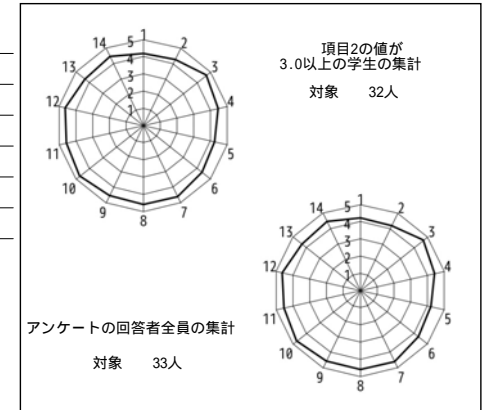
その一方で、自由記述において、授業の進行速度が早いとの指摘が散見された。網羅的な学習を意識した結果、100分の授業に内容を詰め込みすぎている可能性がある。また、学習内容の定着を図るため、授業内で講義に即した練習問題を提示しているが、問題数が少なく、十分な理解ができないとの指摘があった。教員の一方的な講義だけでなく、講義を踏まえたに問題演習等に重点を置いた方が、受講生の理解を促す可能性がある。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

(2)の、の課題を踏まえ、講義内容を要点に絞った上で、より問題の実践に時間をかける方向性に改めるよう、授業の改善を進めたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	債権法総論
授業コード	44C12-001
教員名	大原 寛史
教員コード	104297
登録人数	132
回答数	33
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートに協力してくれた受講生に心より御礼申し上げたい。

各数値データおよび自由記述の内容をふまえると、昨年度の改善点も含め、受講生に一定程度評価をいただけたと感じている。

この点については、今後の講義でも継続していきたいと考えている。

もっとも、課題として指摘された点もある。

本年度においては、とりわけ 講義環境（マイク音量、教室の暗さ）、講義で取り上げる内容、講義資料の配布についてである。

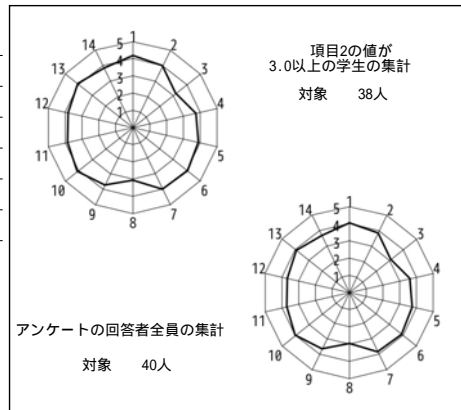
について、マイクの音量については今後注意する。教室の暗さについては、パワーポイント使用の関係上電気を消す必要もあるため、受講生には受講しやすい座席に移動することを認めていた。この点を意識的にアナウンスする。

については、公務員試験等の受験を考えている受講生からの要望である。担当者は、各種試験の出題傾向を分析のうえ講義内容を選定しているが、法学部の専門科目である以上、いわゆる「試験に出ないところ」でも取り上げる必要がある内容もある。この点を常に講義中にアナウンスしていたが、伝わっていなかったと感じる。より意識してもらえるような取り上げ方、アナウンスの仕方を心掛ける。

については、パワーポイント資料の配付の要望である。受講生の気持ちも大変よく分かる。もっとも、担当者は「あえて」配布していない意図もレジュメに記載し、講義中にアナウンスもしている。それを踏まえての要望であることは承知をしているが、担当者の意図もご理解いただけると幸いである。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知的財産法A  
授業コード 44J01-001  
教員名 平嶋 竜太  
教員コード 104448  
登録人数 194  
回答数 40  
回答率 20.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
開講当初設定の講義内容や目標については、おおむね到達できたものと思料する。  
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
アンケート回答事項について、講義の開始および終了について、および講義での聞き取りについて、幾つか指摘があったところである。前者については授業内容項目が多いため授業延長が多くなったこと、前の時限の授業の質問対応等から開始が遅くなること、等の事由があったため、今後留意したい。後者については、マイク等の調整に留意すると共に、大教室で後ろの席に固まって座っている学生が多いため、前の座席へ移動することも促したい。  
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
レジュメ等について分量が多いという意見もみられ、試験成績等に鑑みると、履修学生の学習理解能力からすると若干消化不良気味の感も強いことから、シラバス内容を若干軽めにして、講義内容全体を少なくして、負担を軽減することも検討を要するかもしれない。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読AI(英語)  
授業コード 44K05-006  
教員名 家田 崇  
教員コード 102459  
登録人数 5  
回答数 1  
回答率 20.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

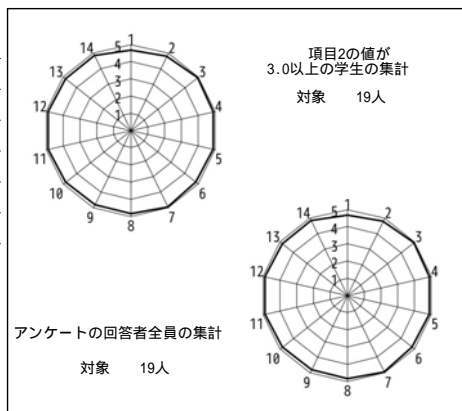
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
一定程度以上の量の英語文献を読むことを目標に設定し、その目標は概ね達成できた。  
単にファッションと法の関連性を理解するだけでなく、その背景にある社会的な変化、  
ビジネスの形態の変容に合わせての法のあり方などを総合的に検討することを目的とした。  
なお、授業時間外の課外の取り組みとして、実際の国際取引を担当する企業との連携で、  
英語を用いた企業取引の実態に接する機会を設定した。  
このように社会的な実態を把握できることが今後も望ましいと考える。  
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
人数が少人数であることからデータが存在しないが、一定程度の成果が得られたものと考えられる。  
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
より多くの英語文献に加え、その内容、法学的な位置づけ、社会的な意義が理解できるように努める。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触8<国際科目群>  
 授業コード 13A02-951  
 教員名 CROKER, Robert  
 教員コード 100082  
 登録人数 24  
 回答数 19  
 回答率 79.2%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

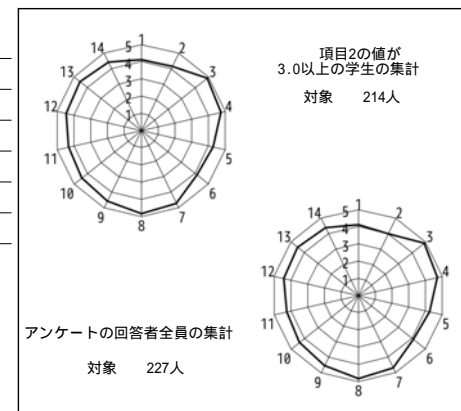


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class was to help students develop an ability to do research in English in the social sciences. Eight of the students were short-term international exchange students from the Center for Japanese Studies, and 24 were Nanzan students, including students from other countries enrolled in undergraduate programs. Students made small groups of three or four students, and each group had at least one international student. Each group researched about a different topic. Topics covered included individuality, language, beauty standards, the Japanese family, fashion, mental health, social rules, YouTubers, and women working in media. They interviewed the other students about their topics, analyzed their collected data and gave 10-minute presentations. The students worked hard every week to complete this small research project within one quarter. The feedback from students indicated that they enjoyed the class very much. Students enjoyed working with the short-term international exchange students, and felt that increased their understanding of other ways of looking and understanding the world. They also appreciated the help that these exchange students gave to the development of their language skills. They also liked the idea of each student improving their own language level; this gave less competent students more confidence.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と環境4  
 授業コード 13D02-004  
 教員名 藤本 潔  
 教員コード 100100  
 登録人数 321  
 回答数 227  
 回答率 70.7%  
 休講回数 0回  
 補講回数 1回

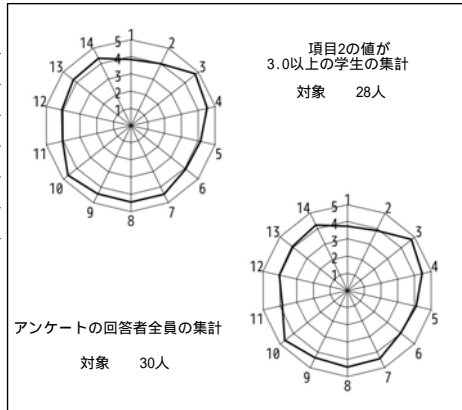


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、瀬戸キャンパス時代は受講者数が300名を超えていたが、キャンパス移転後は、22～136名と激減した。そこで1年生が受講しやすいQ1月木1限に時間割変更したところ、2021年度以降は300名前後に回復した。共通教育科目である本授業は、学部に関わらずできるだけ多くの学生に地球環境問題に関心を持ってもらうことを目的としているため、多人数講義に伴う問題は多少発生するものの、この時間帯での開講が最適であろう。本授業の授業評価はこれまで8回行われており、今回は3年ぶりの実施となった。設問1-14の平均値は4.44、設問3-14は4.50で、受講者数が少なかった2018～2020年度の値と比べるとやや低下したものの、同様の受講者数の年の値と比べると高評価が得られたことから、本授業の目的は十分に達成できたと言える。今年は4年ぶりの対面授業となったが、オンライン授業で実施した時間内でのリアクションペーパー提出を出席確認のために継続したところ、授業内容の振り返りができた等、好意的な書き込みが複数見られたことから今後も継続したい。また、授業ファイルをできるだけ早くDLサーバにアップするよう心掛けたが、予習に役立ったとの記載が複数あり効果的であったと言える。今回はコロナ対応として、濃厚接触者等にはZoom参加を認め、重症者のために授業動画をDLサーバにアップしたが、この点を評価する書き込みも多くみられた。授業動画は復習のためにも効果的であったとの記載も複数あったことから、ポストコロナのZoom活用法を大学としても検討していただきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際政治学A
授業コード	44B47-001
教員名	POTTER, David M.
教員コード	100098
登録人数	171
回答数	30
回答率	17.5%
休講回数	0回
補講回数	0回



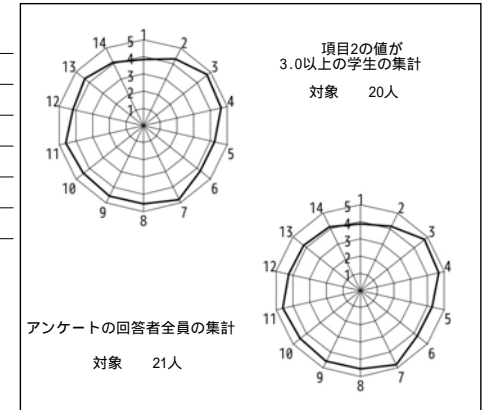
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a general studies lecture course conducted in a large classroom in G Building.

The results of this survey show that the students who answered it were generally satisfied with the content and conduct of the course. Several of the written comments pointed out improvements that could be made in distribution and use of the powerpoint slides that accompany the lectures. In future I will work to improve timely distribution of powerpoints and edit them to keep them up to date with current lectures.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	東洋と文明
授業コード	46B07-001
教員名	原田 直枝
教員コード	018754
登録人数	48
回答数	21
回答率	43.8%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

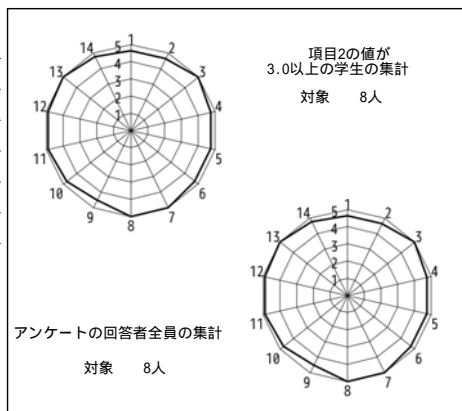
開講当初に設定していた目標は次の3点である。1. 東洋という言葉の背景について理解する。2. 「東洋」という考え方における日本の立ち位置について理解している。3. 東洋と文明に関する情報を分析・検討する視野を得ている。（「2023年度シラバス」）これらについて到達の割合を毎回授業後に実施しているレポートや期末試験の成果をもとに見ると、概ね達成できているとしてよさそうである。

項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」に関する数値が辛うじて全学平均を上回る程度であることは、この講義を選択した学生たちが当初は、「東洋」についての概説が聞けるとかと思っていたということを授業当初、学生たち自身から複数聞かれたのに関連するかも知れない。授業の間、何度も担当者は「東洋」の捉え方、概念の形成と定着のあり方から、「文明」というものを捉え直す機会にしてほしい」と伝え、また、内容を積み重ねていくうちに、授業の意図するところをだんだん理解してもらえたという印象がある。学生の側においては、14回を終えてようやく出発点に立ったような、謙虚な自己評価をしているところもありそうである。

上記を踏まえ、授業初期のうちから、授業のめざすところについて学生が理解しやすいような説明の仕方を工夫していきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数量的アプローチ2  
授業コード 46E07-002  
教員名 濫谷 英樹  
教員コード 151974  
登録人数 20  
回答数 8  
回答率 40.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

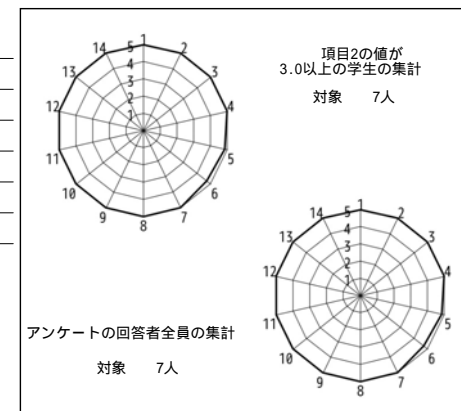
本講義は、一般的な学生が習うことのない3つの分析手法を柱として授業をおこなった。1つ目は、データ分析をおこなううえで、Microsoft Excelを用いたデータの「取得」や「突合」をはじめとする前処理である。2つ目は、テキストデータを対象とした質的分析である。3つ目はMicrosoft Power BIを用いた人工知能的な計量分析である。これらについて、学生のレベルに応じた調整をおこないながら授業を進めた結果、シラパスの内容どおりに実施できない部分が3割程度発生したが、3つの主要な内容は全ておこなうことができた。

この講義は、少人数での開講となったことから非常に学生との距離が近いものとなった。多くの学生が教員との間に積極的なコミュニケーションを求め、私もまたそれに応じたため、数値データはすこぶる良好である。そもそも、学生間での協力や相談が活発におこなわれ、女子学生・男子学生のいずれにも授業運営に対してきわめて協力的な学生がいたため、問題が発生しにくい環境でもあった。なお、控えめと思われた学生も、授業後に感想や意見を伝えることが多く、教員が考えていたよりも授業運営が受け入れられていたようである。

しかし、授業内容には多くの課題が残されている。第1に、シラパスの内容はやや難しいため、修正しなければならない。第2に、PC環境に若干の差があったためにPCの貸し出しにより対応したがもっと早くに周知すべきだった。第3に、授業内容の完成度はまだ高いとはいえ、さらなるブラッシュアップが必要である。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策中国語I2  
授業コード 46F04-002  
教員名 梁 暁虹  
教員コード 045229  
登録人数 7  
回答数 7  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

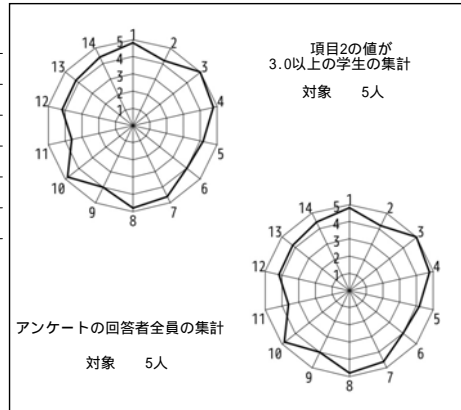


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1～14の平均値は4.97、設問3～14の平均値も4.96、設問5、6以外、全て、5.00、とかなり高い点であり、学習者及び授業担当者双方の満足感が窺えよう。学生の自由記述項目15では、「授業が楽しかったです」「先生の説明がとても分かりやすい。人柄も良い。」「梁先生が丁寧に教えてくださる先生でとてもわかりやすい授業だった。声の大きさが聞き取りやすく、発音の勉強がしやすかった。先生が優しいため、勉強のモチベーションになっていた。」「実際に声に出して学ぶことで、発音の仕方を重点的に学ぶことができた点。」等のよい評価があった。一方、教師として改善の余地がないわけではない。設問6は4.71、一番低かった点数であった。「あなたはこの授業の到達目標に向かって力がついてきていると思いますか？」この質問は、学生自身に関するものではありませんが、教師として如何にこの点改良しうるか、即ち、学生の学習に対する積極性、学習努力、学習目的、等を啓発しうるか、熟考したいと思っています。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際政策と倫理
授業コード	46J02-001
教員名	BOSAKAIBO, B. Georges
教員コード	104045
登録人数	15
回答数	5
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

国際政策と倫理 自己評価 2023

この授業は講義形式で行われた。主要な歴史的伝統、現実主義、コスモポリタニズムなど、国際政治学の研究において倫理的思考を支配する様々な哲学的・規範的アプローチを検討した。人権、貧困と国際貿易、移民、気候変動、戦争、人道的介入、グローバル・ガバナンスなど、現在の倫理的問題に対する具体的な意味合いも探った。

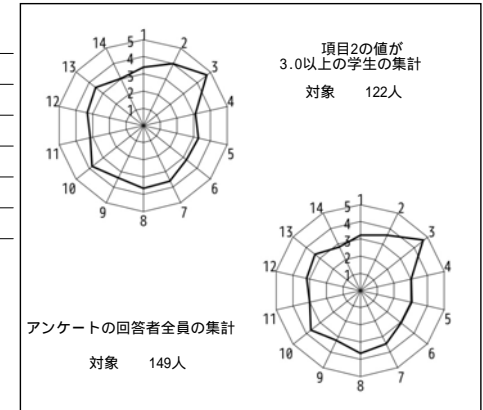
講義の目的は、今日の国際政治に浸透している倫理的論争を理解し、分析することを学生に提供することで達成された。さらに、主な倫理観を理解し、それらを比較し、特定の問題に当てはめ、その価値を判断することにも役立った。予定されていた授業は、講義中にすべてカバーされた。休講や補講はなかった。

受講生は、国際政治学における倫理的思考を支配する様々な哲学的・規範的アプローチについての基礎知識を深めた。それは、授業中の反応や、最終レポートでの学びに対する意見に表れている。

いくつかの章が長すぎて、予定時間内にカバーしきれなかったと思う。予定時間に合わせて、短くまとめたと思います。章全体をカバーする短く本質的なポイントを提供することで、学生に国際政策と世界の倫理を理解させるインプットを与えることに貢献すると思う。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政学
授業コード	46K01-001
教員名	茂木 康俊
教員コード	104802
登録人数	189
回答数	149
回答率	78.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

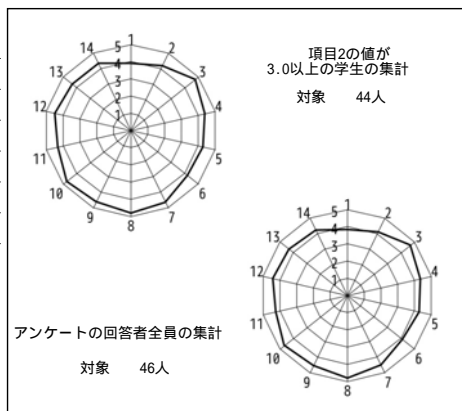


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、次の三点である。1. 行政の制度や機能について考えるための基礎的な知識を理解できるようになる。2. 行政学・政治学上の理論や概念枠組みに関して知識を深め、行政の制度が理解できるようになる。3. 講義内レポートや期末試験を通して、身につけた知識を活用し表現できるようになる。ここで挙げている知識の習得、活用という面では、項目9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」、項目13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」で平均点が3.2を超えており、学生の行政学に関する知識の習得は一定程度目標が達成されていると思われる。項目3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」に続き、平均点が高かったのが、項目10「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされましたか。」であった。この受講環境については自由記述で高く評価する回答があった反面、注意の仕方が一部の学生に反発を招き、項目14総合満足の数値の低下を招いたように思われる。次学期以降の授業については、以上に説明したような授業評価結果を参考にして、引き続き静謐な受講環境の維持に努めつつ、受講生がその意義を理解しやすいよう丁寧な授業運営を心がけていきたいと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバルガバナンス論
授業コード	46L01-001
教員名	佐藤 創
教員コード	103882
登録人数	145
回答数	46
回答率	31.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

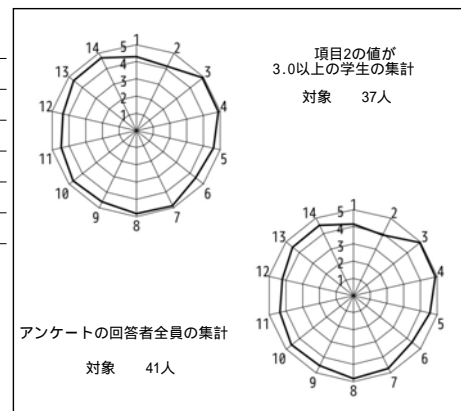
開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及び試験結果の結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の項目1から14の平均は4.37、項目3から14の平均は4.43であり、いずれも科目登録者数別集計（121～240）の平均値（それぞれ4.26、4.32）をやや上回っている。なお、回答数は46でおよそ3割であり、最後の授業でアナウンスしたが、やや少ない。

マスプロの対面授業ということで、本授業ではレジュメを事前にアップロードし、そのレジュメのなかで穴埋めをさせつつ授業を進める方法を採用した。グローバルガバナンス論は扱う対象が広く、トピックの多さとそれぞれのトピックについてどこまで掘り下げるかとのバランスに配慮した。なお、学生の集中力を考慮し、おおよそ50分ごとに数分ほど、見せたスライドを再投影して、復習兼リラクスの時間を設けた。これらの工夫はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。また授業参加度10%部分のリアクションペーパーは、次の時間の冒頭にそのなかからランダムに5点ほど選んで、前回の復習を兼ねて紹介し補足説明を行った。

引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」を高めるための良い工夫がほかにもないか、試行錯誤しながらより良い講義になるように努めたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際法概論
授業コード	46L06-001
教員名	山田 哲也
教員コード	100839
登録人数	78
回答数	41
回答率	52.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

自由記述を見る限り、当方が設定した目標（国際法の基本的知識を身に付ける）について、おおむね到達していたと推察できる。講義中、一部の学生はただ静かに座っているだけのようにも見え、厳しい評価となることを危惧していたので安堵している。

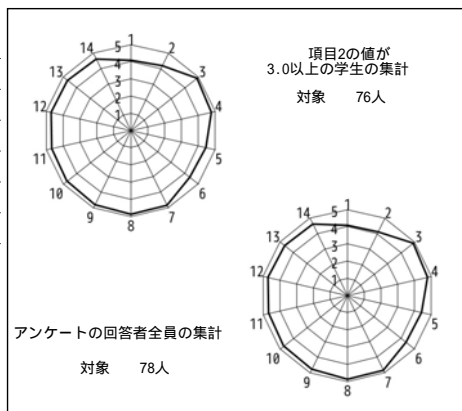
項目1から14の平均が4.51、項目3から14の平均が4.59であったので、学生の満足度は高かったといえるだろう。授業形態としてはレジュメを配布する、口頭で補足する、板書するだけの古典的なものである（ただし、たまに地図や写真を提示した）が、それでも学生は肯定的に評価してくれるようである。今後はもう少しインターネットを活用して地図や写真による補足を充実させたい。

レジュメは講義の流れを示すものであるから、大幅に逸脱することはないが、教科書を用いる場合、どこまで教科書を説明するか、逆に教科書に書いてあることを前提として発展的な内容を話すか（それにあたっては、さらにレジュメあるいはパワーポイント・スライドが必要であろう）、バランスをとる工夫が必要である。



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境行政論  
授業コード 46M02-001  
教員名 石川 良文  
教員コード 100650  
登録人数 136  
回答数 78  
回答率 57.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

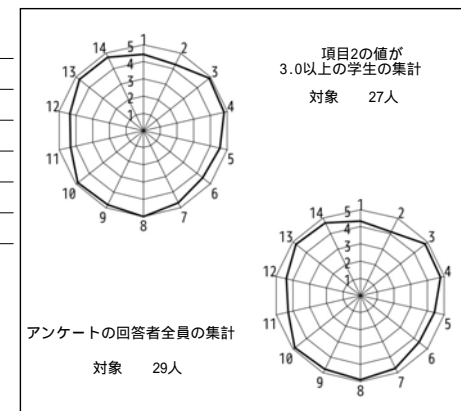


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
開講当初目標としていたような評価を得ており、設問1～14の平均で4.61、3～14は4.7であった。全ての項目で科目全体を超えることを目標としていたが、設問2のみ若干科目平均より低かった。  
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
設問14「全体としての満足度」は4.62と科目全体の平均値より2.8ポイント高く、その他の項目も設問2「予習復習含めた主体的努力」以外は全て科目全体の平均値を超えた。特に設問5「到達目標の理解」、11「適切な指導や情報提供」、12「質問・相談の機会」は全体平均より大幅に高かった。本科目では全てのコマでリアクションペーパーを書くようにし、そこで書かれた質問に次回のコマで回答するようにしており、そのことが評価されたと思われる。また、自由記述では数多くの良い点が記載されており、特にフィールドでの経験を踏まえた授業内容としたことが良かったと思われる。  
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
授業内容とは概ね問題なかったと考えられるが、予習復習など自主学習が増やせるよう工夫していきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際政治経済論  
授業コード 46N09-001  
教員名 小尾 美千代  
教員コード 102453  
登録人数 81  
回答数 29  
回答率 35.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

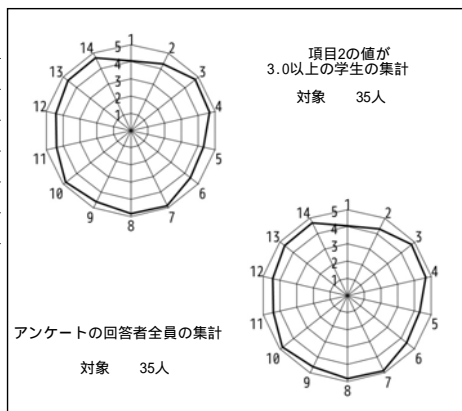


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、(1)経済を中心とする国際社会のグローバル化と国際政治との相互関係について理解すること、(2)国際金融、自由貿易、地域統合、気候変動の諸問題をめぐる国際政治について理解すること、の2点を目標としました。履修登録者81名のうち、回答者は29名で、そのうち「受講に際して主体的に授業参加をした」との質問項目2に関して3.0以上の評価をした学生は27名でした。授業の最終回でアンケートの時間を取ったのですが、複数回案内をする方がいいかもしれないと思いました。授業評価については、項目1～14の平均値は4.59で前回より0.15ポイント高くなりました。項目3～14の平均値は4.66(同+0.22)でした。授業の到達目標に関する項目6は4.38(同+0.18)、新しい知識や理解に関する項目13は4.76(同+0.22)でした。今回の集計結果は、回答者数の影響もあるかもしれませんが、これまででもっとも高い結果となりました。  
コメントから、穴埋め式のレジユメが好評でしたので継続させたいと思います。また、アクティブラーニングの要望を頂きました。もともとこの授業は講義形式ですが、コロナ禍に配慮せざるを得ないこともあり、履修者同士のディスカッションなどは実施が困難でした。とはいえ、長時間の授業で集中力が続かないことも確かですし、積極的な提案でするのでできることを考えてみたいと思います。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治変動論  
 授業コード 46N10-001  
 教員名 星野 昌裕  
 教員コード 101897  
 登録人数 59  
 回答数 35  
 回答率 59.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

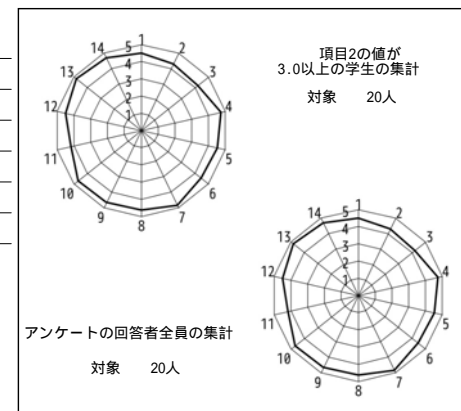
本授業では、東アジアの政治変動を理解するのに必要な政治学の基本概念を説明したうえで、中国の単一支配体制の形成とその変容過程、台湾における権威主義体制の確立と民主化、権威主義体制下における民族問題等を講義した。これらを通じて、地域研究の分析手法、政治学概念の理論と現実、東アジアで依然として大きなプレゼンスを占める「社会主義」体制の理論と現実、世界各国の政治体制を比較分析する手法を習得することが、開講当初に設定した本授業の目標である。

授業評価をみると、設問3から設問14の平均値が4.62となっている。また、授業の到達目標に向けて力がついてきているかどうかを問う設問6の平均値も4.40となっている。さらに授業履修前に本授業内容に興味を持っていたかどうかを問う設問1の平均値が4.06であったのに対して、最終的にこの授業への満足度を問う設問14の平均値が4.69に跳ね上がっている。これらの数字は、履修者が本講義を通じて、政治学や東アジア地域研究に対する興味を深めることができたことを示しており、開講当初の目標を十分に達成できたと考えられる。

基本的にはレジュメを配布しホワイトボードに書き込みながらの講義形式を採用したが、今回割り当てられた教室は、これまでと異なって、ホワイトボードとパワーポイントを両立させやすい構造であった。自由記述でも、歴史部分の映像をみたいとの声があったことから、次年度以降は割り当てられた教室に応じて、パワーポイントなどを併用しつつ、学生の興味をひく授業のあり方を心がけたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域研究論  
 授業コード 46N22-001  
 教員名 平岩 俊司  
 教員コード 103613  
 登録人数 44  
 回答数 20  
 回答率 45.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

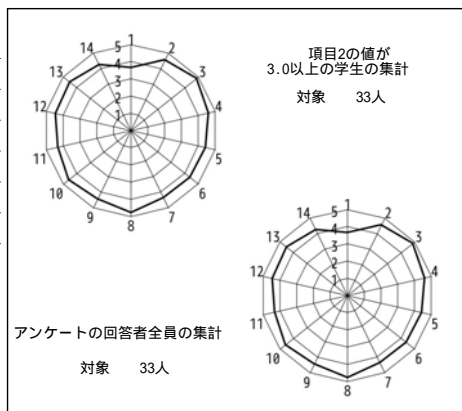
開講当初に設定していた目標と到達の程度について。朝鮮半島をめぐる諸問題について理解するための基礎的な知識と視角については提供できたと思う。また、朝鮮半島の分断状況と南北両政権がそれぞれ歩んできた歴史についても講義できた。国際政治の中の朝鮮半島という視角についても具体的な事例を用いて説明することができた。ただし、徴用工問題など現在進行形の問題については必ずしも詳細に説明できなかったが、その根源的な問題の所在については説明することができた。

総合的な自己点検・評価。  
 日々進展する現在進行形の問題を講義することについての難しさはあるものの、根源的な問題の所在について説明することができたので概ね目標を達成できたと思う。

次クォーターの改善点、抱負、方針など。  
 留学生より早くで理解できない部分があったとの指摘もあったので、もう少しゆっくり話すようなところがほしい。また、総合政策学部の科目としての地域研究の在り方、さらには別担当科目である対外政策論との関係についてももう一度検討したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[E]3  
授業コード 10C01-029  
教員名 杉原 桂太  
教員コード 101115  
登録人数 40  
回答数 33  
回答率 82.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

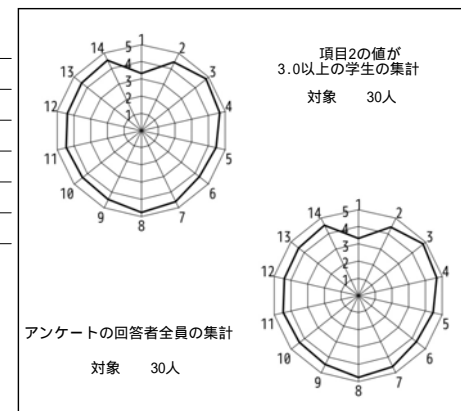
本授業では、「アクティブラーニング」を採用し、「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった。項目(1-14)では多くの項目で4点台の評価が得られたが、3点台もあった。設問1(3.67)から、受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる。自由記述からは、設問15について、「グループディスカッションを通して、学生間で知識を深められた点」、「レポートを作成することでテーマについてしっかりと理解を深めることが出来た」などの評価がある一方で、項目16では、「もう少しゆっくと説明をしてほしかった」、「対面授業で質問などを考える時間をもう少し長くした方が質問が増えると思います」という記述があった。これら項目16については、今後の授業では十分に留意したい。

設問項目14(4.24)は一定の値とはなっているが、同時に、学生にとっての授業での目標の達成につながっているかについては常に留意していく必要がある。

以上を踏まえ、目標の達成のためには改善点が必要であることが分かる。次のクォーター以降のこの科目においても、「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[E]7  
授業コード 10C01-033  
教員名 金山 知俊  
教員コード 019455  
登録人数 34  
回答数 30  
回答率 88.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

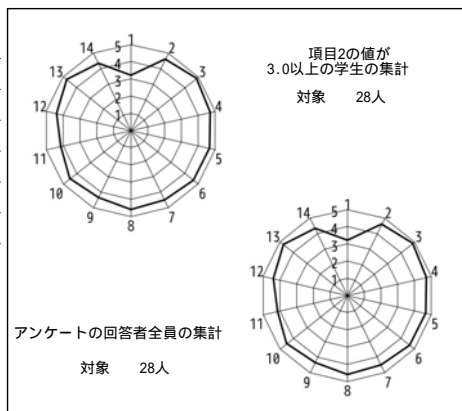


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目は情報ネットワークの適切な利用に関して、e-learningによる自主学習とレポートのピアレビュー、および対面でのディスカッションや発表を通じて理解を深める科目である。発表については依然として事前に作成した動画を再生する方式をとっているが、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、対面授業の運営についてもほぼコロナ前と同等に戻り、特に対面でのディスカッションは以前ほど気を使わなくても良くなった。学生同士のコミュニケーションもコロナ対応時より活発になったと感じており、授業も予定通り実施することができた。シラバスの到達目標は十分到達できたと考えている。
2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.43、項目3~14の平均が4.52であり、情報科目全体の集計結果を上回る値であった。個別の項目では項目1が3.30であったが、その他は設問10の4.37が最も低い値であり、全体として高評価が得られたと考える。自由記述欄の設問15ではe-learningと対面授業を交互に行う形式で理解が深まった等、従来からの本授業の実施方法について肯定的な意見が多かった。また、対面授業で知人、友達ができたという意見も目立った。今年度の1年次生はコロナによる制限を高校時代に受けていた世代であり、授業の制限が解除されたことを喜ばしく感じている人が多かったのだと思われる。
3. 昨年度検討した、ネット環境でのトラブル事例の紹介は口頭や板書で行っており、多少は学生の興味を引くことができたと考える。今後は補助資料を用意する等の方法でこの取り組みを強化したいと考えている。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[G1]  
授業コード 10C01-057  
教員名 吉田 敦  
教員コード 101920  
登録人数 39  
回答数 28  
回答率 71.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

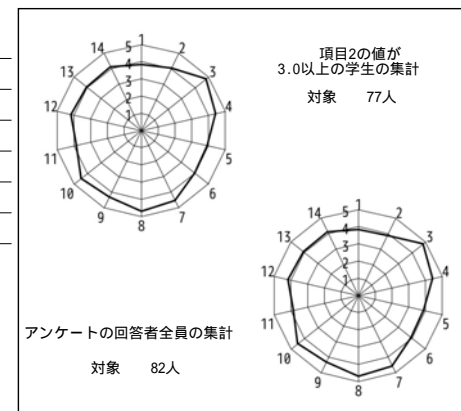


授業評価結果を踏まえた点検・評価

情報倫理の授業は、学生の発表が中心となるので、まずは時間通りに進行していくことが目標となる。また、時間を守りつつも、質疑が活発に行えるようにすることも目標であった。前者については、発表内容をビデオで作成させたので、事前に時間を確認しておくことで、全グループが発表を行えた。また、後者については、ビデオとは別に、発表資料等、参考となる手元資料も提出させ、それらを学生が発表中に見られるようにしたところ、質疑が昨年度よりも増えた。昨年度まではビデオを見るだけで質疑となっていたので、何を質問するか検討しにくそうだったことから、このような方法にした。一方で、手元資料を提出という課題が増えたことで、資料を発表内容がスライドをベースにしたものが増えた。昨年度までは、自分達でドラマ仕立ての動画を作るなど、バラエティに富んでいたが、その点が残念であった。発表を工夫すればするほど、情報倫理における問題や対応策に対する理解が進むので、来年度は発表への工夫がしやすい方法を検討したい。数値データについては、例年通りで、履修前の授業への興味は低いが、あとは4以上の点数となった。自由記述についても、グループワークに対して肯定的な意見が多かった。次年度も本年度と同様の方法で実施していく。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア開発技術I  
授業コード 54A11-001  
教員名 沢田 篤史  
教員コード 101413  
登録人数 186  
回答数 82  
回答率 44.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) この授業の目標は、ソフトウェア開発技術の基礎概念について理解し説明できるようになること、構造化手法およびオブジェクト指向開発手法を理解し例題に適用できるようになることであった。授業の進行に伴ってそれらの目標を達成できる内容は出席していた受講生に提供でき、試験やレポート課題の解答から、真面目に受講していた学生は到達目標に十分到達していると考えている。
- (2) 数値データについては例年通りで特筆すべきことはないとする。授業では、各回に前回の授業内容の復習をし、さらに復習問題を解かせたうえで解説を加えるという授業進行の方法を採用したが、毎回の復習と復習問題の解説が理解の助けになったというコメントが自由記述の中に多く見られた。この授業運営方法は学生の理解のために有効であると評価している。一方で、復習問題の解説を聞いていない・出席していない学生（だと思われる）からは、WebClass上で復習問題の正解が見られるようにしてほしい、授業の録画を提供してほしいというコメントが寄せられている。この授業は通信教育ではない。各回の授業に出席し、授業内容をしっかりと聞いて理解してほしいという考えのもと、これらのコメントには対応する予定はない。
- (3) 上記の通り復習に時間をかけ、復習問題を授業中に解かせ、解説するという授業運営方針は一定の効果を持つと考えることから、今後も同様の方法を洗練しながら継続していきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング言語

授業コード 54B02-001

教員名 野呂 昌満

教員コード 016477

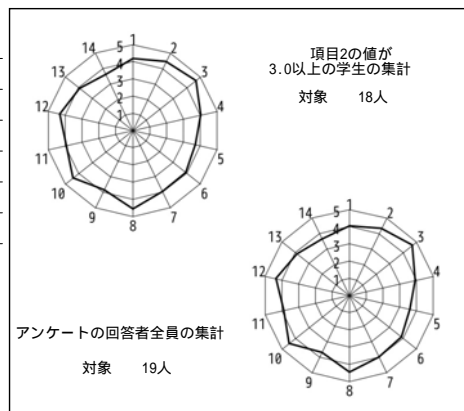
登録人数 133

回答数 19

回答率 14.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
授業評価の結果ならびにレポートの質から判断して、当初の目標は達成できたと考える。
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
  - JABEE科目としての説明が不足していた(設問20,21)
  - 資料を丹念に準備した甲斐があり、例年に比べて総合評価が良くなっている。
  - 事前配布資料(PDF)に書き込みながら講義を進めることで、リモートでも板書同等またはそれ以上の効果があることが確認できた(学生の自由記述による)。
3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
自由記述で後ろ向きなものはほぼないと判断できるので、今後もQ1の講義方法で進めていくことでいいと判断する。一方で、講義の目標をより丁寧かつ明確に提示する必要があると考える。対面とリモートの特質を対面優位の観点から総括することは容易いことではあるが、大抵は、コンピュータの使用技術力の問題に帰するものとの日頃の直感が正しいと判断する。PDFを共有しながら、その資料に書き込んでゆく方法により、一般的に指摘されるリモートの不自由さは克服できる。今後とも位置透過性を十分活用することで、講義の開講形態の幅ならびに自由度が高まることは、紛れもない事実なので、コロナ云々に関わらず、積極的なICTの利用が望まれる。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報を読む2

授業コード 13E07-002

教員名 佐々木 美裕

教員コード 019463

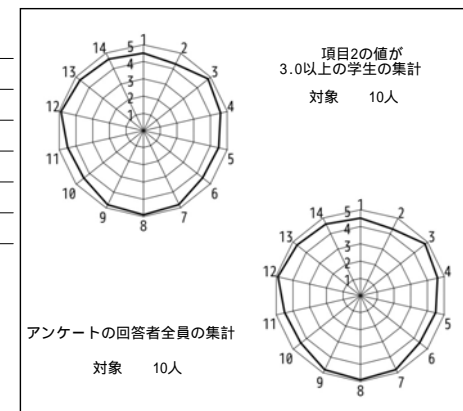
登録人数 52

回答数 10

回答率 19.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

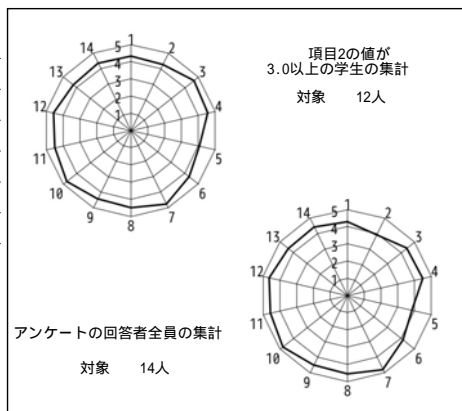


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- オペレーションズ・リサーチの考え方や数理モデルの作り方について、1人でも多くの学生が興味を持ってくれるような授業運営を目標とした。パソコンを使った演習を伴うため理解度にばらつきが出やすいので、受講者が確定する第3回の授業において、具体的な目標を3段階に分けて説明し、各自で目標を立ててもらった。これにより、各自が目標をもって授業に臨める環境を整えた。また、最終課題(自由課題)については、各自の理解度に見合った課題となっているかを個別に指導した。回答数は少ないものの、設問4を除いて全員が4または5を回答し、平均値も4.6以上であるため、おむね目標は達成できたと考えている。
- 自由記述には「わかるまで説明してもらった」「Excelが学べるところがよい」というコメントがあった。設問項目12の平均値が4.9であることから、個別に丁寧に指導したことが高評価につながったと考えている。Excelの使い方を教える授業ではないが、副次的効果があったことはよかったと思う。回答数が少ないので、断言することは難しいが、おむね授業に満足していると判断し、今後も少しずつ改善しながら、現在の方針で授業運営をしていきたい。
- 受講者の自習が欠かせないので、今後も自習をサポートする体制を強化し、質問しやすい環境の提供を心掛けたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報を読む5  
授業コード 13E07-005  
教員名 鈴木 敦夫  
教員コード 016469  
登録人数 53  
回答数 14  
回答率 26.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

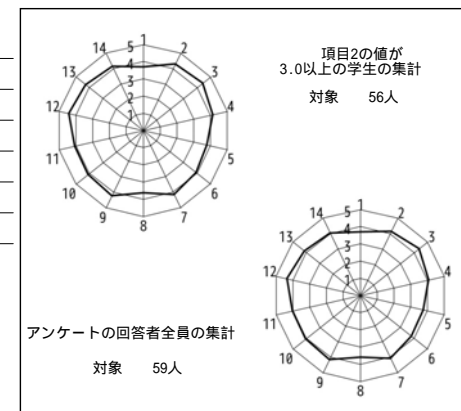
この講義の目標は、履修者がEXCELを用いた最適化計算ができるようになること、オペレーションズ・リサーチの重要な要素である定式化の概念を理解し、実際の問題解決に役立てることができるようになることである。レポートや課題の結果を見ると、この2つの目標は達成されていると判断できる。また、このアンケートにあるように、ほぼすべての項目で4.0以上の評価を得られており、学生にも目標に向けた学習の方向を示せたのではないかと思います。

自由記述にこの講義の良かった点として、「とても難しかったが、実践的なExcelの使い方を学ぶことができ、すごく有意義な授業だった。」、「将来に役立つことを学べたこと」から学生からの回答があった。アンケート項目も4.0以上のものが多く、講義で意図したところが実現できていたと考えられる。

高校で「情報」を学ぶようになり、EXCELの操作などは高校で学ぶようになってきている。それに対応して、講義の内容をより高度なものにしないといけないと考えている。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 微積分学I[TS]  
授業コード 54A01-001  
教員名 小藤 俊幸  
教員コード 101907  
登録人数 89  
回答数 59  
回答率 66.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

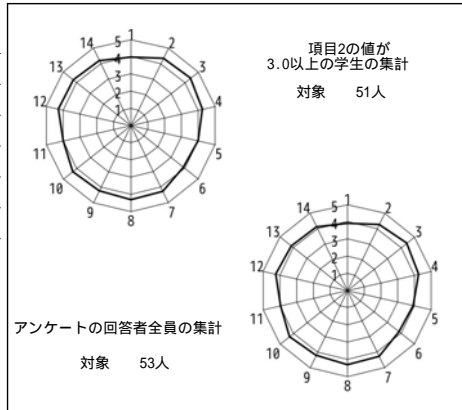


授業評価結果を踏まえた点検・評価

微積分学の中の微分学を中心に、数学の基礎的な内容について学習する。主な内容は、集合、確率、論理、微分、速度、加速度、ニュートンの運動方程式、平均値の定理、関数の増減、ニュートン法である。2019年度から「考える力をつけるための微積分教科書」（学術図書出版社）を教科書に用いている。講義と演習とからなり、学科ごとの演習は演習問題を配付し、答案を回収し、採点TAに採点してもらい返却する形で行った。定期試験の成績は、全体的にまずまずで、不合格者は出なかった。近年、珍しく、オンライン授業で、レポートで成績評価をしていたときにもなかったことである。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	微積分学I[TD]
授業コード	55A01-001
教員名	塩濱 敬之
教員コード	104524
登録人数	90
回答数	53
回答率	58.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
微積分学Iは、講義および演習形式で行われました。この授業では、論理、集合、写像など、数学の基礎と1変数関数の微分法について学びます。はじめに、論理や現代数学の基礎である集合や写像について定義や記法を学びます。そのあと、速度や運動方程式などを例にして微積分学の必要性を理解し、1変数関数の微分法について、基礎的な事項である関数の連続性や微分可能性、また平均値の定理などを学びました。

微積分学Iの到達目標は次のとおりです。

1. 論理や集合と写像に関する基礎事項を知っている。
2. 1変数関数の微分法に関する基本的な定理を知っている。
3. 1変数関数の微分法に関する基本的な計算ができる。

この到達目標は、授業評価アンケートより概ね達成されたと考えます。

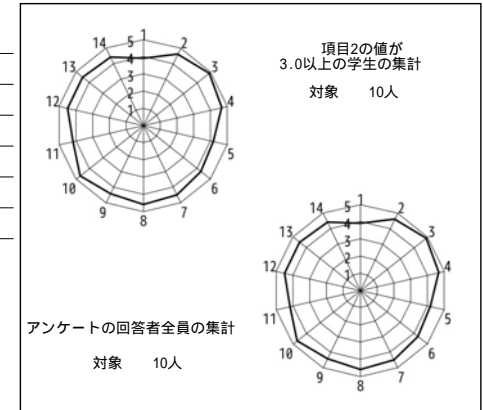
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

新入学生を対象とした授業なので、今後の大学での学び方や大学の講義に慣れってもらうことを意識して講義、演習を行いました。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など講義、演習を通じて微積分学の基礎的な事項が理解できたという経験から、大学で学ぶ高度な数理技術に興味を持ってもらうこと、また継続的な学習意欲を持つような導入科目として今後も取り組みたいと思います。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	確率モデルとシミュレーション
授業コード	55B06-001
教員名	三浦 英俊
教員コード	102259
登録人数	44
回答数	10
回答率	22.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
到達目標は以下のように設定していた。  
1. シミュレーションの基本（モンテカルロ法、乱数の使い方、等）を知っている。  
2. シミュレーションを用いた問題解決の手順を理解している。  
3. マルコフモデルについて理解している。  
4. 確率モデルを用いたビッグデータの解析の手法の基本について理解している。  
おおむね学生は到達できていたようだ。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

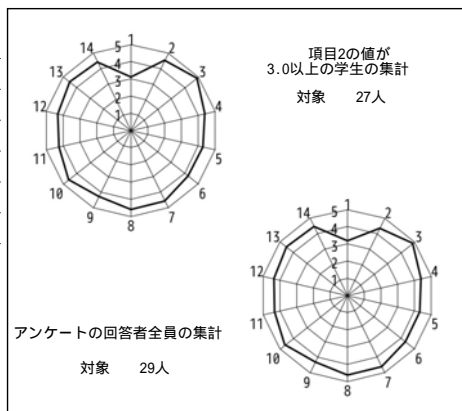
ほとんど毎回課題を課していたが、復習に役立ったとの回答があるなど、課題の活用について学生が理解してくれたと感じた。

「この授業の到達目標を理解することができましたか。」、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」についてはやや数値が低かったが、内容を盛り込みすぎたためかもしれない。一方で、進行速度は適切だったとの声もあり、学生の授業に対する意欲の違いにすべて対応することは難しい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などc言語を用いた教材内容が少し「手あかがついた」ようなので、pythonの利用も視野に入れている。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[E]1  
授業コード 10C01-027  
教員名 栗原 寛明  
教員コード 103522  
登録人数 34  
回答数 29  
回答率 85.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



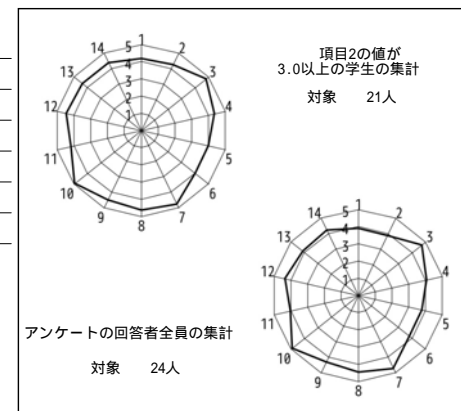
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、授業に積極的に取り組んだ受講生は、到達目標をおおよそ達成できたとみなしてよい。

本科目はe-learningと対面授業を組み合わせ実施した。e-learningでの学習内容について理解度を確認する課題、レポートのピアレビュー、指定課題に対するグループ発表、を通して理解を深めた。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は各テーマについて十分に理解できたと思われる。一方、少なくない受講生がe-learning教材に十分取り組んでいないことは残念である。e-learning教材は対面授業の基礎となるため必ず取り組んでほしい。対面授業では、レポートのピアレビューとグループ活動に十分な時間を確保するように努めた。発表内容の検討から発表動画の作成までオンラインで行ったグループもあったようであるが、成果物を見る限り問題なくグループ活動ができたと思われる。情報通信技術の進化や社会の変化は常に継続しており、教材には含まれない最新の話題や出来事を取り上げることも必要である。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 電子通信工学  
授業コード 56B03-001  
教員名 藤原 正浩  
教員コード 104753  
登録人数 114  
回答数 24  
回答率 21.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。開講当初に設定していた到達目標に対し、設問19~21の解答が3.00に到達していない点を見ると、学生の自己評価としては十分ではないという認識であることが分かった。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

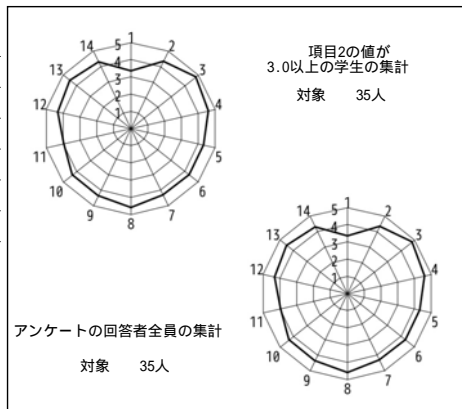
授業で実施した以下の取り組みについては学生からも肯定的に受け入れられたため、継続していきたい。

- ・授業中に例題を解かせること（その時間を確保すること）。
  - ・授業の中盤で、学生自身による前半部分の情報整理、および教員との質疑応答の時間を設けること。
  - ・自習の方針として、A4紙1枚に授業内容をまとめること。
  - ・講義動画、授業資料、板書のデータにWebからアクセスできるようにすること。
  - ・CommentScreenなど、匿名で質問できるチャンネルを用意すること。
- 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など自由記述にあった以下の点において、次クォーター以降に改善していきたい。
- ・授業中に取り組む例題のバリエーションを増やす。
  - ・学生からの質問に答えるタイミングを適宜調整する。
  - ・教室構造、もしくはカメラ配置の問題であるが、講義動画の画質向上。



2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[E]5  
 授業コード 10C01-031  
 教員名 大月 英明  
 教員コード 047340  
 登録人数 40  
 回答数 35  
 回答率 87.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



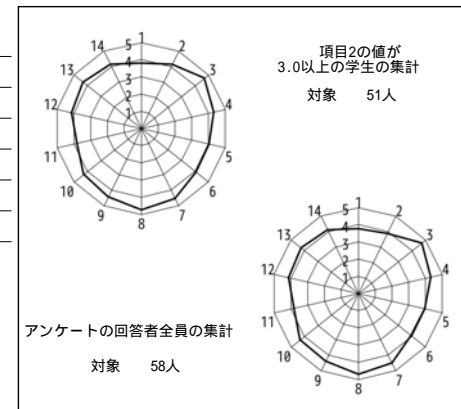
授業評価結果を踏まえた点検・評価

点数に関しては全体的に高い評価を受けており、特に授業の開始・終了時間の守られている点や、教員の音声が良く聞き取れる点において高く評価されていることが伺える。学生が授業の到達目標を理解できていると感じており、その目標に向けて力をつけてきているとの意見も多い。これは授業の内容や指導が効果的であることを示唆している。教員の授業への姿勢や真剣さに対しても良好な評価を受けている。一方、自由記述欄には「声が聞き取りにくかった」「先生から学ぶことが少なかった」という、点数とは矛盾する意見も書かれており、その原因と対策を検討する必要があるだろう。

「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」という点が3.34とやや低い評価を受けている。この部分は、事前の授業紹介やシラバスの内容を更に魅力的にすることで、学生の興味を引き付ける努力が必要であると感じる。学生の学習意欲を引き出す点や自主的な学習を促す点の評価が3.97と、他の項目と比べてやや低めである。学生の積極的な授業参加や学習意欲の向上のための新しい方法を検討することが求められる。全体の満足度は4.29と高いが、さらなる授業の質の向上や学生のニーズに応える工夫を考えることが必要である。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物理学基礎1  
 授業コード 50A29-001  
 教員名 大石 泰章  
 教員コード 101405  
 登録人数 133  
 回答数 58  
 回答率 43.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標と到達の程度  
 当初計画していた内容はすべて講義できた。高校レベルの内容から始めて、大学らしい進んだ内容まで、無理なく構成できていると考える。

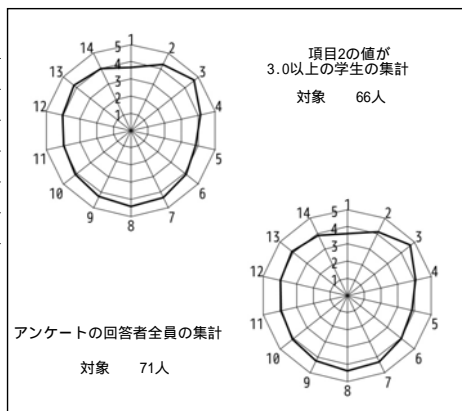
数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価  
 以下の設問で数値評価が4点を下回った：設問1, 2, 5, 6, 11。数理的な内容の授業は点数が低く出ることが多いが、それにしても例年はほとんどの設問で4点以上だったので留意すべき結果と考える。

評価できる点（設問15）には、「説明・資料が丁寧／わかりやすい（8件）」「演習問題を解く時間があった（4件）」「ホワイトボードを使った説明がよかった（3件）」とあり、一定の評価が得られているのは例年通りである。一方で改善すべき点（設問16）には例年になく多くの記述があった。「出席をとってほしい（3件）」「問題を解く機会を増やしてほしい」「話を聞くだけでは退屈」などである。どんな本よりもわかりやすい授業をしているつもりであるので、学生にはそれを評価して授業に来てもらいたいと思う。出席をとることでやる気のない学生が増えても困るので、今後も出席をとるつもりはない。問題を解く機会を増やせないかは検討するつもりである。

今後の改善点、抱負、方針など  
 コロナ禍前と比べて学生の気質も変わったように思う。新しい学生にとっても有意義な授業にするべく工夫したいと思う。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学III[TC]1  
 授業コード 56A06-001  
 教員名 坂本 登  
 教員コード 102293  
 登録人数 154  
 回答数 71  
 回答率 46.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

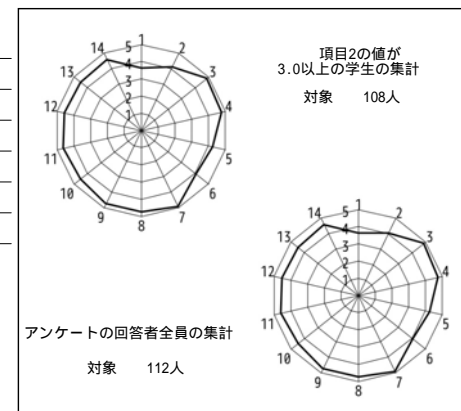
開講当初に設定していた目標と到達の程度について：  
 期末試験を採点した感想では、年々学生の到達程度が下がってきている。中間試験を2度行って問題を解く時間を増やすよう努めているが、一部の低位層学生には十分な効果が出ているとは言えない。1年次までの線形代数は計算重視であるが、本講義では論理（証明）も重視している。期末試験では、上位層学生が論理構成を理解していることがわかり、心強く感じた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：  
 授業アンケートを見ると、目標への到達度や授業全体への満足度はおおむね良好であると考えている。中間試験を行うことに肯定的な意見が多い。また、講義の録画ビデオは明らかに復習に役立っている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：  
 中間試験と講義ビデオの公開は続けていく。中間試験については、難易度と分量を変更する必要があるであろう。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[FB・FF・FG]2  
 授業コード 10A01-005  
 教員名 MUNSI, Roger Vanzila  
 教員コード 101925  
 登録人数 124  
 回答数 112  
 回答率 90.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

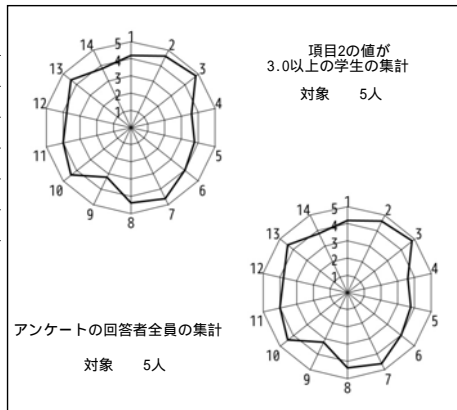
This course on Studies in Religion improved students' knowledge of different aspects of religions including Christianity, Buddhism, Shinto, and ethnic religions. Following some basic anthropological theories on religion, I provided a mid-term exercise and a number of case studies covering Asian and African areas to help students extend their discussions and reflections.

Except a few absences, the overall attendance of students was generally very good. Yet, a great number of students showed interest in the course and participated actively in different selected readings and questions. Most students wrote good mid-term essays and final term reports. I am happy to notice that many of them really appreciated this course and gained important insights through its content.

I will take into consideration some shortcomings raised by other students and try to improve them by reorganizing the course next year. I think that the addition of visual materials to each case study may also improve the course and meet the students' expectations.

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[G]  
1  
授業コード 11A01-032  
教員名 YARDLEY, Gabriel  
教員コード 016998  
登録人数 14  
回答数 5  
回答率 35.7%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

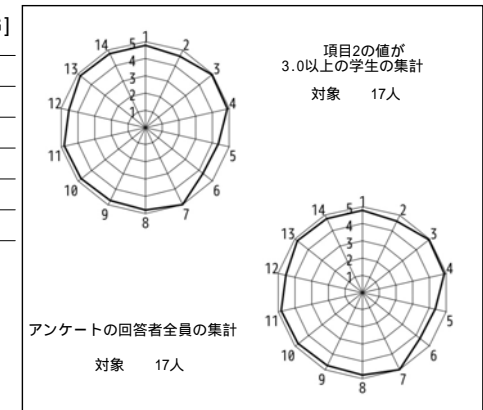


授業評価結果を踏まえた点検・評価

A rather disconcerting evaluation. In past years, students have generally evaluated this class highly; teaching materials have been appropriately updated and the methodology slightly revised the course has not been extensively modified. Fewer than a third of the class completed the online survey. Responses from the five students who participated revealed some concerns with the structure and pace of the course, understanding course goals, and the use of textbook and supplementary materials. All students were interviewed at the end of Q1 (and Q2) to both provide and get feedback. Most seemed to be enjoying the course, yet some of these advanced learners found the level of the course too challenging and were having difficulty completing the usual homework assignments for this class by the deadline. Assignments for Q2 were slightly reduced and feedback interviews at the end of Q2 established that students were now more comfortable with the rhythm and pace of the course. Feedback interviews at the end of Q2 revealed, however, that a significant number of them had become more stressed by the overall burden of homework assignments for most courses. As this has been a surprising evaluation when measured against broadly positive ones for previous years, rather than radically modify course content and methodology which has proved to be satisfactory and popular in the past, the instructor will instead closely monitor student learning experiences and challenges more closely and will endeavour to provide a more satisfactory learning experience with regard to the specific needs of this class in the areas highlighted in this evaluation.

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[G]  
4  
授業コード 11A01-035  
教員名 DEACON, Bradley  
教員コード 046920  
登録人数 19  
回答数 17  
回答率 89.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

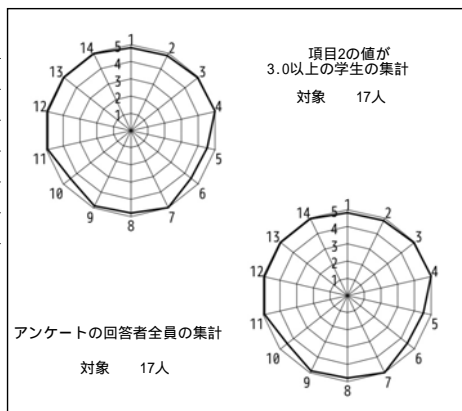
The general goals for this course are for students to engage in active discussion and other interactions with one another on academic topics with a main focus on aural and oral English development in class. In effect, students are encouraged to shift from being English learners, which they were assumed to be in high school, and to become more proactively involved as English users in this course. Students focused on building the appropriate schema and language structures in order to communicate on several academic topics in the course.

The results speak for themselves. Overall, students found the course to be a stimulating experience and found the course content and activities to be a useful way to help them to meet the goals of the course.

At certain points in the course, I scolded the group needed to remind the students to maintain an English atmosphere at one point during the course as some students were chatting in Japanese and not paying attention. The students appreciated that my aim was to help everyone to become better at English by using English and I was pleased to see that they responded positively. In the future, I will continue to challenge them to develop their fluency and accuracy as language learners.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[G]  
5  
授業コード 11A01-036  
教員名 MILES, Richard  
教員コード 101363  
登録人数 18  
回答数 17  
回答率 94.4%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

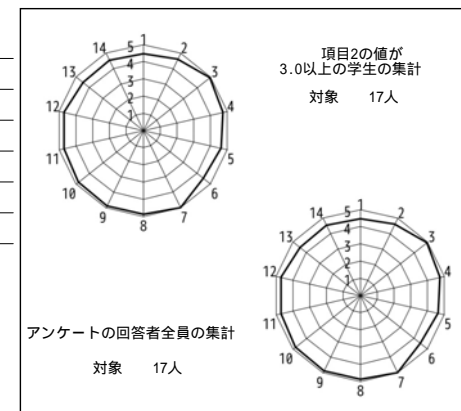


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. I am very satisfied with the course evaluation results and with how the course went in Quarter 1. This was the first time teaching this course without COVID-related restrictions in almost three years, so there was a certain degree of trepidation on my part and from the students. However, the students were very positive overall in terms of their comments and the scores they gave. The course was designed specifically to help students become more independent English speakers and listeners so that they can work autonomously when they have to discuss and present on issues later in their studies at Nanzan and during their studies abroad next year. Students answered with an almost perfect score to question #14, indicating they felt they had achieved a lot and had improved their speaking and listening skills.
2. The written comments from the students were all positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the classroom and the interaction between the students. Responses to question #4 demonstrate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students. This was pleasing to see as the students are all freshmen and still adapting to university life in their first quarter. The students wrote positively about being able to maximize their discussion time with partners and enjoying the process of sharing ideas and opinions.
3. For next quarter, I will focus on giving more positive feedback as some students were not too sure about the course attainment target (even though most achieved it), based on answers to question 5.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[G]2  
授業コード 11A05-033  
教員名 BURCH, Alfred Rue  
教員コード 104829  
登録人数 18  
回答数 17  
回答率 94.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals focused on the students viewing and practicing writing as a process rather than product, and to become familiar with the various tools and technology available to them for writing. I feel that the students were by and large successful in regards to these goals.

The students were very kind in their evaluation. I personally noticed that trying to teach to the assigned textbook was causing problems for both the students and myself, and so I am trying to consider ways of making sure they can use the text (so it is not a waste of money for them) while also being less constrained by it. As a learner, I never did well with the structural approach to writing, and I find that I have difficulty teaching that approach in a way that helps students, so I need to find a compromise between the textbook and the process approach that I find more engaging.

I concur with the students that the classroom caused issues. The seating arrangement made group work difficult, and there were not enough outlets for the BYOD policy to work consistently. During Q2, the room was unbearably hot as well.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 南山大学の軌跡

授業コード 12B15-001

教員名 永井 英治

教員コード 018861

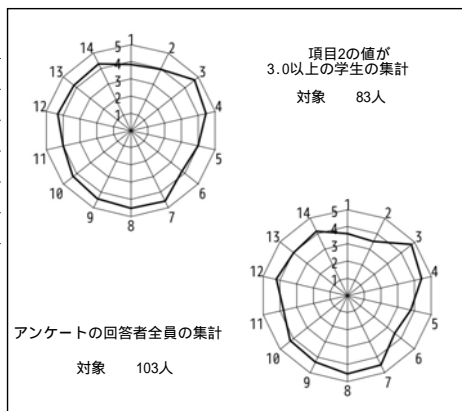
登録人数 212

回答数 103

回答率 48.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2023年度の「南山大学の軌跡」は、自校史教育の意義・目的を受講生各自が考えることとした。シラバスに記載された、南山大学の展開を歴史的に理解することは、この課題の個別的な対象と位置付けた。各自が考えるとは、多様な理解を積極的に認めることになる。なかには、白紙の状態授業に臨み、授業の内容について抱いた関心を発展させる場合もある。レーダーチャートを見る限り、設問1の数値がやや低いのは、そうした場合が少なくなかったことを示していよう。自由記述においても、あまり関心のなかったテーマについて授業を通して関心を持っていったと思われる受講生がいたことが知られた。定期試験では、自校史の意義・役割を尋ねたが、自分に引きつけて理解する場合と一般論として理解する場合の二極に大きく分かれたと言える。講義のねらいとしては、いずれの場合も目的は達成されたと言えるが、さらに一步を進めて自己の視点と一般論の双方に目配りすることができれば、理解度が深まっていると評価されるが、今回はそこまで至ることは難しかったようである。なお、受講生に1年生が多く、ひとつのテーマについて論述する文章を書くことに不慣れな者が見られ、日本語でのアカデミック・ライティングの学習が必要に思われたことを付記する。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツの政治と社会

授業コード 34A16-001

教員名 大竹 弘二

教員コード 101968

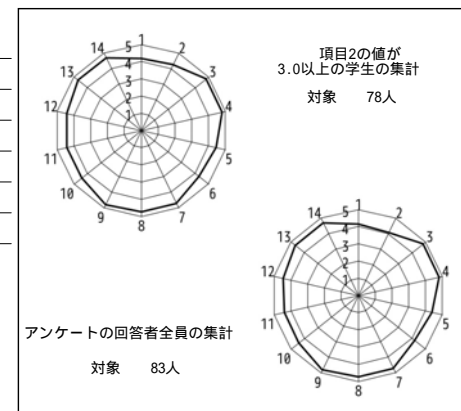
登録人数 142

回答数 83

回答率 58.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

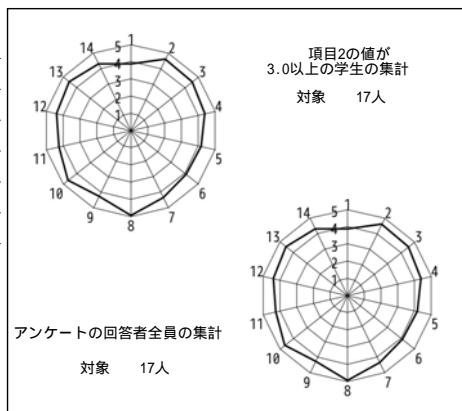


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目を担当するのはドイツ学科に所属していたとき以来約10年ぶりであるが、当時は履修者がほぼドイツ学科生のみだったのに対し、現行カリキュラムでは外国語学部と国際教養学部の学生も学部共通科目として履修可能なこともあって、むしろドイツ学科以外の学生のほうが多く履修しており、どこまで詳しい授業内容にすべきか少々戸惑いもあった。結論としては、履修者はドイツ政治に関する専門的な内容の授業ということを知りながら履修しているだろうから、ドイツ学科生であれば1年次の間に学んでであろう初歩的な知識も適宜交えつつ、内容については難易度を大きく下げることなく授業を行うことにした。とはいえ、ドイツとドイツ以外の国々との関係もなるべく解説するようにし、ドイツ学科以外の学生も興味を持てるように心掛けた。歴史的な写真・画像・映像資料をなるべく多めに使用することで、ドイツにさほど馴染みのない学生にも現代ドイツ社会のイメージが湧きやすくなったこともあってか、多くの学生は内容を十分理解してくれたようで安堵している。毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、学生が何を知っており何を知らないかを逐次確認しながら授業ができたので、ステレオタイプ的なドイツのイメージを壊すような、多面的なドイツ紹介ができたと思う。もっとも、若干内容を詰め込みすぎたことで、リアクションペーパーで学生から寄せられた疑問に十分なフィードバックを返せなかったことは今後の反省点である。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy4  
 授業コード 48A11-004  
 教員名 森泉 哲  
 教員コード 100542  
 登録人数 22  
 回答数 17  
 回答率 77.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



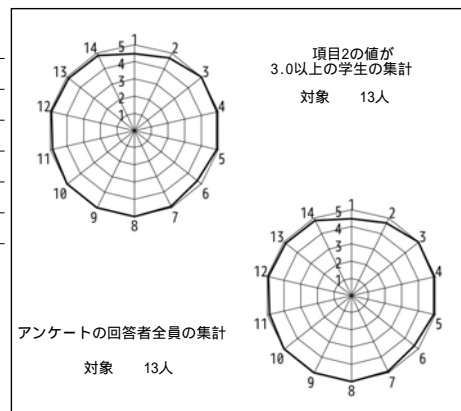
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は英語でSDGsに関する文献を読みまた5枚程度のリサーチペーパーが書けるようになることを目標としたものである。学生の評価を総合的に判断すると、学生にとり本科目は必修科目としてそれほど高い興味があるわけではないが、ある程度学生にとり知識・スキルが身に付き、教員の指導内容および方法についても一定の理解がなされたように判断できる。

本科目は、担当者として2年目になり、昨年度の進め方と大きく変えたのは、意識して個別指導を多く取り入れたことである。リサーチペーパー執筆にあたっては、プロセスライティングの理解を受講生に促すことによって、受講生自ら書きやすくなるし、能力も高まっていく。そのため、全体のアウトラインやセクションの締め切り日を設定して提出を促すとともに、出された成果物に対してはコメントをいれて返却した。講義中も必ず一人1回は最低面談形式で相談に乗るとともに、誰でもライティングすることは簡単ではないが、自分で見直していくことによってよりよい文章になるという信念の下、丁寧な言葉がけになるようにしたつもりではある。自由記述においても、「丁寧に指導してもらえた」「個人相談があってよかった」という今回の意識的な個別指導に肯定的な評価が得られた。一方、学生の理解を促す工夫や学習意欲を促す工夫に対しては、他の項目と比較して相対的に低いので、苦手意識をもったり、本科目に対して動機が上がらない受講生に対して、英語ライティングに対する関心を高め、学習意欲を高めるような様々な工夫や話し方に配慮した授業を一層心がけたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy6  
 授業コード 48A11-006  
 教員名 鹿野 緑  
 教員コード 101092  
 登録人数 22  
 回答数 13  
 回答率 59.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

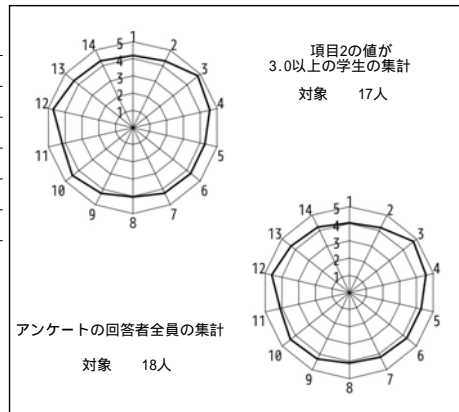
初年度の英語とアカデミックな英語への橋渡しの授業で、今後留学先または英語で学ぶ授業に必要な「読みと書き」の力を養うコースである。設定した目標は、サステナビリティのコンテンツの英文を読む・要約する力と、4~5頁のセカンダリー・リサーチ・ペーパーを書く力を養うことであった。多くの学生が完成度の高いペーパーを書くことができおり、「英語で調べる」「ペーパーを構成する」「書く」力の基礎はある程度育ったと思う。読みに関しては、論文などを読む力がまだ十分ではないと感じ、1年から2年への橋渡しで使う「読みの教材」または「素材の適切な教材化」が今後課題として残った。

アンケートの数値は概ね満足のいくものであった(項目3~14が4.91、項目1~14が4.86)。例年、この授業では、「自身の成長度の可視化」と「丁寧なフィードバック」を心がけており、学生が成長と変化を感じられたということだろう。自由記述からは、「わかりやすさ」や「授業構成の明確さ」を指摘するコメントがあった。また、多くの学生が「質問する」ことを抵抗なく行い、また、何人か国際教養学科ライティング・センターから「サポート」を上手に得ていたようだ。

今後への課題は、前述したように教材化の適切さと、この授業の前後関連科目との連携であると感じている。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy7  
授業コード 48A11-007  
教員名 林 慎将  
教員コード 104656  
登録人数 21  
回答数 18  
回答率 85.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

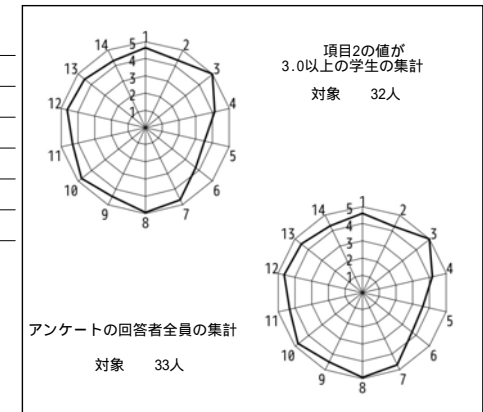


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、サステナビリティをテーマとした英文を通して、英文読解並びにサステナビリティについての知識を得るとともに、自ら問題を設定してアカデミックなリサーチペーパーを書くライティング能力を養成することを目的としていた。到達の程度に関しては、当初はほぼすべての学生に関して、問題設定の仕方や研究論文を作成する際のルールが身につけていなかったが、何度かのフィードバックを通して、アカデミックスタイルでの文書作成スキルが一定程度身についたと考えられる。総合的な自己点検・評価としては、今年度が本授業を担当する初年度であり、どのように授業を進めるのか手探りの状態であったが、学生毎にレポート作成について必要な指導は異なると考えたため、各々の学生が作成したレポートドラフトを元に個別指導を主に行う授業体制とした。学生からの自由記述にもみられるように個別指導は好評であり、特に学生からの改善点も指摘が無かったため、今後の方針としても、今年度のやり方を踏襲していきたいと思っている。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中級フランス語I  
授業コード 48A33-001  
教員名 南 祐三  
教員コード 104786  
登録人数 41  
回答数 33  
回答率 80.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

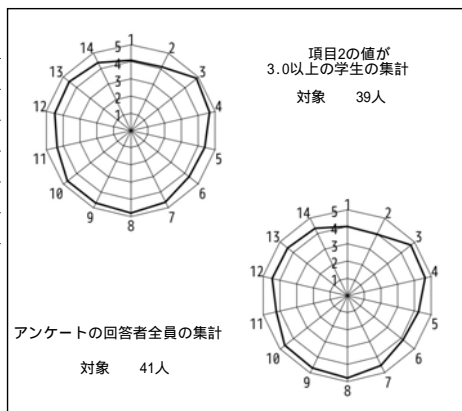
他の教員が担当する「初級フランス語」を履修した、まったく初めて対峙する学生たちが対象ということで、まずは彼らのレベルを把握すべく初級文法についての確認テストを実施する必要があった。そのうえで、不足している部分を補いつつ、中級文法の基礎を習得させることをめざした。語学の授業は複数年に渡って段階的に実施されるという性質をもつために、本年度4月に着任したばかりの報告者としてはある程度漠然とした到達目標を設定せざるをえなかった。

アンケートの自由記述からは、その確認テストが履修生たちにとっても自分のレベルを把握するいい機会となり、適度な復習の機会となっていたことが読み取れる。確認テストの結果、フランス語特有の発音のルールや冠詞の付け方について理解できていない履修者が多くいたことがわかったため、中級文法について説明しつつ、それらの補足説明を行ったことは、履修者にとって有益だったようである。その点も踏まえ、総合的にいえば、充実した授業を実施することができたのではないかと考えている。

しかし復習に時間を割いたことで、本来この授業で習得させるべき中級文法について説明する時間が必然的に失われたことも事実である。その結果、問題集の答え合わせが早口になってしまったことや、板書の丁寧さを欠いてしまったことが反省点として挙げられる。履修者からの不満もそれらの点に集中している。いずれにせよ、説明事項を詰め込みすぎたことが原因と思われる。次回はその点の改善を図りたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 多元文化論A / Multiculturalism A  
 授業コード 48B04-001  
 教員名 吉田 信  
 教員コード 104481  
 登録人数 50  
 回答数 41  
 回答率 82.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義ではヨーロッパを主な地域として取り上げつつ、過去から現在に及び様々なトピックを取り上げ、現在の国際社会の多様性・多元性を受講生に理解してもらうことを目的としていた。アンケート結果からは目標についておおむね受講生の理解は得られていたものの、試験の結果とは必ずしも関連していないようにも感じている。

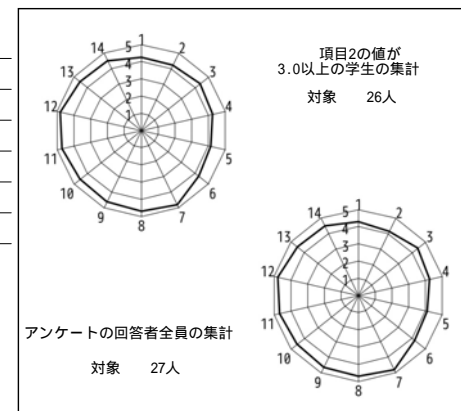
自由記述欄では、レクチャー部分、補足となる映像資料の部分、授業中に受講生からの質問や意見を受け付けるスラックの設定といった措置に対して好意的な見解がみられた。準備に相当の時間を費やさざるを得ないこともあり、講義外の業務との兼ね合いから講義の質の維持に腐心しているところだが、可能な限り肯定的な側面については維持していききたい。

他方、出席確認、評価基準については、講義冒頭で説明をしているものの受講生の聞き逃しに起因されると思われるコメントもみられた。この点については初回の講義のみならず、後の回でも繰り返す必要性があると受け止めた。

次クォーターでの講義では、これらの肯定的な点、改善点に留意しつつ、質の高い授業の提供に努めたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B / Economics B  
 授業コード 48C29-001  
 教員名 平岩 恵里子  
 教員コード 100953  
 登録人数 35  
 回答数 27  
 回答率 77.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義には1年生も受講していることもあり、学部の講義構成からも経済学の基礎を学んだことのない学生がほとんどであるため、貿易理論を通じて「経済学」がどのように身近な社会や日々の生活と関連したものであるか？を力説しつつ、経済に親しみ、教養としての経済学を学んでもらうことを目標としていた。毎回そのように努力しているつもりであるが、それを問う設問5、6、が学部平均に届かなかったことは悔やまれる。一体どうすればよいのか？

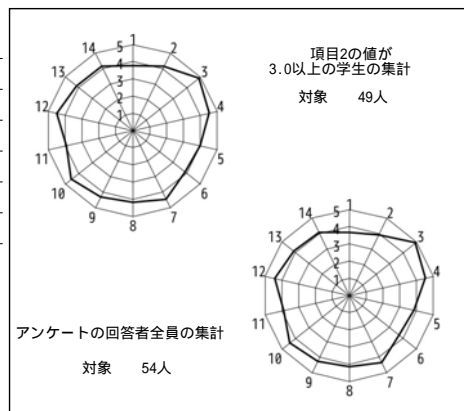
自由記述には、を振り払ってくれるような勇気をもたらえるものもあり、救われる。設問11に注力することがの解決策になると信じたい。ただし、毎回、リアクションペーパーへの解答や議論に時間を使い過ぎて、進捗が遅れることは毎回指摘されていたことだ。気を付けたつもりだが、リアクションペーパーの内容がよいので、つい力が入ってしまう。

上記の、伸ばす点と修正すべき点に、次回はさらに注力しよう。



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倫理学 / Ethics  
授業コード 48C30-001  
教員名 神崎 宣次  
教員コード 103280  
登録人数 114  
回答数 54  
回答率 47.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

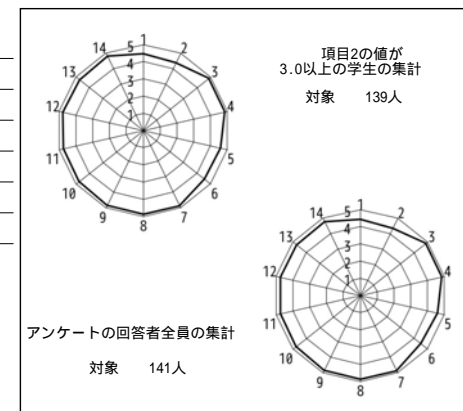


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
おおそ達成したと考えている。
- 2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
総合的には前年までと同様と考えている。マイクの問題については指摘されている通りの問題があり、授業期間中改善がなかった。  
前年までは問題がなかったので理由は不明。来年度の教室変更も視野に入れて対応したい。
- 3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
本来なら今年度から新しい教科書を使用する予定であったが、出版が6月にずれ込んでしまったため、内容的には前年までと同じになった。自由記述で書かれているように後半の難易度と内容については検討の余地があるが、来年度以降はテキストを変更するためこの問題については必然的に変更を行うことになる。新しい教科書に基づいて、新しい授業構成を準備して来年度の授業にあたりたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学 / Sociology  
授業コード 48C32-001  
教員名 林 徳仁  
教員コード 104615  
登録人数 293  
回答数 141  
回答率 48.1%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

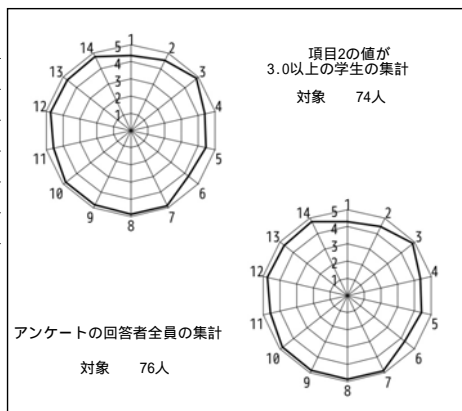
本授業は、グローバル化する現代社会における社会問題や日常的話題を取り上げながら、社会的な物事の見方や考え方を身につけることを目的とした。毎回の授業の後に提出されたりレスポンスペーパーと、期末レポートから判断すると、授業が終わる頃には、多くの受講生がグローバル社会そのものだけでなく、身の回りの課題に関心を持つようになっていたことから開講当初に設定した目標に到達したと考えられる。

全項目平均は4.71、項目3から18の平均は4.76であり、国際教養学部科目の平均（それぞれ4.50、4.54）より、やや高い評価を得ている。自由記述の回答からは、「声が聞き取りやすかった」、「様々な社会的テーマに触れることが良かった」、「様々な視点から社会学について学ぶことができた」といった肯定的なコメントが記されていた。一方、一部の学生からは、「課題の提出時間が短い」や「教室が狭い」、「マイクの声が途切れる」という授業運営・環境に対する意見もあった。

本授業は、大人数ながらも、授業内での工夫（映像、写真、対話形式の導入など）により学生の参加意識を高めることができた一方、個々の学生とコミュニケーションが取りづらさ、毎回のレスポンスペーパーからの質問への対応に、若干の不安を感じる。今後、学生の興味や理解度を高めるための工夫を念頭におきながら授業を進めていくことを目指していきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と社会 / Globalization and Society
授業コード	48D05-001
教員名	籠橋 一輝
教員コード	102569
登録人数	111
回答数	76
回答率	68.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

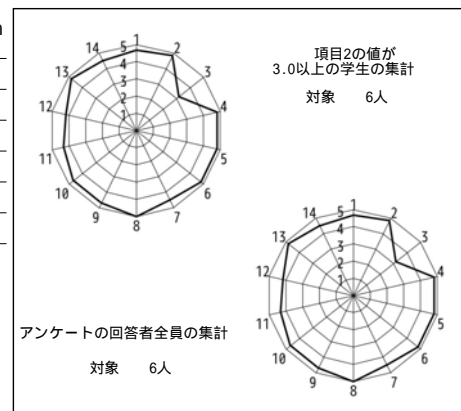
開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
 開講時に学びの目標として設定されていた事項は、概ね十分に達成できた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
 学生76名が回答し（うち項目2の値が3.0以上の学生は74名）、項目1から14の平均値は4.63、項目3から14の平均値は4.67であった。授業全体の満足度の平均値（項目14）は4.75であり、概ね授業の内容に関して好評価が得られたようである。国際教養学部の平均値と比較して、前者は+0.13ポイント、後者は+0.13ポイントであり、学部平均よりも高い評価を得ている。自由記述の回答からは、講義と演習の組み合わせが良かったこと、リアクションペーパーの振り返りが丁寧であったこと、説明が丁寧であったこと等、ポジティブな意見が40件寄せられた（項目15）。一方で項目16では、リアクションペーパーの振り返りの時間が長い、演習の時間をもっと取って欲しいという意見が寄せられた。項目17に関しては、PCを使う授業なのでコンセントが欲しい、プロジェクターの輝度が暗いという意見が寄せられた。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 リアクションペーパーを丁寧に振り返る形式は学生に評価されつつも、時間をもう少しコンパクトに紹介するように努めたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステナビリティと開発 / Sustainability and Development
授業コード	48G03-001
教員名	安原 毅
教員コード	017905
登録人数	24
回答数	6
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

担当者としてはかなり高評価を受け、当初に設定した目標と照らし合わせても目標のほぼ95%は到達できたと考える。昨年度と同じ授業では設問項目5と6が満足いく結果が得られなかったが、今回授業中に学生に考えさせ答えさせる時間を多くとったことで、今回は高評価を得られたと考える。項目13が高評価なのは、学生にはなじみの薄い開発途上国のスラム・貧困地域についてのレポートビデオを見せて特に注目してほしい点に関連する理論モデルを説明したことが、評価されたと考えている。また数回に分けて課題としてミニレポートを提出させたが、この解説に時間をとったことが評価されたと考える。他方で来年度に向けての課題としては、同様のテーマを続けるべきか否か考える時に来ていると思われる。ビデオを見せて解説できる内容としては選択肢が限られるが、目先を変える方向で検討したい。また何よりも、回答者数を引き上げることが毎年の問題といえる。授業中に時間をとって回答させるなどの方法で十分意味のある結果が得られるかどうかかわからないが、検討していきたい。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 サステナビリティと国際問題 / Sustainability and International Issues

授業コード 48G04-001

教員名 塩寺 さとみ

教員コード 104489

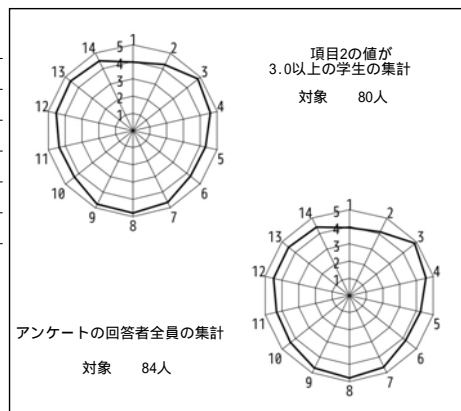
登録人数 188

回答数 84

回答率 44.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は国際問題における地球環境問題の理解を目的としており、到達目標は以下の4点である。

1. 地球環境問題の発生要因とその影響について列挙し、内容を説明することができる。
2. 地球環境問題に関する様々な資料を読解し、整理することができる。
3. 基礎的な知識を用いて地球環境問題の解決策について議論できる。
4. 授業内容について自主学習により自ら理解を深め、レポート作成ができる。

本授業評価において、到達目標の理解（設問5）は4～5評価が90%台であった。過去2年間の授業よりも高評価であったが、4評価の割合が高く、また、自由回答の問16においても、内容が難しい、分量が多い、という意見が見られた。本授業は、昨年度までQ2に開講していたが、今年度からQ1に変更した。その影響で、これまでは受講生の大半が国際教養学部生であったものが、今年度からは総合政策学部、外国語学部の学生が加わり、全体の受講者数も増加した。その結果、地球環境問題に関する知識や、アクティブラーニングの習熟度に大きなばらつきが見られるようになったことが、設問5で評価が分かれた原因であると考えられる。授業の構成や進行速度（設問4）は4～5評価が93%で例年通りであったため、授業内容は現状のままで良いと考えるが、今後も、初学者から習熟度の高い学生まで幅広く対応した授業を心がけていきたい。本授業では、環境問題に関するそれぞれのトピックに各2回分を割り当てており、2回目はグループディスカッションの時間を設けているが、同じグループに様々な学部の学生を含むように工夫することによって、ディスカッションの効果が上がるように調節を行っている。また、初年度から引き続き行っている「授業内容に関連した最新ニュースの紹介」と「授業内での復習と質問への回答」についても好評であった。地球環境問題は現在進行中の問題であるため、今後も常に最新の情報を取り入れた授業を行ってきたい。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読AI（英語）

授業コード 44K05-004

教員名 今泉 邦子

教員コード 019505

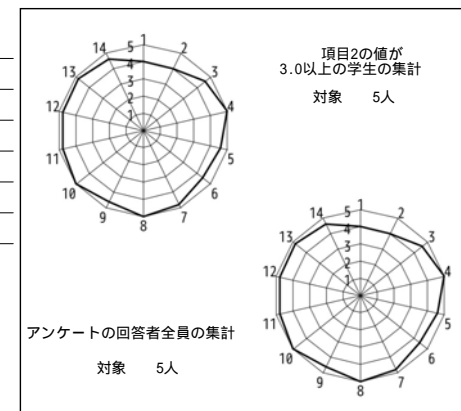
登録人数 5

回答数 5

回答率 100.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

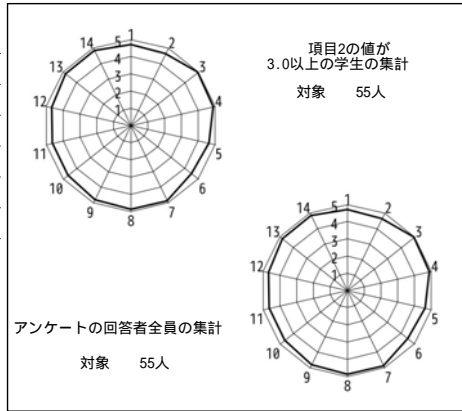
採用した教材は、日本国内の法律上の議論としては新しく、法学部の講義ではカバーしていない社会的企業に関する文献であったため、社会的企業に関して全般的な理解をしてもらうという目標で開講いたしました。受講者の英語の能力開発に関する目標にもばらつきがあるので、学生が海外の新しい情報に接していながら、まったく理解できないまま終わる事態を避けたいとも思っていました。学生の成績評価項目1つとして「社会的企業について、このクォーターの間に理解したこと」をテーマとして提出してもらったレポートでは、授業中に輪読した内容を正確に理解してもらったこと、輪読した内容に関連した日本の事情、デラウェア州会社法にも学生の興味及んだことがわかり、今年度はこの授業を開講してよかったと思いました。また、英語の能力のバロメーターである語彙数を増やしてもらうために、社会的企業法および関連分野における重要な単語熟語等の関する小テストを実施しましたが、高得点が続出し、しっかり勉強してもらったと評価できます。

受講者の努力もあって、教員が設定した目標を達成することができたと考えます。

受講者とのミスマッチがないように、授業内容の事前周知につとめたいと思います。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教職入門1
授業コード	15A02-001
教員名	宇田 光
教員コード	100494
登録人数	57
回答数	55
回答率	96.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



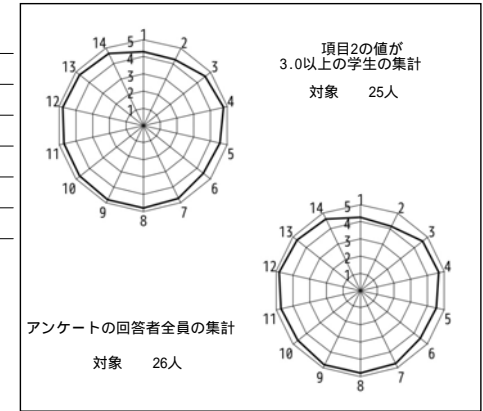
授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程を受講する学生向けの入門科目である。前半がBRD(当日ブリーフレポート方式)を用いた講義、後半がグループ・プロジェクトとなっている。項目1から14の平均値は4.76と、ほぼ良いとの評価である。筆者の例年の数値や、資格科目の評定平均と比較しても大差ない。

自由記述で良かった点の抜粋を以下に示す(いずれも原文ママ)「ただ聞くだけの講義ではないので主体的に参加することができる点。習ったことや調べたことをまとめる力がつく点。/自分で調べる時間や先生からの講義の時間、また内容をまとめる等、メリハリがあってよかった。/解説が丁寧で、配布資料以上の情報や解説が入り、より授業に興味湧くようにしている点」。一方、改善すべきとされた指摘を抜粋すると、次のとおりであった。「レポートの評価基準についてもう少し詳しく知りたかった。/途中トイレとかの退出で紙に書いてから退出しないといけないこと。トイレくらいすぐに行かせて欲しいこと。/教員採用試験対策という側面では、内容が若干薄いというように感じた。/授業終わりの復習問題の回答が聞き取りづらいのももう少しわかりやすいようにしてほしい。」レポートの評価基準は納得を得やすいように示していきたい。また、最後の点については、主要な点のみを口頭で説明してきたが、方法を考えたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校カリキュラム論1
授業コード	15A06-001
教員名	米津 直希
教員コード	104277
登録人数	59
回答数	26
回答率	44.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

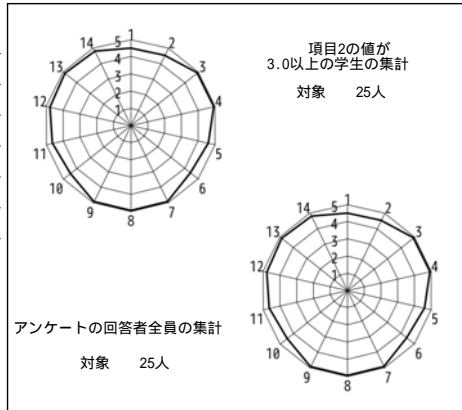
本授業では、a)日本における教育課程のその変遷と特徴、およびb)教育課程に関する重要な概念を学び、c)現代の教育課程をめぐる諸課題について学生が自らの考えを述べることを目標とした。c)についてはレポート等により一定以上の目標に到達できていると考えられる。a),b)については、WebClassを利用した確認テストを実施したが、個人差が大きかった。

数値評価については、時間外の学習を促進すること(問2)、学生に学習の達成感を感じさせること(問5,6)が必ずしも十分ではない。これについては、学生が学びやすくなるような具体的な学習のための情報提供や環境設定の不足を感じている。また、自由記述欄にあった、提出した感想を後で見られるようにする仕組みは考えたい。授業そのものについては概ね良い評価を得ていると感じるため、今後も学生同士の交流を促進しつつ進めたい。

今後は「学習の達成感」を感じさせることに焦点を当ててみたい。学生は授業内の交流等により教育課程に対する知見を深めているはずだが、「学習の達成感」はこれまでの学校経験ともあいまって、(専門的)知識の獲得に結び付いていると思われる。時間外において学習内容の定着ができるようにするため、予備知識獲得のための課題、知識定着の確認のためのテストを、WebClassを利用しつつ行っていく(ICT利用教育を自ら体験することも視野に入れている)。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育相談1
授業コード	15A22-001
教員名	大塚 弥生
教員コード	000065
登録人数	46
回答数	25
回答率	54.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

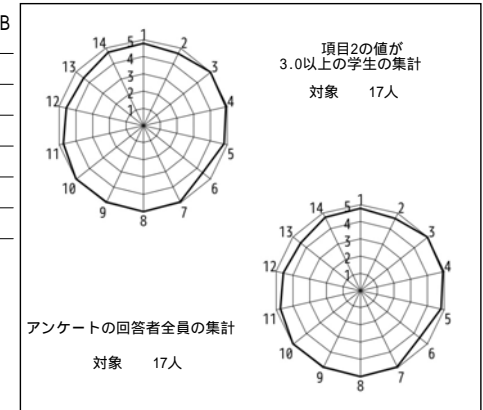
本講義は教職課程の必修科目であり、教員として「教育相談」ができるようになるための知識を獲得するだけでなく、教育相談を行う基礎となる対人関係の構築や、コミュニケーション能力を養うことを目的としている。そのため授業ではグループワークやグループ討議を行い、自己理解と他者理解を深め、対話する力の養成を目指した。この点について、アンケートの評価はすべての項目において4.4ポイント以上であり、特に設問13（新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったか）においては4.88ポイント、設問14（授業全体の満足度）において4.80ポイントの評価を得ていることから、授業の目標は十分に達成したものと考えられる。

自由記述においても、「他の生徒がどのように考えているかを知ることができた」や「自分と他者の捉え方の違いを知るために、意見交流の機会をたくさん設けている」、「話し合いの場が充実していた」など、グループワークで他者と意見交換することが有効であったと言える。また「教育相談」の実際や、児童生徒が抱える困難を理解するために映像資料も多用した。その点についても、「映像などが多く、言葉だけではイメージできないところも映像として見る事で理解しやすくなった」との反応があり、グループワークや映像資料の活用は、今後も継続していきたいと考える。

課題としては、グループワークを行う際のグルーピングの仕方について、検討する必要があると考える。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[FB ]1
授業コード	11A01-001
教員名	TROY, Henry
教員コード	104616
登録人数	17
回答数	17
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



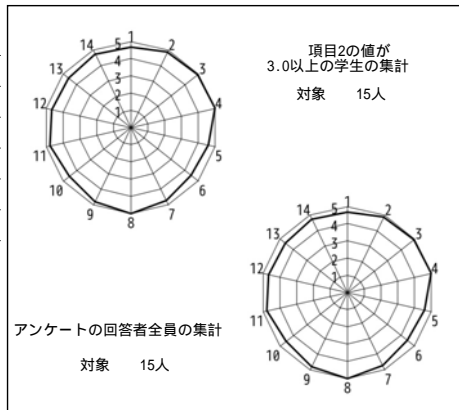
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goals for this course regard improving the students' speaking skills, both for discussion of specific topics and other areas like presentation skills. In both areas I feel most of the students have improved, particularly in terms of their presentation skills.

I am glad that the feedback from students was in general very positive. The averages for all questions were high (above 4 for all, with a lowest of 4.41). The lowest scores, of 4.41 for questions 6 and 13, were about the students' feelings about their own improvement in the class. I am hopeful that the few students that did not feel they are improving will change their views to be more positive as the year goes on. Given this was just the first quarter, there is still a lot of time to improve. As for the student comments, I was happy that the students commented positively on the class atmosphere, frequent opportunities for discussion and the interesting topics. The single negative comment was about the way I spoke, with that student feeling I should speak to them more "normally" and not like they are "kindergarten student". However, another student said they were happy with the way I spoke as it allowed "everyone in the class to understand specifically". This difference in opinions is understandable; this class is actually quite mixed in terms of ability level, despite the fact it consists of the highest placed English speakers. I have therefore made my speaking slightly slower and clearer than last year's class, which was on average more advanced. I will alter my speaking to be closer to natural speed.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[FB]  
]2  
授業コード 11A01-002  
教員名 ELL10TT, Darren  
教員コード 101579  
登録人数 20  
回答数 15  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall the responses from this class were strongly positive, and I also feel that the class is going very well so far. The students appear to be motivated, and the work they are producing generally meets my expectations. I can feel that we are building rapport and I am looking forward to working with this group during the year.

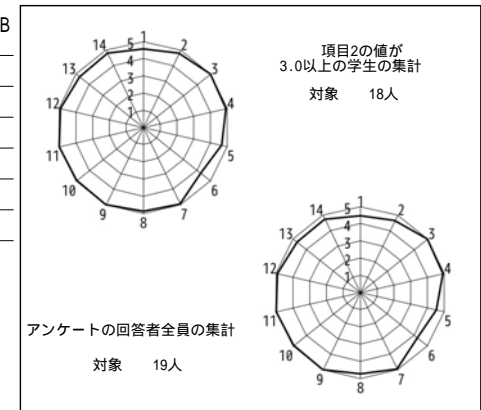
However, although there was no negative feedback, the responses to questions 6 & 10 were the least positive. For that reason I will focus on those.

Q6 (Do you think that you are making solid progress towards achieving the course's attainment target?) - to improve responses here I should be more explicit in linking activities and assessments to the course goals and providing feedback which shows student progress clearly.

Q10 (Did the instructor take appropriate action with regard to behavior that might disturb the class, such as students talking, using mobile phones or being late?) - I tend to take a fairly hands off approach to discipline, as long as students are meeting goals. Perhaps some of the students would expect / prefer that their classmates were held to stricter standards.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[FB]  
]3  
授業コード 11A01-003  
教員名 HOWREY, John  
教員コード 100371  
登録人数 19  
回答数 19  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



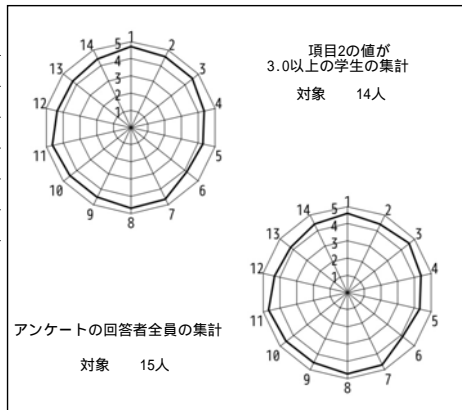
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students reported high levels of satisfaction with the course, particularly with the amount of group work and the COIL project. Student comments are below:

- It was a valuable opportunity to talk with native speakers, so it was good to be able to immediately understand what my English level is and what I am lacking.
- Since there are many opportunities to talk in small groups, such as group work, I feel that I can participate in classes proactively.
- The COIL Project is hard, but it is an experience that can only be done here, and I feel that I have gained a better ability to speak.
- Because of COIL, I was able to gain insights from native speakers.
- I could improve my speaking skills.
- I really like John's teaching style. His teaching leads to my growth, and the stories in class are interesting and make me want to study more.
- I could improve my communication skill.
- The teacher is kind and sets aside a good time to talk in Japanese to check our understanding.
- It was a lot of fun.
- Opportunities to interact with foreigners were provided.
- The teacher's pronunciation is easy to understand.
- The teacher explains things many times to make sure we understand.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[FB]  
14  
授業コード 11A01-004  
教員名 FLORES, Ana Maria  
教員コード 102899  
登録人数 20  
回答数 15  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

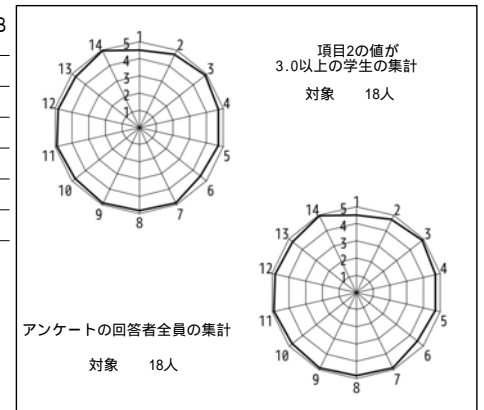


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Taking into account the input from the students, it's clear that we have successfully achieved the course objectives. Moving forward, I would like to create a variety of fresh language-focused activities. These exercises will help students become comfortable with using English not just in class, but also in everyday situations outside.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[FB]  
15  
授業コード 11A01-005  
教員名 TAYLOR, Jamie  
教員コード 104100  
登録人数 20  
回答数 18  
回答率 90.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

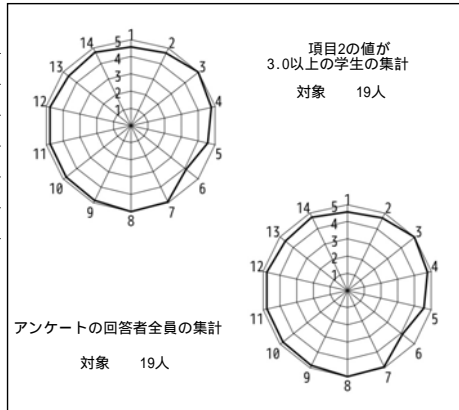


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this class included listening to conversations and short lectures and taking notes, giving self-introductions and 3+ minute talks on general topics, maintaining conversations for over 3 minutes, and carrying out a COIL exchange project with students in America. Overall, this course seems to have met these goals, as all students who participated in final assessments performed well. All groups were also able to fulfill their part in the COIL project. In quarter 2, we will not have a COIL project to work on. Therefore, we will have more time to expand our listening and speaking skills during class time. In particular, we will focus on having longer conversations using a greater variety of strategies to maintain them, listening to more challenging speech, and giving short presentations on more challenging topics.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[FB]  
16  
授業コード 11A01-006  
教員名 CAPITIN-PRINCIPE, Abigail  
教員コード 102955  
登録人数 19  
回答数 19  
回答率 100.0%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

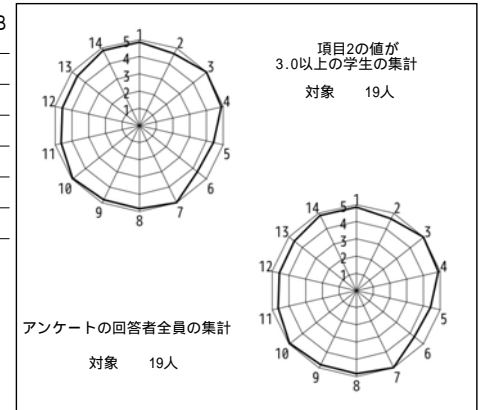


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am pleased to acknowledge that the goals established for the course were largely accomplished. Equal emphasis was placed on various speaking and reading activities, which contributed significantly to reinforcing language acquisition and comprehension, with English consistently utilized as the medium of instruction. Looking ahead to the forthcoming quarter, my intention is to sustain and further develop activities that facilitate students' ease and proficiency in employing the English language. Encouraging the practical application of English in their daily lives will be emphasized. By integrating a diverse range of in-class and online exercises, I aim to bolster language fluency and comprehension, thereby fostering enhanced communication skills in English. I am genuinely appreciative of the students' efforts and their receptiveness to English as the medium of instruction. Their commitment to embracing linguistic challenges has undoubtedly contributed to their progress, and I am enthusiastic about the prospects of continuous growth and improvement in the ensuing academic term. Students will be encouraged to use English more, both in and outside the classroom.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[FB]  
17  
授業コード 11A01-007  
教員名 PEO, Jared  
教員コード 104673  
登録人数 20  
回答数 19  
回答率 95.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



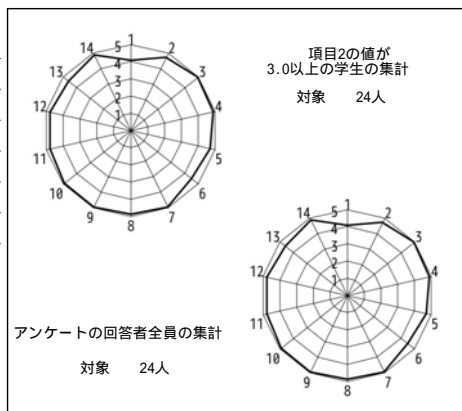
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of the course are the same as other Oral Communication courses. The goal of the first quarter was to build confidence with English conversation and listening. This class is very outgoing and diligent. Thus they are progressing toward the year-end goals.
2. I was happy to see the numerical data for the class, It may be slightly inflated because students enjoyed the class. However, the students' attitudes toward learning is overwhelmingly positive. Thus, I am satisfied with the progress made during quarter 1.
3. In the following quarters, we will continue to improve basic communication skills, presentation skills, and listening. In addition, the class will be introduced to formal discussions, debates, and more complex or deeper topics. The most difficult task is balancing a fair amount of work without overwhelming students. Many of students' other classes have important assignments, projects, or essays due at the same time that we have important activities. If I can, I would like to integrate topics and/or activities from other courses into this one to reduce the workload and reflect the importance of transferring what's learned in one class to other classes.



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[B]  
5  
授業コード 11A01-012  
教員名 MILLER, Adam Lee  
教員コード 104449  
登録人数 25  
回答数 24  
回答率 96.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

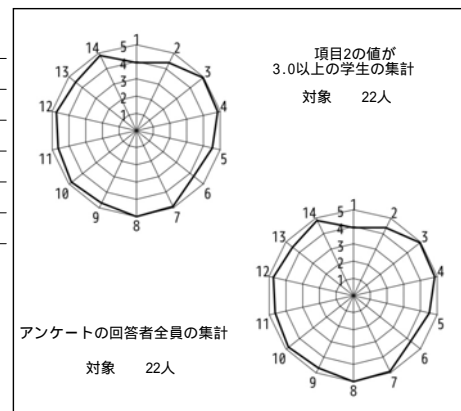


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was very lucky to have such an enthusiastic class and everyone worked very hard on their presentations. We tried to tackle a number of different styles of public speaking, and I think our graded projects went well, and we achieved all of the learning goals that we set at the beginning of the quarter. The poster presentation was possibly a little complicated, but the students all did a great job. The final presentations were brilliant and the audience members listened very carefully and thought of some great questions. I will try and encourage the presenters to engage in more audience interaction in the future, to make the experience more enjoyable for everyone.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[B]  
6  
授業コード 11A01-013  
教員名 DAVANZO, Christopher  
教員コード 101653  
登録人数 25  
回答数 22  
回答率 88.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

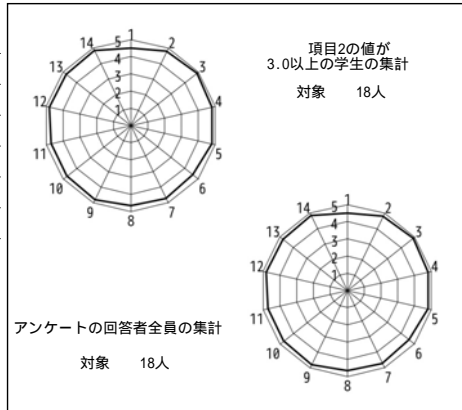


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The students mostly achieved the goals that I set for Quarter 1, and I am very pleased with both the results of this class evaluation and the day to day interactions I have with the students and their progress. Students quickly adapted to the pair conversation format and the multiple active learning activities that I employ in my classroom. From both the numerical data and the comments student wrote, I can see that they liked the learning environment and they felt that their English was improving as a result of it. In addition, the students adjusted well to having a vocabulary quiz at the start of every class. Finally, and maybe most importantly, almost all of the students performed well during their interview tests with their instructor. During Quarter 2, I aim to teach them conversation strategies and provide an active practice environment so that they are able to start, maintain, and finish conversations in a smooth and natural manner. I will also introduce specific topics for them to practice together, with the aim of having smooth timed conversations with one another.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[P]  
1  
授業コード 11A01-020  
教員名 GAGNON, Greg  
教員コード 103474  
登録人数 18  
回答数 18  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

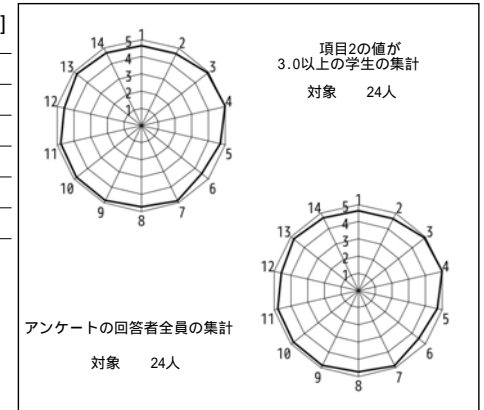


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Amongst the goals set for this course are: give opinions on general topics or ones related to their major and support them; give a 3- to 5-minute presentation in English on a personal or academic topic; and, Identify and summarize the main idea and supporting details from a 1- to 3-minute listening task. These goals have been achieved by means of a modified form of Lincoln-Douglas debate format. In this class, I have sought to encourage students to express their opinions, giving them tools to express themselves. Students have reacted positively to this class. The overall average rating of the class is 4.5 / 5.0. As for question 4, about the lesson structure, a 4.83 / 5.00 was achieved. Question 5 which asks about class goal comprehension, a 4.83 / 5.00 was also achieved. Class satisfaction was also a 4.83 / 5.00. I also asked students to give me their ideas for class improvement. I was asked to include more light hearted topics for debate, as a balance to the serious ones I have used. I was also asked to give more feedback and pushback to my students. I have incorporated both of these critiques into my current teaching of the class, and intend to do so for future P1 classes.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[P]  
6  
授業コード 11A01-025  
教員名 LOTT, Danielle  
教員コード 103593  
登録人数 24  
回答数 24  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

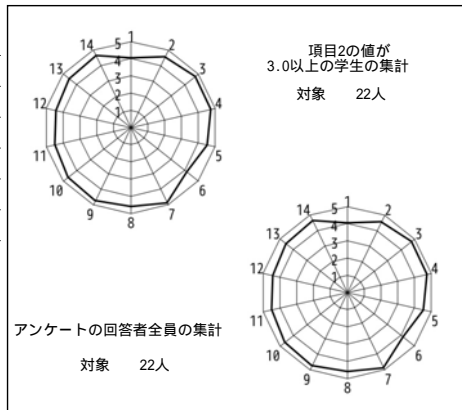


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) My goals were to give comprehensible input on strategy use and vocabulary connected to the topic, to give instruction on communication strategies, to give students lots of opportunities to use the strategies, and then to have students self-assess their improvement with the speaking test and final report. I also wanted to assign imaginary dialogues that students would write for review, and lastly, I wanted to do less frequent formal assessment.
- 2) Based on the positive results of the numerical data, students are satisfied with this course. A few students said that they wanted me to explain more clearly. However, more students said that I explained things well and clearly. In addition, one student asked that I write instructions on the board in Japanese. I already write instructions on the board, and I cannot/will not write or explain in Japanese.
- 3) I will continue as I have been doing and make sure to explain clearly.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[P]  
11  
授業コード 11A01-030  
教員名 TIDMARSH, Andrew  
教員コード 104101  
登録人数 23  
回答数 22  
回答率 95.7%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

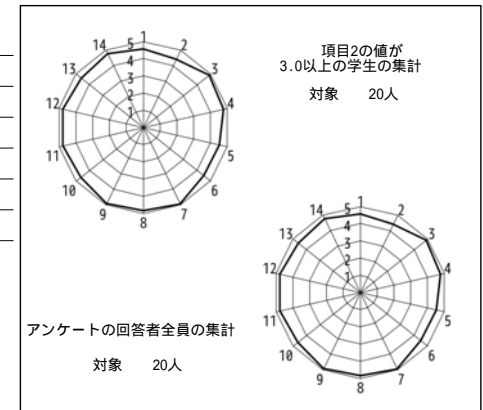


授業評価結果を踏まえた点検・評価

In this class, the goals were not set too high because it was the first time to get used to the levels system at Nanzan. The course aimed to establish a solid conversational framework that we can build on for the rest of the year. The students, for the most part, reached these goals and are in good shape for the coming quarters. Many students are getting used to having a class entirely in English, so they worry about the details of homework. Sometimes it was not sufficiently clear for them without clarifying with me later, so from Q2 I will be using Schoology to manage homework materials, which makes things easier as students can check again anytime.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[FB]5  
授業コード 11A05-005  
教員名 ZONI UPTON, Jessica  
教員コード 104815  
登録人数 20  
回答数 20  
回答率 100.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

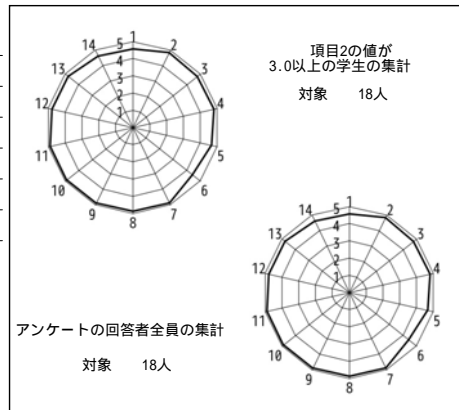


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goals were to learn the basic format and styling of an essay, to be able to discuss topics with classmates to find supporting ideas, to learn how to give and receive constructive feedback, to practice extensive reading outside of the class and to gain skimming and analyzing skills through practicing intensive reading in class. I believe I was able to cover most of the goals that were set at the start. The majority of students could produce two essays in correct format and with enough content. Students commented that they had many opportunities to discuss with peers, and I believe that contributed to better understanding, and better essay content. One comment mentioned that the one-on-one advice for essay drafts can sometime take too long so I will make sure to provide written feedback beforehand, leaving time only for the most important feedback or any feedback that the students didn't understand. That way, all students will receive the same amount of time. Next quarter, I will provide more time to discuss the essay topic in class, and will reduce the number of extensive reading reports since students will challenge more difficult books and will need more time.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[FB]6  
 授業コード 11A05-006  
 教員名 ELMETAHER, Hosam  
 教員コード 104289  
 登録人数 19  
 回答数 18  
 回答率 94.7%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回



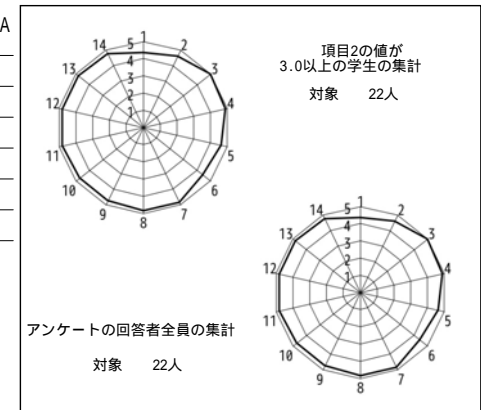
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, I have taught various English subjects, each with a different specific teaching goal; overall, the main goal is to develop students' academic and communicative English skills. I have developed and used my own teaching materials (e.g., a new multifaced receptive vocabulary knowledge test). Students were always well-informed of their academic progress through feedback on their weekly homework, quizzes, progress tests, and final tasks. My classes were always within the designed course syllabus and planned objectives. Students were encouraged to provide feedback in the evaluation of my classes. My teaching materials worked well and the students enjoyed the classes while demonstrating an overall improvement in their English language skills.

For this specific class evaluation, the class was designed to develop students' academic reading and writing abilities. The students have worked on different weekly assignments. Assignments include integrated reading and writing tasks, vocabulary quizzes, progress tests, Mreader, and final writing project. Group and individual feedback were provided through both Webclass, individual and peer conferences, and writing circles. Based on the class evaluation, students very much enjoyed the class and have confirmed their reading and writing skills development. For the next quarter, I aim to create several PowerPoints on essay writing to further support their progress.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]2  
 授業コード 11A09-016  
 教員名 KUMAI William N.  
 教員コード 000204  
 登録人数 23  
 回答数 22  
 回答率 95.7%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

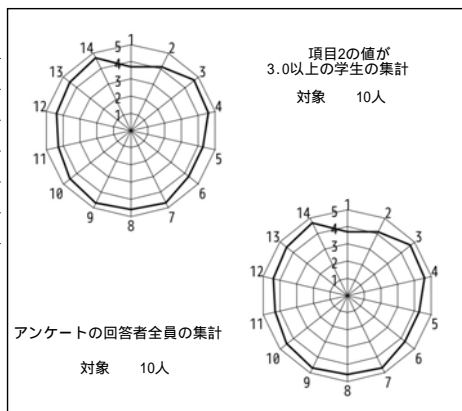


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals for the first quarter were mainly building a language community and improving students' pronunciation (and other expression skills). The students have become comfortable in expressing themselves in English with each other, thus accomplishing the first goal; the students' comments indicate they appreciated the pronunciation and expression skills work, which indicates success for the second goal. The class had three major presentations, the first two being a partner profile presentation and a class profile presentation. These address the language community building aspect. The third presentation had students form groups and give an oral interpretation of one English song and one Japanese song of their choice. This presentation pulls together lessons learned in pronunciation and expressing emotions. In addition, students had regular extensive reading assignments and a hybrid long-term reading/listening assignment using "Charlotte's Web." The numerical data shows a high degree of satisfaction with the course. The weakest points are related to class goals, but perhaps "language community" is an abstract concept from applied linguistics that is difficult to grasp easily.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[T]  
7  
授業コード 11A13-015  
教員名 加藤 尚子  
教員コード 103630  
登録人数 22  
回答数 10  
回答率 45.5%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
開講当初に設定していた目標では英語の苦手意識の軽減、会話力の基本の向上、プレゼンテーション力の上達でした。英語の苦手意識は少しの向上が見られたと思います。そして、プレゼンテーション力上達では、人前で話すという状況に慣れてきた様子ですが、まだ、アイコンタクトをとることの難しさが、今後の課題となっております。また、会話力では自分の意思を伝えるということに関しては少しずつ上達してきていると思われます。ただ、意思疎通の向上のための語彙力と言い回しを、効果的に身に付けるアクティビティの必要性を感じました。

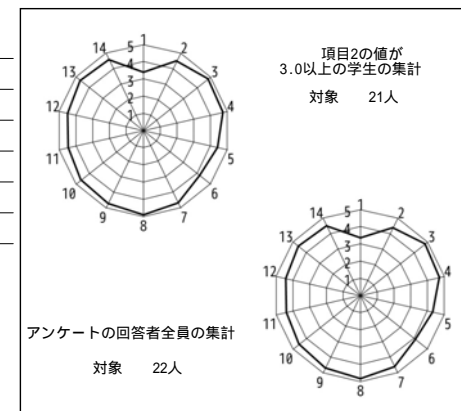
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

今回は自由記述はありませんでしたが、統計を拝見しましたら、学生の中のこのクラス自体に対する興味というのは最初は少し低めでした。それでも、少しでも中立的な姿勢に変わってきていると思われる。その一方で、英語に対して消極的な傾向もまだ残っていると思われる。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
英語を教科としてだけでなく、習得する達成感を体験できるように授業の向上に力を注いでいきます。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリーディング<全・T>5  
授業コード 11A23-005  
教員名 中田 晶子  
教員コード 055624  
登録人数 24  
回答数 22  
回答率 91.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は全学向け選択科目で、高度な英語の読解力を身につけることが目標である。適切に内容を理解する力と批判的思考力を身につけ、アカデミックな語彙を増やすことを目指した。「到達目標の理解」は4.32、「到達目標の達成」は4.09だった。達成度の自己評価が厳しめであったようだが、最終成績からは85%ほどの学生がおおむね目標に達したと判断される。

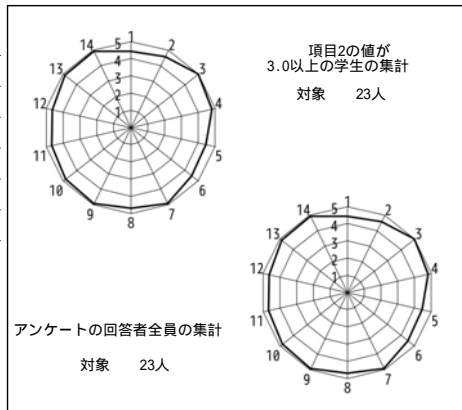
項目1から14の平均が4.58、3から14の平均が4.50、「知識・理解の深まり」が4.59、「全体としての満足度」が4.50となり、数値的には学生にとってある程度以上満足できる授業となった模様である。「授業への興味」が3.36と低かったが、「授業への取り組み」は4.36であり、あまり期待せずに登録したが講義が始まってからは真面目に取り組み、成果も感じられたということであろう。

自由記述では、良かった点として、授業の進度や課題が適切だった、説明が理解しやすかった、テキストのテーマである現代美術について深く学べた、ビデオや画像の資料が興味深かった、グループワークが良かった、プレゼンテーションがよい経験となった、があげられた。衝撃性の高い美術作品を扱った箇所をはずした配慮を評価するものもあり、判断が誤っていなかったことを知った。改善点の指摘はなかった。

前回評価の対象となったリーディングのクラスでは、授業に出席し、通常の課題も提出しながら、最後の方で力尽きて諦めたいケースが見られたが、今回は、全員が授業のまとめとして実施するプレゼンテーションを行い、定期試験レポートも提出し、単位を修得した。「積み上げ型」の評価方法について、クォータの初めだけでなく、中盤、後半に繰り返し説明した効果であれば喜ばしい。今後も続けたい。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語I <H> 1  
 授業コード 11B01-001  
 教員名 OLIVERO, Regis  
 教員コード 104119  
 登録人数 25  
 回答数 23  
 回答率 92.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

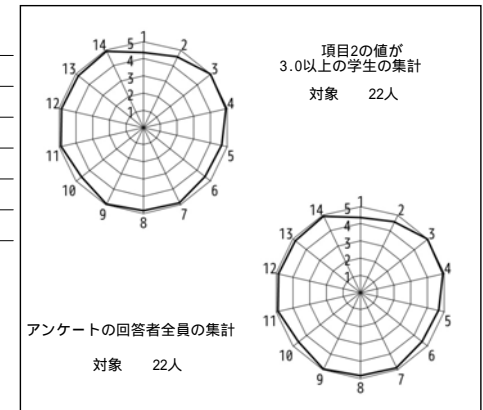


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class went well, the students seemed to appreciate the content of the course and were willing to perform tasks and work with each other.  
 They were motivated as usual in the Q1, most of them were total beginners in French and they responded well to my demands.  
 We were able to finish the program on time for the Q1 final test and I also had the time to do an oral test and to ask the students to do recordings and tasks in class. The homework were also seriously done and the lessons were thoroughly covered.  
 According to the data, they seem to be pretty satisfied with my lessons and the way I teach.  
 I have always tried to make the lesson interesting and useful to them.  
 The manual provides a lot of interactive activities and I believe that it contributes to the good atmosphere and work in the group;  
 In the next quarters, i will ask them to be more active when it comes to oral expressions and will provide activities and assignments for that matter.  
 They usually react well when it comes to interaction and work in group. They are now used to each other therefore that is the perfect time to make them more active and autonomous.

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語I <E・B>  
 授業コード 11C01-007  
 教員名 KOISEGG, Karl  
 教員コード 103972  
 登録人数 32  
 回答数 22  
 回答率 68.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

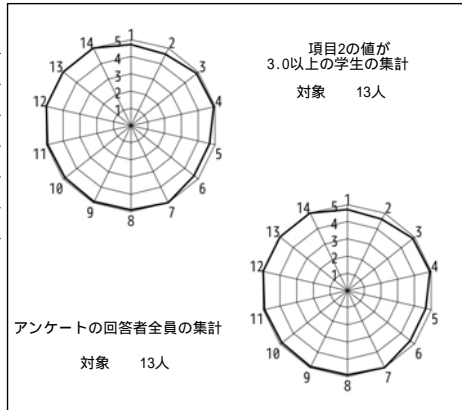


授業評価結果を踏まえた点検・評価

When I received the result of the survey, I was pleased with it. It seems that I could make a positive impact to the students. For me as someone who teaches, it is good to know, that students are not afraid to ask questions if they don't understand. Usually after explaining a point, I tell the students to help each other and ask each other if they did not understand. While students are consulting one another, I usually walk through the class and if an individual student has a question, I try to help the student with an additional explanation. Sometimes I receive questions that are relevant to the whole class, so it is really beneficial to give students time to make sure that they understand. I think it is important to use language as a tool for communication. I always give students the opportunity to actually use it by asking questions, creating questions and answering questions etc. In Q2 and in the future, I will try to stay motivated and positive in order to give my students a good learning experience.

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語I[FS]2  
 授業コード 11D01-006  
 教員名 MAYORAL MUNOZ, Miguel Angel  
 教員コード 104658  
 登録人数 13  
 回答数 13  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



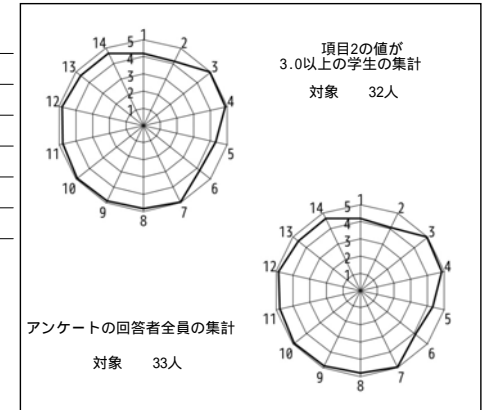
授業評価結果を踏まえた点検・評価

In terms of class management, the goal of the course during the Q1 was to create a free class environment where students could acquire language and apply the language they acquired through conversations and through interactions with other students and the teacher. I also set as a main goal to make students reflect on their own learning process, allowing them to identify and to get conscious of the language they needed to express the messages they wanted to convey. The main point was, in terms of contents, to cover a body of language orientated to real oral communication in opposition of covering grammar paradigms. From the data of the survey and from the students comments I deduce that students have the feeling they are "learning" language more than being "studying" language. For what I am very happy.

During the nexts terms my goal will be to motivate students to keep adding new language to what they already achieved, despite of the natural tiredness debt to the load of assignments, new grammar and vocabulary the have to face during the academic year. I will encourage them to keep learning in a consistent way, following their own learning pad and my rol will be mediating and helping them to follow that pad.

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語I <J・P>6  
 授業コード 11F01-024  
 教員名 趙 偵宇  
 教員コード 104640  
 登録人数 33  
 回答数 33  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



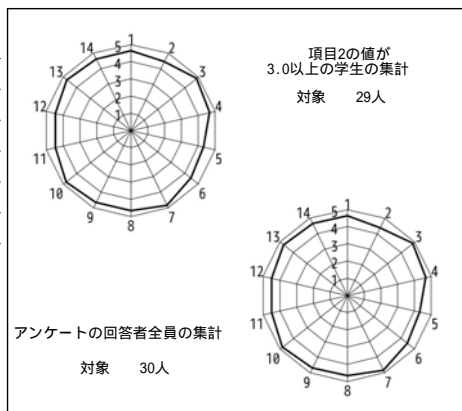
授業評価結果を踏まえた点検・評価

について  
 本授業の到達目標は、中国語の基礎単語の習得、及び正しく発音・聞き取ることである。教員から見ると、おおむね達成できたと言えると思う。

及び について  
 第13項目及び第14項目は4.61と4.64であり、去年Q2の4.82と4.86より低下しました。ゼロから学習するQ1だからかもしれないが、さらに身を引き締めて授業に臨みたいと思う。ただ、第7項目は満点に近い4.97であり、自由記述にも「生徒の進度を毎回確認しながら授業をしてくれることで、遅れの出る生徒が少なくなって良いと思った。」「小テストや発音練習などの能動的な学びを重視しているよう感じた」「自分の中国語の発音が正しいかどうか分からなくて不安だったが、定期的に先生と1対1または1対2で発音確認をしていただけたので、疑問点が解消されてよかった。先生も優しく気さくな方で、授業を楽しく受けることが出来た。」「先生が非常に親切で柔和な人だった。先生が日本語話者なので問題なく聞き取ることが出来た。」「一人一人個別に発音を聞いてくれた点。一対一で聞いてくださるため細かい部分まで間違いがわかる。中国語は発音が難しいと言われているため、細かくわかるのはありがたい。」などの意見が多々あるため、今後も引き続き「楽しい」「わかる」授業を目指したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育文法(初級)
授業コード	24C61-001
教員名	町田 奈々子
教員コード	017483
登録人数	33
回答数	30
回答率	90.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のQ1の学生評価も全般的に良好であった。総合的に開講主体平均より高い値となり、目標は概ね達成されたと考える。特に高く評価された点としては、授業に対する誠実な姿勢(7)や授業運営に関する項目(3)(10)、知識や理解の深まりに関する項目(13)などである。

今年度の新しい試みとして、テーブル席とし、毎回グループのメンバーを変えて例文や文法に関する意見交換ができるように工夫したところ、自由記述にはグループワークに関する肯定的な意見が圧倒的に多かった。「毎回メンバーが異なるので、他学部多学年の様々な人と意見交換ができ、興味が深められた」「意見共有できたことで自分の回答や意見に自信がついた」「グループワークで交流を深めながら、学びを深めることができた」等、日頃は授業中に質問をしない日本人学生達も実は交流を通じての学びを求めていることが明らかとなった。また「文法を教えるだけでなく、例文作りや会話練習を多く実践できたことが理解に繋がった」「難しい内容も言葉を変えて何度も説明してもらったのでわかりやすかった」「予習ができるようにしっかりとプリント教材が準備されていた」等、今年度も授業方法に関するプラスの評価が多くあった。

今学期は、ジャパンプラザやステラでの留学生の日本語を観察する自由課題を再開したが、優秀なレポートが多く見られ、学生のモチベーションを高めることに役立ったようで嬉しい。留学生との更なる学問的な交流に繋がってくればと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(集団スポーツ)バスケットボール
授業コード	14E02-002
教員名	飯田 祥明
教員コード	103610
登録人数	11
回答数	4
回答率	36.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目の到達目標は、バスケットボールのルール(5人制および3人制)を理解している、チームでの自分の役割を理解している、バスケットボールの基礎的技術とゲームにおける戦術を実践できるの3つであった。ルールの理解に関しては、非常にスムーズに学習が進み、序盤から問題なく試合形式の活動が多くできた。役割の理解に関しては、レポート課題で現代のポジション定義について調査をしてもらい、自身の適正ポジションを考察してもらったおかげで、終盤には達成できたように感じる。基礎技術と戦術の実践についても回を重ねるごとに完成度が増し、終盤ではチームオリジナルの戦術を実践し、楽しめる段階にまで達していた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

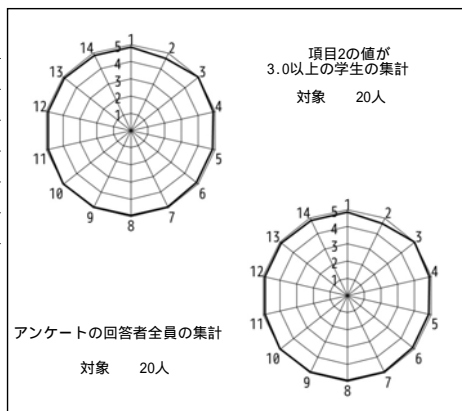
回答数は少なかったものの、4つの項目が4.75、ほかの項目は全て5と非常に評価と満足度が高かった。自由記述にある「話を長々とするよりも、実際に体を動かす時間を多くとって下さり、ありがたかった。」というコメントは、運動の実践の中で自ら考え気づきを得てもらう学習形態が成功した結果であると思われる。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
受講人数が少なく、5対5の正式なゲームができない回も多かったが、ここ数年取り組んでいる3x3をうまく取り入れることで良い授業が展開できたように感じている。今後は、3x3から5対5への移行段階について授業研究を行っていきたい。



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(フィットネス)フィットネス
授業コード	14E06-003
教員名	加藤 孝基
教員コード	104117
登録人数	28
回答数	20
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標については、多くの学生が概ね達成できたと考えている。当初設定した到達目標1~3を、主に期間前半に習得し、期間後半では、到達目標4の実践力を育むため、受講生が主体的に企画を行う「運動会」を開催した。受講生同士が積極的にコミュニケーションを図り、計画、立案、そして実践することで、その力が養われたと考えている。

項目2以外、全て4.85点以上であったため、総合的に多くの学生が本授業を好意的にとらえたと考えている。

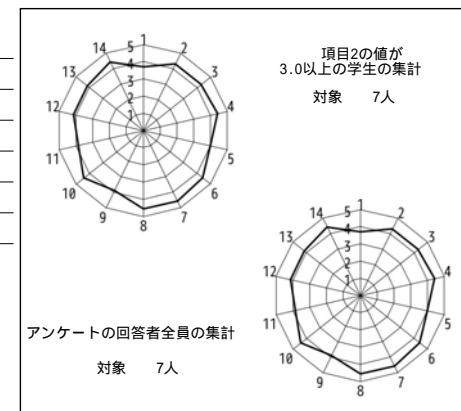
とはいえど、体育関連科目は、比較的点数が良く集計されることが多いため、この結果に満足することなく、より授業運営の改善を図りたい。

特に、項目2については、受講生がより意欲的に予習や復習を行えるよう、工夫したい。

本授業では、人体・健康をテーマにした知識の教授や、トレーニングルーム内のマシン等を用いたフィットネス関連の実技授業をメインに行った。また、後半では、実践する力を身につけるために、屋外グラウンドにて受講生が主体となって企画・運営を行う運動会（と称する身体運動・スポーツの対抗戦）を行った。概ね当初の授業目標が達成できたと感じているが、一部コミュニケーションが苦手と思われる受講生もいた。すべての受講生が満足いくよう、一人一人に対して丁寧にコミュニケーションを図るよう努めたが、今後も受講生が満足いく授業を行えるよう、最善を尽くしたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地誌概論
授業コード	12B11-001
教員名	岡本 耕平
教員コード	049502
登録人数	27
回答数	7
回答率	25.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

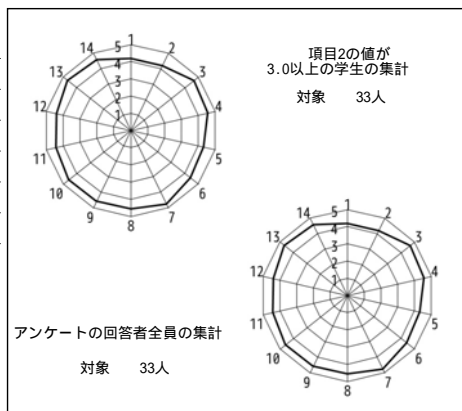
今年度のこの授業は、これまでと異なり受講者が全員4年生で、最終的な受講人数は24人であった。第1タームであったので、就職活動等での欠席が多く、毎回の出席者は少数に限られていた。設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」の平均値は全科目平均値以下、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の平均値は、全科目平均値以上で、理解に苦しむが、設問6に対し全員が「4」か「5」を付けていたので、学生さんはそれなりの到達感をもったのだろうと判断している。

全体的には例年に比べてどの項目も評価が悪かった。特に設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」の平均が3.71で特に低い。興味はないが、4年生になって単位不足のためにしかたなしに履修したのであろうか。興味がない学生が多い割には、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」の平均は4.43で、30名以下の授業の平均4.56は下回ったが、全授業の平均4.34は上回ったので、まあまあということか。いずれにせよ、興味のない学生に興味をもたせるほどの授業ではなかったということだろう。自由記述は1件だけあり、それは設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対して「ただ文章があるだけのレジュメではなくて、地図やグラフ、写真等の資料の多いレジュメで授業進行していた点。少人数だったのと授業に慣れた4年生しかいないことで、発言の機会が多くても気楽に受講できた点。就活の忙しい4年生への理解があった点。」とのコメントであった。うれしく感じた。

今回4年生しか受講者がいなかったため、来年度にはこの科目は開講されないと思うが、もし開講されれば、設問1での評価が高まるような、興味を持たれるような授業にしたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(アフリカ)  
授業コード 22C47-001  
教員名 山口 亮太  
教員コード 103824  
登録人数 95  
回答数 33  
回答率 34.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
本講義で設定していた目標は、以下の通りである。

1. アフリカがたどった歴史と文化について、関心を持って情報収集することができる。
2. アフリカの諸地域が置かれている状況を把握し、現代的な課題とその背景について自分の言葉で説明することができる。
3. 自らがアフリカを眼差す視点について自覚することができる。

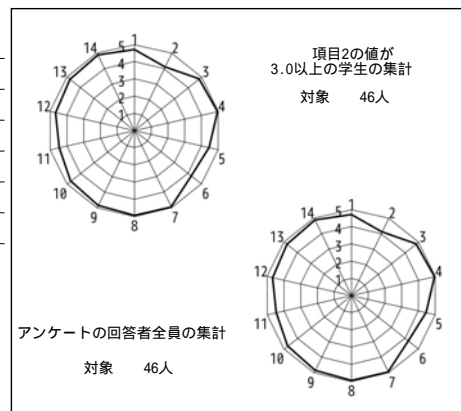
各回に課したコメント課題や期末レポート課題からは、1. と3. の点に関しては概ね達成できていることが確認できた。これらについては、講義中に再三説明を行ったことも影響していると思われる。2. については、参考にしたウェブページや資料の論調をそのままぞっている場合や、議論の組み立てそのものを流用しているケースが散見された。

数値データは、開講主体全体の値と比較しても特段に差異は見られない。自由記述には、映像、写真、写真集といったビジュアル資料を用いた点を評価する声が多かった。多くの受講者にとって、本講義で扱うアフリカの人びとはテレビやインターネットなどの限られた媒体・機会を通してしか触れられない存在であることが予想され、日常生活についてのイメージが欠如していると考えられる。上記のビジュアル資料は、そのような情報とイメージのギャップを埋めるものとして作用したといえるだろう。

今回の講義でビジュアル資料の有効性が確認できたため、次回以降はより積極的に映像や写真を導入していこうと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント1  
授業コード 23C62-001  
教員名 井村 安之  
教員コード 048439  
登録人数 50  
回答数 46  
回答率 92.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

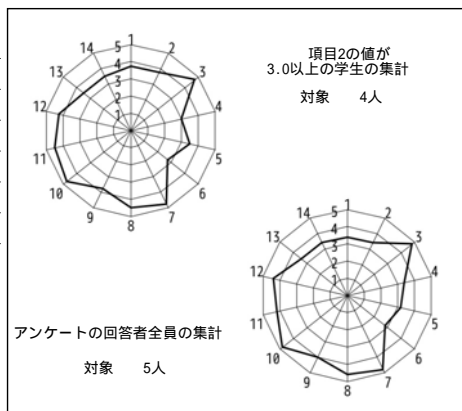


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の結果から全体的には比較的良好な評価を得られたようである。授業にはかなりのエネルギーを使ってきたので、私自身は、率直に嬉しく、達成感も得られることができた。一方、学生もある程度満足感を得られたようであるが、これまでも課題であった「到達目標」についての項目が低得点となっている。今回は「到達目標」を明確にすることを意識して、授業の中で提示する機会を増やしたが、あまり効果はなかったようであり、今後、より一層、授業の目標を明確にすることで、何となく授業で満足感を得られただけでなく、達成感も得られるようにしていきたい。評価の方法も、最終レポートのみでの評価ということでやってきたが、その都度、レポートを課した方が、取り組むべきことに集中しやすいかもしれない。また、できれば予備知識なしで心理検査をまず受けてみるという体験を大切にしていることから、予習はしないようにとは伝えているが、それが主体的な学びを妨げているところもあると思われるので、授業の復習や体験した心理検査のさらなる学びのためにも、やはり、その都度、心理検査のレポートを課していくことが主体的な授業への取り組みにつながっていくのではないかと考えているところである。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 からだとことばI  
授業コード 24C06-001  
教員名 土谷 薫  
教員コード 064352  
登録人数 25  
回答数 5  
回答率 20.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

初回のオリエンテーションで、授業を選択した理由などを述べてもらうことがあるが、当然ながら理由はさまざまである。授業内容については、事前に想像がしにくいいため、始まってからとまどう学生も少なからずいるようである。とまどいながらも参加し続け、少しずつ自分の「からだ」や「ことば」に変化を感じる学生もいる。

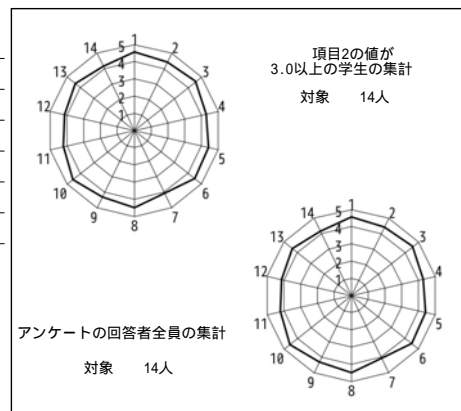
今年度は、授業者からの提示（教示）を意識的に少なくした。それは学生が（正解を求めるのではなく）自ら感じ、考えることを大事にしたいと考えたからである。しかし、授業評価の結果をみると、やはり何をどう学ぶのか・雲をもつかむようでわかりにくい・という反応であった。

教材も何もなく、ただ「からだで学ぶ」ということだけを行っていく授業に対して、興味やモチベーションが一人一人異なるのも当然かもしれない。

次回に向けてできることは、今まで以上に学生との対話を丁寧に行い、一人一人の学生と人としてまっすぐに向き合っていくことだけである。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文章表現法1  
授業コード 24C08-001  
教員名 北田 雄一  
教員コード 104314  
登録人数 39  
回答数 14  
回答率 35.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

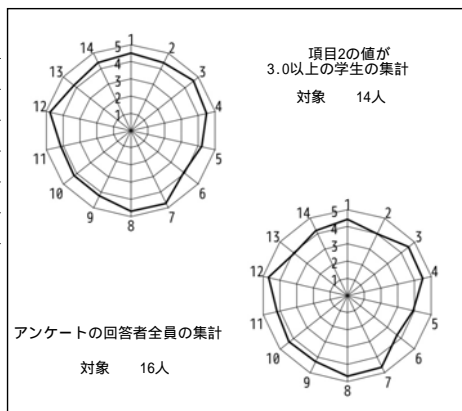
本講義は一年生から四年生を受講対象として開講しているが、去年は四年生と思われる学生から講義内容が初歩的過ぎるという不満の声があった。しかし、今年は一年生から文章表現の初歩から始めていることに安心したという回答があった。

本講義の受講対象は幅が広く受講生の学年比率も毎回変化するが、基本的には一年生を主要な受講者像に想定してシラバス、レジュメ、課題を設定すべきであろうと考える。課題の提出にはWebclassを用いているが、Webclassを用いた課題の提出の方法についても簡単に指導しておくことが必要であろう。当然のことながら二年生以上の受講生から不満が出ないように適切な課題設定を行う予定である。

本講義の一番の特徴は主に新聞記事を読み、1000字から1200字程度のレポートを提出させるだけではなく、それに添削を加えて返却するという点にある。受講生にとっては文章添削があることに対する喜びが多数寄せられているので、負担は大きいですが、今後も添削作業をしっかりと遂行していきたいと考える。卒業論文まで使える文章作成の型と文章力養成をこれからも行っていきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 和歌文学研究  
授業コード 24C28-001  
教員名 伊藤 伸江  
教員コード 103266  
登録人数 46  
回答数 16  
回答率 34.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

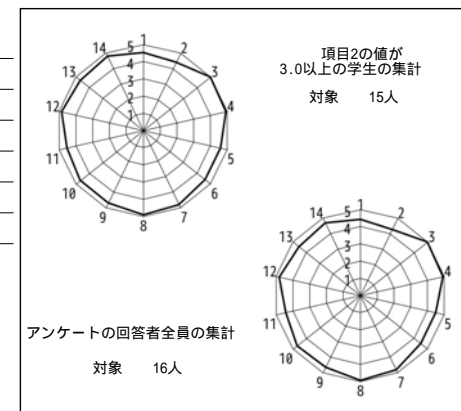


授業評価結果を踏まえた点検・評価

和歌文学研究の講義は、日本文化の重要な柱をなしている詩歌、和歌文学の理解と探究のために、歌人藤原定家の自撰である『定家卿百番自歌合』を題材に選んでいる。学生が、日本の詩歌のあり方を学び、そこから日本文化の特徴を感じ取り、考察し、自らの言葉で表現しようようにすることを目標においた。毎回、歌二首を取り上げて、三十一文字の定型の制約がある中で、どのように多くの内容を盛り込む技法が使われているか理解を深め、同時に歌壇史、歌人伝、歌論、作品の伝来など和歌文学に関して学ぶ必要がある内容も示した。配布資料には、意識して取り組めるように各回に取り組みべき目標を示し、講義内容に関しては、リアクションペーパーで感想・疑問を書いてもらい、そこから難解であった箇所を見つけて、次回に説明するようにした。数人分のペーパーが示され、疑問に対する説明があることで、友人が何を考えているかに意識が向き、自ら考え、それをまとめるという積極的な態度へと自然に向かう様子が見られ、知識を得た上で、それぞれの学生が自ら考えていくという講義目標を達成し得ている。今後資料のさらなる見やすさを意識すると共に、学生からも好評であるリアクションペーパーの充実を図りたいと考えている。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近世文学研究  
授業コード 24C36-001  
教員名 三宅 宏幸  
教員コード 103077  
登録人数 50  
回答数 16  
回答率 32.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は江戸時代後期に活躍した曲亭馬琴の読本を扱い、読本というジャンルの特徴や作者の工夫について分析していく講義科目です。江戸時代の日本では出版文化が栄え、書物などから知識が伝播しました。それらの知識を引用しながら、馬琴の読本は著述されています。馬琴が中国小説や軍書、演劇、神話などを縦横無尽に活用することについて、理解を深めました。

本科目の到達目標は、馬琴読本の性質やその読み方について、挿絵の重要性について、作品の構想や工夫について理解することを目指しました。なかなかなじみの薄い江戸小説を扱い、また様々な既存作品を利用する方法、挿絵が持つ特性など、内容が多岐にわたって難しかったと思いましたが、受講生の皆さんの意欲が非常に高く、毎回のコメントシートやレポートも高水準でした。

授業アンケートでは「論文やレポートを書く際に気をつけるべきこと」について解説があったことが評価され、また、毎回のコメントシートで「質問や分からないことがあったら気軽に聞くことができた」点も評価されました。これは教授者の私だけでなく、受講生の皆さんの高レベルのコメントシートがあってこそだと思います。「紙でリアクションペーパーというのがアナログでやりやすかった」というご意見は興味深く、デジタルで入力するよりも、アナログの方が講義内容の整理がしやすいのかも感じました。今後も続けたいと思います。

2ヶ月間、ありがとうございました。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語の音声教育
授業コード	24C69-001
教員名	金村 久美
教員コード	104428
登録人数	5
回答数	2
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回のアンケートでは、履修登録者5名（うち失格者1名）中2名からの回答を得た。

2名の回答中、5点満点中4の評価があった項目は、設問3、4、5、6、11、12、14（いずれも同一回答者）であり、それ以外は5点であった。

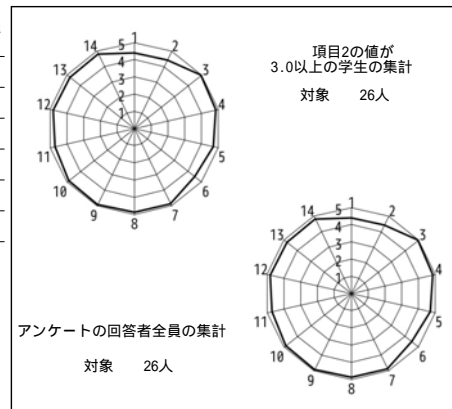
また、上記の4の評価をした回答者は自由回答の記述があり、「もう少し受講人数が多かったら、もっと意見交換をする機会があって理解が深まった」という意見を寄せてくれた。

上記の回答状況より、今後改善したい点は、到達度の設定及びそれに向けたシラバスの改善である。当該科目は、音声学などの基礎知識や日本語教育の実践経験の有無によって、内容理解の前提となる知識の量が大きく異なる科目である。これらの前提知識がほとんどない学生が履修することもあり、到達度の設定が難しい。この点の改善のため、今年度は実践的なレポート課題を課し、これを執筆することを目的とし課題提出前に内容指導を行えるシラバスとした。

しかし、指導内容が多くなり授業の終了時間が遅れたり、サポートが十分でなかった面もあったと考える。この点につき、次年度にはレポート課題の出し方を工夫し、前提知識のある学生もそうでない学生も一定レベルに達することができるよう工夫したい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies B2
授業コード	31B05-002
教員名	PURCELL, William
教員コード	016501
登録人数	50
回答数	26
回答率	52.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

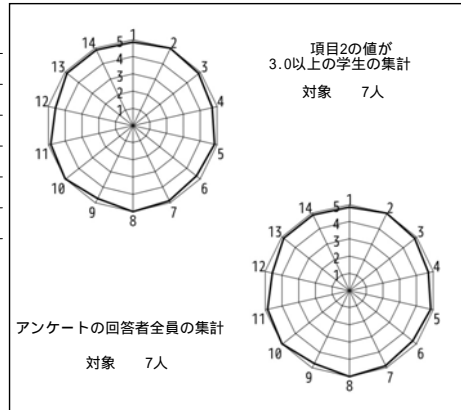
The primary goals of this course were to teach students to read fiction more perceptively and reflectively, and to provide the students with deeper insights into the experience of Japanese Americans in the pre-war years. Both goals seem to have been achieved.

Several students mentioned that the lectures helped them to better understand how to read fiction as an exploration of the human condition and how to better recognize symbols and metaphors in fiction. Others appreciated the practical historic knowledge about the Japanese American experience. I was a little disappointed that only 26 of the registered 40 registered student took time to respond to the evaluation, but I assume those who did respond were interested.

Thinking to the future, as always I am challenged with how to better get the students to respond freely and to offer opinions and interpretations. In the Japanese classroom this is the perpetual challenge. I am also constantly thinking of ways to further incorporate small group discussion, since many of the students seem to find that portion of the class most interesting.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語I[FS]1  
 授業コード 11D01-005  
 教員名 HOPKINS Mariella  
 教員コード 103653  
 登録人数 14  
 回答数 7  
 回答率 50.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

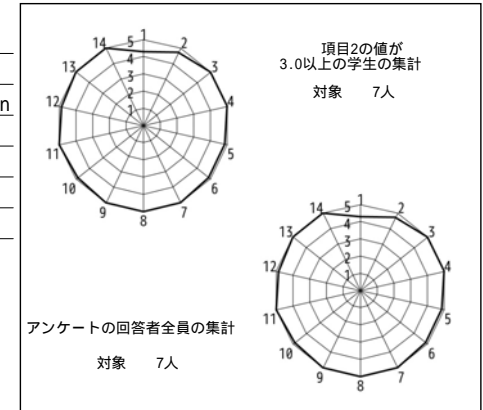
(1) The objectives set at the beginning of the course were shared with the students through the respective agenda, as well as a schedule of dates and a detailed class schedule so that the students knew in advance what we would study in class and what the respective homework would be. each class. which allowed students to have better control of activities in class and activities at home and see the degree of achievement.

(2) In relation to the general self-assessment, we can highlight that the class objectives were met according to the standards of individual participation, participation in pairs and group participation that allowed us to see the development with the use of language in certain circumstances. In relation to the self-assessment related to the questions of this evaluation, question 11 on the opportunities for consultation and guidance, we see the need to improve with a period of time for this specific topic.

(3) Thinking about the next quarter we will implement continuous improvements so that students can fully feel their progress. It is very important to constantly renew language learning strategies and share them with students so that they can observe their progress. Specifically, we will implement more audiovisual tasks so that they can observe their learning of the language, of course, giving the respective feedback.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IB1  
 授業コード 32A11-001  
 教員名 GUTIERREZ CERVANTES, Lenin Emman  
 教員コード 104703  
 登録人数 16  
 回答数 7  
 回答率 43.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

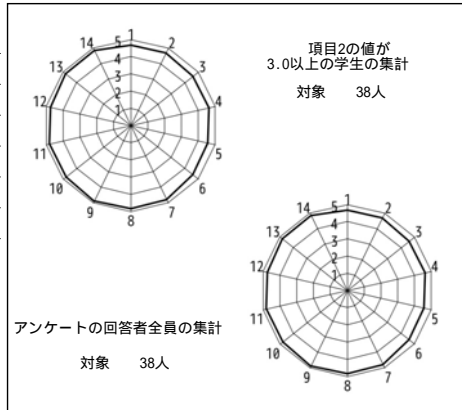


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. I followed the syllabus provided by my supervisor and did all the activities and evaluation projects in time and form.
2. I am satisfied with the results of the survey and the data presented, and I think that I can improve my performance.
3. I will think of complementary activities outside of the syllabus to help my students to improve their Spanish.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IC1  
 授業コード 32A14-001  
 教員名 泉水 浩隆  
 教員コード 102114  
 登録人数 55  
 回答数 38  
 回答率 69.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

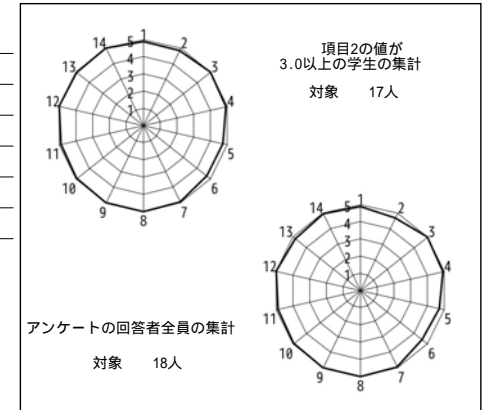
今回の授業評価においては、項目4～18の平均値が4.73、全項目の平均も4.75という評価になりました。レーダーチャートも概ね外周に沿うような形になっていることから、この授業の目標は大きな問題なく達成されたと考えられます。昨年度の復習から少し丁寧始めたため、授業進度は当初の予定より遅れ気味になっていますが、Q2の継続クラスでリカバーしたいと思います。方針としては、今後もこれまでの方向性を踏まえ、継続したいと考えます。

項目2は4.68となっていたので、予復習や主体的な授業参加は基本的にできていたと考えられますが、専門学科の基幹的科目であることを考えると、もう少し自主的な学習を行うよう求めたいところです。項目5や項目6についても4.58と類似の科目に関する例年のアンケート結果より若干低い数値が出ており、内容のよりよい理解・定着のためにはさらに努力を促すことが必要ではないかと考えられます。その他の項目の多くで、4.75以上の値になっているため、特段の問題はなかったのではないかと推察されます。

自由記述欄の記述からいくつか例を挙げると、項目15では「説明がわかりやすかった」、「板書を分かりやすくまとめながら説明してくださるので、授業後の理解度が高いと感じる」、「先生の話がわかりやすいし、授業進行がスムーズだった」などの回答がありました。項目16では「資料をサーバーに上げるだけでなく紙でも欲しいと思った」という指摘がありましたが、必要に応じて各自プリントアウトしていただければと思います。項目17では特に意見はありませんでした。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IB3  
 授業コード 32A20-003  
 教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue  
 教員コード 103464  
 登録人数 18  
 回答数 18  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

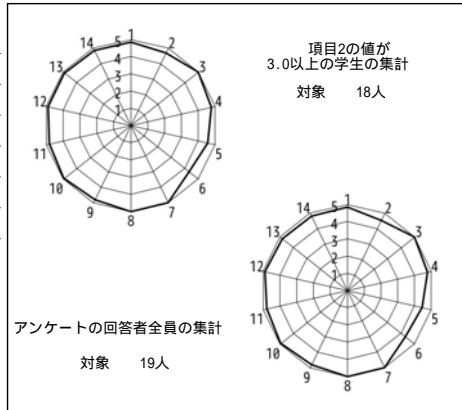


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標達成のために、学生が主体的となって、課題に取り組むことを可能にできました。また、教科書の内容を取り組む前にフォームアップで学生のコミュニケーション力を引き出すことができました。今回は新しい取り組みとして、たくさんのアクティビティーを用いた授業を行い、学生もスペイン語の語彙力を発揮することができました。その成果が、発表に反映しています。確実に学生の自尊心と学ぶ意欲を伸ばせたと実感することができました。今後もアクティビティーを豊富に取り入れた授業継続していきたいと考えています。そして、授業では、教員ではなく、学生が主体となった授業をこれからもしていきたいです。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語II[FF]3
授業コード	11B02-006
教員名	NISHINO, Aurelie
教員コード	103640
登録人数	19
回答数	19
回答率	100.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

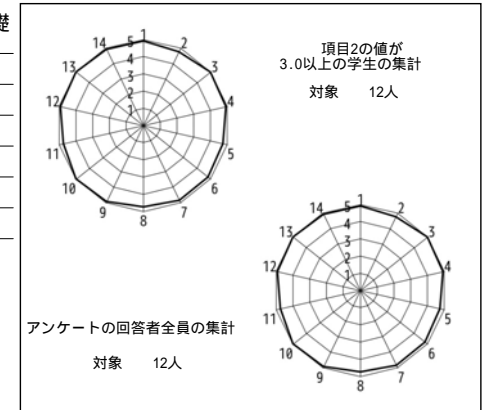


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals at the beginning of the quarter were to introduce the students to a new language and to bring them at the end of Q1 and Q2 to a level A1 through the method and our active lessons. The method was not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons. They were really active and it was lovely to teach to them. We managed to reach a very good level of French for only two quarters of studying.
2. Following the results of the enquête, I will try next year to provide more efficiently the answers of the textbook, even if the students have the answers also and to explain the objectives of the lesson more in details, overall I think that the class did very well. In fact, they manage to do a lot of very high-quality videos, presentations as groups? The quality of their work was really amazing.
3. For the next year, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past year experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語コミュニケーションの基礎 I2
授業コード	33A01-002
教員名	HERGOTT, Florian
教員コード	101725
登録人数	19
回答数	12
回答率	63.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



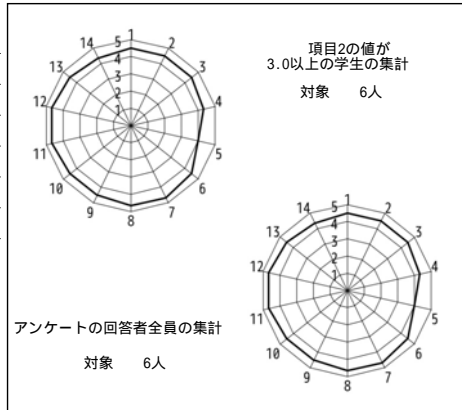
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The year began with the introduction of a new textbook. The students responded very well to the new textbook. The lessons are still very much focused on speaking practice. The resumption of study trips in the second semester provides additional motivation for many students. Despite this good first approach with the new textbook, there is still room for improvement in the use of the digital pathway offered by the textbook. In fact, some of the students did not use this alternative at all, which complements the textbook. I'll try to explain to the students next semester that this digital pathway doesn't duplicate the activity book, but complements it.



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IB3
授業コード	33A14-003
教員名	VURPILLOT, Xavier
教員コード	104503
登録人数	19
回答数	6
回答率	31.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aimed to continue improved the students understanding of the french language based on what they learned during the quarter 1. The course focused on improving all four skills : listening, reading, speaking and writing.

We started using a new textbook at the beginning of this year, so I wasn't sure how the students would receive it. Since the survey results were overall positive, it seems my worries were for nothing. I am personally still getting use to the textbook, I am aiming to keep getting better at using it for the next quarters.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語実践演習A
授業コード	33C05-001
教員名	MORGAN, Simon
教員コード	104854
登録人数	8
回答数	2
回答率	25.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Being an optional course for third and fourth years students or above, its main lines were : going out of the usual textbook's content by focusing on and studying french art and cultural objects (child books, movies, paintings, etc.) ; and proposing a 99% french speaking class.

The main goal was to make the students put interest in these objects and learn how to globally understand, analyse and talk about them. Also by giving them the necessary vocabulary.

Correcting the exam, I was happy to realise that this goal was globally reached. Most of the students answered the analyse questions accurately by using the keys and vocabulary I taught them.

But on the other part, I realised that the "99% french" goal was maybe adapted to fourth years and above, but was sometimes too high for the third years students.

In the end, If I have the chance to teach this class a second time. I'll definitely put more attention in making it understandable for everyone, even if I keep try to do it only in french. By for example giving the students rich vocabulary lists at the start of each class. I also had some ponctuality problems with some students which sometimes made me actually start the class too late. I'll be more strict about that next time.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ文学研究

授業コード 34A22-001

教員名 加藤 博子

教員コード 100480

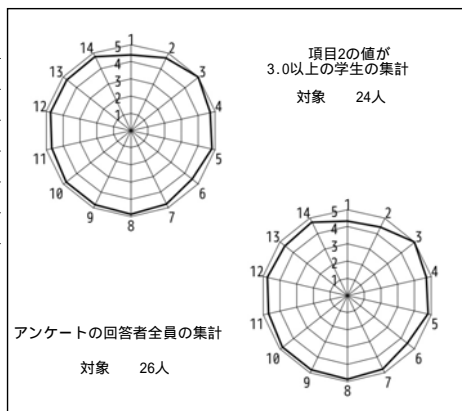
登録人数 67

回答数 26

回答率 38.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は全て対面で滞りなく授業ができ、ドイツ文学を中心に諸作品を詳しく読み解くことができた。学生には、その中から現代的な問題点を発見し、興味をもって聴講してもらえたようである。また文献や映像資料だけでなく、具体的な体験談からテーマを導き出して考察してくれた学生も多く、それぞれに有意義な時間となったと思う。提出された最終レポートでは、授業内容に加えて各自が調べて考察を展開し、能動的に問題に取り組んでいたものが多く、作品の楽しみ方を会得するという目標は十分に達成されていた。

自由記述では、おおむね授業内容に満足いただいているようであるが、ドイツ学科以外の受講生にとっては、異文化理解の一例としてのドイツ文学というスタンスを越えて、少しドイツ色が強すぎた内容だったかもしれない。ドイツに馴染みのない学生に不明な点もあったようである。

今後の改善点としては、他学科の学生にも届くように、内容を練りたいと思う。そして、できれば映像上映時に、映像の音声と講師のマイクの音量を別々に調整できる教室で授業を実施したい。今年は、音声が重複してしまうので、どうしても一部の学生には解説が届きにくい状況があった。映像提示の多い授業なので、快適な視聴環境を提供したいと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語I会話2

授業コード 35A11-002

教員名 張 静萱

教員コード 048047

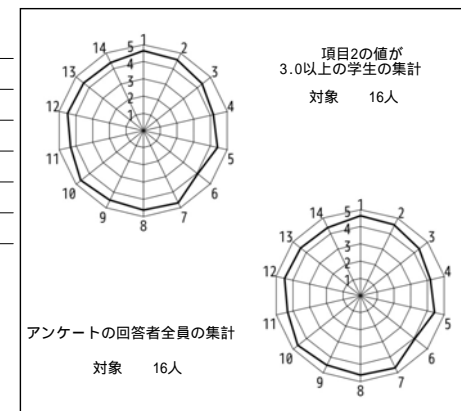
登録人数 20

回答数 16

回答率 80.0%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



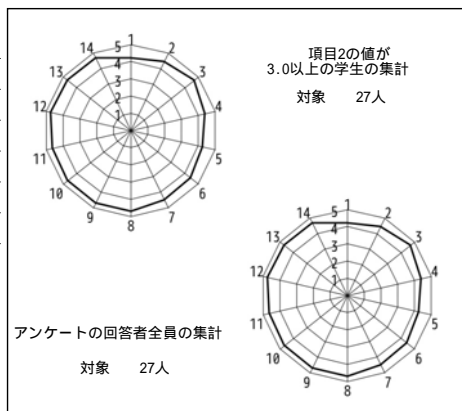
授業評価結果を踏まえた点検・評価

これは、中国語中級会話という授業で、どのように授業を進めば、学生の皆さんの会話能力を高めるか、工夫を凝らしていました。会話というと、相手に聞いて分かるようにきれいな発音をしないといけないので、皆さんの発音のチェックに力を入れ、授業ではできるだけ分かりやすい中国語を使って行い、また本文の暗誦、実際に中国語を話す機会が多くなるようにグループに分けて会話の練習などをしてもらいました。その結果、アンケートで「発音を1つずつ丁寧に教えており、一人一人の発音がかなり良くなったと感じる。」「今まで習った表現や本文に出てきた表現を少し変化させ、その場で質問をされる機会が多くあり、中国語への反応スピードや、応用力を鍛えることが出来たと思います。実践的な会話能力の向上に繋がったと感じています。」などというように評価をいただいています。よって当初設定していた目標に達していたと思われます。

今後、評価されたいところを引き続き、努力し、よりよい授業運営を行いたいと思います。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ処理入門2  
 授業コード 40B03-002  
 教員名 西 一夫  
 教員コード 103655  
 登録人数 45  
 回答数 27  
 回答率 60.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

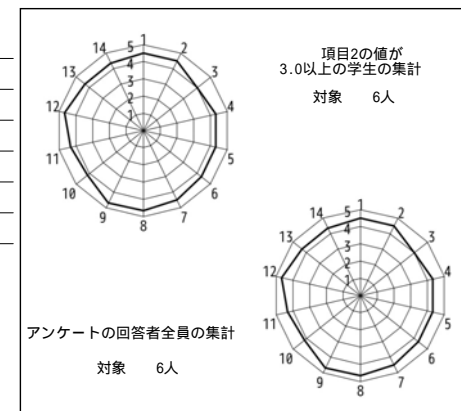


授業評価結果を踏まえた点検・評価

データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。  
 『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』  
 この目標に対しては、授業評価項目番号5（この授業の到達目標を理解することができましたか。）は4.26。6（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）において4.41の評価となっているため、概ね達成できたと思われる。  
 また、設問13の「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」の評価も4.70とあり、講義資料とは別のEXCELの特性の紹介もできたことがまずまずの評価を得ることができた結果であると考えられる。  
 ただ、自由記述の項目16（授業の改善点）において「もう少し授業速度を遅くしてほしい」や、「難しい箇所があった」などの指摘があったため、今後さらに学生一人一人へのサポートを考えていきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語A1  
 授業コード 40E04-001  
 教員名 MOORE, Jonathan  
 教員コード 101410  
 登録人数 28  
 回答数 6  
 回答率 21.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

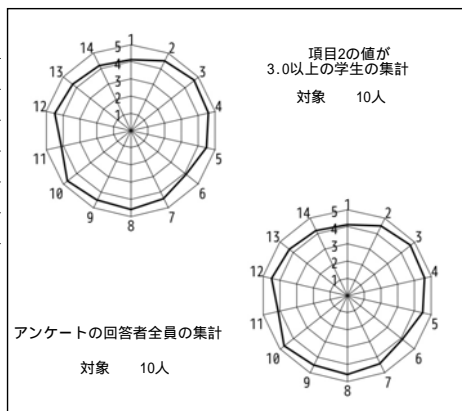


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, the scoring of the set of questions was very positive. Students were engaged in the lessons. Most students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were uploaded for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques, and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語A1  
授業コード 40E06-001  
教員名 森川 信子  
教員コード 100136  
登録人数 14  
回答数 10  
回答率 71.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

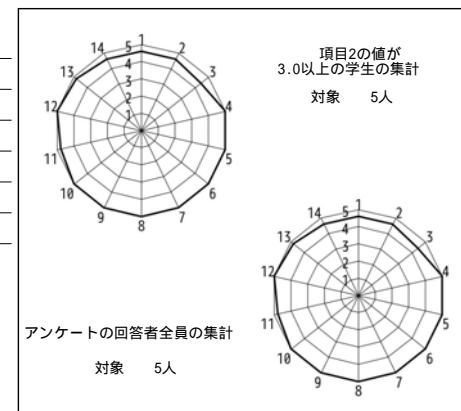


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「時事英語A1」では、社会問題や環境、科学技術、文化など国内および海外の身近なトピックを扱った記事の購読を通して読解力と語彙力を強化しながら、英字新聞に慣れ、独力で英字新聞を読むことへとつなげていくことを目指しており、これらに沿った5点をシラバスで到達目標に据えています。記事の購読を通じた読解力と語彙力の向上に関しては、だいたい目標を達成できていると評価していますが、試験結果をみると英字新聞の構成・表現法に関しては理解度に差があり、授業でそれぞれが自分で考える時間をしっかり取るなど、もう少し時間をかける必要があるように思いました。使用しているテキストについては、取り上げられている記事の内容の面白さはおおむね満足のいくものであり、文章の難易度、語彙や文法の問題のレベルもだいたい適切であると考えております。進行速度についても現状で問題はないと思いますが、週1回2コマ連続の授業時間をよりうまく活用する方法を模索していきたいと考えています。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語A3  
授業コード 40E06-003  
教員名 NORTH Cameron  
教員コード 100400  
登録人数 20  
回答数 5  
回答率 25.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

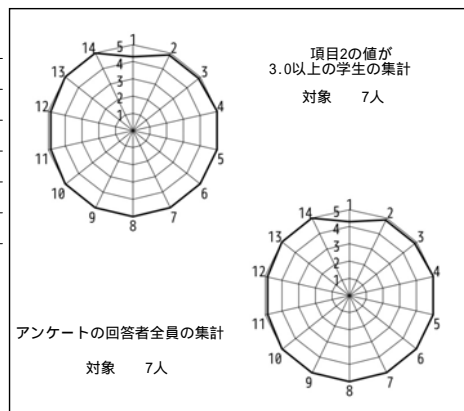
The basic goals of the class are for the students to improve their English communication skills. Additionally, the students should improve their understanding of subject studied. Overall, the goals of the class were achieved.

It seems to me that the class was a success. Students participated eagerly. In addition, almost all students did their homework. It can also be said that the students seemed to enjoy their time inside the classroom.

In the future, it is always important to try to achieve a successful classroom. To help in achieving such aspirations, it is important to always be prepared, listen carefully to the students and try to help the students reach their own personal goals,

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学総論A  
授業コード 40F01-001  
教員名 太田 幸治  
教員コード 103267  
登録人数 10  
回答数 7  
回答率 70.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
本講義では、当初設定していた目標をほぼ到達できたと考えている。本講義では経営学の組織論の基礎を中心に講義した。かかる内容は経済学部の学生諸君にとっては、なかなか馴染みがないものであるが、履修者数が少人数だったため、学生と議論しながら講義を進めることができ、当初設定した目標の8割は到達できたと自負している。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

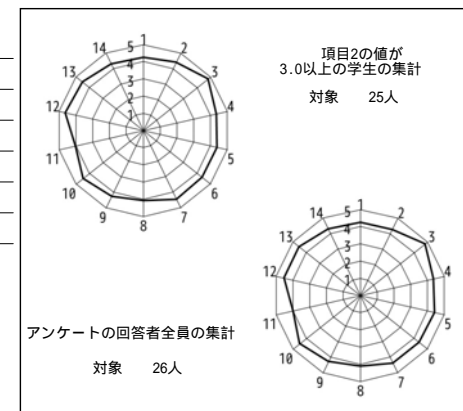
上記の繰り返しになるが、履修者が少人数だったため学生の理解度を確認しながら講義を進めることができたゆえの評価を頂いたと思う。講義は教員と学生でつくるもの。今年度も優秀な学生の協力の下、講義が行えたことを嬉しく思う。

当該科目は、論理だけで組織のリーダーの志についても議論した。最近の学生の傾向だろうか。理屈は理解できても、想いが理解できない学生がいた。経営学は、理屈だけでは成立しない。志や想いが前提の学問である。かかる想いや志を理解できない学生がいたことが今年度の講義の発見であった。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
次年度は、より学生の反応を見ながら講義を進めていきたいと思う。抽象的、本質的な議論よりも、目の前のhow to に関心がある学生もいるようだし、一方で当該科目で議論されることが簡単すぎると思う学生もいたように思う。次年度は、もう少し難しい講義を意識しながら授業を組み立てたいと思う。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計原理A  
授業コード 40F16-001  
教員名 白木 俊彦  
教員コード 101090  
登録人数 39  
回答数 26  
回答率 66.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

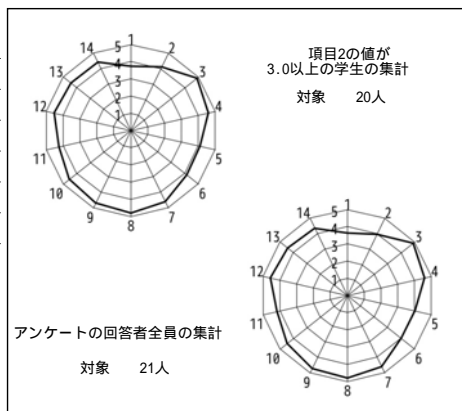


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、経済活動を営む事業組織が、一会計期間にどのような財政状態にあり、どの程度の経営成績を達成できたのか、また、利益と支払い能力の関係は適正にあるのかなど、会計情報を通して理解できる知識を獲得できるように指導する。そのための技術として、複式簿記の原理を習得しなければならないが、会計原理Aでは、取引を記録し、元帳への転記、決算手続きの簿記一巡を学習した。初学者が躓かないようにゆっくり進めたので、試験結果からも概ね理解できたものとする。授業評価全体を通して高い評価を得ており、目標としていた複式簿記のしくみおよび精算表作成を理解することは項目番号5の数値からみてほぼ達成できたと考える。しかし、試験の解答から見ると理論的な説明ができるまでには到達していない。質問の機会、課題などの事後指導も評価が高く、自由記述にも記されていたので、本講義によって新しい知識を得て理解が深まった結果になったものとする。今後の課題としては、内容の難易度をあげたときにどの程度理解できるのか、どのレベルまで上げるべきなのか、カリキュラム全体から検討が必要である。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(電子・電機産業論)1  
授業コード 42F03-001  
教員名 金丸 義弘  
教員コード 104609  
登録人数 75  
回答数 21  
回答率 28.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1、開講当初に設定していた目標と到達の程度については昨年よりも改善した。約60%の学生がA+、Aの評価であった。(昨年3Qは約45%)一方、1Qでもあり就職面談のため複数回欠席する学生が昨年3Qより多かったが、自習をしてもらいりアクションペーパーを提出することで出来るだけ救済措置をとった。しかしながら、当該学生の理解度はどうしても他の学生よりも落ちる傾向があり。就職活動は大事であるが、日本全体で就職活動時期や採用方法自体の見直すことが必要だろう。2、数値データについては昨年とほぼ同じであった。自由記述を見る限り、評価は良好と見る。昨年の自由記述を参考にリアクションペーパーの評価基準を今回から明確にしたため、学生は授業方針、評価方法を明確に理解したと思う。3、次クォーターに向けては今回講義での反省事項(ある回では講義内容のボリュームが多すぎて説明不足となるなど)を修正、重要テーマに集中し、また最新の政治経済動向、企業戦略をアップデートして、さらにわかりやすく役に立つ内容にすべく加筆修正を加えたいと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 工業簿記I  
授業コード 42H03-001  
教員名 小沢 浩  
教員コード 104770  
登録人数 11  
回答数 4  
回答率 36.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

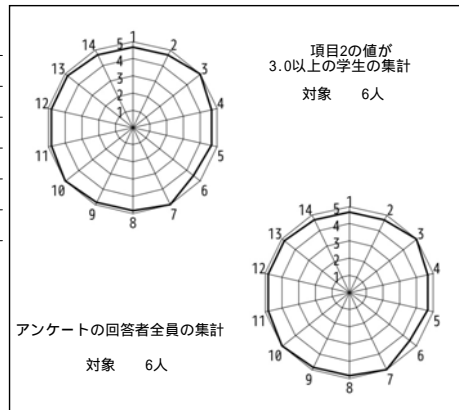
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

概ね達成できている。概ね肯定的に評価されていると思う。引き続き、丁寧な説明とフォローを心がけたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法各論A  
授業コード 44C09-001  
教員名 尋木 真也  
教員コード 104091  
登録人数 43  
回答数 6  
回答率 14.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価アンケートにご協力いただいた受講生のみなさんに、感謝いたします。

(1) 目標の達成度合い

「国際人道法の体系的理解」と「実際の戦争の法的評価能力」を目標に掲げていましたが、ウクライナ戦争や過去の戦争を題材としつつ、国際人道法の総論・各論全体にわたり講義を行いました。アンケートでも全項目で4.5以上の評価をいただいております、目標は概ね達成できたと考えます。

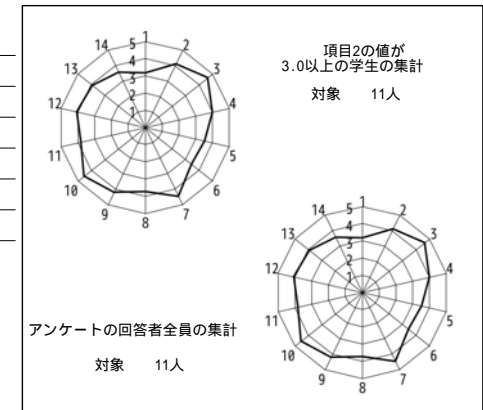
(2) アンケート結果に基づく自己点検

アンケートの自由記述では、他学部の学生も含め、国際法について大いに理解が深まったとのコメントをいただきました。また、私の海外経験談にも関心を寄せていただきました。他方で、話すのが早く、ノートがとれないとのコメントもいただきました。いずれも、留意すべき点であり、(3)に記す通り、今後活かしていきたいと思えます。

(3) (2) の好評をいただけた点については、難しいことをわかりやすく伝えることが重要と考えていますので、今後も学問と実体験を重ね、授業の精度の向上に努めます。同様の進度の指摘については、今後は受講生の様子を見つつ、筆記中にはあまり話を進めないよう意識したいと思えます。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語I5  
授業コード 46F01-005  
教員名 Jean Claude AHWENG  
教員コード 104148  
登録人数 45  
回答数 11  
回答率 24.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were for the students to: (1) undertake independent research and think about the assigned policy related topics; (2) convey what they have learned and thought of in their research into an English report; (3) share with and learn from each other what they have learned and thought about in their research. A good learning environment and teacher-student communication prevailed during the semester.

Right at the outset, the teacher explained the goals and teaching-learning method used in the course. This allowed the students to know exactly what they were expected to do and why, thus allowing the students to be motivated and to focus on the assignments. The students found the assigned topics to be interesting and thought provoking, and took the assignments very seriously, did good research, gave much thought about the assigned topics and wrote good reports. Based on feedbacks from the students, the students enjoyed the course and the hands-on learning-by-doing approach, and felt that they benefited a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English.

The teacher concludes, therefore, that the course attained its goals. In the future, the content of the course and the way it is delivered will remain basically the same, with some minor improvements to include some latest global issues

(222 words)

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア政治社会論
授業コード	46L02-001
教員名	一谷 和郎
教員コード	102392
登録人数	19
回答数	3
回答率	15.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について：到達目標として、アジアの政治と社会に対する問題意識を形成するために必要な政治学の提起する問題を理解できるようになること、中国を中心とするアジアの政治と社会の歴史の変遷について理解できるようになること、現代中国で起こる様々な政治および社会現象の歴史的背景について理解できるようになることの3点を掲げたが、これらの目標にほぼ到達することができたと考えている。
2. 担当科目に関する総合的な自己点検・評価について：学生のアンケートでは「内容がものすごく詰まっていて、本当に面白い講義だった。1,2限連続ではあるが、ものすごく価値のある講義だった」との自由記述があり、講義担当者としても不足のない内容を受講者に十分に伝えることができたと考えている。受講者数が少ない授業であったので、時には教員と学生との直接的な質疑応答や対話によって授業を進める方法をとることができ、受講者の学習意欲を高める効果が得られたと考えている。
3. 改善点、今後の抱負、方針について：中国の政治社会を論じるにあたり、比較対象として台湾や韓国の事例を取り上げるという開講当初の目標はほとんど達成することができなかった。このことは今後改善しなければならない点である。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境会計論
授業コード	46N13-001
教員名	東田 明
教員コード	101591
登録人数	8
回答数	2
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

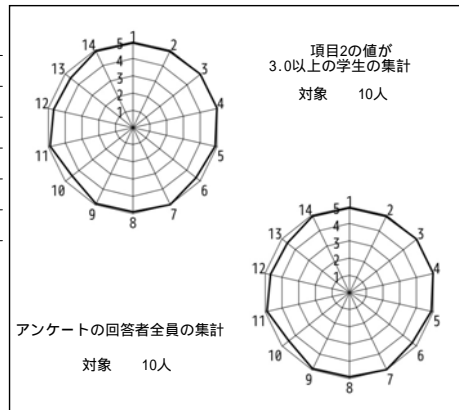
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の講義は受講者数が少なかったため、全体として学生がどのような感想を持っているか数値で把握することは難しいだろう。受講態度はほぼ全ての学生が真剣にノートを取りながら授業を聞いていた。毎回の授業中や終わりに、その日の授業内容を確認する小レポートを課したが、概ね適切に答えていた。期末レポートの出来は学生によってばらつきがあったので、重要な箇所を強調して伝える工夫がもう少し必要だったかもしれない。総合政策学部では経営学部や商学部などと異なり経営学関係の授業が少ないと思うので、企業のマネジメントや意思決定についてあまり馴染みがないかもしれない。そうした学生でも興味を持って受講できるように、企業の事例を増やしたり、マネジメント手法の特性を伝えるだけでなく、企業が環境経営に取り組む上での課題の解決など、もう少し踏み込んだ説明を取り入れれば、より環境経営を具体的に理解できるようになるのではと期待する。そうした授業内容の見直しも今後必要だろう。



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[G]  
2  
授業コード 11A01-033  
教員名 SELTMAN, Zen  
教員コード 104672  
登録人数 19  
回答数 10  
回答率 52.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

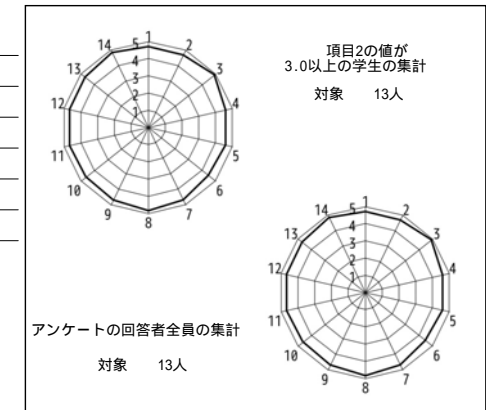


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) I believe I was able to successfully achieve the goals I set out for this class. I tried to create a friendly and supportive environment where students will feel encouraged to practice their English.
- 2) I think I did an adequate job based on the reviews given by my student. It appears I scored a little lower (4.50) when it came to ensuring the class ran smoothly without distractions. Therefore, I should try to be a little less lenient the next time I teach this class.
- 3) I am always trying new methods in this class, and much of what I employ comes down to the overall "personality" of a particular class. I think it is best that I do not become complacent with the methods that I utilize. In addition, there were a few occasions in which I showed up to class right before the bell rang, so I will make sure to wake up at a more appropriate time so that I can arrive earlier.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Communication1  
授業コード 48A10-001  
教員名 FRENCH, Gary  
教員コード 046912  
登録人数 17  
回答数 13  
回答率 76.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

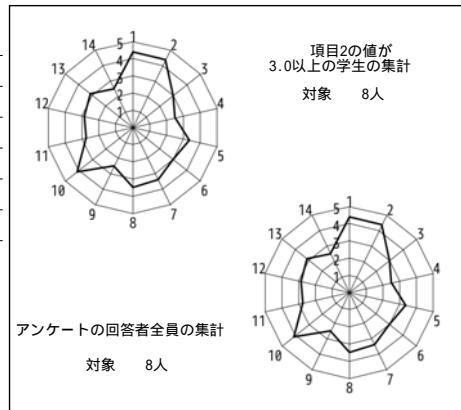


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course goals were to study the UN Sustainable Development Goals, with common departmental readings supplemented with materials and activities from the teacher. There is flexibility in the class for the teacher to adjust the lessons depending on the class level and interest. This meant that not every topic listed on the syllabus was covered in class. However, the students were asked, and voted on, which topics they would like to cover, and subsequent lessons were planned accordingly. Generally, the class readings and activities matched the class level well. The students were highly motivated and eager to participate. Therefore, I tried to make an active classroom for each class, and the students responded well. I think this was one of the best group of students I have ever taught. I think in the future I should update the syllabus during the quarter and give a revised version to the student; because of changes that were made on the fly, some students could have become somewhat confused, especially if they had missed a class or two,

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Communication3  
 授業コード 48A10-003  
 教員名 ADENIYI, Mujidat Adefolake  
 教員コード 104868  
 登録人数 22  
 回答数 8  
 回答率 36.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

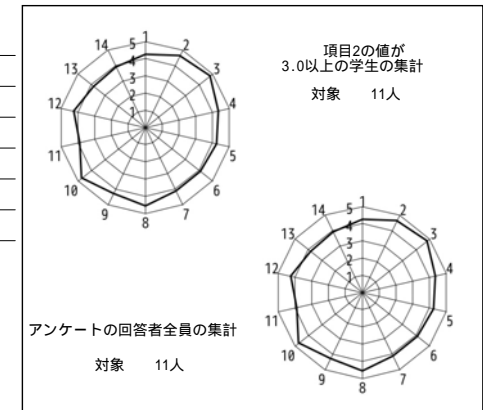


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. I successfully achieved the goals I set out for this class at the beginning of the quarter. I created a free, friendly and supportive environment where students could practice their English and express themselves without being self-conscious.
2. According to the students' reviews, I scored above average in some factors while others were higher. I tried to accommodate the students' requests throughout the quarter. However, I should encourage the students from the beginning of the quarter to be bold enough to express their opinions directly. For instance, we changed from using the web class to email at the request of some of them.
3. Thinking ahead into the quarter, I will retain the methods I used to achieve a healthy learning environment, but I will encourage all of my students to be vocal with their views from the beginning of the quarter and also devise methods to achieve a higher rate of participation from all of them.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Communication6  
 授業コード 48A10-006  
 教員名 ANG Donna  
 教員コード 104319  
 登録人数 21  
 回答数 11  
 回答率 52.4%  
 休講回数 3 回  
 補講回数 3 回

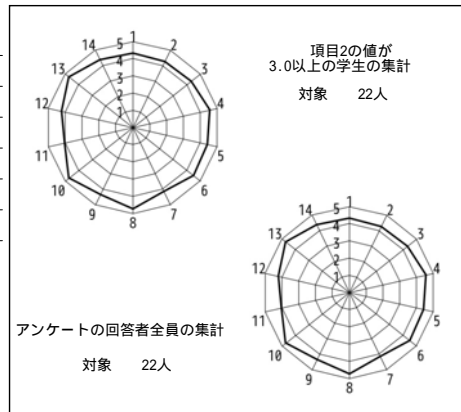


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Most of the objectives were met, except for the ones regarding grammar improvement. As I focused on language application through content learning, I did not really go on correcting grammatical mistakes that students made as that might increase hesitation to express themselves.
2. For each SDG, I did my best to introduce important issues or vocabulary that are handy when they talk of particular SDGs. How to encourage them for independent study beyond the current homework and presentation is the challenge.
3. I will refine class activities to balance the group discussion that they want vs. confidence in speaking for themselves. For better class management, I'll make sure to have redundancy in communication - in person, through email, and Line group, if possible for those who do not check their emails everyday.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語I <H> 2  
授業コード 11B01-002  
教員名 中島 潤  
教員コード 100883  
登録人数 23  
回答数 22  
回答率 95.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 良かった点

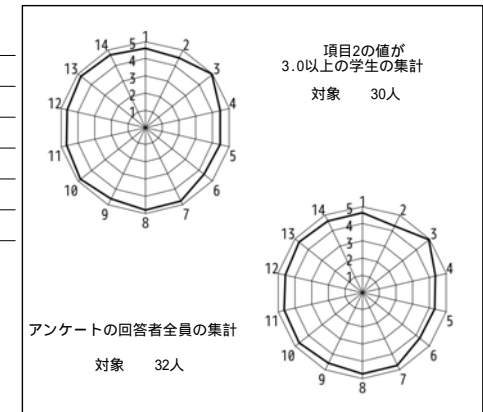
ある程度の学生に関して満足が得られたことについて、良かったと思います。しかし、若干数の学生に関して評価が得られなかったことは、今後の反省材料にしたいと思います。一年次の第二外国語としてフランス語を選択する学生に、どのような教育的ニーズが持たれているのかということが、今回ある程度（アンケート結果や授業自体において）明確になりましたので、次回以降に生かしたいと思います。シラバス通りに授業を進められたことはよかった点であるかと思います。

2. 今後の改善点

一年生を主な対象にした授業でしたが、その中で、学生すべてが満足できる授業を行うにはいっそうの模索が必要であると考えています。以上、今後担当することがあれば改善すべき点であると認識しています。第三クォーター以降にも授業が続きますから、今回のアンケート結果を受け止めて、改善しつつ授業の質を上げる努力をおこないたいとおもいます。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語I <G>  
授業コード 11B01-014  
教員名 遠藤 美加  
教員コード 101551  
登録人数 36  
回答数 32  
回答率 88.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講は、1年生向けのフランス語初級の講義 + 演習の授業である。フランスで出版された教科書を中心に、文法及び実用的な会話・練習問題を学習している。

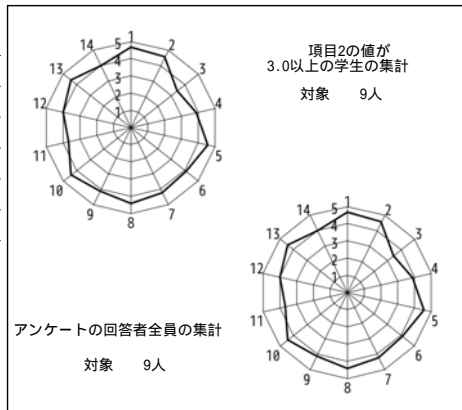
全体的な数字としては、4.5前後が多いので、学生のニーズに大体あった授業の進め方ができていたようである。

一方、自由記述解答では、項目15で宿題の答え合わせが丁寧でわかりやすいという声が複数あるのに対し、項目16では逆に、進行が遅い、宿題に時間をかけすぎる、の意見も複数見られた。私自身は、時間をかけすぎているという思いがあり、Q2では少し早めに進めるようにしたつもりであるが、続けてQ3でも注意を払い、早すぎず遅すぎない学習の進行というものを心がけたい。

アンケート対象はQ1であるが、Q2は学習内容が進み、少し難しく感じる学生が増えてきているようなので、そうした学生のフォローも考えていきたい。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語V<全>
授業コード	11B05-001
教員名	村田 ひで子
教員コード	100665
登録人数	17
回答数	9
回答率	52.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

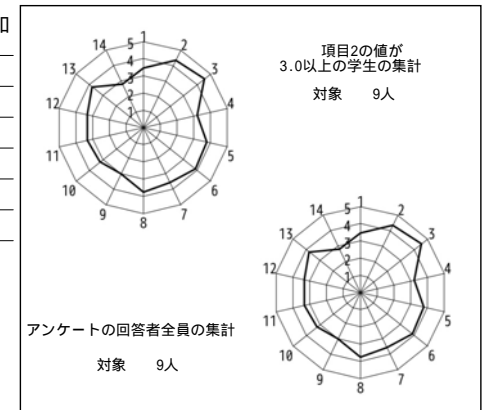


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第二外国語の2年目のクラスなので、学生の実力バラツキがあり、まずは1年次の復習に力を入れた。「到達目標」の「フランス語の発音、文法、語彙の基礎を理解している」は各々に進歩してくれたと思われる。( 設問6 )到達目標に向けて力がついているか 4,11 設問13)新しい知識等を得たか 4,44 ) 学生の自由記述では、「昨年度の授業内容が復習できた」「説明がていねい」「細かいところまで丁寧に板書してくれる」等の評価がある一方で、「同じ箇所の復習が多すぎる」「自分で考えて例題を解く時間が欲しい」という意見もあった。フランス語2年目のこの授業では、「のんびり、かつきちり」をモットーに授業を進めている。会話部分の訳や、発音練習は数名のグループでワイワイやってもらい、基礎的な文法や重要な語句、言い回し等は細かくていねいに説明する方針である。後半の Q3 Q4 では、内容がさらに難しくなるので、学生の理解度に注意を払いながら、ていねいで分かりやすい授業を心掛けたいと思っている。

2023年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語V<H( Q2海外プログラム参加者用)・F>
授業コード	11C05-002
教員名	谷口 祐美子
教員コード	103612
登録人数	28
回答数	9
回答率	32.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

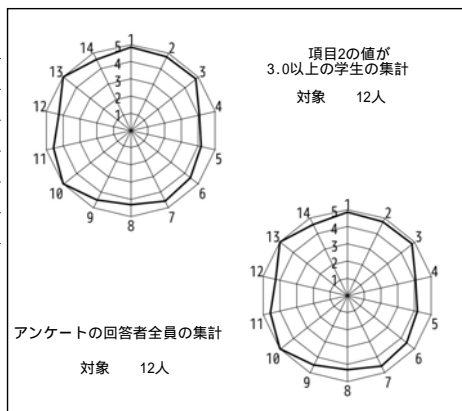
結論を言えば、一学年時に学んだ文法の復習に相当時間を取られ、十分な会話や対話の練習には至らなかった。文法知識がある程度定着している受講者の場合もなかなか発語ができないという問題があった。文法学習段階では期待するほど「聞く」「話す」に時間をさけないのが現実であろう。

学生による講師の評価は概ね3点台で可もなく不可もなしという平均点であるが、受講者が授業に関心を抱き努力したと自己評価している点で今後に希望したい。ただし授業に参加してよかったかという点では2点台とかなり辛く満足度は低かったようだ。

到達目標をもう少し下げ、理想と現実のギャップを縮める必要があるかと思う。個人的には、緊張をときやさしい会話に導けるように努めたい。しかし、ペアワークに消極的な一部学生(特に男子学生)に対してはこちらが努力しても如何ともしがたいと感じている。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語I[FS]4  
授業コード 11D01-008  
教員名 VILLALOBOS Antelma  
教員コード 101011  
登録人数 13  
回答数 12  
回答率 92.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

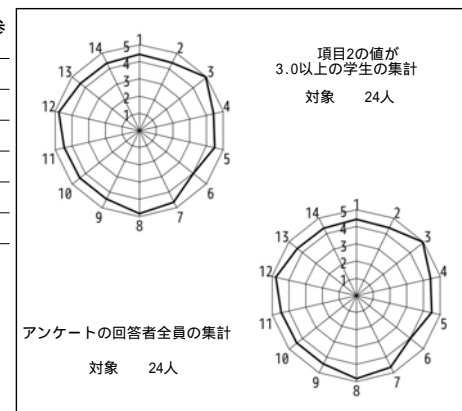


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten good evaluation from the students in most the items and the students' comments were all positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled.  
The biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the semester.  
As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and teaching methods.  
In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.  
Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語V<H( Q2海外プログラム参加者用)・F>  
授業コード 11D05-006  
教員名 浅香 幸枝  
教員コード 000165  
登録人数 32  
回答数 24  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

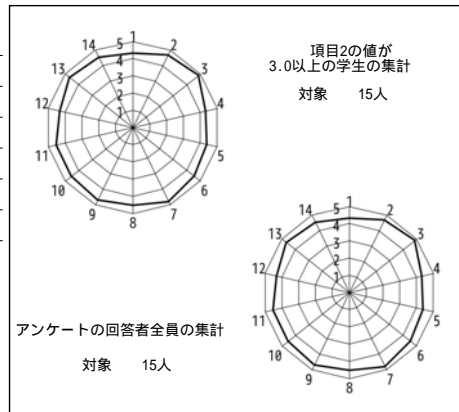


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1～14の平均値は4.50であり、項目3～14の平均値は4.51であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.5以上の設問は、5項目に亘っている。1番高い4.96は授業の開始と終了の時間が守られていた、2番目に高い4.83は授業中の音声はよく聞き取れたである。3番目に高い4.79は質問や相談の機会が十分に設けられ、指導が十分であったと回答している。4番目に高い4.63は授業に取り組む教員の姿勢に誠実さ真剣さを感じたと答えている。4.50は、この授業の到達目標を理解できたと回答している。  
一番評価が低かったのは、4.04のこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかである。これは、スペイン語の暗記ではなく、自分が将来使用することを前提として自分を主人公として授業で学習したことを基礎として、応用で使用可能性を想定してHPなどからも情報を得て、シナリオを7スキット以上作成しなければならなかったため、生じた不安だと考えられる。  
自由記述欄では、テストのための暗記ではなく、自分で文章を作成する課題であったため、実践的に使えるスペイン語を学ぶことが出来たとしている。また、スペイン語圏の文化や人々についても学び、文章の背景にある価値観を学び深い理解が出来たと記述している。また、前回の宿題をホワイトボードに書くことにより、クラス全員が参加出来てよかったとコメントしている。今後も双方向の授業で学生の能力を伸ばしていきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語I<全・T>  
授業コード 11F01-028  
教員名 李 香善  
教員コード 103871  
登録人数 40  
回答数 15  
回答率 37.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

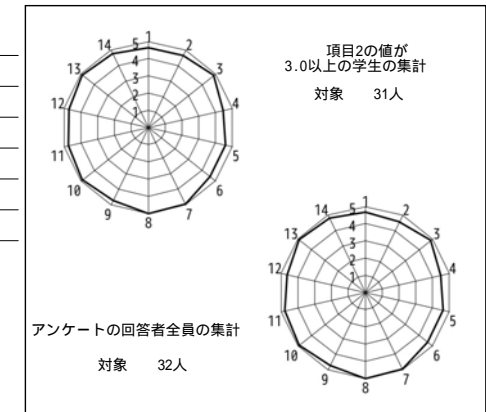


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1、中国語学習の入門段階において発音は大変重要なので、一人一人の発音チェックを毎回欠かさず行った結果。授業中受講生のほとんどが正確に発音できるようになっています。
- 2、各課の学習終了後、必ず総合練習問題を作成して、ピンインから単語、文法に至って、繰り返し練習し、毎回確認テストを行なったことは大変良かったと思います。
- 3、授業中、受講生の一人一人が本文の内容を応用しながら、学生同士、あるいは教師と学生の応用会話練習を沢山行うことで、中国語の学習により楽しさを覚えるよう工夫をしていきたいと思います。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語I<G>  
授業コード 11F01-031  
教員名 中野 麻里子  
教員コード 102125  
登録人数 43  
回答数 32  
回答率 74.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

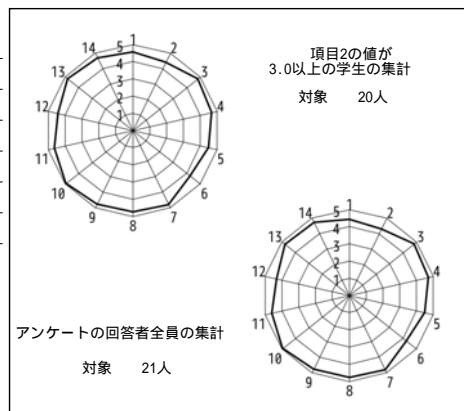


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第1クォーターでの到達目標はおおむね達成できた。まだコロナの影響もあり欠席者が多い時期は進度をゆっくり目にするなどの配慮をしているので、少し進度が遅くなることもあった。しかし、そのぶん発音練習に時間をかけることができ、学生たちも熱心なので、それぞれの到達進度は違えど少しずつでもしっかりと知識を定着させることができていると思われる。熱心に質問をしに来る学生たちも多く、とても嬉しく思う。同じことを聞いてもいいので、これからもたくさん質問してほしい。「質問する」ということで記憶に残りやすくなるし、「質問しようとする」ことで言いたいことをまとめるためにその内容について自分なりに解釈してみたり、知識を整理したりと、必ず理解のプラスになっているはずである。また、授業時間外で学生同士で中国語で会話しているのを耳にすることもあり、これも本当にうれしく思う。「場面状況に合った中国語を自分で話してみる」には色々な知識がいる。授業で学んだことがしっかり身につけている証拠である。そのチャレンジする気持ちも素晴らしい。自由記載を見ると、小テストや会話練習が学生たちの知識の定着に役に立っているようだ。引き続き継続したい。これから先のクォーターどんどん単語量や覚えなければならない文法事項が増える。学生たちが引っかかることをしっかりと確認しながら、わかりやすい説明を心掛けたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語I発音・聴力1  
授業コード 35A01-001  
教員名 山本 未英  
教員コード 101130  
登録人数 21  
回答数 21  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

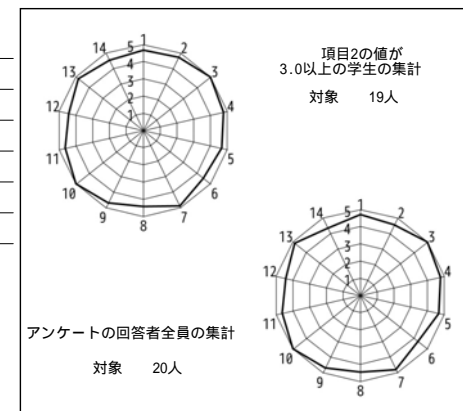
この「中国語発音・張力」の授業の目標はおおむね達成出来ていると思っています。中国語の発音は難しいと思われがちですが、他の言語より難しいということはありません。ただ、美しい発音を身につける為には、まず耳を中国語の音に慣れさせなければいけません。耳がきちんと音を理解した後で、口の動きや舌の使い方を習得しながら自分の発音を徐々に上達させていきます。講師はアドバイスや指導はできますが、学生本人がやる気にならなければ上達しません。聴力（ヒアリング練習）も発音練習も、長時間続けるのは大変なので、適度に休憩をはさんで、授業に参加している学生さんたちがしんどくならない授業を心掛けたいと思っています。

このアンケート結果で比較的低かった設問2, 6について考えました。学生さんたちにあまり負担をかけないように他の授業では予習復習は少なめにしていますが、この授業は別です。授業後の復習や何度も音声で聴く練習が不可欠です。そのことをきちんと初めのうちから伝えるべきだと感じました。受け身ではなく主体的に授業に参加し、美しい発音を目指すだけでなく、正しく中国語の音をピンインで表記できるようになってもらいたいです。

この授業における今後の改善点について。設問12にある「質問や相談の機会」を設けること。また、課題について事前指導だけでなく事後指導もきちんと時間を作って行っていききたいと思います。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語I発音・聴力3  
授業コード 35A01-003  
教員名 虞 萍  
教員コード 101432  
登録人数 20  
回答数 20  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期も開講当初に設定していた目標をほぼ達成することができました。学生から高い評価を得ています。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」という設問に対して、学生から「きびしい指導だったがタメになることが多かった」「一人一人の分からないところを明確にして、その苦手な部分を重点的に解説してくれた」「先生の説明がとても分かりやすかった。ネイティブの先生だったので、時間に余裕がある時は文法や、中国文化まで教えてくださり、中国への興味も深まった」「一人一人の発音を先生が聞く時間をしっかり取ってくれた」「説明の仕方がとても分かりやすかった。意識を高く持って授業に取り組める点が良かった」「とても熱意のある先生だった」「教科書には載っていないタメになる情報などを教えて頂き、よりいっそう中国語の理解がしやすかった」「合間に中国のことについて話を聞けたり、少し文法の説明もあつたりと、分かりやすく面白かったです」「予習復習の大切さを教えて下さった、毎日勉強する習慣がついた。出来ると褒めてくださるのもっと頑張ろうと思えた。中国出身の先生の本物の中国語を聞けて、毎回とても充実していた授業だった」など多くのコメントをいただきました。普段から真剣に授業に取り組む姿勢の誠実さは学生に感じていただきました。

また、学生が中国語の勉強に興味が増くように、授業では時間が許す限り、中国語の勉強と共に、中国の文化や中国人の習慣、日中文化の差異などのことについても紹介しました。多くの学生は興味津々に耳を傾けてくれました。

今後も学生の学習意欲を最大限に引き出せるような指導方法を摸索したいと考えています。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語III読解

授業コード 35C03-001

教員名 吉田 仁

教員コード 100947

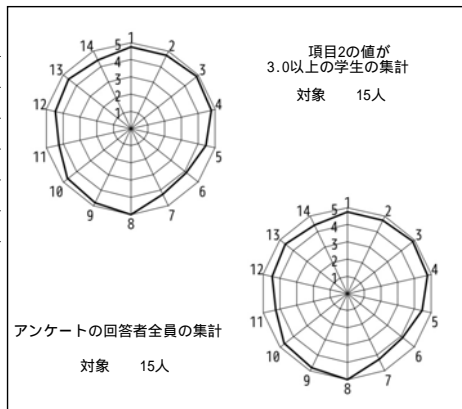
登録人数 17

回答数 15

回答率 88.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は中国文化に関するさまざまな形式の文章を精読して、精確な読解力を養成する。構造の複雑な文章を材料として、読解および音読の練習をするとともに、中国に関する知識の拡充をはかることにある。それを踏まえてQ1の集計結果をアジア学科と比較すると、プラス評価は、設問1: +0.24、設問2: +0.31、設問3: +0.03、設問4: +0.16、設問5: +0.02、設問8: +0.24、設問9: +0.10であった。一方、アジア学科と比較して、マイナス評価は、設問6: -0.18、設問7: -0.43、設問10: -0.10、設問11: -0.20、設問12: -0.08、設問13: -0.05、設問14: -0.10となった。[この授業の良かった点、評価できることは何ですか]では「豆知識なども教えてくれたので、面白かった」、「教科書には載っていないことも先生が話してくれた」、「中国語を読むのが速くなった」、「先生が四川料理の現地での体験談を生き生きと語っているのが見ていて面白かった」、「先生が日本語訳に間違いがあった時に適切に直してくれることがよかったと思う」、「テキストの内容が現代中国についてのもので、中国語を学ぶとともに、新しい知識を獲得できた」などがあつた。一方、[授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったことがあればできるだけ具体的に書いてください]では、「特になし」、「先生の勘違いが多くて、授業進行に影響があつたと思う」、「教師の雑談内容が不適切だと感じた」などの意見もあつた。この点に関しては今後は細心の注意をはらって授業を行なっていきたい。追記ですが、今回使用した教室が寒いと感じた学生が1名いました。改善をお願いします。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語作文A

授業コード 35C10-001

教員名 陳 志平

教員コード 049346

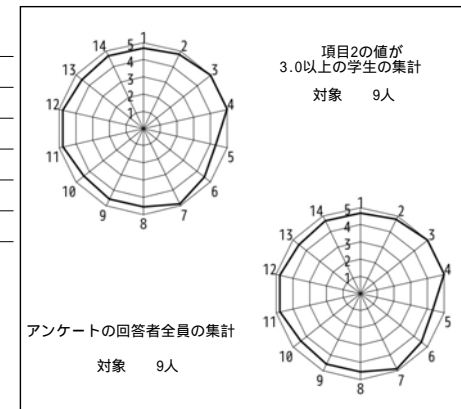
登録人数 14

回答数 9

回答率 64.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

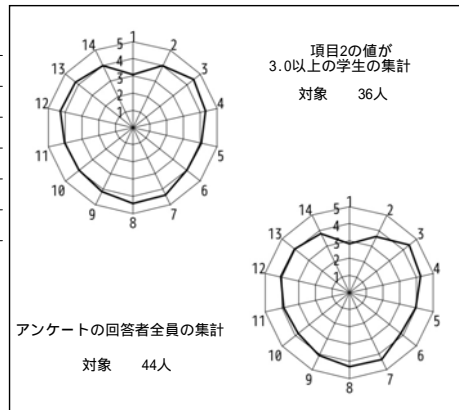
「授業評価集計」によれば、設問3から14の平均値4.68が「アジア学科」を上回ることができた。また、設問3（授業時間）5.00、設問4（授業の構成・進行速度）5.00、設問7（誠実さ・真剣さ）4.89、設問11（適切な指導や情報提供）4.78、設問12「質問・相談/事前・事後指導」4.78、設問14（満足度）4.67などの数値データ及びレーダーチャート、自由記述を見る限り、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。学生から、「学生が力を入れて学びたい文法の用法（補語など）を聞き出して授業で取り扱っていた」；「先生が熱心かつ真摯のため、自身の学習意欲が高まった。」；「自由作文は本当に自由で、自分の書きたいことを書ける。また、それをチェックしてもらえるのはためになる。」と言ったような有難きコメントを頂いた。

今学期も学生の書く意欲を高めるために「自由作文」を基本とした授業を実施した。文法演習については、まずアンケート調査して、最も多くの学生が一番難しいと思う「補語全般」を課題として選定し、それを中心に練習問題、解説及び質疑応答などの形式で徹底指導をしていた。また、情報提供、質問・相談を含めた事後指導などにも細心の注意を払うように心がけた。次学期からも、学生の現状を冷静に把握し、実力に即したバランス調整や学習意欲の喚起を課題として、改善に向けてより適切な対応を図りたいと考える。



2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[E・J]4  
授業コード 10A51-011  
教員名 KONDI, Nikolaus  
教員コード 104807  
登録人数 150  
回答数 44  
回答率 29.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

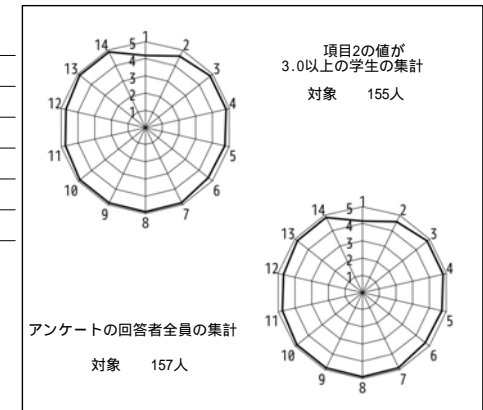
この授業の目標は、一つ目、学生はキリスト教の基本的認識を深めることが出来る。授業ではキリスト教について、学生たちにそれぞれのテーマを出したり説明したりしました。学生たちがそれぞれのテーマに関してどこまで理解しているか、または取り上げたテーマについて学生たちがどういう印象を持つかということを知るために、いつも授業の終わる前に（15分ぐらい）学生たちにリアクションペーパーを書かせました。毎回の学生たちのリアクション・ペーパーを読んで、多くの学生たちが出されたテーマについて深めることが出来たのではないかと思います。二つ目の目標は学生たちがイエスの教えを深めることが出来ること。学生たちの最初のレポートを調べて、ほとんど学生たちはイエスの教えについてのテーマを書きました。特に隣人愛についてや兄弟愛についてや許し合いについてなどを書きました。またその教えについて自分の生活にどう関わっていたか、ということについても書いてくれました。彼らのレポートを読んで、多くの学生たちがイエスの終えを理解したと思います。三つ目の目標は学生たちは自分が尊い者であるということ意識する。学生たちのレポートを読んで多くの学生たちがイエスの終えについて、感心しました。特にイエスは本当に他者に大切する姿であると、自分もそのような姿になりたい、他者を大切にしたいという書いた学生たちは多いです。これはわたしにとっては良かったです。

この授業を担当させていただいたことに良かった。人間尊厳という南山大学のモットーについて、この授業を教えることによって多くの学生が分かるようになるのではないかと思います。

3.多くの学生がこの授業に参加することがとても良かったです。またこの授業を振り替えて、授業中に学生たちの迷惑行為はなかったです。ただ学生たちがもっとわからないことがあれば質問したり、議論したりした方がいいかなと思います。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳2  
授業コード 10D03-002  
教員名 山口 宏  
教員コード 101552  
登録人数 188  
回答数 157  
回答率 83.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

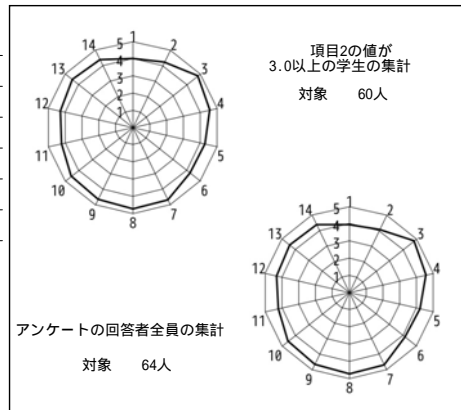


授業評価結果を踏まえた点検・評価

まずは、全体的な満足度（問14）が高めの値で、よかった。授業の聞き取りやすさや、教員の真剣さなどは当然のこととして、新たな知識・理解の獲得（問13）もまずまず高い値で、毎回のリアクションペーパーを見ている、シラバスの到達目標としていた項目は、一定水準まで達成できていたかと思う。また、毎回書いてもらう感想や質問にも、翌週できる限り答えていたので、質問や相談の機会（問12）についても、人数のわりにある程度の双方向性を保てたかなと感じている。授業は、多種多様な映像などもこまめに挟みながら、メリハリをつけて退屈はしないよう、しかし情報量は多くというつもりでやっていたので、教材の効果的活用（問9）についても、高めになったかと思われる。自由記述を見ても、「面白かった」「楽しかった」「よく理解できた」という声はかなり多く、良い評価が並びすぎて恐縮してしまう。ただ、予習・復習や主体的参加（問2）が若干低くなっており、とくに課題などは課していなかったが、何かしら授業外での学習を促す工夫も考えねばならない。ただとにかく、毎回しっかりと取り組んでくれた学生たちのおかげで、良い授業にできたと思っている。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳2  
授業コード 10D06-002  
教員名 大橋 真砂子  
教員コード 100233  
登録人数 149  
回答数 64  
回答率 43.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

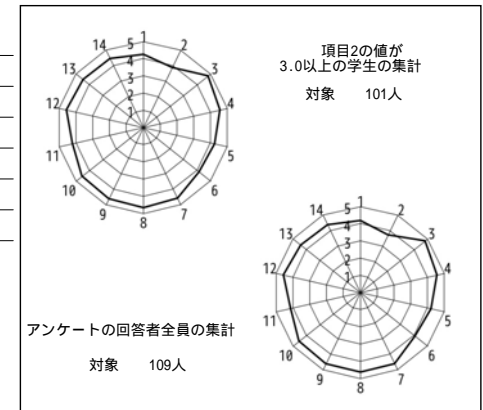


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、古代から近現代までの大まかなヨーロッパの歴史を辿りながら、性の問題や人の生き死に、病気や差別といったテーマに焦点を当て、いかにして様々な場面で「人間の尊厳」が毀損されてきたか、またそれらが現代社会における問題とどのように関連づけられるか、といった内容を紹介した。授業の目標（1「人間の尊厳」について自分なりに考えをまとめ、文章で表現できるようになる、2ヨーロッパの歴史の流れを大まかに理解している）はほぼ到達できたと感じている。学生からの評価は、数値データと自由記述を総合すると概ね良好と感じた。特に予習を前提としたWord資料と、予習の答え合わせも兼ねた PowerPoint資料は、学生にとって授業への参加を促すという点でも好評だと感じた。今後は、それらの評価を踏まえながら、ヨーロッパの歴史についてそれほど知識を持たない学生にとっても取り組みやすく理解しやすい、また「人間の尊厳」という重要なテーマについてそれぞれの授業内容に応じて各自が考えを巡らせることができるような資料作りをしていきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 音楽B1  
授業コード 12A08-001  
教員名 小沢 優子  
教員コード 101168  
登録人数 129  
回答数 109  
回答率 84.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

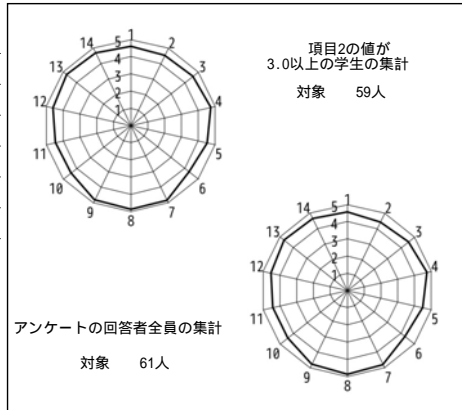


授業評価結果を踏まえた点検・評価

西洋の芸術音楽を3つの視点から考察するという授業内容にしたがい、3つの視点それぞれに応じた到達目標を設定した。社会の中での音楽のあり方から楽譜の基礎的な読み方まで、音楽のさまざまな面を理解できたという自由記述が複数あり、到達目標をクリアした学生が認められる一方で、アンケートの項目6（到達目標に向けて力がついてきていると思うか）の数値は4.07。項目1～14の平均が4.40、項目3～14の平均が4.47であることを考えるとかなり低く、全体的には理解はできていても力がついてきたという実感が得にくかったことがわかる。目標達成の意識を高めるにはどうすべきなのか、引き続き今後の課題としたい。今回のアンケートでは今までよりも多くの自由記述が寄せられており、その中にはホワイトボードの使い方についての具体的な指摘などもあり、大変参考になった。また、「楽譜の読み方や調についてなど、わかりやすく説明してもらえてよかった」「初心者にもわかりやすかった」という記述の一方で、「初心者にもっとわかりやすく話してほしい」「音階や調について難解なのでもう少し丁寧に教えてほしい」といった声もあった。どのレベルに照準を合わせるべきなのか、改めて難しさを感じたが、授業を進めていく中で理解度のチェックをこまめにおこないバランスをとることが必要なのだと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学A1  
 授業コード 12C04-001  
 教員名 大園 誠  
 教員コード 102910  
 登録人数 76  
 回答数 61  
 回答率 80.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

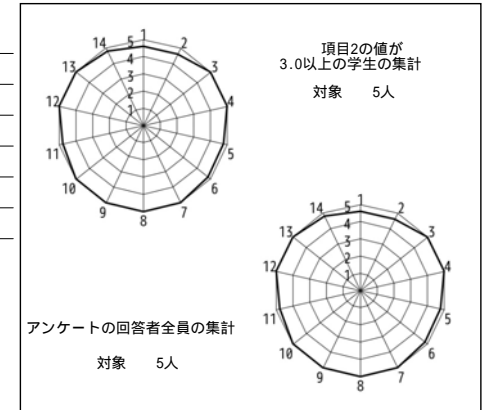


授業評価結果を踏まえた点検・評価

：今期は約3年ぶりの対面方式が復活。この授業の目的は、ひとつは、大学で初めて「政治学」に出会う受講生の案内役を果たすべく、「政治学の基礎概念」と「戦後国際政治史」という2大テーマに関する「基礎」を伝えること。もうひとつは、「政治学」に限らず広く社会科学において大切な「時事的な関心」を持ってもらうこと。そのため、出来る限り「政治学」の魅力や面白さが伝わるための工夫（分かりやすさを重視）と、いま現実に起きている政治現象に関心を持ってもらうための工夫（毎回ニュース・コメント記入）を実施。前半と後半ではテーマも視角も異なるが、授業評価を見る限り、前後半とも所期の目的は達成された。：全項目の平均値は4.6で、今期も一定の肯定的評価が得られた。良かった点として「レジュメ・資料の充実、授業の説明が丁寧で分かりやすい/映像資料の活用が良かった/ニュースを見る習慣がついた」、改善点として「ペンのインクが薄いことがある/字を大きく書いて欲しい/戦後国際政治史をもう少し詳しく」、「課題の答えが欲しかった/自分の好きな人物への批判はよい気持ちがない」との指摘があった。前半は改善に努めたい。後半にはこう応答したい。「課題」はあくまでも自主学習を促すためのもので、「正解」を求めるのでなく、自分でそれを探究することが学問の第一歩。たとえ自分が主観的に好きな人物でも、社会科学ではすべて学問的な「客観的な批判対象」になりうるものであり、それが大学において身につけるべき「批判精神」である。：今後も、基礎から応用へと発展するための足がかり・出発点となるような講義を心がけ、受講生の皆さんの知的好奇心や探究心を喚起するような内容を目指したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物理学A  
 授業コード 12D01-001  
 教員名 本村 扇仁  
 教員コード 102685  
 登録人数 8  
 回答数 5  
 回答率 62.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

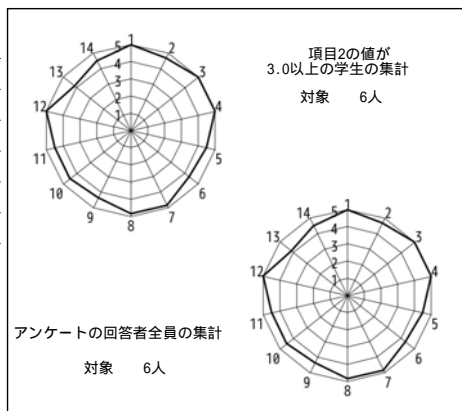


授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。また実感を伴った理解につながる効果が期待される映像資料を要所で取り入れた。このような展開について、説問4、9の数値から、概ね成功であったと考えられ、今後継続し工夫していきたい。学生がPCを準備していることから、計算についてエクセルを利用することを試みた。自分の手で数値的な面を把握するという点で有意義と考えられ、さらに展開していきたい。今年度は学期を通じて対面式の授業を行うことができたが、今後感染状況がさらに落ち着けば、教室内で簡単な実験を行い、測定結果および不確かさを計算してみるという取り組みを再開していきたい。物理学で実験が果たす役割を実感できる機会になるものと考えられる。興味があった点に関してどのように学習を深められるか明確にするという点については、参考文献の紹介など常に工夫を加えていきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 化学1  
授業コード 12D05-001  
教員名 沢邊 恭一  
教員コード 102686  
登録人数 7  
回答数 6  
回答率 85.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

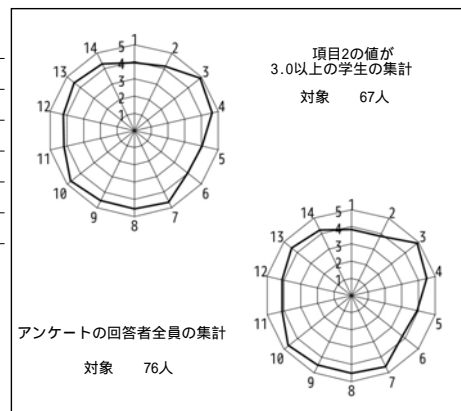
開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
講義の目標は、学生が「身の回りの物質」「身の回りの現象」を化学的な視点から観察・理解できるようになることである。そのために、基礎知識と化学的思考法を講義中に説明した。さらに、最終日には「身の回りにある化学」に関するプレゼンテーション発表を学生に行わせ、自発的な化学的思考の機会を設けた。発表内容から、講義の目標の化学的視点による観察経験の実現ができたと判断した。

数値データおよび自由記述等をふまえた総合的な自己点検・評価  
講義内容に関する自由記述からも、受講した学生に対しては講義の目標を達成できたといえる。学生からは、「日常の化学について触れるいい機会になった。高校の化学基礎以来で楽しかった」「化学的なことがらについて、身近なところと関連付けて教えられていたため、知らなかったことを知ったときは喜びがあったし、既に知っていたことも新たな側面でみる事ができた。」などの声が上がっていた。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
プレゼンテーションで注意すべき点を講義中に説明したにも関わらず、それが守られておらず不合格となった学生がいた。それらの学生は、講義中に居眠りをしているなど授業取り組み度は低かった。そのため、次クォーター・学期以降に向け、講義資料の一部を空欄にして講義中に記入する方式の導入を検討する。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学A1  
授業コード 12D06-001  
教員名 三野 義尚  
教員コード 102236  
登録人数 144  
回答数 76  
回答率 52.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

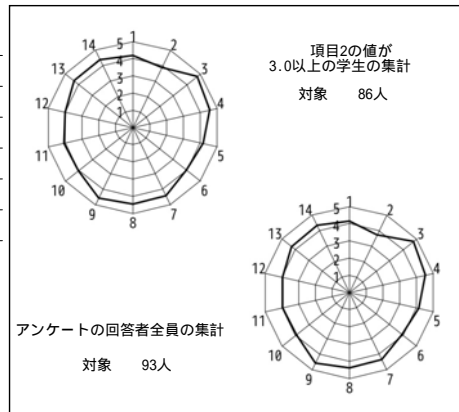


授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を計11回実施した。項目3-14の平均値は4.36であり、基盤科目（4.29）の平均を上回った。また全体評価（新しい知識と理解の深化）に関する設問13も平均スコアより+1.7ポイント高いことから、おおむね目標は達したと考える。一方で設問#5、6のスコアは高くなかった。これらは到達目標の理解と実感に関する評価であり、前回の評価も同様だった。もしかしたら「地球環境問題の理解」という抽象的な到達目標が学生さんにとって分かりにくい、もしくは評価の数値化が難しいのかもしれない。また講義中の小テストはアウトプットの場（＝理解を実感する場）としてあまり機能していない可能性があるため、形式変更を検討する予定である。また小テストに関しては「回答時間が短い」という意見（自由記述）をもらったので、この点は改善したい。授業運営に関する設問#9は評価されており、これは設問#15の回答にもあるように、映像資料と講義を組み合わせるスタイルが学生さんに好意的に受け入れられたようだ。今後もこの形式をうまく活用していく予定である。一方で、授業前に配布する資料と授業中に用いる資料の完全一致を求める意見がいくつかあったので、これにも対応していきたいと思う。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触2  
授業コード 13A02-002  
教員名 三木 誠  
教員コード 101621  
登録人数 194  
回答数 93  
回答率 47.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

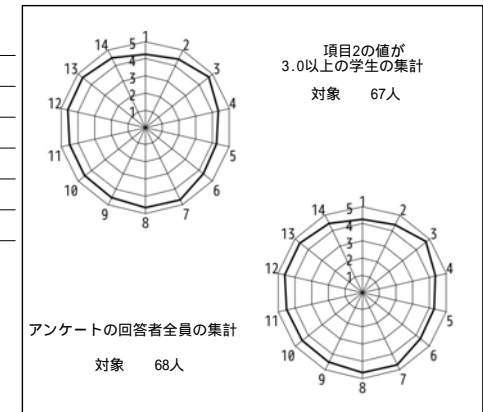
学生によって提出されたレポートの内容や、授業評価アンケートの自由記述から判断すると、開講当初に設定していた到達目標のうち2、3、4に関しては、ほぼ目標を達成できたと考えているが、1に関しては正直なところよくわからない。レポート内容や授業中の学生のリアクションを通した私自身の感覚では達成度は50%程度。

数年ぶりの教室での対面授業で授業運営のかんが鈍っていたこと、受講者数が予想以上に多かったことなどもあり、特に学期前半は自分でも授業パフォーマンスがあまりよくないと感じていた。項目番号10～12の数値が相対的に低いのはそのことも影響していると思うが、改善すべき問題点だと考えている。特な質問や相談の時間を十分に設定できていなかったことは反省している。その他の項目の数値についてはほぼ予想通りで、学期通しての自己採点は70点。

学生が普段目にするのがなくおそらくはその存在すら知らない社会、様々な文化的事象の現実や変化の様相などを、映像資料を多用してわかりやすく解説することがキモの授業であり、学生の評価もその点は高いので、この方向性は継続していきたい。同時に学生の問題意識を掘り起こし、より深い異文化理解に向けての考察ができるように、解説の仕方を工夫していきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命と法律問題1  
授業コード 13C02-001  
教員名 三枝 有  
教員コード 100468  
登録人数 134  
回答数 68  
回答率 50.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

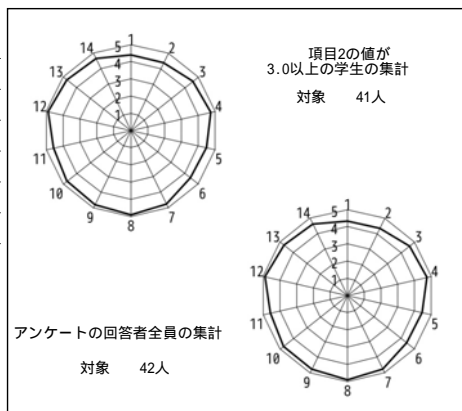
開講当初に設定していた目標と到達の程度について・・・開講当初に予定した目標数値をほぼ達成できたことは、講義の主体といえる学生諸君の積極的な受講姿勢によるものと感謝申し上げます。人数的にも予定以上の受講者数であっただけに受講生諸君の受講姿勢に依存するところが大きかったと考えております。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価・・・数値的にはかなり均衡化しており、むしろ大変多く頂いた自由記述が自己評価ならびに今後の講義運営に大いに参考になるものでした。学生諸君の創造性ある見解をまだまだ十分に引き出せておらず、質疑応答を以下に工夫するか、具体的事例を付加することで理解を深めるとともに、論点からずれないようにより有効な具体例をいかに提示できるか、そのタイミングも含めてさらに検討をしたいと思います。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など・・・現在、頂いた評価や自由記述を分析検討し、具体的例証の再検討と講義の運営方式の再度の見直しをしているところです。今後、更なるブラッシュアップを図りながら、学生諸君の意見をより反映させられるように工夫を重ねていきたいと思っております。大変ご丁寧な自由記述をありがとうございました。受講していただいたことに深く感謝申し上げます。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相1  
授業コード 13C04-001  
教員名 山口 佐和子  
教員コード 103067  
登録人数 74  
回答数 42  
回答率 56.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

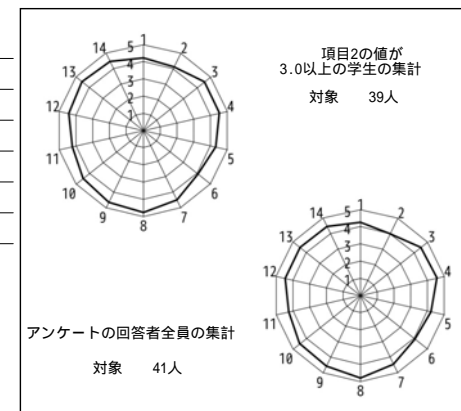
「到達目標を理解することができた(4.48)」「到達目標に向けて力がついてきている(4.40)」「授業を通して新しい知識を得、理解が深まった(4.69)」の項目において、ポイントが高く、全体・学際科目・登録者数別すべての平均を上回っており、十分に達成できたものとする。

「教員の声や音声機器がよく聞き取れた(4.90)」「質問の機会が十分にあり、課題に対する事前事後指導が従軍だった(4.88)」「授業の構成や進行速度が適切だった(4.76)」「学生の理解度に配慮し、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材を効果的に使っていた(4.76)」の4項目のポイントが上位3項目であり、すべて、全体・学際科目・登録者数別すべての平均を上回ることができた。自由記述では、「日本の社会問題を具体例を交え現実的に捉えられる授業だった」「新聞記事や雑誌の多用で理解しやすかった」「新聞やニュースから始まる授業は、興味を持てた」「他大学の講義では聞けないであろう国際問題や、先生自身の海外で働いていた経験と共に話してくれた」「説明がわかりやすかった」「教員が熱意をもって講義を行っていた」「授業で配られるプリントが綺麗にまとまっておりわかりやすい」「スライドが見やすい」等々のコメントがあった。

座席指定には否定的なコメントが1件あり、これまでコロナ渦の中で行ってきたが、今後は座席指定は行わないことにしたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相6  
授業コード 13C04-006  
教員名 松野 正太郎  
教員コード 104285  
登録人数 68  
回答数 41  
回答率 60.3%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回

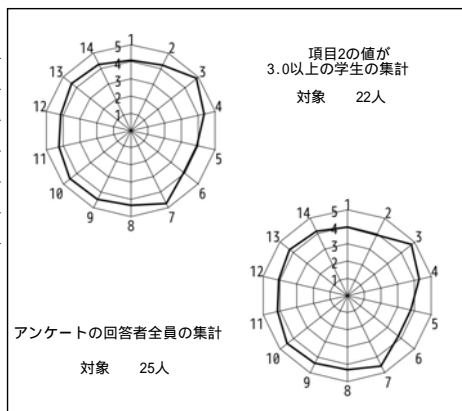


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート結果全体では、講義への満足度はおおむね高かったと考えられる。まず、開講当初の目標と到達度については、予定通りに達成できた。また、授業の構成や速度、質問への対応。教員の熱意については評価が高かった。一方、相対的に評価が低かったのは、学生自身が自学自習をするなどの自己に対する学習態度、自身の目標達成度などであった。この点は昨年度も同様の傾向であったが、学期途中でレポート提出を求めることなど、自分で課題に取り組む機会が必要であったと考えられる。あるいは、毎回提出させているリアクションペーパーの方法をもう少し工夫する等の点が必要かもしれない。また、特に、毎回関連する新聞記事を配って、解説することを試みた。このことに関する反応は良く、継続すべきと考える。適宜休憩を取ったのは、学生にとっても良い効果があったようである。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械2  
授業コード 13E04-002  
教員名 大野 波矢登  
教員コード 100625  
登録人数 72  
回答数 25  
回答率 34.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

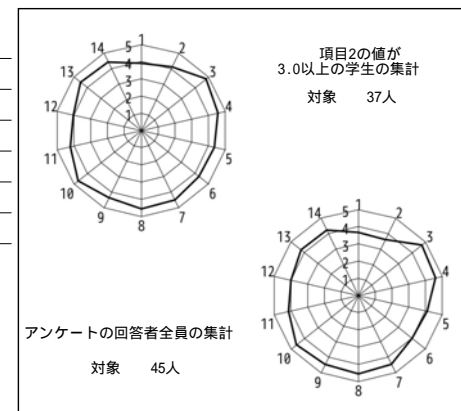
人工知能やロボットに関わる哲学・倫理学的問題を理解し、自らもそれらの問題について考え、討論できるようになることがこの講義の目標である。目標達成度は、アンケートの全項目の平均が4.21であったこと、小テストとレポートの合計点の平均が77.2点であったことから75%程度と思われる。

アンケートの結果については、項目5と6に対する平均値が3.80であったことから、授業の到達目標を十分に理解し、その到達目標に向けて力がついてきたとの実感を得ることができなかつたと学生が感じていたことが分かる。また、項目12に対する平均値が4.08であり、授業時間内に実施した小テストと課題に対するフィードバック、質問や相談に対する対応が十分ではなかつたことが分かる。

今後の改善点として、到達目標や受講の意義について丁寧に説明すること、そして、自分の目標達成度を各授業回において点検できる方法を工夫し実施することを心がけたいと思う。また、項目16に対する回答に、声がボソボソしている、レジュメの日本語が非常に分かりにくい、小テストの解答に納得できない点があった、といった意見があった。これらの点も改善すべきであると考えている。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生涯学習論  
授業コード 15M08-001  
教員名 市橋 芳則  
教員コード 100763  
登録人数 116  
回答数 45  
回答率 38.8%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の振興は、当初設定したシラバスに基づき実施することができた。また、目標の到達度については、レポート及び出席確認のために行なっている確認シートなどにより十分に達成したと考えている。

講義は、学生が通常の博物館見学や、図書館利用では知ることのできない実務に関する内容を盛り込み、また、必要に応じ動画や画像による具体例を示すことにより理解を深めることができた。学生の記述式アンケートにおいても実践例の提示は有効であったと認識している。

さらに、予習及び復讐などさらなる理解に必要となる資料については、データとして提示し、理解を深めるために一読するよう講義中に案内を行なった。今後も、生涯学習施設である博物館、図書館などの実例をもとに学生の生涯学習への理解、関わり方などを提供していきたい。なお、こうした施設については、新たに誕生する博物館や図書館、新たなコンセプトを導入する館の最新情報を取得し、講義に活用していきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 図書館情報資源概論

授業コード 15P06-001

教員名 伊藤 真理

教員コード 101182

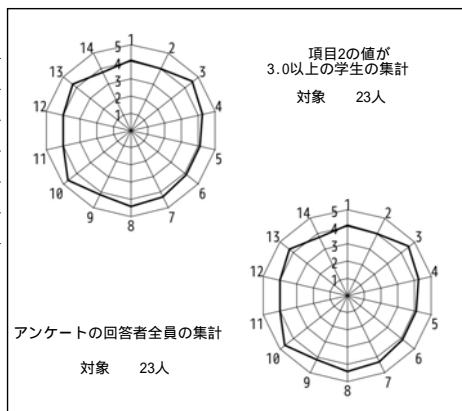
登録人数 57

回答数 23

回答率 40.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価結果に対する分析、およびそれに基づく考えられる改善点については、下記の通りである。

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目について、ほとんどすべての項目において良好な評価がなされていることが分かるとともに、学生の真摯な学修姿勢も伺うことができた。

したがって、当科目で設定した目標や達成の程度も適切であったと考えられる。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

特に、授業進行の適切性が平均的に高かったこと、授業を通して知識習得の実感を得られていることから、当該科目教授の成果があったと捉えることができる。

また、自由記述から、副教材とした資料も効果的だったことも分かった。

次クォーター・学期以降に向けての改善点等

全体的にテキストを示しながら授業を進めたため、OHCを使用して下を向いて話す時間が頻繁にあり、学生の目からはネガティブに映った点を改善していきたい。

資格科目のため、学生の関連職種や分野に対する意欲を維持・継続することが大事であると考えている。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教社会学

授業コード 21C56-001

教員名 長澤 壮平

教員コード 102718

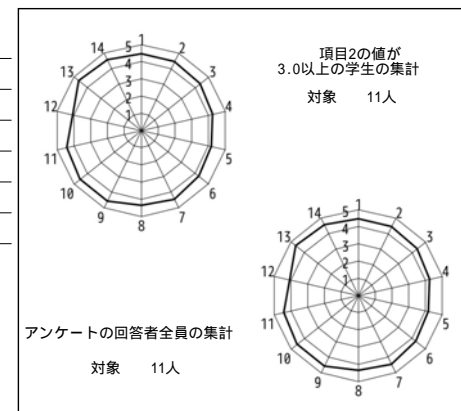
登録人数 33

回答数 11

回答率 33.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

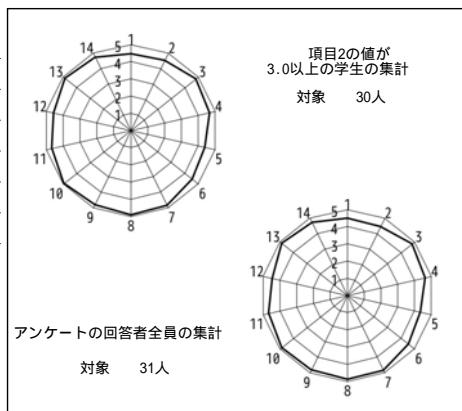
開講当初に設定していた目標と到達の程度については、毎回、記入させているコメントペーパー、および最終レポートの充実した内容から確認してきた。理論的な要素が強いので、全体に理解がいきわたるのは難しい面があったが、今回は講義の目標が概ね達成されたように思われる。

数値データにおいて、最も気になったのは、質問と相談の機会が十分でない、という部分であった。非常勤である立場から、オフィスアワーを設けることができないことがあるとはいえ、質問と相談の機会を十分に設けて、より柔軟に理解を深めるような講義を心掛けたい。本年度は、理論的内容の理解を促進する目的で、授業内容を変えた部分が多かった。またウクライナ侵攻などの時事問題とつなげるような変更も行った。このことから、より関心を引く充実した内容であった一方、講義の展開がまだ十分に練られていない面もあった。次年度に向けてさらなる精緻化を試みたい。また、数値データにおいて質問と相談など、柔軟なやりとりが不十分であったことが確認できた。これについても、より相互コミュニケーションを円滑にするような講義を心掛けたい。



2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語I <J・P>2
授業コード	11G01-006
教員名	金 由那
教員コード	101171
登録人数	34
回答数	31
回答率	91.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

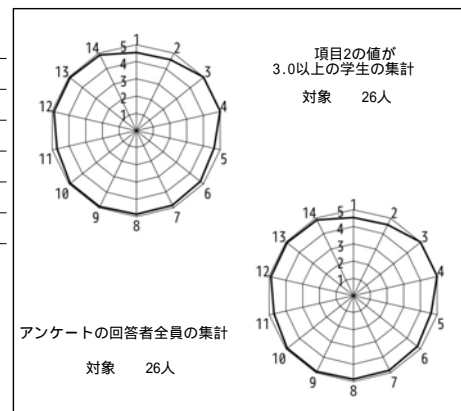
この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行った。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景の知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、

[理解度に合わせて授業をしてくださった、楽しくわかりやすく指導をしてくださった、ペアワークが多い、よいスピードで学習が進められた点、先生の声が聞き取りやすくて良かったです、映像などを使って楽しく韓国語を覚えられた、とてもわかりやすい、色んな人をあてるので、ちゃんと勉強しようという気持ちになった、小テストが多かったおかげで、結構習得できた、全体的にペアワークが多く楽しめる授業だった、パワーポイントで見やすく、ハングルを覚えるときに、振付も取り入れながらやったのですぐに頭に入ってきて、興味のある韓国語を基礎から学ぶことができた。説明がとてもわかりやすかった] など肯定的な評価が多かった。

改善点としては「相談する機会の回数が多い、もっと自分で考える時間が欲しい、宿題が少々多いと感じた、テレビに映し出される回答の文字が小さくて見えにくい、進むスピードが早すぎます、ちょっとだけ早い、小テストのスペンが少し短く、大変過ぎる気がしました。」とコメントがあった。次学期以降の授業でも、今学期の授業方法を踏襲してもっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語I <全・T>
授業コード	11G01-007
教員名	李 芝賢
教員コード	104621
登録人数	39
回答数	26
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

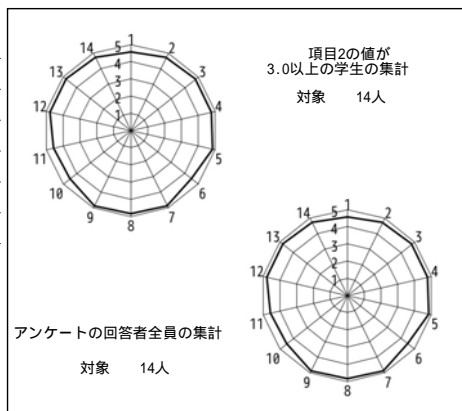


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は私個人で目標を設定したわけではありませんが、韓国語教育チームの一員として設定された目標を達成できるよう努めてまいりました。この授業は入門編であり、文字の読み書きおよび韓国語の音に慣れること、基礎的な名詞文などが作れることなどを目指すものでしたが、それらの目標はおおむね達成されたかと思っております。授業を実施しながら受講者の反応を十分くみ取れているのか不安もありましたが、レーダチャートや自由記述回答から授業のやり方への反応を伺うことができ、うれしく思っております。授業実施方法について、特にご指摘いただいた点はございませんので、今のやり方から大きく変えることはせず、個人個人の出来具合の確認や発音の反復など「よかった」という意見がいただけたものをより丁寧に継続していく所存です。2クォーターからは単語や文型の暗記などの負担が加わりますので、受講者の皆様が楽しく効率的に学習できるよう努めていきたいと思っております。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語I <E・B>2
授業コード	11G01-008
教員名	白 明学
教員コード	103287
登録人数	32
回答数	14
回答率	43.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2023年度Q1の授業目標はおおむね達成でき、満足度も高いと言える。最初の授業の時に後期授業の目標値をきっちり示し、設定したスケジュールに合わせ、韓国語の文字と発音を習得し、自己紹介や簡単な挨拶表現の使い方をマスターした。授業全体と授業運営に関する設問の平均値が4.72で、学生の満足度も高いと言える。

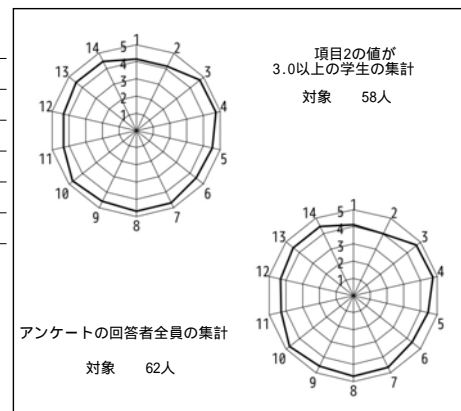
第1クォーターは、学生参加型授業を一貫して実施し、授業時間内に学生を授業に集中させ、ある程度の緊張感を持たせる方法を取ったが、この点が効果を発揮したのではないと思われる。また、これだけは覚えてほしい語彙リストと文法内容を整理し、繰り返し、声に出しながら復習した。大学の授業とはいえ、語学の学習にリピートは必須だと思う。自由記述で「授業の進行スピードが良くて、しっかり理解しながら取り組めた」等と評価を得たところは、素直に嬉しかった。

ただし、受講生の中には中・高校の時から独学で勉強しているという学生が近年増えてきており、そういう学生のための授業スタイルの工夫をしていかなければならない。来期の課題である。

授業運営の評価で比較的评价の低かった、「授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたか。」の設問についても、改善していきたいと思う。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	特別支援教育論
授業コード	15A23-001
教員名	梅村 公基
教員コード	104631
登録人数	115
回答数	62
回答率	53.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

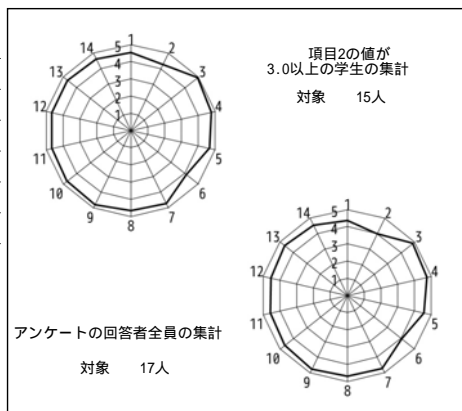


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業は講義形式で行った。知的障害特別支援学校、聾学校、病弱虚弱特別支援学校での36年の現役生活の話を具体的に述べるようにした。障害のある子どもたちと接した具体的事例を話したり、通級による指導や「地域支援」による通常の学級に在籍している障害のある児童生徒の支援をとおして得た経験を伝えた。学生はより身近に特別支援教育を感じてくれたことと思う。また、PT(パワーポイント)の資料も配布したことから、この資料を基により興味の幅を広げてもらうことに期待した。さらに「授業計画」を7点設定したが、全体としては障害種別にそれぞれの障害の特性について講義することとした。発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習について幅広く知識を伝えることができた。出席を取らなかったために出席率を上げることはできなかったと思う。最後の課題提出を紙媒体にしたことが不評であった。「授業評価」の結果から高い評価を得ていると思う。また、講義の後に「特別支援教育に興味をもった」という意見をもらった。まずは「教員になりたい」という志望者を多くしていきたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国語科指導法A  
授業コード 15B53-001  
教員名 上野 裕章  
教員コード 103859  
登録人数 19  
回答数 17  
回答率 89.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標を、「1 高等学校国語科学習指導要領の目標、主な内容、全体構造を理解している」、「2 国語教育の現状と工夫改善の取組を理解している」、「3 1, 2を踏まえ、授業実施の基礎・基本を身に付けている」とした。評価結果を見るとほぼ到達できていると考える。

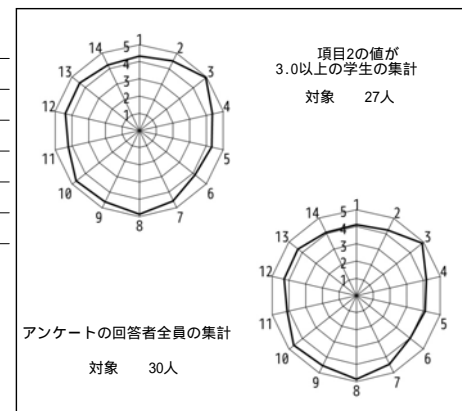
評価結果は、項目3から14の平均が4.62であった。評価が高い項目は、4「構成や進行速度の適切さ」と9「理解度に配慮し、適切に授業を進めたか」で、4.76。評価の低い項目は、6「到達目標に向けて力がついてきているか」で4.06であった。自由記述には、「現役の先生だからリアルな話が聞けてよかった」「授業の仕方が勉強になった」「現役の講師というだけあって授業はとても分かりやすかった」という評価の一方で「先生が一方向的に話している感じが強い」という意見があった。学生自身が「力がついた」「教員になりたいと思うようになった」と感じる事が目標であるため、指名を増やし、生徒一人一人の様子を見ながら授業を進めていきたい。

第3第4Qでは、中学校課程の国語科指導法を実施する。学生の発言やグループワーク、全体の場での発表の機会を設け、ゼミのような形式で、学生主体の授業を行えるよう工夫していきたい。

要望：「学生の教員評価」が学期に1回であるならば、国語科指導法については、Q1からQ4まで年4回あるため、Q2とQ4で評価していただくようお願いしたい。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語科指導法A  
授業コード 15B57-001  
教員名 浅野 享三  
教員コード 070912  
登録人数 36  
回答数 30  
回答率 83.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

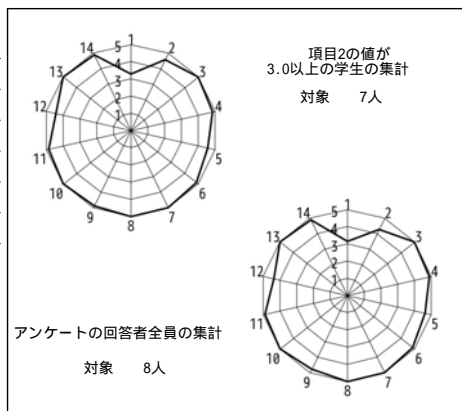
当初に設定していた目標は概ね到達できた。しかし、予想より履修者が多く、シラバス記載の授業内容が必ずしも展開できなかった。

今回の数値データによる評価をどう受け止めるべきか悩みがある。昨年度までの比較して、学生が「変わった」のか、自分自身が「変わった」のか、その判断ができていない。学生がなぜそのような記述をしたのか、可能ならば本人にお聞きしたいほどである。

今後に向けて。担当してきたこれまでも十分に感じ（または理解し）ながら指導にあたってきたのだが、上記の関連で「資格のみ取得希望の学生」向け授業の対応方法である。これまでの担当期間では、教壇に立つことを想定してシラバスを用意してきた。しかし私の授業内容は、資格取得のみ希望学生らには好意的に受け止められてはいないのではないかと、との心配がある。卒業後すぐに、または数年後に教壇に立つことを希望する学生より、資格のみ取得希望学生が多くなった今、どのような対応がふさわしいのかについて、教職センターでも議論を深めて、より学生の満足感を高められるようカリキュラムを構築して欲しい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	書道
授業コード	15E01-001
教員名	岡野 央
教員コード	101227
登録人数	15
回答数	8
回答率	53.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

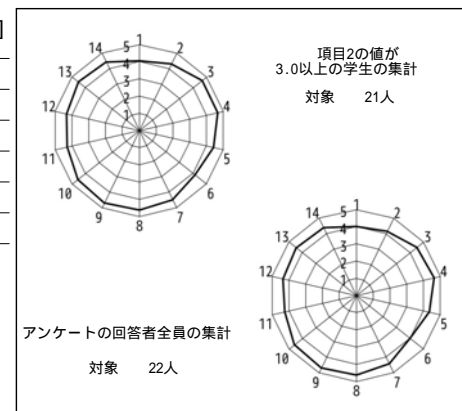


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の書道 第1クォーターでは、「日常生活における書のあり方」として毎授業中国唐代の書の古典の中から楷書、行書を中心に「形臨、意臨、背臨」の学習を行った。まず最初は楷書の基本となる欧陽詢の九成宮醴泉銘の臨書から褚遂良の雁塔聖教序へと進み、次に行書では王羲之の蘭亭序を学習し、意臨から背臨へと展開します。そして最後にこの授業の目的達成として受講生全員が蘭亭叙の書体を基に自選による四字熟語を色紙作品に書き上げました。その作品をそれぞれの自宅に飾り、日々鑑賞することで日常生活の中で身近に『書』を感じる環境を作るといった目的が達成されたと思う。受講生は自作の色紙作品を手で満足した表情が感じられた。ただ、ここ近年、クォーター制授業の導入により、指導する側の効率は良くなったものの受講生の自宅練習時間の間隔が短くなり、書の技術向上については更なる見直しが必要であるという課題も残った。やはり練度を要する実技の授業においては、繰り返し練習を重ねる事で徐々にその技術が身につく成果が現れるため、日々精進する自宅学習が如何に必要となるかを受講生は個々にそれらを自覚していかねばならないのであろう。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B] 2
授業コード	11A01-009
教員名	岩城 奈巳
教員コード	049601
登録人数	24
回答数	22
回答率	91.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

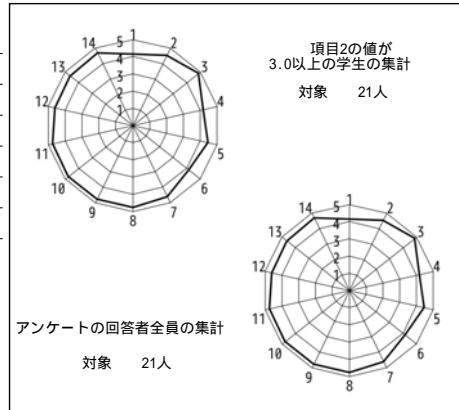


授業評価結果を踏まえた点検・評価

教科書に沿ったテーマを基に授業内での目標を設定し、授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した結果が、アンケートでの学生の高い満足度として現れたと感じる。授業は複数名のグループでディスカッションを行ったり、ペアワークを毎回取り入れたりしながら必ず全員が参加しなければいけない講義を心がけた。アンケートは各項目とも平均以上の点数があり、自由記述欄のコメントでは、「全員が当てられたり、隣の人や周りの人と片方が何か話し合ったりなど比較的楽しく授業に取り込めるようになっていた」、「小テストが定期的にあったから、復習する習慣がついてよかった。TOEICのリスニングもやったので有意義な時間だったと思う」、「発言の時わからないで終わらせるのではなく、周りに聞かせるなどして自分達で考える力を養っていた」などあり、学生にとっても満足のいく授業内容であったと思う。また、検定試験に向けての教材を多く配布し、特に多くの学生の就職活動の際必要になるであろうTOEICに関しては、肯定的なコメントが多かったので、こちらも引き続き、サブ教材としてクォーター2以降も取り入れていきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[B]  
3  
授業コード 11A01-010  
教員名 ADRIANOWICZ, Zbigniew  
教員コード 103868  
登録人数 25  
回答数 21  
回答率 84.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goals of the class “Oral Communication” were to a) make students comfortable in expressing their opinion and b) give them necessary tools for the expression.

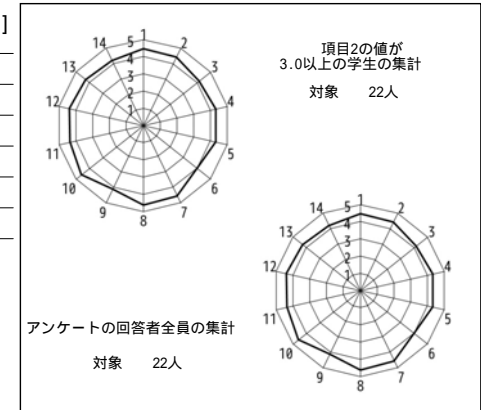
Each student gave several presentations: individual and pair, and then, in teams, the students were participating in debates. At the same time, the students were supposed to evaluate their peers’ presentations.

While at first the presentations may have been difficult for some students, through becoming comfortable with the class format and the class environment, the students have progressed, allowing them to experiment with various forms of presentations. As a result, the class goals have been mainly achieved.

For the remaining quarters I intend to continue with the class format and style. As the students are becoming more comfortable with expressing themselves in English, they are also becoming more confident in their abilities, allowing them to be better English speakers and communicators.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[B]  
4  
授業コード 11A01-011  
教員名 HERSCHLER, Brian  
教員コード 100552  
登録人数 25  
回答数 22  
回答率 88.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

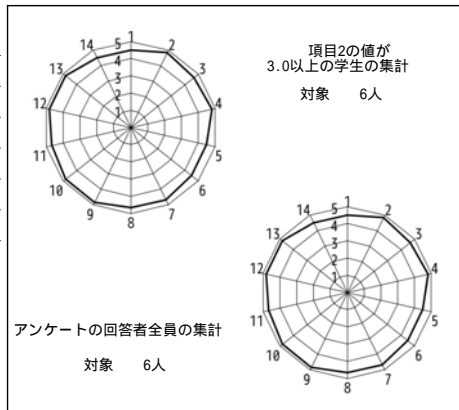


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Very positive responses from students with no complaints. I particularly liked receiving the feedback on one of my innovations, namely, that pausing after each bit of explanation I give in English for students to group together to ensure that all have understood, is appreciated and needed. That gives me the impetus to share this classroom technique with other teachers.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[B]  
9  
授業コード 11A01-016  
教員名 SKEATES, Colin  
教員コード 104779  
登録人数 25  
回答数 6  
回答率 24.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

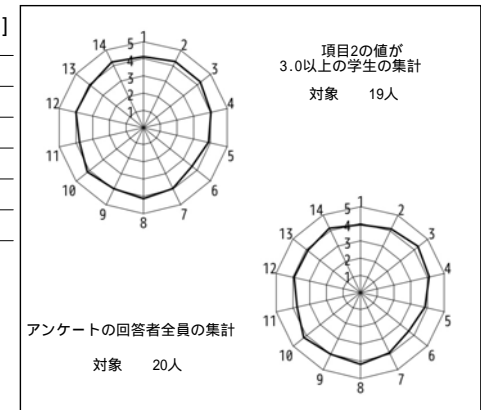
Course goals. Students: 1. speak English in every class. 2. read a new graded reader weekly. 3. give and get feedback on the activities used in class.

Given the simple goals, I feel I have done very well. More importantly, most students achieved the course goals easily.

Reflecting on this, I hope to better understand how goal three helps students in other classes. Unfortunately, conducting such research is not supported here.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[B]  
10  
授業コード 11A01-017  
教員名 LENIHAN John  
教員コード 045070  
登録人数 24  
回答数 20  
回答率 83.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class had the following goals: improve oral communication, daily vocabulary, the usage and origins and history of idioms, develop effective communicative strategies, and to develop vocabulary through the use of original student-centered materials.

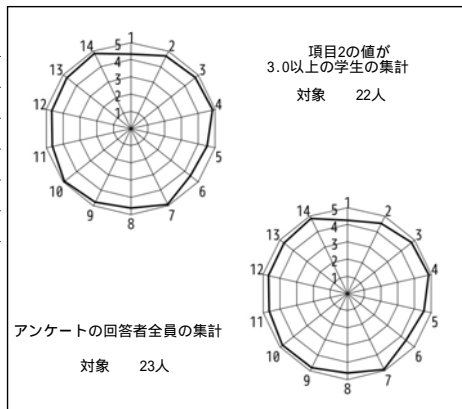
I believe that most of the students that showed a high level of motivation and participated actively would agree that the goals of this class were met to a certain degree. This class has a wide range of abilities and motivation. Most were engaged in the class activities with only a few that were not terribly interested at various times.

The oral communication portion of this class was centered around various short plays and original writings by these students. These plays and original writings proved once again to be very popular and quite entertaining, while at the same time holding sure educational value.

Overall, The class was very pleasant to teach and very challenging and very worthwhile. I look forward to the activities of this class in the coming next two quarters.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B]
授業コード	11A01-018
教員名	大竹 万里
教員コード	047084
登録人数	24
回答数	23
回答率	95.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



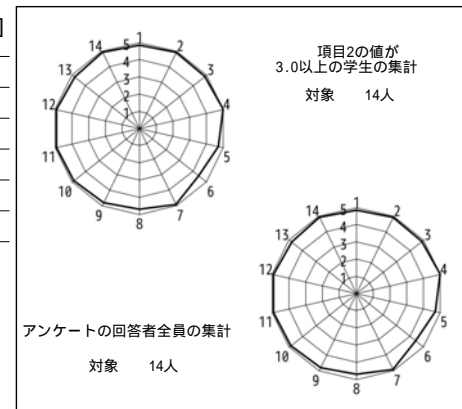
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はリスニング力及びスピーキング力を高めることを目標としている。具体的には会話やインタビュー、モノログやビデオ教材など様々な教材を視聴して、内容を把握し、要約できるようになること、また、スピーキングについては、トピックについて2分程度話すことができるようになることを目標にした。授業では、会話のストラテジーを学習し、ペア、またはグループで発話練習をする。学生は3回のオーラルプレゼンテーションを通して成果を発表する。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.72、学生の授業に対する全体的な満足度については4.83であった。教員や授業内容についての満足感はある程度得られたように思う。今期は特に学生とのコミュニケーションを取るよう努めたが、そのことは、「親しみやすく、質問に優しく答えてくれる」として評価された。また、「Class Bookの教材は興味が湧く内容で楽しく取り組めた」と授業で取り上げるトピックに満足する記述が複数見られた。「楽しい授業展開で意欲的に取り組めた」や「日常会話の言い回しをたくさん学べた」との指摘から、分かりやすく実用的な授業が評価されたと考える。第2クオーターでは更にチャレンジングな教材を織り交ぜななら、学生の積極的な課題取り組みを促す授業を目指したい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[G]
授業コード	11A01-037
教員名	高野 洋子
教員コード	104147
登録人数	17
回答数	14
回答率	82.4%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

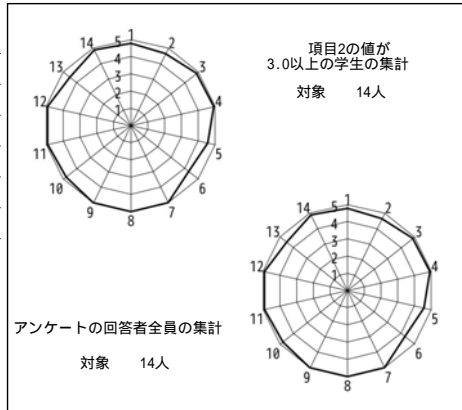


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初は例年の学生の英語能力を考えて コミュニケーション能力を伸ばすためのクラス活動を準備して授業をしていた。緊張していたがだんだん慣れてきて英語を話す緊張がなくなってきた様子が手に取れるようだった。具体的には、対話を始めてからTOPICを広げて話せる学生が増えてきた。日本人が外国語を話す際に感じる 恥 や ためらいなどを少しでも減らすために CONVERSATION STRATEGY を指導した。この結果 学生たちは戸惑うことが減り、自分の意見を積極的に話すようになった。自己評価としては語学力が優れた学生ばかりだったので教科書に沿った授業を中心に発展した事項についても考えてもらった。特にグループ発表ではGENDER について意識調査やほかの国と日本を比較して問題点を自分たちの視点で深く掘り下げて意見を述べる機会を増やした。このような学生の個人能力をひきだす授業を実施できたことは高く評価できると思う。次期に指導する抱負は困っている学生を助けて、学ぶ意欲、喜びを教えていきたい。意思が強い学生だけではなく、弱い学生もいと想定できるので そちらのほうを支援できれば、全体での学習効果がでると思う。授業の最後に学生に感謝の声、手紙などをもらうのだが、寄り添って指導することは信念なので方針が変わりはありません。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[G]  
8  
授業コード 11A01-039  
教員名 木下 薫  
教員コード 104328  
登録人数 17  
回答数 14  
回答率 82.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

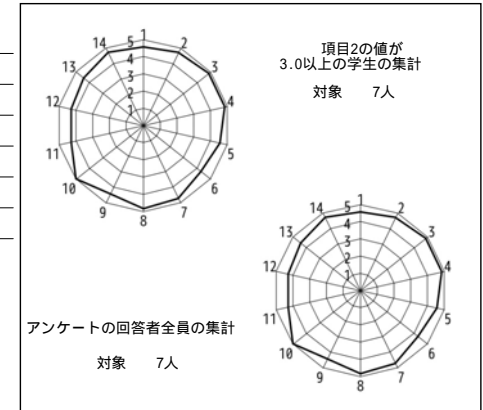


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. In this course, students were expected to: (1) attain a good functional level of oral proficiency in academic and social contexts at CEFR B1–B2 level; (2) critically explore and analyze thought-provoking content, drawn from the class texts, presentations, and other sources; (3) learn to express their views coherently, rationally and with appropriate discourse; (4) learn the basics for organizing and presenting considered opinion and perspective on a range of issues; and (5) initiate guided preparation for TOEFL or IELTS test-taking. Items (1) through (4) were satisfactorily met, and item (5) was only partially met due to time constraints.
2. Overall, students evaluated this course positively. Students seemed to appreciate various types of speaking engagement during the class that were assigned in non-threatening formats. They also enjoyed connecting with other students through conversations and engaging in vocabulary quizzes that summarized textbook contents.
3. I received feedback that the course goals were not clearly articulated in the class. To address this weakness, I will explain how and why each activity or assignment is connected to the course goal so that the students will understand their relevance.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション<  
再>1  
授業コード 11A01-040  
教員名 JONES William M.  
教員コード 100263  
登録人数 9  
回答数 7  
回答率 77.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



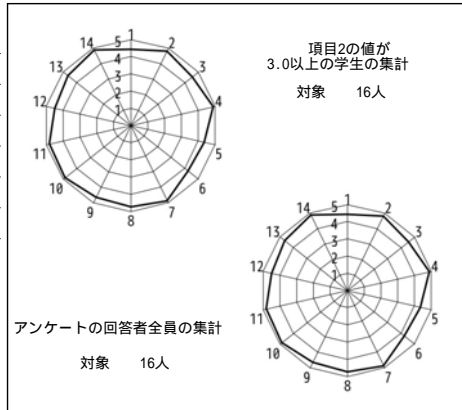
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Instructor has the students privately write in English why they failed prior English courses. The instructor then tries to avoid these reasons for failure by repeatedly telling, and writing on the board, critical information that can negatively affect their grades such as excessive absences, failure to meet submission deadlines, etc. Instructor was extremely pleased with a perfect 5.0 regarding: Were appropriate measures taken to deal with private conversations, cell phones, tardiness, and other disruptive behavior in class? Instructor lets all students know, both repeating and non-repeating, that they have every right to take the course based on lotteries, rules, etc., but absolutely no right to disrupt the class. In particular, the following question is an eye-opener for students: How is it possible that a total stranger to your parents (the teacher), cares more about your parents' tuition money than you do? That is, instructor tries his absolute best not to waste any time, nor any of the Ss' parents' tuition money and almost all seem to instantly and intuitively grasp the depth of this question. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 to meet submission parameters.



2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[B]1  
 授業コード 11A05-008  
 教員名 SIMMONDS Brent  
 教員コード 103050  
 登録人数 21  
 回答数 16  
 回答率 76.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



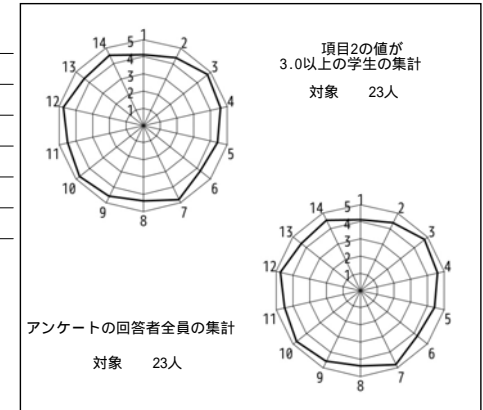
授業評価結果を踏まえた点検・評価

It is pleasing to see that the students enjoyed the first semester. They worked well in all areas both individually and in pair and group work. There were some areas that I could improve upon, perhaps paying a little more attention to students' understanding of completing all the tasks. However, the general standard of English was quite high with some improvement in all areas especially speaking ability and presentation skills.

During the next quarter, we will try to improve all areas but concentrate on developing the student's critical thinking skills. The Sustainable Development Goals are an ideal tool for the students to form opinions and offer solutions to the problems that they will have to tackle in the next few years. My main concern is maintaining student motivation as the demands of other courses increase and their commitment to English sometimes decreases. Maintaining the balance between understanding the student's needs in general and reasonable expectations towards this course is a challenge that I look forward to. Adapting the course maybe required to meet these challenges .A successful and enjoyable first semester but I will strive to maintain motivation.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[B]2  
 授業コード 11A05-009  
 教員名 BLOWER, Luke  
 教員コード 104287  
 登録人数 24  
 回答数 23  
 回答率 95.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

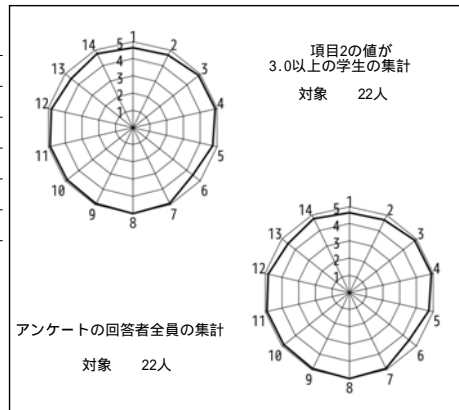
The main aim for the first quarter for the Monday reading sessions was to get the students used to, and hopefully enjoying, reading (for the extended reading part). For the in-class intensive reading, it was important to cover the basics of reading (finding gist, reading for details etc). This was largely achieved and the students kept their motivation at a good level.

For the writing sessions (Thursdays), it was important to run through the basics such as sentence structure, paragraph structure etc. Again, this seems to have largely gone over well. The scores of the evaluation seem to reflect this situation. There is a variety of levels in the class and some of the students may have found covering the 'basics' not so interesting, so the scores are not perfect. I expect that such students will be able to get more benefit from the proceeding quarters this year.

The first quarter involved a lot of self-correction. However, due to the advent of AI tools, there is a strong argument that students should be encouraged to write more creatively rather than merely focusing on writing 'correctly'. The activities lined up for quarter 2 will take this into account and have the students really challenge themselves.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[B]4  
授業コード 11A05-011  
教員名 都築 千絵  
教員コード 103924  
登録人数 25  
回答数 22  
回答率 88.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

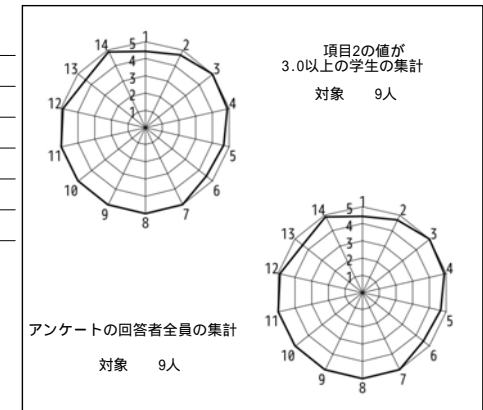
このクラスは経営学部1年生が必須科目として履修した。シラバスにある1年を通した目標の中で、Q1では段階的に目標に向かって授業を進め、これからの学期内で繰り返し学んでいく内容も含め、Q1の目標は概ね到達することができた。

全項目の中で一番評価が低かったのは、設問6でQ1が終わる前の段階では自分の力の伸びを自覚するのは難しかったかも知れない。授業運営に関わる設問の結果は概ね高評価で、特に設問8は全員が満点を選び、マスクを付けての授業だったが、マスクがあっても教員の声はしっかり伝わっていたとわかり、今後もマスクは必要に応じて付けていきたい。自由記述では、良かった点にグループ活動を挙げる学生が多く、人の意見を聞くことで、自分の考えがまとまり、理解を深めることができたようだ。また、グループを毎回変え、席も指定にしていることは好意的に受け取られており、大学1年生のQ1での友達作りに貢献したようだ。グループ活動での役割については、プレゼンターの負担が改善点として挙がっていた。

学生が自分の力が到達目標に向かって伸びていることを、例を挙げて自覚を促すことが必要だと感じている。また、このクラスで新しい知識やスキルも伸びていることも感じてもらう工夫をしていきたい。これからも積極的にグループ活動を取り入れていくが、授業途中で役割を交代するなど改善していきたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[B]6  
授業コード 11A05-013  
教員名 BONDOC, Jeffrey  
教員コード 103469  
登録人数 25  
回答数 9  
回答率 36.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

For the first quarter, all goals were reached. The students tried very hard with all the activities and engaged with the materials given.

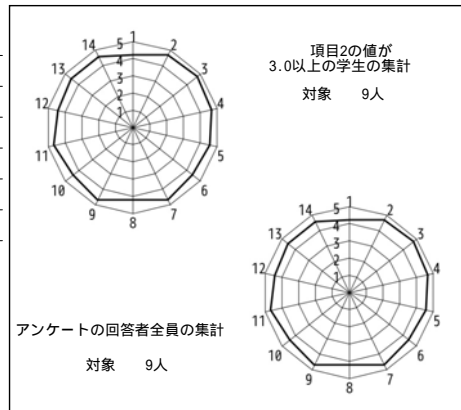
For the reading section, students were receptive to the reading material and found the content engaging. They performed well with the weekly activities and the homework. The students studies hard with the vocabulary and did well in the vocabulary exam.

For the writing section, the students found the work challenging but tried hard with all the activities. The students understood what was expected of them and did the homework as best as they could. Students understood the basics of writing and were able to write 2 good paragraphs that formed their main writing assessments.

I could better improve through my explanations. Sometimes I am not clear which may lead to some confusion. I would like to focus on improving my communication skills.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[B]8  
授業コード 11A05-015  
教員名 MOORE, Douglas  
教員コード 100954  
登録人数 26  
回答数 9  
回答率 34.6%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

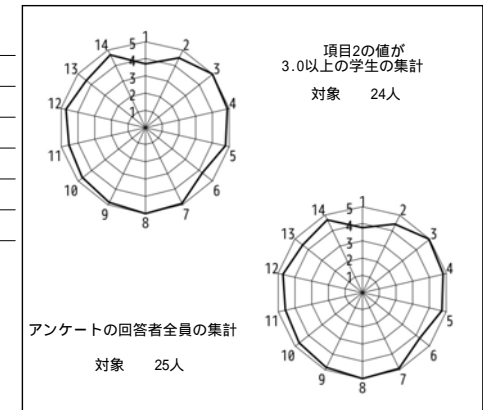


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall this evaluation has more or less expected results, showing how the class went and gave small insights into the class and student's thoughts on said class.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[B]9  
授業コード 11A05-016  
教員名 山田 秀子  
教員コード 103595  
登録人数 25  
回答数 25  
回答率 100.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

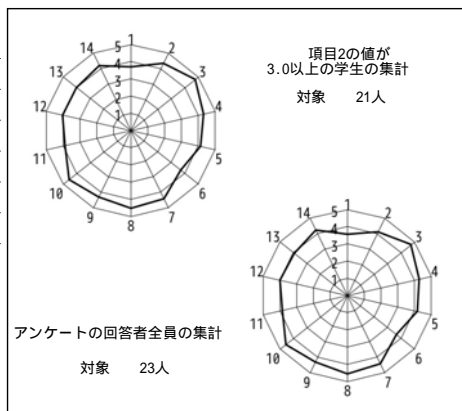
開講当初に設定した目標は概ね達成できた。シラバスに提示した学習内容・範囲の9割以上を扱い、全員が課題をすべて終えることができた。数値データでは履修前の興味を問う項目1が3.76と低めであったが、全般的に受講姿勢は良好で、積極的に参加する学生が大半であった。到達目標の理解度を問う項目5(4.76)については、授業の最初や課題ごとに目標を明示したことが結果につながったと考える。また、学生同士の学び合いを促すためにグループワークを多く取り入れているが、自由記述の回答や授業の満足度を問う項目14(4.68)から、学生は好意的に受け止めていると思われる。今後も続けていきたい。

項目1に次いで低かったのは、自分に力がついてきていると思うかを問う項目6(4.28)であった。特にライティングを苦手とする学生が多いが、1学期という短い期間にライティング能力の向上を実感することは難しい。4期連続の科目であるため、長期的な到達目標も意識させて進めていくことを心掛ける。自由記述の回答に、文章を書く能力を身に付けられることやレポートの書き方を学べることなどが挙げられていた点は良かった。

授業外の課題とした多読の取り組みには問題があった。指定したワード数は満たしているが、学期を通じて読むのではなく、学期の終盤などに短期にまとめて読む学生が多く見られた。取り組み方とその効果を再度説明することで改善を図る。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[B]10  
授業コード 11A05-017  
教員名 橋爪 真理  
教員コード 104272  
登録人数 24  
回答数 23  
回答率 95.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクラスは全体的に英語学習に対して困難を感じている学生がやや多いため、全員が理解できるようにゆっくりとしたスピードでグループ学習を中心とした授業を展開していった。そのため、楽しく交流もしながら学習できた反面、他者に依存してしまう面もみられるときがあり、さらに工夫が必要である。

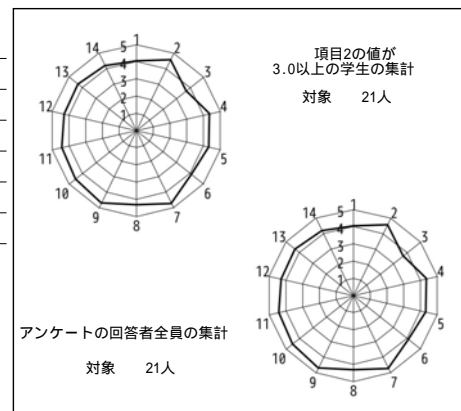
授業形態としては音声だけでなく視覚的にも理解を深め、授業資料、授業形態を工夫してきたことはある程度効果があったようであるが、資料提供のタイミングなど改善していく必要がある。

目標としては“英文を読む、書く能力を伸ばす”と設定し、適宜小目標を設定し授業展開を行った。Q1においては、まず読む領域では基本的な技巧を教え、図書館の多くの様々な英語本を読む機会を設けることにより英文に親しみより早く深く読む能力を伸ばせるように授業展開を行った。書く領域では、英文での論文様式の基礎的な理解と習得をおこない、正しい英文様式を使って英語論文を書くことができるようステップを設定して取り組んだ。

Q2では個別に取り組む機会とグループワークでのバランスを取りながら、苦手感を克服し当初の目標の英文を読む技術と書く技術について実践を重視してすすめていく。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[B]11  
授業コード 11A05-018  
教員名 平出 優子  
教員コード 102521  
登録人数 24  
回答数 21  
回答率 87.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

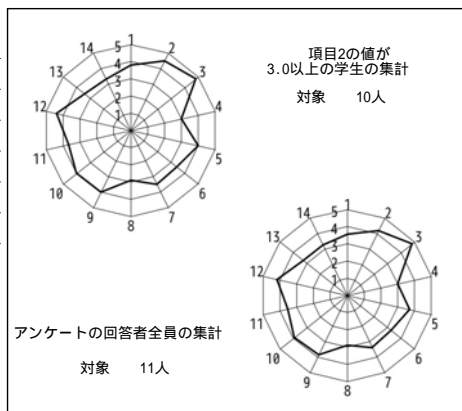
英語Iリテラシーの授業はライティングとリーディングから構成される。Q1のライティングの目標は、書くための準備としてmind mapの技術を使えるようになること、Writing about yourselfという自分に関する内容についてエッセイの為のGrammarのルールを理解した上で150語以上の首尾一貫した1つのパラグラフが書けるようになること、基本的なエッセイのフォーマットが使えるようになることの3点であった。Essay Writingの基本を理解した上で各ドラフトを書くよう繰り返し説明した結果、上記3つのゴールについて到達できたと考える。Q2ではWriting about your activitiesとWriting about your dayという2つの内容で、複数のパラグラフから成るライティングを練習し、Essay Writingの基本知識の定着を図る。

Q1のリーディングの目標は、流暢に英文を読むための様々な読解方略を効果的に使えるようになること、Extensive Readingにおいて目標語数に到達し、MReaderでクイズに答えること、Vocaburayの知識を増やすことの3点であった。提出された課題の出来が非常によく、また、MReaderの集計でもほとんどの人がクリアしていたので、目標は十分に到達できたと考える。

Q2では難易度を上げ、更なるadvanced skillが身につくよう指導したいと考えている。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[B]12  
授業コード 11A05-019  
教員名 島 禎子  
教員コード 045559  
登録人数 22  
回答数 11  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

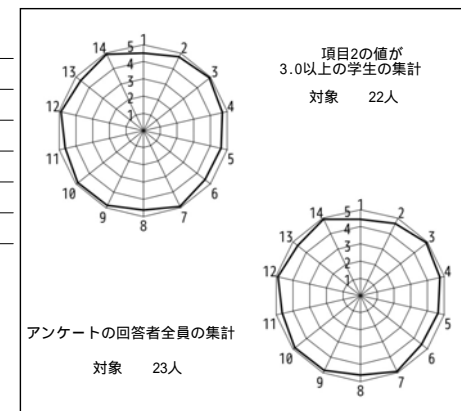


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標は概ね達成されたが、授業に対して満足している者とそうではない者との二分される結果となった。アンケート結果から、構成/進度が適切ではないと回答した学生が半数弱いた。年々裾野の広がりが増してきている現状だが、昨年度、一昨年度と授業にきちんと取り組む学生が大半を占めていたこともあり、進度に関して何ら問題がなかったが、今年は学生の授業に対する姿勢も授業を取り巻く環境も一変した。[B] 12ということで、extensive readingの目標語数やwriting projectの語数を少なくし、かなり配慮しているものの、それでもレベルや進度が適切ではないと感じる学生がいる。残念ながら、英語をはじめから投げ出している学生が一定数いるため、何回説明しても左から右へ抜けていく状態。対話型AIの登場と相まって、writing projectはチャットGPTに頼りきりで表面上はこなれた英語は書くものの、format/organizationへの理解が追い付かず、Q1の終わりかけでも基本的な書式に沿ってorganizationごとに決まった展開方法で書くことができず、評価に困るpaperが一定数存在する。構成/進度の不適切さを一部の学生から指摘されたことは真摯に受け止めなければならないが、前述したようにこのことは個々の学生の取り組む姿勢によるところが大きいと考える。生成AIの出現により、教え方/評価の在り方も新たな局面に突入した。新しい時代に対応する方策を早急に考える必要がある。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[P]2  
授業コード 11A05-021  
教員名 NICKSICK, Thomas  
教員コード 102113  
登録人数 23  
回答数 23  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



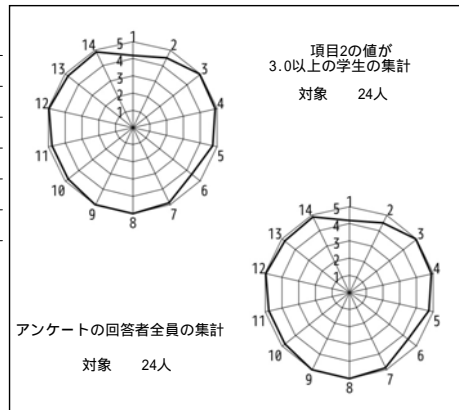
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Students improve reading proficiency with extensive and intensive reading tasks. Students also learn how to write clearly and effectively by developing skills in planning, organizing, and developing ideas.

The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the instructor displayed sincerity and determination in teaching the course, the rating was 4.91. When asked if the instructor took into account the students' degree of understanding, the rating was 4.83. When asked if there were enough opportunities for questions or to consult the instructor, the rating was 4.91. When asked if the students were satisfied with the course, the rating was 4.91. However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through the course, the rating was 4.65. Regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 4.57. When asked if the guidance and information that was offered encouraged the students to want to learn and participate, the rating was 4.65.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[P]9  
授業コード 11A05-028  
教員名 鈴木 愛  
教員コード 103596  
登録人数 25  
回答数 24  
回答率 96.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

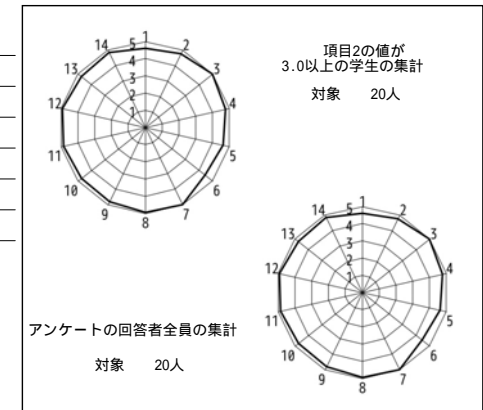
I have set a couple of goals for the course in Q1. Some of the goals for reading skills are previewing and predicting, understanding the topic, scanning, and skimming. Students seemed to understand and get the idea of them, however, they needed more practice to be able to identify them. As for writing, the goals were to be able to write different types of letters; informal and formal. They seemed to get the idea and was able to produce it as well.

Reflecting on the student evaluation, it seemed that they did learn and be able to produce most of the learning goals. One point I would like to continue is doing a lot of pair and group work activities. Students seemed to enjoy and feel relaxed to discuss the content with their classmates which helped me have an active discussion as a whole class.

There are a couple of points that I would like to change for Q2. I had them do many peer reviews, however, not all of them were successful. It seemed that students did not know what a good peer review is and to what extent they are supposed to be reviewing. For the next semester, I am planning to do a sample peer review with the students so that they know what they should be reviewing for.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[G]3  
授業コード 11A05-034  
教員名 水野 真紀  
教員コード 101981  
登録人数 20  
回答数 20  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

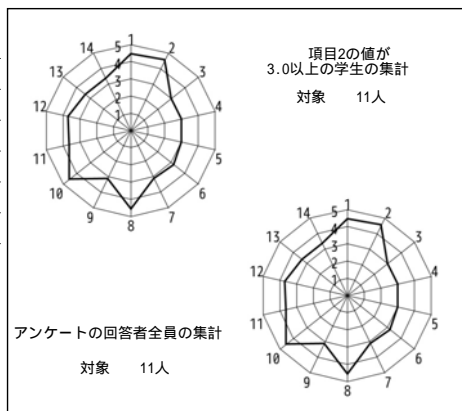
目標は達成できた。学力、モチベーションの高いクラスであったことに因るところが大きい。リーディングとライティングを同一テーマで内容・言語の両面から指導できた。教科書の精読と課外の多読でインプットした内容と語彙・表現をもとに、フリーライティングで書く量を確保し、パラグラフとエッセイ構成を学んだ後、期末には3パラグラフのエッセイを書けるまでになった。教員とクラスメートのフィードバックから、コミュニケーションとしてのライティングを意識できるまでになった。

数値データからも当初は履修内容に興味を持てなかったが、次第に理解し、積極的に取り組めたことがわかる。到達目標に向けて力がついたかとの問いの数値が少し低いのは、ライティングで英語で十分に自己表現ができないと感じているためである。初めて文レベル以上の英文を書いた学生もいるので当然である。自由記述でも、独学では学べないものをグループ活動で楽しく学べたこと、個別に質問しやすい環境であったなどのコメントが多数みられる。引き続き一人一人に合った指導を心がけたい。

依然として抱き合わせ授業を週2で実施するシラバスはきつい。学生も両方の課題に追われ、中途半端になりかねない。またライティングに比重を置きがちなので、補助リーディングや各種英語テスト対策を挟み込む機会を増やしたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[G]5  
授業コード 11A05-036  
教員名 石田 理可  
教員コード 104495  
登録人数 18  
回答数 11  
回答率 61.1%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

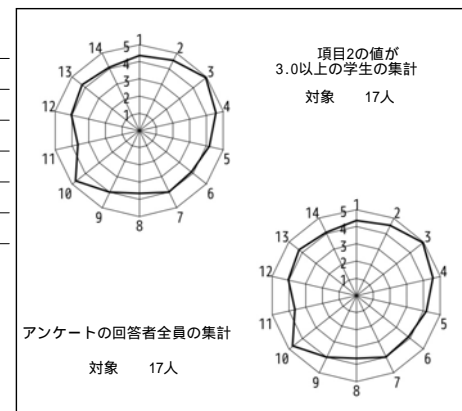


授業評価結果を踏まえた点検・評価

英語でエッセイを書くための基礎を伝え、短いものを書かしてみた。  
高校までに行っていなかったかもしれない最初から英語で考え、書くということと日本語でのエッセイとの書き方との違いをまず教える。書き方を伝えても、まず自分の意見や考え自体をもてない学生もいた。それぞれの学生がそれぞれの意見や考えを持てるように、また第2パラグラフ以降コンクルージョンまでの経緯や理由を書けるように、出来るだけ多くの項目について、ディスカッションの場を設けた。ディスカッションがあまりにも短時間で終わったり、意見が偏りそうになったりした場合には条件を追加して、出来るだけ結論まで時間を掛け、自分自身の考えを持つことをできるように試みた。その結果、英語でのディスカッションが日本語で行われてしまうこともあった。今後は、このようなことが少なくなるように試みたい。  
全学生に意図が伝わっていないかもしれない残念さがある。自分の意見や考えを持ち、参考になる他の事柄を知ることはエッセイを書くために有効だったと確信する。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[G]6  
授業コード 11A05-037  
教員名 クマイ 恭子  
教員コード 101131  
登録人数 18  
回答数 17  
回答率 94.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

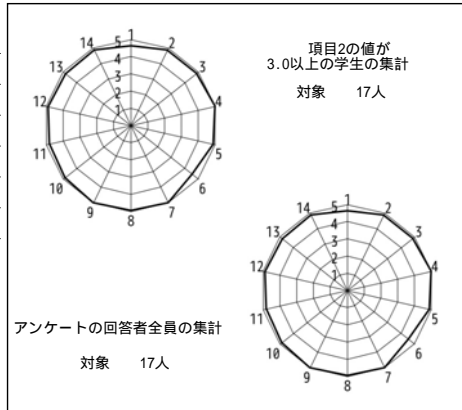


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1における本講座の目的は、ライティングにおいては英文エッセイライティングの構造や基礎を学び、短いエッセイが書けるようになること。リーディングにおいては英語を読む際の諸スキルを習得し、批判的読解の訓練をすることだった。テキストおよび提出物への担当者からのコメントのみでなく、日本語でエッセイの構造が説明されている文献を紹介するなどして、学生の自発的な理解への努力を喚起してきだつつもりである。  
学生は英文エッセイの構造は理解しはじめてはいるが、その構造を体現するような英語の語彙やロジック、レトリックに関しては今後ブラッシュアップしていくことが望まれる。もちろん、それに伴ってより洗練されたエッセイが書けるようになることも次クォーターの目標となるだろう。  
読解においては文面で解答を見つけられるような問いは比較的よくできるが、年度末のリサーチペーパー執筆の際に必要な、言外の文脈を読み取るスキルは今後も引き続き練習が必要だろう。  
授業ではグループワークを多く課してきたが、グループワークに関しては学生は楽しみながら、互いの長所を見つけ、自分への糧としてきたようである。  
今後もリーディングであれライティングであれ、様々な切り口から課題を提供できればと考えている。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[G]7
授業コード	11A05-038
教員名	MEJIA, Justin
教員コード	104498
登録人数	20
回答数	17
回答率	85.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) For Q1 and Q2 of this course the goals are quite clear and I believe that in my class I devoted an appropriate amount of focus to each of them and could complete them all.
- 2) This year I tried to focus more on giving more direct and detailed feedback to students and as a result I believe the students were both able to get more out of the class and in the end produce better work. For me, this was the biggest success this year.
- 3) In Q3 and Q4 I'll be teaching the advanced class for the first time and therefore am not sure on the specifics of how I might be able to improve or change my lessons in that environment. As a result, I'm hoping to conduct enjoyable and informative lessons while meeting the goals of the course and making adjustments as necessary based on the students and their level.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー<再>1
授業コード	11A05-041
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	8
回答数	2
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling.

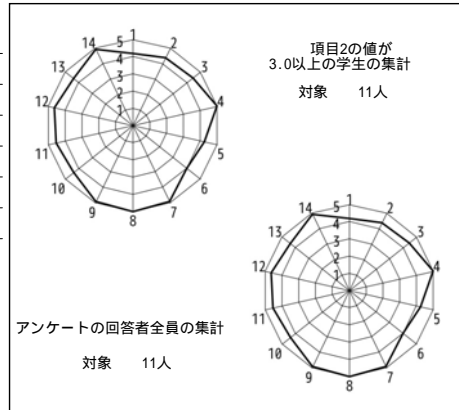
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
I was not unhappy with the results. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
Many of our students did not study face to face due to the pandemic when they were in high school. I worry that the students maybe are a bit depressed by having to stay home for so long. I will try to maintain closer contact with the students and make them feel like they are getting personal attention.



2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]8  
 授業コード 11A09-008  
 教員名 FOX, Aaron  
 教員コード 103869  
 登録人数 23  
 回答数 11  
 回答率 47.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The students were highly motivated and enthusiastic about improving their language skills, which made teaching a joy. They participated actively in class discussions and activities, which created a dynamic and engaging learning environment.

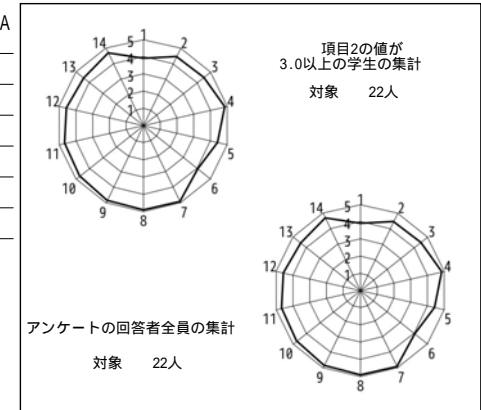
The progress the students made was impressive. Throughout the course, they developed greater fluency and accuracy, and their ability to express themselves improved markedly. Seeing their progress was a rewarding experience, and I was proud to have been their teacher.

One of the most rewarding aspects of the class was watching the students bond with each other and form friendships. They supported and encouraged one another, which helped to create a sense of community and made the class feel like a welcoming and safe space.

In conclusion, I am grateful for the opportunity to have been their teacher. Watching my students develop their language skills and grow in confidence was a privilege. I have no doubt that they will continue to succeed in their English language journeys, and I wish them all the best in their future endeavors.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]11  
 授業コード 11A09-011  
 教員名 LANDSBERRY, Lauren  
 教員コード 103626  
 登録人数 24  
 回答数 22  
 回答率 91.7%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 1 回

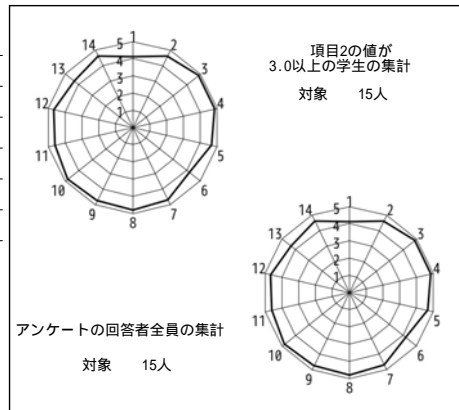


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think the students and I all enjoyed studying together in Q1 and Q2. I think the goals of the course have been met and the students have improved since the start of Q1. As well as working through the textbook together I have continued to use several online apps for both in and out of the classroom. We used Quizlet and Kahoot for studying in the classroom and Flip (previously Flipgrid) and Padlet for assessments. They also enjoyed giving presentations to each other in the classroom which was great as it is something I haven't been able to do for several years due to COVID-19. Reflecting on the comments, I am glad to see that the students seem to be enjoying the class and the atmosphere as well as having a break from their regular studies. It seems some of the students wish to change seats. I told them that as it is university, they are free to sit wherever they wish each class, but they asked me to decide. Therefore, in Q3 and Q4 I think I am going to try to switch them around, so they have greater opportunities to talk to different students. The students seem a little immature this year, perhaps this is due to COVID-19. Nevertheless, they are a good group and I look forward to teaching them for the remainder of the year.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]14  
 授業コード 11A09-014  
 教員名 GOODMACHER, Greg  
 教員コード 104785  
 登録人数 24  
 回答数 15  
 回答率 62.5%  
 休講回数 1回  
 補講回数 1回

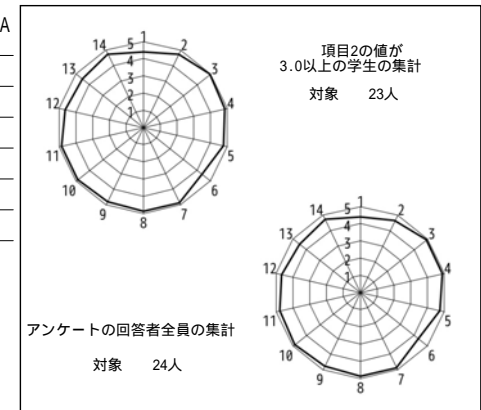


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The data indicates that students are more than satisfied with my teaching of this course. All of the average scores were above four. One of the main goals of the class is to develop communication skills. I want students to feel comfortable enough with me and other students to express their experiences and opinions. According to the comments students wrote, I have accomplished this. I alternate between large, small, and pair work activities. I plan to continue this format.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]6  
 授業コード 11A09-020  
 教員名 伊藤 実里  
 教員コード 045542  
 登録人数 24  
 回答数 24  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

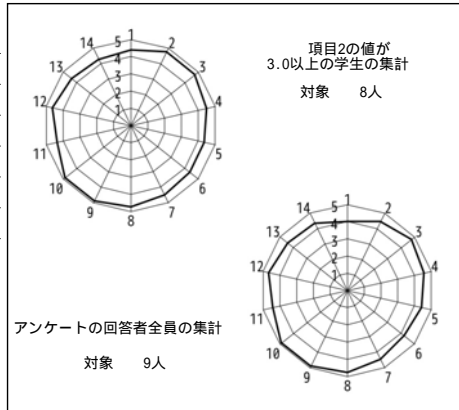


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1年生のコミュニケーションクラス、学部は同じでも専攻はさまざまというメンバーなので、とくにQ1の目標は24名がお互いに知り合い、誰とでも気負わずに英語で会話ができるようになることである。自由記述のコメントを見ると、スタートとしての目標は達成できたことがわかる。中学、高校でも英会話の機会が増えている世代でもあり、本年度は説明も含めできるだけ英語で授業を行っているが、それに対する反応も良く、英語を聞く、話すことが求められていることがわかる。また、例年好評であるので今回も毎回の授業で席替えをし、意図的にさまざまなタイプの人と話す機会をつくっている。英語ももちろんだが、キャンパスライフに不安の多いQ1では友達と笑える時間も重要と考える。授業時間外に英語の本を読み進める課題は嫌われることも多いが、今回のクラスでは楽しんで読む人、英語専攻ではなくても英語の本を読むことの意義を感じている人もいてうれしく思う。英会話での繰り返しは飽きるというコメントもあったが、Q2以降にスキルや話題が広がっていけばバラエティ豊かになるので、興味がそがれることはないと期待している。なお、男子が1名のみだと出席しなくなることが多いが、今回は男子も複数名いることがうまく機能していると感じる。

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]8
授業コード	11A09-022
教員名	KHONDAKER, Taslima
教員コード	103598
登録人数	24
回答数	9
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

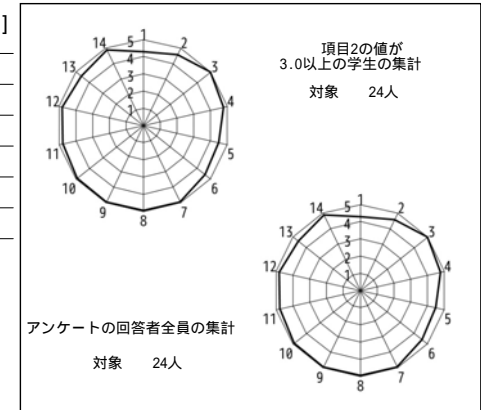


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course is to help students to be exposed to a wide variety of reading topics where they come across different types of vocabularies in the text and practice using them when communicating with people. Students are also being guided to express their thoughts by working in groups. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.32 and 4.51, the scores of this course were 4.00 and 4.44. Regarding “evaluation of the course in general” (Q3 to Q7), compared with scores of 4.77, 4.65, 4.46, 4.30, and 4.74 for all courses, the scores for this course were 4.78, 4.56, 4.44, 4.22, and 4.44. Regarding “evaluation of the class management” (Q8 to Q12), compared with scores of 4.72, 4.65, 4.72, 4.57, and 4.60 for all courses, the scores of this course were 4.78, 4.89, 4.89, 4.44, and 4.67. Regarding “overall evaluation” (Q13 to Q14), compared with scores 4.56 and 4.58 for all courses, the scores of this course were 4.44 and 4.33. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17), the students gave some very good comments, which I find profoundly encouraging. I hope to improve more so that students are more motivated and I can achieve my goal in full. I am looking forward to delivering more effective lessons in the coming quarter.

2023年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[E]4
授業コード	11A09-028
教員名	LANGER Daniel
教員コード	101438
登録人数	24
回答数	24
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

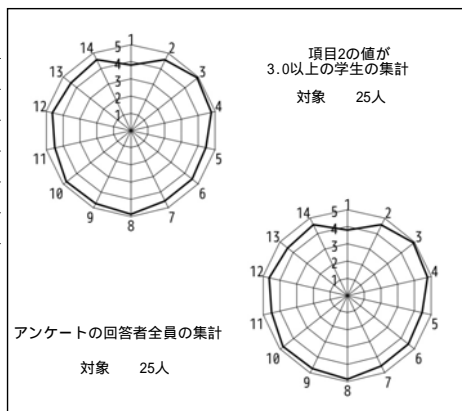
I think we did a fairly good job of meeting the class objectives. The students recognized that I tried to give time for interaction (largely in the form of pair work). However, one student indicated a desire for more group work and more interaction with other classmates. I do not disagree with this idea, but I have limited student movement in the classroom simply because I thought some people might still be worried about COVID-19. I mentioned this at the beginning of the quarter, and told the students that if they had any thoughts on the matter, they should feel free to let me know.

Overall, the evaluations were very positive in tone. There were a number of comments that indicated the students felt comfortable in class. I will try to maintain classroom harmony going into the next quarter.

In the future, I will probably try to use a similar lesson plan, but may increase/vary the types of student interaction.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[E]
授業コード	11A09-029
教員名	佐藤 ゆかり
教員コード	047605
登録人数	25
回答数	25
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

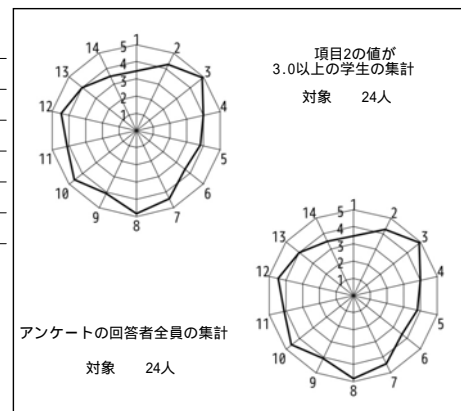


授業評価結果を踏まえた点検・評価

リーディングの授業については、単語力育成、単語力増強学習方法の示唆、単語を文脈で使用する力、文章の速読方法、文章のサマリーの実践、文章のスキミング、読んだ文章について意見を持つこと、意見を表現すること、意見を交換することなど、テキストを使用して多岐にわたる力を育成した。今後も同様の方針。スピーキング、ヒアリングについては、身の回りの社会問題について聞いたり、話したりする機会をたくさん持たせた。リーディングについては十分スムーズにすすみ、学生達の取り組みもよかったが、スピーキングについては、トピックが学生には難しく、自分の考えを形成したり、ましてやそれを人と意見交換するところまで実力がともなっていないと思った。第1, 2クォーターで、テキストを終わったので、後半のクォーターは、もう少し身近なトピックで自分について話し、プレゼンする力を育てていきたいと思う。クラスとしては、核になる生徒もいないが、やる気のないような生徒もいないので、多くのペアワーク、グループワークを交えて、アクティブに学習環境を与えたい。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[E]
授業コード	11A09-034
教員名	内川 元
教員コード	101922
登録人数	25
回答数	24
回答率	96.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



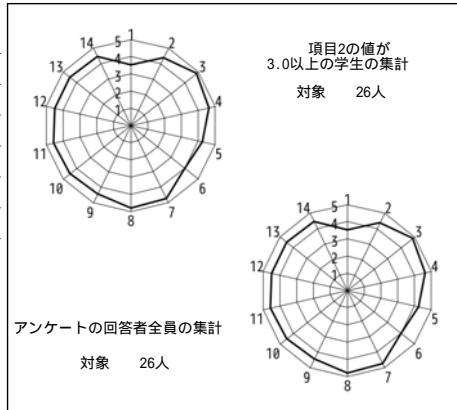
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では予習・復習の仕方を細かく指導して、家庭学習で大きな成果が上がるように毎学期促していますが、例年指導した通りの学習を実現できていない生徒が多かったため、今年度から成績評価方法を大幅に見直し、予習復習の達成度が成績に大きく反映されるように変更しました。この変更は功を奏した面と改善が必要と感じた面の両面がありました。授業に真面目に取り組む生徒の学習に対する姿勢からはこれまで以上に真剣さが感じられるようになりましたが、その反面評価方法が厳しいと感じたためか、途中から半ば諦めてしまった様子の生徒も相当数おり、以前に比べ総得点率が80%を超えた生徒の数が大幅に増えた一方、60%を下回った生徒の数も同様に増え、通常は最も多いはずの中間層が極めて少ない極端な傾向となってしまいました。

授業評価の結果にもそれが反映された形で、ポジティブなコメントが多数見られた反面、ネガティブなコメントも増えていました。しかし何事も大きな変更を加えた直後は混乱を伴いがちですので、今後も今学期のシステムをベースに細かな改善を積み重ねることで良くなった部分はそのままに、悪くなった部分を縮小することで全体的に上向きな状況を作れればと思います。評価数値は決して良くありませんでしたが、上記の状況から例年より下がることを予想していたため、予想の範囲内でした。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[J]  
6  
授業コード 11A09-042  
教員名 VIADO Cora  
教員コード 100553  
登録人数 26  
回答数 26  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course is to help students improve their overall ability to use spoken English. Classes include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics. They also learn a variety of reading strategies to improve reading proficiency.

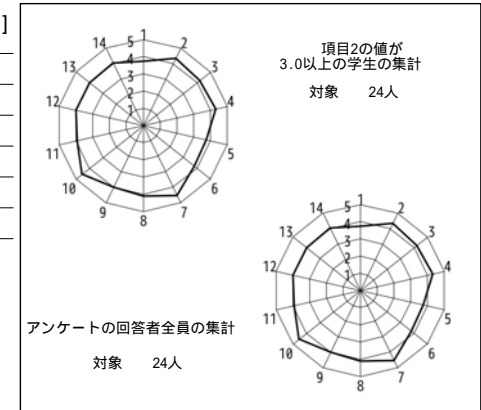
The overall positive evaluation (4.45) indicate students' general satisfaction with the content covered, the instructional methods and dynamics used, and how the class was conducted mainly in English. From students' comments, one can see how the students enjoyed discussing relevant topics and exchanging ideas with their partner or group members.

It should be noted that the only question that had a value less than 4 (Question 1: 3.54) pertain to students' interest in the subject matter prior to taking the class.

More effort will be made to check on students' understanding of the course objectives and attainment target.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[J]  
7  
授業コード 11A09-043  
教員名 PALISADA Eloisa  
教員コード 055830  
登録人数 26  
回答数 24  
回答率 92.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



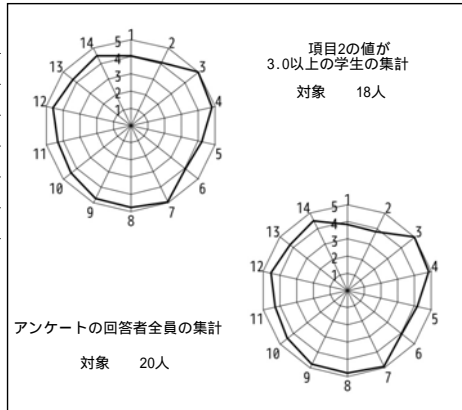
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course aimed to help students improve their overall ability to use spoken English for communication. It has also a Reading component to gain fluency in reading. Based on this evaluation result, 82% understood and achieved the goals. To start with, they had low interest in English but they exerted effort in participating in class (87%). They valued the teacher's sincerity, approach, and class management (91%). However, they want more guidance, especially in assigning homework. All in all, their class satisfaction is 81% which can still be improved. What they liked about the course are significantly positive: they have acquired English communication skills, understood and appreciated that classes were conducted in English; enjoyed lots of opportunities to talk with different classmates, got used to English naturally; and said "The teacher gives good evaluation/feedback on assignments." In contrast, they had struggles in understanding instructions on HW and suggested it should be in Japanese. In that case, I must have them translated. They are at a loss as to the purpose of the lesson; too much HW should be reduced. I will reinforce what was helpful and address their concerns.

For now, it suffices to say, they have gained confidence in using English and rapport with everyone in class which created a cheerful, low-filter atmosphere for learning.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[T]  
8  
授業コード 11A13-016  
教員名 酒井 美納江  
教員コード 046060  
登録人数 23  
回答数 20  
回答率 87.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

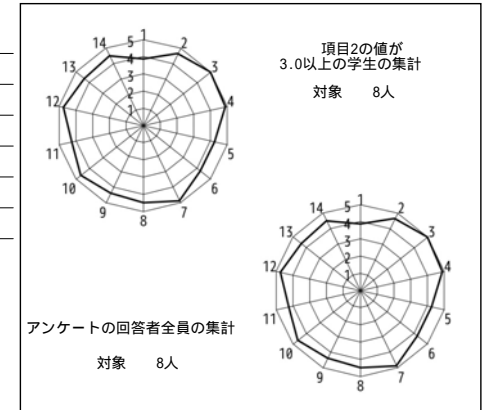


授業評価結果を踏まえた点検・評価

英語を使った口頭でのコミュニケーションの力をつけるために、Q1はリスニングを練習する課題を多めに行った。特に授業以外でのリスニングの練習として、シャドーイングの練習を課題にした。さらに、読書レポートを録音ファイルで提出させ、スピーキングの機会も少しながら増やした。Q1はこれらの新しい方法に慣れてもらうのが目標でもあったので、それについてはおおむね達成できたと思う。授業運営については、自由記述を読む限りおおむね前向きに受け取られていた様なのでこのままの形を継続するつもりだ。改善点については、「英語だけの説明が多い」というものと、「対人でのやり取りが苦手」という意見があった。「英語での説明」については、評価できる、と記述された意見もあったので悩ましいところだが、できる限り平易な言葉遣いとはっきりとした話し方で学生の理解度を補っていこうと思う。「対人でのやり取り」、については、この種類の授業では避けられないものなので仕方ない部分もあるのだが、課題自体をシンプルなものにする、事前に話す内容を考える時間を与える、などの工夫でしんどさを和らげられるのでは、と考える。

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ<  
全>3  
授業コード 11A13-019  
教員名 IWASKOW, Roman  
教員コード 104145  
登録人数 24  
回答数 8  
回答率 33.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The goals set at the beginning of the course were to enable students to practise communication skills concentrating on reading, speaking, and listening in an interesting way using worksheet puzzles, vocabulary tests, two poster presentations, and answering textbook exercises on google form answer sheets. As an intensive syllabus covering many topics, it proved a challenging course for the students. Based on the evaluations submitted by the students, they completed the course with a greater awareness, knowledge and appreciation of their own culture. The goals were met. We covered everything as per the syllabus. The main goal was to give as much opportunity for the students to use English.
- 2) It's what I expected since I have been teaching these classes over the last few years. I have set up the course to enable the students to speak English as much as possible with the worksheets I provide and other exercises. They also use google forms to submit homework.
- 3) I have no plans to make any major changes, other than fine tweek the current worksheets and classroom procedure.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<全・T>9

授業コード 11A17-018

教員名 HAYES, Mary

教員コード 103625

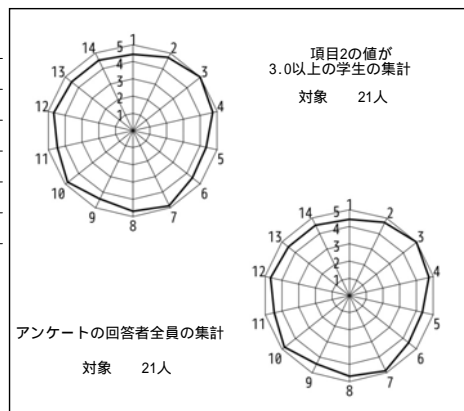
登録人数 24

回答数 21

回答率 87.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. In this English writing class, the goals of developing confidence and fluency by practicing timed writing, typing and using the English words and grammar learned previously were achieved in all cases. The goal of composing well-structured paragraphs and essays for academic purposes was achieved to a greater or lesser extent, depending on the level and effort of English of each learner.
2. Based on the data in the survey, I was satisfied with the responses and felt that I had achieved a measure of success in motivating and guiding the students in the selection of good themes for expressing their ideas and opinions. The learners' positive responses show that they found the level of the class suitable and the efforts that I as their teacher made to help them improve their English was well-received and worthwhile.
3. In future writing classes, I will make further efforts to ensure that students write about what is important to them and help them to voice their ideas and opinions in an earnest and honest manner. I hope to give them individual attention and enough feedback to make the experience a positive and enjoyable one for all.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リスニング<全・T>2

授業コード 11A25-024

教員名 PENDELL, Patrice

教員コード 104625

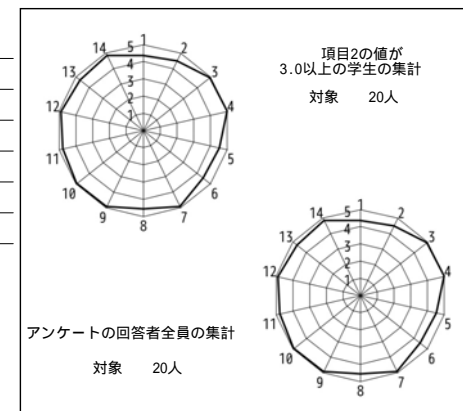
登録人数 24

回答数 20

回答率 83.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

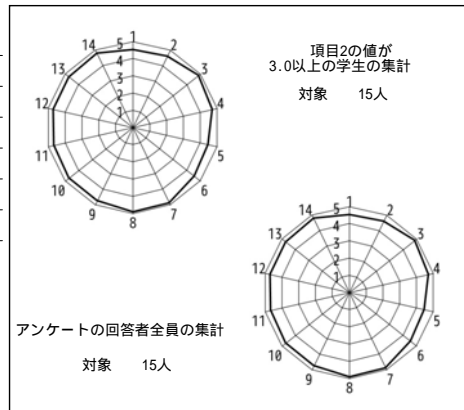


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Good Class  
continue clear plans.

2023年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語I翻訳<全・T>1  
授業コード 14A05-001  
教員名 加藤 普由子  
教員コード 101654  
登録人数 17  
回答数 15  
回答率 88.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生数17名中回答者数は15名であり、9割弱の評価である。項目2の平均値が4.60。内訳は5が60%、4が40%。学生は予習や復習を含めて、主体的な姿勢で授業に参加していたことがわかる。授業を通しての新知識や運用力の習得についても5（80%）と4（13.33%）で9割を超え、具体的なコメントには「和訳の仕方の幅が広がった」「その状況に合わせた文脈での訳し方は中学高校ではできなかったので、さまざまな訳し方を学べた」「色々なシチュエーションでの翻訳が学べて面白かった」と寄せられた。学生の理解度に関する教員の配慮についても（設問9、11、12）、5と4で9割を超えた。他方でこれらの項目を含め3評価が1名存在することは注目すべきかもしれない。「解説が分かりやすかった。ペアワークの時間がしっかり確保されていた」「生徒と教師との会話の機会が多く、質問をしやすい」「宿題の量が適切であったこと、質問の機会が多かったことがよかった」「毎回、テーマに沿って翻訳について学べたので、自分の翻訳のスキルを少しずつ上達させることができた」とあり、学生の知識と運用能力の向上に少しでも役立っていれば幸いだ。一方で「ペアで確認するときどのような点を意識して確認するといいかかわかると良かった」と貴重な意見をもらい、今後の参考にしたい。